松山市文化財調査報告書38

古照遺跡

—第7次調査—

（第1分冊）

1994

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

古 照 遺 跡

—第７次調査—

（第１分冊）

1994

松 山 市 教 育 委 員 会

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

調査地空中写真

序

松山市は、高縄半島の南西に広がる、瀬戸内海に面した県下最大の松山平野の中央部に位置し、気候温暖で美しい自然と豊かな風土に恵まれています。

このような自然条件のもと、この平野には古くから多くの貴重な文化財が残されています。これら数多くの文化遺産の中でも、昭和47年、下水処理施設工事中に発見されました古照遺跡は、翌年からの発掘調査によって古墳時代前期の灌漑土木施設「井堰」３基を確認し、わが国農耕文化の実態を知る重要な遺跡であることが判明しています。

本書は、平成３年度に行いました第７次の発掘調査をまとめた報告書です。第７次調査では、平安時代から室町時代にかけての建物跡、土坑墓や水田跡の生活・生産遺構が調査され、数多くの遺物が発見されています。この中には県内で初めて出土した土器もあり、松山市における古代・中世の人々の生活を知る上での貴重な手がかりを得ることができました。

この報告書は、古照遺跡周辺の調査から出土した土器の資料を紹介し、今後の地域史研究や埋蔵文化財に対するご理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり何かとご指導、ご教授いただいた数多くの先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力、ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

平成６年３月31日

財団法人　松山市生涯教育振興財団

理事長　田　中　誠　一

例　言

1．本書は、松山市南江戸４丁目１－１　松山市下水道中央浄化センター内に所在する古照遺跡の第７次調査地の概報である。

2．屋外調査は、松山市下水道建設課の委託をうけ、平成３年10月21日から平成４年３月31日までに(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施したものである。

3．整理・刊行作業などは、平成４年度は松山市下水道建設課の委託、平成５年度は松山市下水道建設第１課の委託をうけ、(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施したものである。

4．本書に使用した方位は磁北である。

5．遺構は呼称を略号で記す場合がある。掘立柱建物跡：ＳＢ、柵列：ＳＡ、土坑・土坑墓：ＳＫ、溝：ＳＤ、自然流路：ＳＲ、柱穴：ＳＰ、性格不明：ＳＸである。

6．出土遺物観察表における法量数値の単位はcmであり、表現の中で(　)は残存長、〔　〕は高台径である。

7．土色及び遺物観察表における色調は、『標準土色帖』1989年版による。

8．屋外調査における遺構図の作成は、栗田正芳の責において、河野史知を中心に、宮脇和人、波多野恭久、越智隆、服部和広、浅野芳道、面平健一、川井正、黒河正人、東條正和、野口剛、松田剛、鎌田譲二、高橋敏彦、白玉典子、乗松和枝、谷口よし子、藤田潤子、横田三都子、岡田弥生、岡田久子、白形安子が行った。

9．遺物の実測は、栗田正芳、河野史知、今井伸、菅摩理、栗田紀子、関正子、多知川富美子、萩野ちよみ、福羅美和子、宮中行代、矢野久子、吉井信枝が行った。

10．遺構図・実測図等の浄書は、栗田正芳、田丸竜馬、鎌田譲二、上野山志保、岡市美紀、菅摩理、関正子、竹村志津、多知川富美子、西島優子、萩野ちよみ、矢野久子、山本仁美、吉井信枝が行った。

11．遺構の写真撮影は栗田正芳と河野史知、遺物の写真撮影は大西朋子が行った。

12．本書の執筆・編集は、栗田正芳が行った。

13．本遺跡の報告にあたっては、奈良医科大学　山田正興、愛媛大学　四宮孝昭・織本千年・高久武司、帯広畜産大学　中野益男、奈良教育大学　三辻利一、㈱ズコーシャ総合科学研究所、㈱古環境研究所の各氏・各機関に分析を依頼し、玉稿を頂いた。

14．航空写真は、㈱パスコの提供を受けた。

15．出土遺物並びに図面・写真類は松山市立埋蔵文化財センターに保管している。

16．調査中には、㈱日本上下水道設計、㈱月島機械、㈱井原工業、㈱伸和建設、㈱オオノ開発、㈱ワキタ、㈱ソガベ機械、㈱エクビ産業の各社に便宜を計って頂き、記して感謝します。

本文目次

Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境 …… 1
　1　遺跡の立地 …… 1
　2　歴史的環境 …… 3
Ⅱ　調査に至る経緯と組織 …… 8
　1　調査に至る経緯 …… 8
　2　調査組織 …… 10
Ⅲ　A地区の概要 …… 13
　1　調査の経過 …… 13
　2　土層 …… 15
　3　遺構と遺物 …… 21
　4　工事立会調査 …… 57
Ⅳ　B地区の概要 …… 59
　1　調査の経過 …… 59
　2　土層 …… 60
　3　遺構と遺物 …… 65
　4　工事立会調査 …… 160
Ⅴ　小結 …… 161
　1　A地区 …… 161
　2　B地区 …… 166
Ⅵ　資料編 …… 171
　1　濃縮タンク工事立会調査 …… 171
　2　古照地域出土遺物について …… 172

Ⅶ　分析編・写真図版は第2分冊

挿 図 目 次

〈Ⅰ・Ⅱ〉
第１図　松山平野の地形分類図……1
第２図　古照遺跡周辺の遺跡分布図（縮尺１/25000）……5
第３図　古照遺跡調査地位置図（縮尺１/2400）……9
〈Ⅲ　Ａ地区〉
第４図　Ａ地区グリット設定図（縮尺１/400）……14
第５図　Ａ地区北壁土層図（縮尺１/50）……17
第６図　Ａ地区遺構平面図（縮尺１/200）……19
第７図　ＳＫ－１測量図（縮尺１/40）……21
第８図　ＳＫ－２測量図（縮尺１/40）……21
第９図　ＳＫ－３・４測量図（縮尺１/40）……22
第10図　ＳＫ－５測量図（縮尺１/40）……22
第11図　ＳＫ－５出土遺物実測図（縮尺１/３）……22
第12図　ＳＫ－６測量図（縮尺１/20）……22
第13図　ＳＫ－７測量図（縮尺１/20）……23
第14図　ＳＫ－７出土遺物実測図（縮尺１/３）……23
第15図　ＳＫ－８測量図（縮尺１/20）……24
第16図　ＳＫ－８出土遺物実測図（縮尺１/３）……24
第17図　ＳＫ－９測量図（縮尺１/40）……24
第18図　ＳＫ－10測量図（縮尺１/40）……25
第19図　ＳＫ－10出土遺物実測図（縮尺１/３）……25
第20図　ＳＫ－11・22測量図（縮尺１/40）……25
第21図　ＳＫ－12測量図（縮尺１/40）……26
第22図　ＳＫ－13測量図（縮尺１/40）……26
第23図　ＳＫ－14測量図（縮尺１/40）……26
第24図　ＳＫ－15測量図（縮尺１/40）……27
第25図　ＳＫ－15出土遺物実測図（縮尺１/３）……27
第26図　ＳＫ－16・25測量図（縮尺１/40）……28
第27図　ＳＫ－16出土遺物実測図（縮尺１/３）……28
第28図　ＳＫ－18測量図（縮尺１/40）……29
第29図　ＳＫ－19測量図（縮尺１/40）……29
第30図　ＳＫ－20測量図（縮尺１/40）……29

第31図　ＳＫ－21測量図（縮尺１/40）……30
第32図　ＳＫ－23測量図（縮尺１/40）……30
第33図　ＳＫ－23出土遺物実測図（縮尺１/３）……31
第34図　ＳＫ－24・35測量図（縮尺１/40）……31
第35図　ＳＫ－24出土遺物実測図（縮尺１/３）……31
第36図　ＳＫ－26測量図（縮尺１/40）……31
第37図　ＳＫ－26出土遺物実測図（縮尺１/３）……32
第38図　ＳＫ－27測量図（縮尺１/40）……32
第39図　ＳＫ－28測量図（縮尺１/40）……32
第40図　ＳＫ－29・30・31測量図（縮尺１/40）……33
第41図　ＳＫ－29出土遺物実測図（縮尺１/３）……34
第42図　ＳＫ－32・33測量図（縮尺１/40）……35
第43図　ＳＫ－34測量図（縮尺１/40）……35
第44図　ＳＫ－34出土遺物実測図（縮尺１/３）……36
第45図　ＳＫ－36測量図（縮尺１/40）……36
第46図　ＳＫ－36出土遺物実測図（縮尺１/３）……36
第47図　ＳＤ－１測量図（縮尺１/60）……37
第48図　ＳＤ－１土層図（縮尺１/60）……38
第49図　ＳＤ－１出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……39
第50図　ＳＤ－１出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……40
第51図　ＳＤ－２測量図（縮尺１/60）……40
第52図　ＳＤ－３測量図（縮尺１/60）……41
第53図　小畦畔状遺構測量図（縮尺１/80）……41
第54図　鋤跡状遺構測量図（縮尺１/80）……42
第55図　第Ｖ層出土遺物実測図（縮尺１/３）……43
第56図　第Ｖ層出土銭拓影図（縮尺１/２）……43
第57図　第VI層出土遺物実測図（縮尺１/３）……43
第58図　第VII層出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……45
第59図　第VII層出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……46
第60図　第VII層出土遺物実測図 (3)（縮尺１/３）……47
第61図　第VII層出土遺物実測図 (4)（縮尺１/３）……48
第62図　第VII層出土遺物実測図 (5)（縮尺１/３）……49
第63図　第VII層出土遺物実測図 (6)（縮尺１/３）……50
第64図　第VII層出土遺物実測図 (7)（縮尺１/３）……52

第65図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (8)（縮尺１/３）……53
第66図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (9)（縮尺１/３）……54
第67図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (10)（縮尺１/３）……55
第68図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (11)（縮尺１/３）……56
第69図　工事立会調査出土遺物実測図（縮尺１/３）……57
〈Ⅳ　Ｂ地区〉
第70図　Ｂ地区グリット設定図（縮尺１/400）……59
第71図　Ｂ地区土層図（縮尺１/50）……61
第72図　Ｂ地区遺構平面図（縮尺１/100）……63
第73図　ＳＢ－１・ＳＡ－１測量図 (1)（縮尺１/60）……66
第74図　ＳＢ－１・ＳＡ－１測量図 (2)（縮尺１/60）……67
第75図　ＳＢ－１出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……68
第76図　ＳＢ－１出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……69
第77図　ＳＡ－１出土遺物実測図（縮尺１/３）……70
第78図　ＳＫ－１測量図（縮尺１/40）……71
第79図　ＳＫ－１出土遺物実測図（縮尺１/３）……72
第80図　ＳＫ－２測量図（縮尺１/40）……72
第81図　ＳＫ－２出土遺物実測図（縮尺１/３）……72
第82図　ＳＫ－４測量図（縮尺１/40）……73
第83図　ＳＫ－４出土遺物実測図（縮尺１/３）……73
第84図　ＳＫ－８測量図（縮尺１/40）……73
第85図　ＳＫ－８出土遺物実測図（縮尺１/３）……73
第86図　ＳＫ－９出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……74
第87図　ＳＫ－９出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……75
第88図　ＳＫ－９測量図（縮尺１/40）……76
第89図　ＳＫ－10測量図（縮尺１/40）……76
第90図　ＳＫ－10出土遺物実測図（縮尺１/３）……77
第91図　ＳＫ－11測量図（縮尺１/40）……78
第92図　ＳＫ－11出土遺物実測図（縮尺１/３）……78
第93図　ＳＫ－13測量図（縮尺１/40）……78
第94図　ＳＫ－13出土遺物実測図（縮尺１/３・１/４）……79
第95図　ＳＫ－14測量図（縮尺１/40）……80
第96図　ＳＫ－14出土遺物実測図（縮尺１/３）……80
第97図　ＳＫ－15測量図（縮尺１/40）……81

第98図　ＳＫ－15出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……82
第99図　ＳＫ－15出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……83
第100図　ＳＤ－１測量図（縮尺１/60）……84
第101図　ＳＤ－５測量図（縮尺１/60）……84
第102図　ＳＤ－１出土遺物実測図（縮尺１/３）……85
第103図　ＳＤ－５出土遺物実測図（縮尺１/３）……85
第104図　ＳＤ－６測量図（縮尺１/60）……85
第105図　ＳＤ－６出土遺物実測図（縮尺１/３）……86
第106図　ＳＤ－７測量図（縮尺１/100）……87
第107図　ＳＤ－７出土遺物実測図（縮尺１/３）……89
第108図　ＳＤ－８測量図（縮尺１/60）……91
第109図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……94
第110図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……95
第111図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (3)（縮尺１/３）……96
第112図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (4)（縮尺１/３）……97
第113図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (5)（縮尺１/３）……98
第114図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (6)（縮尺１/３）……99
第115図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (7)（縮尺１/３）……100
第116図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (8)（縮尺１/３）……101
第117図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (9)（縮尺１/３・１/６）……102
第118図　ＳＤ－９測量図（縮尺１/60）……103
第119図　ＳＤ－10測量図（縮尺１/60）……103
第120図　ＳＤ－10出土遺物実測図（縮尺１/３）……104
第121図　ＳＰ－７測量図（縮尺１/40）……104
第122図　ＳＰ－13・15・28測量図（縮尺１/40）……105
第123図　ＳＰ－７・13・15・28出土遺物実測図（縮尺１/３）……106
第124図　１号集積遺構測量図（縮尺１/４）……107
第125図　３号集積遺構出土遺物実測図（縮尺１/３）……107
第126図　２号集積遺構測量図（縮尺１/４）……107
第127図　１・２号集積遺構出土遺物実測図（縮尺１/３）……108
第128図　ＳＸ－３・５・７測量図（縮尺１/40）……109
第129図　ＳＸ－３・５・７出土遺物実測図（縮尺１/３）……110
第130図　ＳＸ－８・10測量図（縮尺１/40）……111
第131図　ＳＸ－８・10出土遺物実測図（縮尺１/３）……111

第132図　ＳＸ－12・13測量図（縮尺１/40）……112
第133図　ＳＸ－12・13出土遺物実測図（縮尺１/３）……113
第134図　ＳＸ－20・26・28測量図（縮尺１/40）……114
第135図　ＳＸ－20・26・28出土遺物実測図（縮尺１/３）……114
第136図　ＳＸ－29・30測量図（縮尺１/40）……115
第137図　ＳＸ－29・30出土遺物実測図（縮尺１/３）……115
第138図　ＳＸ－33測量図（縮尺１/40）……116
第139図　ＳＸ－33出土遺物実測図（縮尺１/３）……116
第140図　ＳＸ－34・49測量図（縮尺１/40）……117
第141図　ＳＸ－34・49出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……118
第142図　ＳＸ－49出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……119
第143図　ＳＸ－52・53測量図（縮尺１/40）……120
第144図　ＳＸ－52・53出土遺物実測図（縮尺１/３）……120
第145図　遺構外出土遺物実測図 (1)（縮尺１/３）……121
第146図　遺構外出土遺物実測図 (2)（縮尺１/３）……122
第147図　遺構外出土遺物実測図 (3)（縮尺１/３）……123
第148図　遺構外出土遺物実測図 (4)（縮尺１/３）……124
第149図　遺構外出土遺物実測図 (5)（縮尺１/３）……125
第150図　遺構外出土遺物実測図 (6)（縮尺１/３）……126
第151図　遺構外出土遺物実測図 (7)（縮尺１/３）……127
第152図　遺構外出土遺物実測図 (8)（縮尺１/３）……128
第153図　遺構外出土遺物実測図 (9)（縮尺１/３）……129
第154図　遺構外出土遺物実測図 (10)（縮尺１/３）……130
第155図　遺構外出土遺物実測図 (11)（縮尺１/３）……131
第156図　遺構外出土遺物実測図 (12)（縮尺１/３）……132
第157図　遺構外出土遺物実測図 (13)（縮尺１/３）……133
第158図　遺構外出土遺物実測図 (14)（縮尺１/３）……134
第159図　遺構外出土遺物実測図 (15)（縮尺１/３）……135
第160図　遺構外出土遺物実測図 (16)（縮尺１/３）……135
第161図　遺構外出土遺物実測図 (17)（縮尺１/３）……136
第162図　遺構外出土遺物実測図 (18)（縮尺１/３）……137
第163図　遺構外出土遺物実測図 (19)（縮尺１/３）……138
第164図　遺構外出土遺物実測図 (20)（縮尺１/３）……139
第165図　遺構外出土遺物実測図 (21)（縮尺１/３）……140

第166図　遺構外出土遺物実測図 (22)（縮尺１／３）……141
第167図　遺構外出土遺物実測図 (23)（縮尺１／３）……142
第168図　遺構外出土遺物実測図 (24)（縮尺１／３）……142
第169図　遺構外出土遺物実測図 (25)（縮尺１／３）……142
第170図　遺構外出土遺物実測図 (26)（縮尺１／３）……143
第171図　遺構外出土遺物実測図 (27)（縮尺１／３）……144
第172図　遺構外出土遺物実測図 (28)（縮尺１／３）……145
第173図　遺構外出土遺物実測図 (29)（縮尺１／３）……146
第174図　遺構外出土遺物実測図 (30)（縮尺１／３）……147
第175図　遺構外出土遺物実測図 (31)（縮尺１／３）……148
第176図　遺構外出土遺物実測図 (32)（縮尺１／３）……149
第177図　遺構外出土遺物実測図 (33)（縮尺１／３）……150
第178図　遺構外出土遺物実測図 (34)（縮尺１／３）……150
第179図　遺構外出土遺物実測図 (35)（縮尺１／３）……151
第180図　遺構外出土遺物実測図 (36)（縮尺１／３）……152
第181図　遺構外出土遺物実測図 (37)（縮尺１／３）……153
第182図　遺構外出土遺物実測図 (38)（縮尺１／３）……154
第183図　遺構外出土遺物実測図 (39)（縮尺１／３）……155
第184図　遺構外出土遺物実測図 (40)（縮尺１／３）……156
第185図　遺構外出土遺物実測図 (41)（縮尺１／３）……157
第186図　遺構外出土遺物実測図 (42)（縮尺１／３）……158
第187図　遺構外出土遺物実測図 (43)（縮尺１／２）……158
第188図　遺構外出土遺物実測図 (44)（縮尺１／２）……159

〈Ⅵ　資料編〉

第189図　濃縮タンク工事立会調査出土遺物実測図（縮尺１／３）……172
第190図　古照遺跡第６次下層調査出土遺物実測図（縮尺１／３）……173
第191図　古照遺跡第10次調査出土遺物実測図（縮尺１／３）……174
第192図　古照遺跡第１・２次調査出土遺物実測図（縮尺１／３）……175
第193図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図 (1)（縮尺１／３）……176
第194図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図 (2)（縮尺１／３）……177
第195図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図 (3)（縮尺１／３）……178
第196図　古照ゴウラ遺跡４次調査地 (4)・辻町遺跡出土遺物実測図（縮尺１／３）……179
第197図　古照遺跡第８次上層調査Ａ・Ｂ地区出土遺物実測図（縮尺１／３）……181
第198図　東山鳶が森８号墳出土遺物実測図（縮尺１／３）……185

表 目 次

〈A地区〉

表１　A地区出土遺物観察表 (1) ……189
表２　A地区出土遺物観察表 (2) ……190
表３　A地区出土遺物観察表 (3) ……191
表４　A地区出土遺物観察表 (4) ……192
表５　A地区出土遺物観察表 (5) ……193
表６　A地区出土遺物観察表 (6) ……194
表７　A地区出土遺物観察表 (7) ……195
表８　A地区出土渡来銭観察表 ……195

〈B地区〉

表９　B地区出土遺物観察表 (1) ……196
表10　B地区出土遺物観察表 (2) ……197
表11　B地区出土遺物観察表 (3) ……198
表12　B地区出土遺物観察表 (4) ……199
表13　B地区出土遺物観察表 (5) ……200
表14　B地区出土遺物観察表 (6) ……201
表15　B地区出土遺物観察表 (7) ……202
表16　B地区出土遺物観察表 (8) ……203
表17　B地区出土遺物観察表 (9) ……204
表18　B地区出土遺物観察表 (10) ……205
表19　B地区出土遺物観察表 (11) ……206
表20　B地区出土遺物観察表 (12) ……207
表21　B地区出土遺物観察表 (13) ……208
表22　B地区出土遺物観察表 (14) ……209
表23　B地区出土遺物観察表 (15) ……210
表24　B地区出土遺物観察表 (16) ……211
表25　B地区出土遺物観察表 (17) ……212
表26　B地区出土遺物観察表 (18) ……213
表27　B地区出土遺物観察表 (19) ……214
表28　B地区出土遺物観察表 (20) ……215
表29　B地区出土遺物観察表 (21) ……216
表30　B地区出土遺物観察表 (22) ……217

表31　B地区出土遺物観察表 (23) ……218
表32　B地区出土遺物観察表 (24) ……219
表33　B地区出土遺物観察表 (25) ……220
表34　B地区出土遺物観察表 (26) ……221
表35　B地区出土遺物観察表 (27) ……222
表36　B地区出土 土・木・鉄製品観察表……222
〈VI　資料編〉
表37　出土遺物観察表 (1) ……223
表38　出土遺物観察表 (2) ……234
表39　出土遺物観察表 (3) ……225

写真図版目次

巻頭写真図版　調査地空中写真

Ⅰ　遺跡の立地と歴史的環境

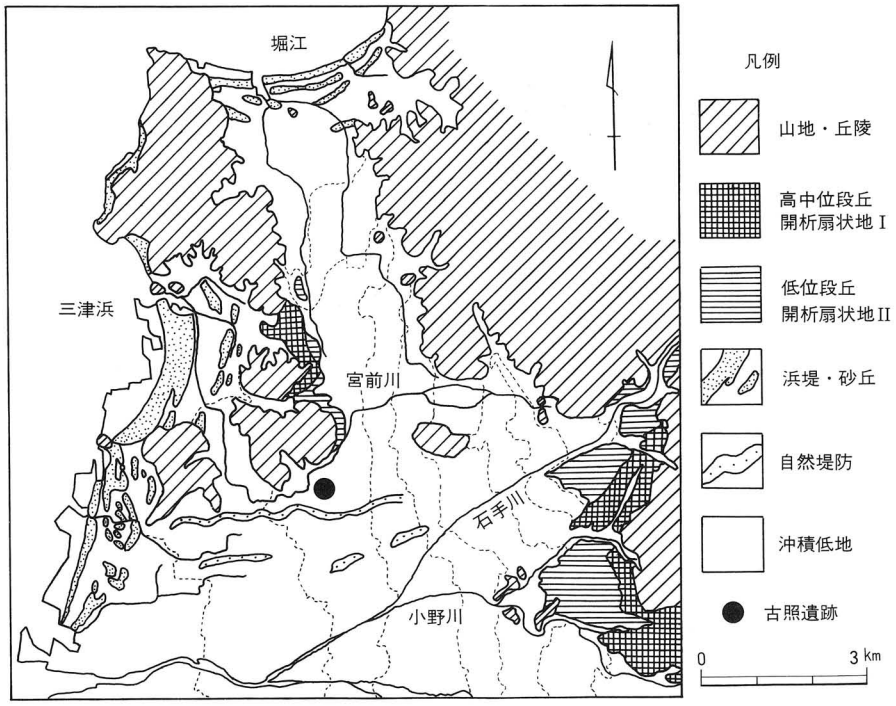
1　遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のほぼ中央部、高縄半島の付け根部分に位置する。この高縄半島中央部には、半島最高峰の東三方ケ森をはじめ、北三方ケ森、伊之子山、高縄山からなる高縄山地が形成されている。この高縄山地に源を発した河川によって形成された沖積平野が松山平野である。

古照遺跡は、この沖積平野のやや西側にあり、東に勝山（132.1ｍ）、北に大峰ケ台（133.7ｍ）、北西に岩子山（116ｍ）、西に弁天山（129.7ｍ）の分離丘陵に囲まれて立地している。

松山平野を流れる河川のうち、北東から南西方向に平野を斜めに横切って流れる石手川があり、古照遺跡の南々西約3.8㎞の地点で平野の南よりのところを東の山地から西に向かって流れる重信川と合流して伊予灘へ注いでいる。

古照遺跡と関係の深い石手川は、高縄山地に水源を発し、山地を激しく浸蝕開析し、山麓部から平野部に出てから急激に土砂礫を堆積させ扇状地を形成している。さらに下流で宮前川などの小河川に分流している。



第Ⅰ図　松山平野の地形分類図

宮前川は、岩堰で石手川から分岐した後、道後城北地区を流れて大峰ケ台丘陵の東麓で大きく右折し、古照遺跡の北側を流れている。また、古照遺跡の南側を西流する石手川支流の中ノ川と南西で合流し、更に分岐し北・西の２条の流れとなって伊予灘に注いでいる。

石手川によって形成された扇状地について平井幸弘氏(1)は、標高約50ｍの石手寺付近を扇頂とし半径は約４㎞、標高約20ｍまでの部分であり、これより西方は氾濫・堆積によって形成された氾濫原の地域であると指摘されている。扇状地の地表勾配は約1000分の５～10程度である。この扇状地の扇端付近、標高約12.8ｍに古照遺跡が位置している。

前述の氾濫原面には、松山市駅付近より西方に向かって長さ約４㎞、幅約100ｍ前後の自然堤防が延びており、やや南側に同様の自然堤防状の微高地も認められている。これら微地形は、江戸時代に石手川の河川改修（1601～1602年）が行われた以前に形成されたものと考えられている。

古照遺跡周辺の丘陵について地質的には、まず、大峰ケ台の南半分は和泉層群の頁岩・砂岩・礫岩、東側一部は石鎚層群の閃緑玢岩、北半分は領家貫入岩類の花崗閃緑岩である。岩子山は石鎚層群の安山岩、弁天山は南側が和泉砂岩群、北側は領家変成岩類塩基性ホルンヘルスである。

［註］

(1)平井幸弘：「石手川扇状地城北地区における沖積低地の地形発達と考古遺跡の立地環境」『愛媛大学教育学部紀要　III　自然科学．９』愛媛大学、1989

【参考文献】

＊『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会、1974

＊『愛媛県史－原始・古代Ｉ－』愛媛県史編さん委員会、1892

＊平井幸弘：「鷹子遺跡および樽味遺跡をとりまく地形環境」『鷹子遺跡・樽味遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室、1989

＊『松山市史－第１巻－』松山市史編集委員会、1992

2　歴史的環境

古照遺跡周辺には、数多くの遺跡が分布しており、これらの遺跡について最近の調査結果から時代別に述べていくことにする。

縄文時代

古照遺跡周辺では、いまだ明確な縄文時代の遺跡は調査されていない。古照遺跡の北、大峰ケ台丘陵東裾部の朝美澤遺跡２次調査(1)、松環美沢遺跡(2)から縄文式土器が出土している。古照遺跡の既往調査(3)からは、河川氾濫などによる砂礫堆積層より前期末から晩期にいたる土器が出土している。これらのことから、大峰ケ台丘陵の東側に縄文時代の遺跡が存在するものと考えられる。

弥生時代

弥生時代には、丘陵部やその周辺部に遺跡の分布が認められている。

前期では、朝美澤遺跡２次調査から前期前半の包含層を確認し土器を出土している。また、弁天山丘陵の東側に突出した小丘陵上に位置する斉院烏山遺跡(4)からは、前期末段階の濠状遺構を検出している。また、同丘陵中央東麓の宮前川左岸の後背湿地に立地する宮前川別府遺跡(5)からは前期末から中期前半の土器や朝鮮系無文土器などが出土している。

中期に入ると、大峰ケ台丘陵の山頂部にある大峰台遺跡(6)は中期中葉段階の高地性集落である。同丘陵東裾部の澤遺跡(7)、辻遺跡(8)からは中期中葉の土器が出土し、松環美沢遺跡では中期の溝を検出し、石包丁や有柄式磨製石鏃などが出土している。

後期になると、遺跡の分布は更に広がりを見せている。澤遺跡からは、壷棺墓や竪穴式住居址などを検出している。弁天山丘陵の東麓緩斜面に位置する津田鳥越遺跡(9)からは、竪穴住居址群などを検出し、後期後半～庄内段階の土器と共に土錘・石錘などの漁撈具が出土している。

古照遺跡の東側にある松環古照遺跡(10)からは、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が出土し、特に完形品の手焙型土器も出土している。

古墳時代

古墳時代には、弥生時代と同様に遺跡が分布し、大峰ケ台や岩子山、弁天山などの各丘陵において多数の古墳が確認されている。

古墳時代初頭では、宮前川下流の宮前川北斎院遺跡(11)から火災焼失住居址を含む竪穴住居址群が検出され、また、クスノキの巨木周辺約20ｍの範囲から古墳時代初頭の土器などが多量に出土している。この他に宮前川周辺の遺跡群からは、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての遺物が多量に出土し、それらの中には骨角器やト占に使用された鹿の肩胛骨などのほか、注口土器や動物型土製品、絵画土器などもある。また山陰系土器や畿内系土器等の外来系土器もあり、当時の流通・交易の経路を考える上で貴重な遺物の出土がみられる。

前期古墳は、大峰ケ台丘陵の北西尾根部に朝日谷２号墳(12)があり、主体部内から２面の舶載鏡（二禽二獣鏡など）と40本を越える銅鏃・鉄鏃のほか直刀・ガラス玉などが出土し、墳丘くびれ部からは壷形土器が出土している。

中期末から後期にかけては、各丘陵に群集墳が出現する。大峰ケ台丘陵には客谷古墳群(13)が、岩子山丘陵に岩子山古墳群(14)と同丘陵の尾根周辺に斉院茶臼山古墳(15)、御産所11号墳(16)、御産所権現山１号墳(17)があり、弁天山丘陵には弁天山古墳群がある。この弁天山古墳群の中には前期古墳と思われる弁天山０号墳(18)がある。

古墳以外には、古照遺跡の既往調査や松環古照遺跡、古照ゴウラ遺跡(19)から古墳時代の土器を出土している。また、大峰ケ台丘陵の東側、宮前川左岸にある辻町遺跡(20)からは後期の祭祀関連遺物を出土し、周辺に集落が存在する可能性がある。同丘陵東麓の緩斜面にある辻遺跡２次調査(21)、松環大峰ケ台遺跡(22)からは掘立柱建物跡が検出されている。

歴史時代

古照遺跡周辺には現在も長地型の条里的地割りが残っており、古代荘園制との関係が指摘されている(23)。

古代寺院としては、大峰ケ台東裾部にある親和園前遺跡(24)から「澤廃寺」に関連する複弁蓮華軒丸瓦が出土し、掘立柱建物跡が検出されている。また、同丘陵南麓には大宝元年（701年）創立の太宝寺(25)があり、同寺本堂は県下でも最古の鎌倉時代前期の建造物であり国宝に指定されている。

古照遺跡周辺では、11～13世紀にいたる集落址が確認されている。

澤遺跡からは平安時代の掘立柱建物跡が検出されている。

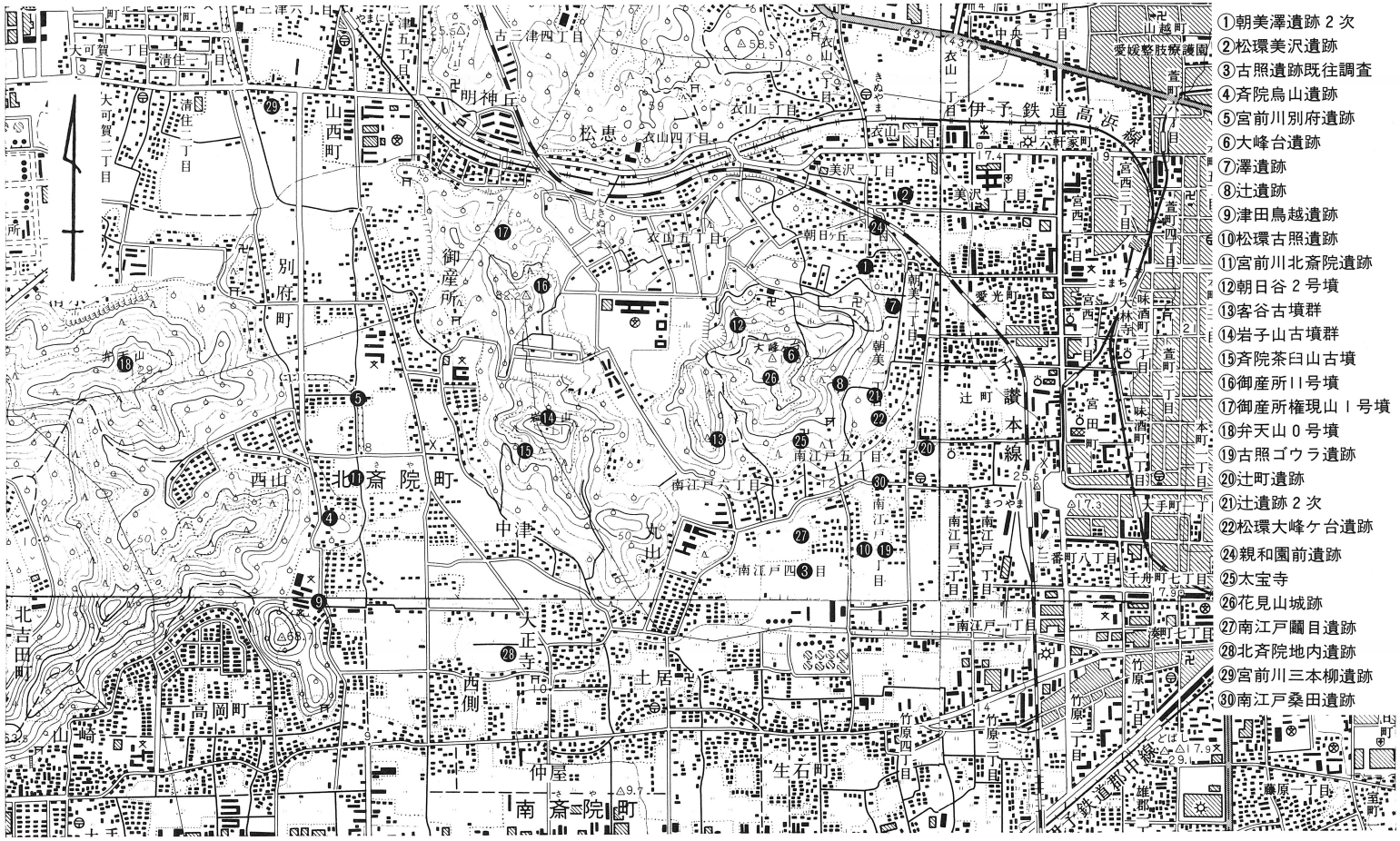
松環古照遺跡と古照ゴウラ遺跡からは、掘立柱建物跡、区画溝、土坑、曲げ物井戸などが検出され、花辨形石製硯、越州窯青磁、楠葉型・和泉型瓦器、黒色土器、東播系鉢・甕、亀山焼甕、常滑焼甕、滑石製石鍋など11～13世紀にかけての遺物が多量に出土している。古照遺跡第６次上層調査からは、13～16世紀前半の遺構や遺物を出土している。

中世城郭としては、大峰ケ台丘陵南西尾根部に花見山城跡(26)が確認されている。

古照遺跡の北約30ｍの南江戸鬮目遺跡(27)からは、13世紀後半から14世紀にかけての土師器集積土坑が検出され、多量の土師器杯・皿が出土している。朝美澤遺跡２次調査では、中世の掘立柱建物跡、辻遺跡２次調査地では土坑墓が検出されている。

宮前川下流域においても、古代から中近世にかけての遺跡が分布しており、古照遺跡の西方約１kmの北斉院地内遺跡(28)では15～16世紀代の集落址が、宮前川三本柳遺跡(29)では奈良時代の井戸関連遺構や中世の畑、近世の井戸などが検出されている。

江戸時代には、古照ゴウラ遺跡では曲げ物井戸が、親和園前遺跡から江戸時代末の陣屋跡が、美沢遺跡の屋敷跡からは水琴窟が検出されている。また、大峰ケ台丘陵東裾部の宮前川右岸に位置する南江戸桑田遺跡(30)からは、桶棺墓が多数検出されている。また、古照遺跡第



第２図　古照遺跡周辺の遺跡分布図（縮尺１/25000）

6次上層調査では江戸時代中期の洪水によって埋没した水田・畑・大畦畔跡などが検出されている。

［註］

(1)梅木謙一・宮内慎一：「朝美澤遺跡2次調査」『朝美澤遺跡・辻町遺跡』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

(2)岡田敏彦：「調査の経緯と経過」『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅰ－松環古照遺跡－』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター、1993

(3)①『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会、1974

(3)②『古照遺跡Ⅱ』松山市教育委員会、1976

(3)③松村　淳：「古照遺跡第5次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅲ』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991

(3)④栗田正芳・河野史和　他：『古照遺跡－第6次調査－』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

(3)⑤本報告書の概報及び平成4年度古照遺跡調査概報については、「古照遺跡7・8・9次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅴ』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（1993）に掲載している。

(4)「斉院烏山遺跡」『松山市史料集　第1巻－考古編－』松山市史料集編集委員会、1980

(5)『宮前川遺跡』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター、1987

(6)栗田茂敏：「大峰台遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅱ』松山市教育委員会、1989

(7)松村　淳・栗田茂敏：「澤遺跡」　前掲註(6)文献

(8)栗田茂敏：「辻遺跡」　前掲註(6)文献

(9)①西尾幸則：「津田鳥越遺跡（津田中学校構内）」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅰ』松山市教育委員会、1989

(9)②「津田鳥越遺跡」　前掲註(4)文献

(10)前掲註(2)文献

(11)前掲註(5)文献

(12)平成元年度、総合公園建設に伴う事前緊急調査である。

(13)①宮崎泰好：「大峰台客谷地区古墳群」　前掲註(9)①文献

(13)②松村　淳・栗田茂敏：「客谷地区古墳群」　前掲註(6)文献

(14)名本二六雄：『岩子山古墳』松山市教育委員会、1975

(15)西尾幸則：『斉院茶臼山古墳』松山市教育委員会、1983

(16)森　光晴：『御産所11号墳』松山市教育委員会、1976

(17)栗田茂敏・大森一成：「御産所権現山遺跡」　前掲註(3)③文献

(18)『松山市史－第1巻－』松山市史編集委員会（1992）並びに「津田山古墳」『愛媛県史　資料編　考古』愛媛県史編さん委員会（1986）

(19)①宮崎泰好：「古照ゴウラ遺跡（1・2次）」　前掲註(6)文献

(19)②松村　淳・宮崎泰好：「古照ゴウラ遺跡（3次）」　前掲註(3)③文献

(19)③松村　淳・山本健一：「古照ゴウラ遺跡（4次）」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅳ』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

(20)梅木謙一・真木　潔：「辻町遺跡」　前掲註(1)文献

(21)栗田正芳：「辻遺跡２次調査」　前掲註(3)③文献
(22)前掲註(2)文献
(23)『愛媛県史－原始・古代Ⅰ－』愛媛県史編さん委員会、1982
(24)前掲註(2)文献
(25)『松山市の文化財』松山市教育委員会、1980
(26)『愛媛県中世城館跡－分布調査報告－』愛媛県教育委員会、1987
(27)上田　真・水本完児：『南江戸鬮目遺跡』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991
(28)①宮崎泰好：「北斉院地内遺跡」　前掲註(5)文献
(28)②梅木謙一・武正良浩：「北斉院地内遺跡２次調査地」　前掲註(3)⑤文献
(29)重松佳久・小笠原善治・水本完児：「宮前川三本柳遺跡」　前掲註(19)③文献
(30)重松佳久・丹下道一：「南江戸桑田遺跡」　前掲註(6)文献

II　調査に至る経緯と組織

1　調査に至る経緯

平成２年10月29日、松山市都市整備部公共下水道課（以下「公共下水課」という）課長より、松山市南江戸４丁目１－１の松山市下水道中央処理場（現、松山市下水道中央浄化センター、以下「浄化センター」という）内における下水処理施設建設工事に伴う埋蔵文化財確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下「文化教育課」という）に提出された。

申請された建設予定施設は、汚泥消化タンク・汚泥濃縮タンク・汚泥消毒タンク・ガスタンク・連絡管廊・分配槽・地下連絡通路などである。

平成３年７月22日から同年８月31日の間、申請地の中で汚泥消化タンク・汚泥濃縮タンク・ガスタンクの３ケ所について試掘調査を実施した（現地表面から約２ｍまで）。その結果、汚泥消化タンク予定地では、平安時代後半の遺物包含層と中世水田跡の検出があった。汚泥濃縮タンク・ガスタンク予定地では、河川の影響がみられ遺構の検出はなかった。

汚泥消毒タンク予定地は、第６次調査地の西に隣接しているため中世遺構が連続していることが明らかである。

公共下水課と文化教育課並びに松山市立埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」という）とは、汚泥消化タンクと汚泥消毒タンクの工事を着手するにあたり事前の埋蔵文化財発掘調査について協議を行った。協議の結果、まず、汚泥消化タンク予定地の発掘調査期間は、建設工事の工程・内容から同年10月から12月末まで、汚泥消毒タンク予定地は平成４年１月から３月末までとなる。次に、この２ケ所における発掘調査の標高よりも更に深い調査（現地表面から約５ｍ）については、掘削工事中に立会調査を行うことになる。また、試掘調査を行った残りの２ケ所についても同様に掘削工事中の立会調査を行うことになる。

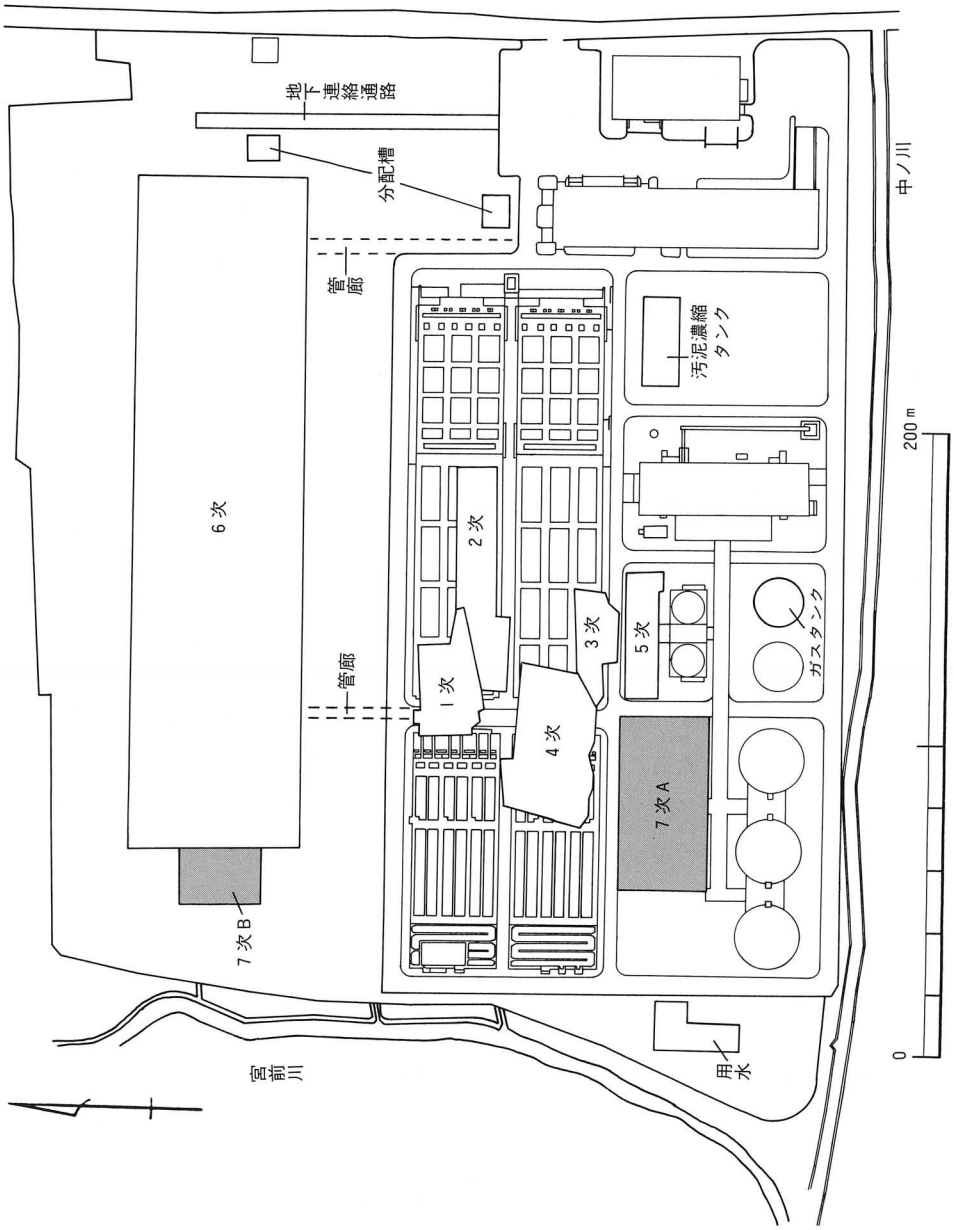
平成３年10月１日、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（以下「財埋文センター」という）設立に伴い、発掘調査は財埋文センターへ委託される。

今回の第７次調査では、平安時代後半から中世にいたる集落や生産関連遺構の調査を主目的として、平成３年10月21日から屋外調査を開始する。

平成４年３月９日から同月21日にかけて、連絡管廊と地下連絡通路などの工事予定地の試掘調査を行う。

第７次調査は二地区に分かれるため、まず汚泥消化タンク予定地をＡ地区、汚泥消毒タンク予定地をＢ地区とする。既往調査結果については、『古照遺跡－第６次調査－』（1993）を参照されたい。

平成２年度の第６次調査において浄化センター内を磁北に合わせて６ｍのグリット割を行っているため、都市計画図面からこのグリットを使用する。



第3図　古照遺跡調査地位置図

2　調査組織

平成３年10月１日、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが設立し、同月21日、松山市から当財団に業務委託される。調査後の整理及び刊行作業は、平成４・５年度の古照遺跡８・９・10次調査と並行しながら行う。

調査及び整理・刊行組織は以下の通りである。

【屋外調査組織】

平成３年10月21日～平成４年３月31日

(財)松山市生涯学習振興財団		理事長	田中　誠一
		事務局長	池田　秀雄
	埋蔵文化財センター	所長	和田祐三郎
		次長	田所　延行
		調査係長	西尾　幸則
		調査係主任	田城　武志
	調査担当	調査係主事	栗田　正芳（文化教育課主事）
	調査担当	調査員補	河野　史知

〈従事作業員〉

相川　直人・浅野　芳道・阿達　正平・越智　隆・面平　健一・金澤　進・鎌田　譲二・川井　正・黒河　正人・相良　浩志・佐川友五郎・塩田　太郎・重松　浩一・重松　恒彦・高橋　聖児・高橋　敏彦・田中　勲・田部井　陽・東條　正和・中条　聖郎・西田　竜一・二宮　和見・野口　剛・乗松　伯・波多野禎彦・波多野恭久・服部　和広・久岡　正幸・福田　恒仁・松田　俊二・松田　剛・松友　利夫・松本　正義・宮脇　和人・三好　弘文・吉岡　正人・渡辺　康仁・今井　伸・岡田　久子・岡田　弥生・菅　摩理・栗田　紀子・白形　安子・白玉　典子・竹田紀美代・谷口よし子・常廣　一恵・釣井　理奈・乗松　和枝・福羅美和子・藤田　潤子・宮中　行代・矢野　純子・横田三都子

【整理・刊行組織】

平成４・５年度

(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	田中　誠一
	事務局長	渡辺　和彦
	事務局次長	鶴井　茂忠（平成４年度）
	〃	一色　正士（平成５年度）
埋蔵文化財センター	所長	和田祐三郎（平成４年度）

	所　　長	河口　雄三（平成５年度）
	次　　長	田所　延行
	調査係長	西尾　幸則（平成４年度）
	〃	田城　武志（平成５年度）
	調査係主任	田城　武志（平成４年度）
整理担当	調査係主事	栗田　正芳（文化教育課主事、平成4･5年度）
整理担当	調　査　員	河野　史知（平成４年度）
整理担当	調査員補	小笠原善治（平成５年度）

〈従事作業員〉

大塚　隆重・金澤　進・鎌田　譲二・川井　正・佐川友五郎・田丸　竜馬・波多野禎彦・松本　哲郎・松本　正義・宮脇　和人・今井　伸・上野山志保・遠藤久仁子・岡市　美紀・岡田　久子・岡田　弥生・菅　摩理・清水　淳子・白形　安子・白玉　典子・関　正子・竹村　志津・多知川富美子・谷口よし子・常廣　一恵・永井かおり・中矢富士子・西島　優子・乗松　和枝・萩野ちよみ・藤田　潤子・宮中　行代・矢野　久子・山本　仁美・横田三都子・吉井　信枝

調査中並びに本書をまとめるにあたっては、下記の各氏・機関より御指導並びに御助言をうけ、記して感謝します。（敬称略）

工楽　善通（奈良国立文化財研究所）、
上原　真人（奈良国立文化財研究所）、
山田　正興（徳島大学医学部名誉教授）、
坂詰　秀一（立正大学文学部教授）、
三辻　利一（奈良教育大学物理化学研究室学部教授）、
下條　信行（愛媛大学法文学部教授）、
四宮　孝昭（愛媛大学医学部教授）、
吉永　長則（愛媛大学農学部教授）、
宮本　一夫（愛媛大学法文学部助教授）、
田崎　博之（愛媛大学教養学部助教授）、
村上　恭通（名古屋大学文学部考古学研究室助手）、
織本　千年（愛媛大学医学部技師）、
伊野　近富・森島　康雄（(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター）、
小森　俊寛・百瀬　正恒・吉村　正親（(財)京都市埋蔵文化財研究所）、
尾上　　実（大阪府教育委員会）、
橋本　久和（高槻市立埋蔵文化財センター）、

福田　正継（岡山県古代吉備文化財センター）、
根木　修・神谷　正義・乗岡　実（岡山市教育委員会）、
山本　悦世（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、
篠原　芳秀（広島県教育委員会）、
鈴木　康之（広島県草戸千軒町遺跡調査研究所）、
土井　基司（府中市教育委員会）、
片桐　孝浩（(財)香川県埋蔵文化財調査センター）、
松田　直則（(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター）、
中野　良一・作田　一耕・沖野　新一・土井光一郎（(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター）、
岡山市教育委員会、
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、
愛媛大学埋蔵文化財調査研究室、
(財)京都市埋蔵文化財研究所、
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、
四国中近世土器研究会、
㈱古環境研究所、
㈱ズコーシャ、
㈱パスコ、

Ⅲ　Ａ地区の概要

1　調査の経過

Ａ地区は、第１・４次調査地の南側、第５次調査地の西側にある。工事対象は南北約30.45ｍ、東西約61.5ｍ、面積約1,872.7㎡ある。

調査区グリットは、Ｓ15～19W27～35の範囲に入る。

平成３年10月21日、調査区東端から重機により第Ⅵ層中世水田面までの掘削を開始し、足跡や土坑などを検出する。

同年10月24日、北壁を精査し、土層図を作成する。

同年11月１日、ベルトコンベア・土砂走行車など重機を搬入し、遺構精査を行う。

同年11月２日、重機による掘削を終了する。

同年11月５日、調査区内にグリット杭打ちを行う。

同年11月18日、土坑から埋葬遺体を検出する。

同年11月20日、土坑墓３基から埋葬遺体を検出しているため、お祓いを行う。

同年11月22日、遺構検出状況の写真撮影を行う。

同年11月25日、土坑遺構の掘り下げを開始する。

同年11月27日、愛媛大学法文学部の下條信行先生から現地において調査指導を頂く。

同年12月２日、下水道中央浄化センターの航空写真撮影を行う。

同年12月４日、土坑ＳＫ－23の土壌サンプリング。

同年12月５日、土坑墓出土人骨について奈良医科大学の山田正興先生、愛媛大学医学部の四宮孝昭先生並びに織本千年技官から現地においてご指導を頂く。

同年12月９日、立正大学の坂詰秀一先生から現地において調査指導を頂く。

同年12月10日、Ｓ15・16W26～28の第Ⅵ層水田に残る足跡を精査し、写真撮影を行う。また、調査区東側から第Ⅶ層（遺物包含層）の掘り下げを開始する。

同年12月11日、奈良国立文化財研究所の工楽善通先生から現地において調査指導を頂き、また、併せて第６次下層調査の検討を行う。

同年12月13日、調査区中央の第Ⅵ層水田から小畦畔遺構を検出し、周辺の足跡などとともに精査・測量を開始する。

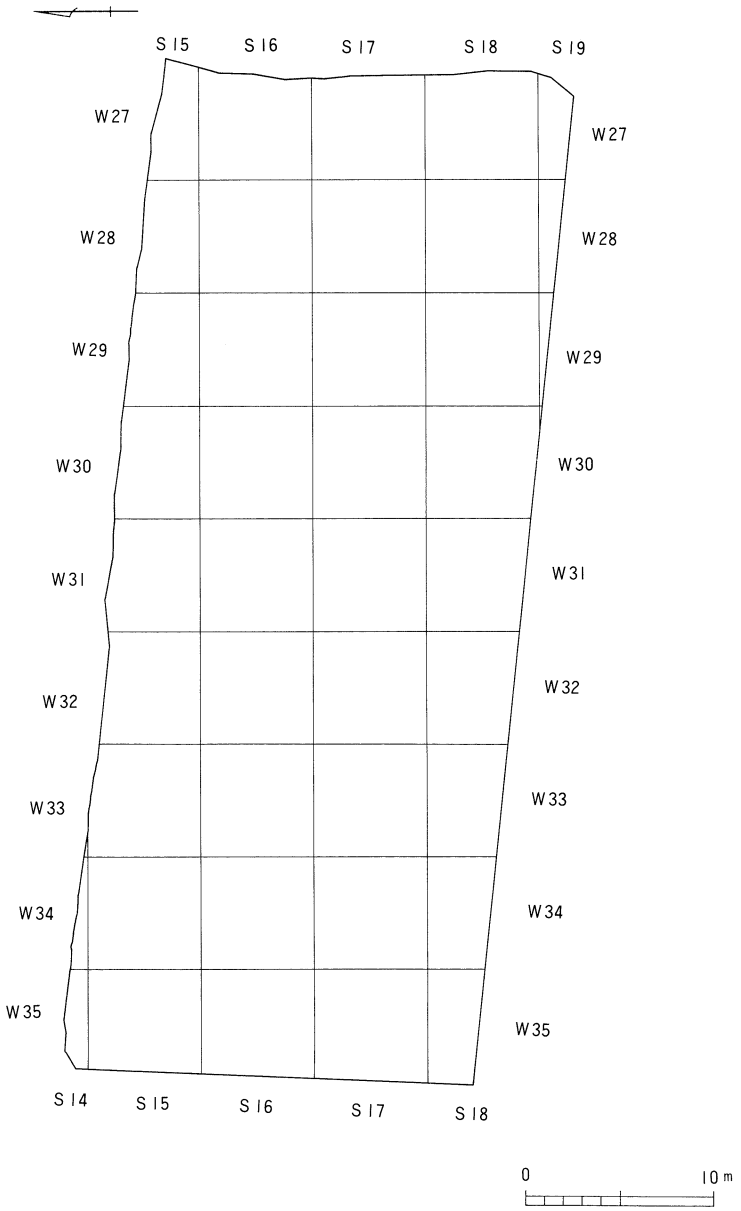
同年12月13日、調査区南東側の第Ⅷ層の緑灰色粘土面において鋤跡状遺構を検出する。

同年12月16日、土坑墓並びに土坑などの土壌をサンプリングし、脂肪酸分析を㈱ズコーシャ総合科学研究所に依頼する。

同年12月28日、小畦畔周辺の測量及びＳＤ－３のレベル測量を行い、現場調査を終了する。調査実施面積は約1,110㎡である。

平成４年１月５日、北壁並びに調査区から土壌をサンプリングし、プラント・オパール分析並びに花粉分析を㈱古環境研究所に依頼する。

同年５月28日と６月１日、工事掘削に伴う下層の立会調査を行う。結果、標高約８ｍに層厚約50～80cmを測る緑灰色シルト層が調査区全域に見られた。この土壌を採取し、プラント・オパール分析を㈱古環境研究所に依頼する。



第４図　Ａ地区グリット設定図

2　土層

調査区の現地表は標高約12.8～13.0ｍを測り、工事掘削により現地表から深さ約１ｍは既に場外搬出されている。調査区の土層図は、北壁のみを作成した。

北壁土層は、基本的に第Ⅰ～Ⅷ層に分層できる。

第Ⅰ層は現代造成土並びに攪乱などによる堆積層である。

第Ⅱ層は現代耕作土である。第Ⅱ層直下の東から約2.80～6.45m並びに8.30～11.95mの間においてラミネーションを伴う灰白色（５Ｙ７／１）細砂層の堆積が見られるため、第Ⅲ層上面が文化面と考えられる。約44.50mより西側の第Ⅱ層以下の土層は、第Ⅲ層や第Ⅳ層に対応するとは断定できなかった。この地点は造成以前、東と西の田畑の境界地でもあり、西側の田畑は東側に比べて約40cm低くなっていたことが解っている。

第Ⅲ層は、層厚約20～35cmを測る。約42.40mで第Ⅲ層は途絶える。この第Ⅲ層では、Ⅲ－３・４・６・７層とⅢ－５層、Ⅲ－８層とⅢ－９層、Ⅲ－８層とⅢ－８’層、Ⅲ－８’層とⅢ－８”・10層との各土層間において灰白色（10Ｙ８／１）の極細砂が部分的堆積をしており、大きく二文化土層が考えられるが、分層はできなかった。

第Ⅳ層は層厚約10～35cmを測る。約17.10ｍと21.80ｍの間、小河川（ＳＲ）を検出する。このＳＲはレンズ状の底を呈し、灰白色（7.5Ｙ７／１）の砂礫が堆積しており、多量の遺物が出土している。試掘調査でもこのＳＲを確認している。このＳＲは幅約1.2ｍを測り、やや北西方向へ振れる東西方向のＳＲである。出土遺物は、砥部焼・唐津系・伊万里系・瀬戸美濃系の陶磁器、備前系擂鉢、黒瓦、木櫛、ガラス細片、桃実などを出土し、明治時代前期の小河川と考えられる。

この第Ⅳ層は第Ⅲ層と同様に、Ⅳ－８・９・10層とⅣ－５層、Ⅳ－11層とⅣ－８層、Ⅳ－８層とⅣ－12層の各土層から大きく二文化の土層が考えられる。

第Ⅴ層は黄褐色（2.5Ｙ５／３）極粗砂、灰色（10Ｙ５／１・４／１）粗砂～極粗砂、ブロック状の暗灰黄色（2.5Ｙ４／２）粘土、暗緑灰色（10ＧＹ４／１）砂質土、暗緑灰色（10Ｇ３／１）シルトなどが互層堆積を成している。層厚約10～40cmを測り、約32.90ｍ地点から西側では暗灰色（Ｎ３／　）粘土～シルトが厚く堆積している。更に、約40.10ｍから以西では黒褐色（10ＹＲ３／１）シルトが堆積しているため、この第Ⅴ層は洪水による堆積層と考えられる。この第Ⅴ層上面からＳＫ・ＳＰなどを検出する。

第Ⅵ層は層厚約10～25cmを測る。この第Ⅵ層はグライ層であり、黄褐色（10ＹＲ５／６）の暈管状斑紋がみられる。東から約34.50ｍ地点で、第Ⅴ層同様に途絶える。この第Ⅵ層上面で小畦畔状遺構と足跡を検出する。出土遺物は、土師器皿、東播系こね鉢の破片などがあり、13世紀代の埋没水田と考えられる。

第Ⅶ層は黒褐色（2.5Ｙ３／１）粘土で層厚約10～25cmを測り、11～12世紀にかけての土器

を包含する土層である。東から約35.50m地点で急激に下降している。また、この第VII層が「イモゴ土壌」ではないかと考えられたため、愛媛大学農学部の吉永長則先生に簡易分析をして頂いた。結果、火山灰ガラスの検出はなく「イモゴ土壌」ではなかった。

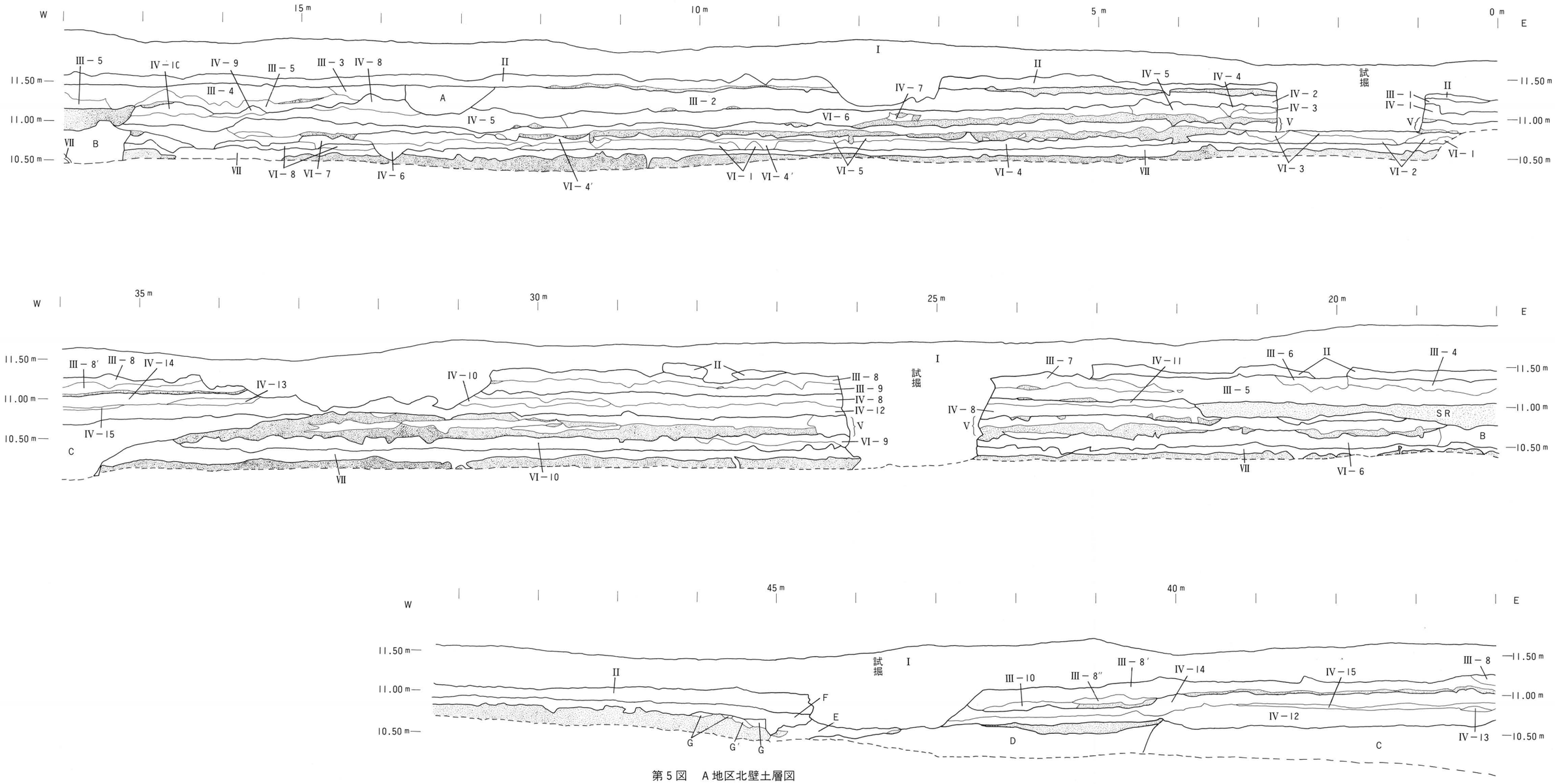
第VIII層は調査区内で大きく２層に分かれる。北壁土層では第VII層は粗砂礫層として観察しているが、南半分は緑灰色（10ＧＹ５/１）シルトが広がり、この緑灰色シルト上面から鋤跡状遺構を検出している。

北壁土層から、プラント・オパール分析（分析編VII－４）のための土壌採取を行い、その採取時の土層（分析編VII－４、図１）と、本土層説明での対比は以下の通りである。

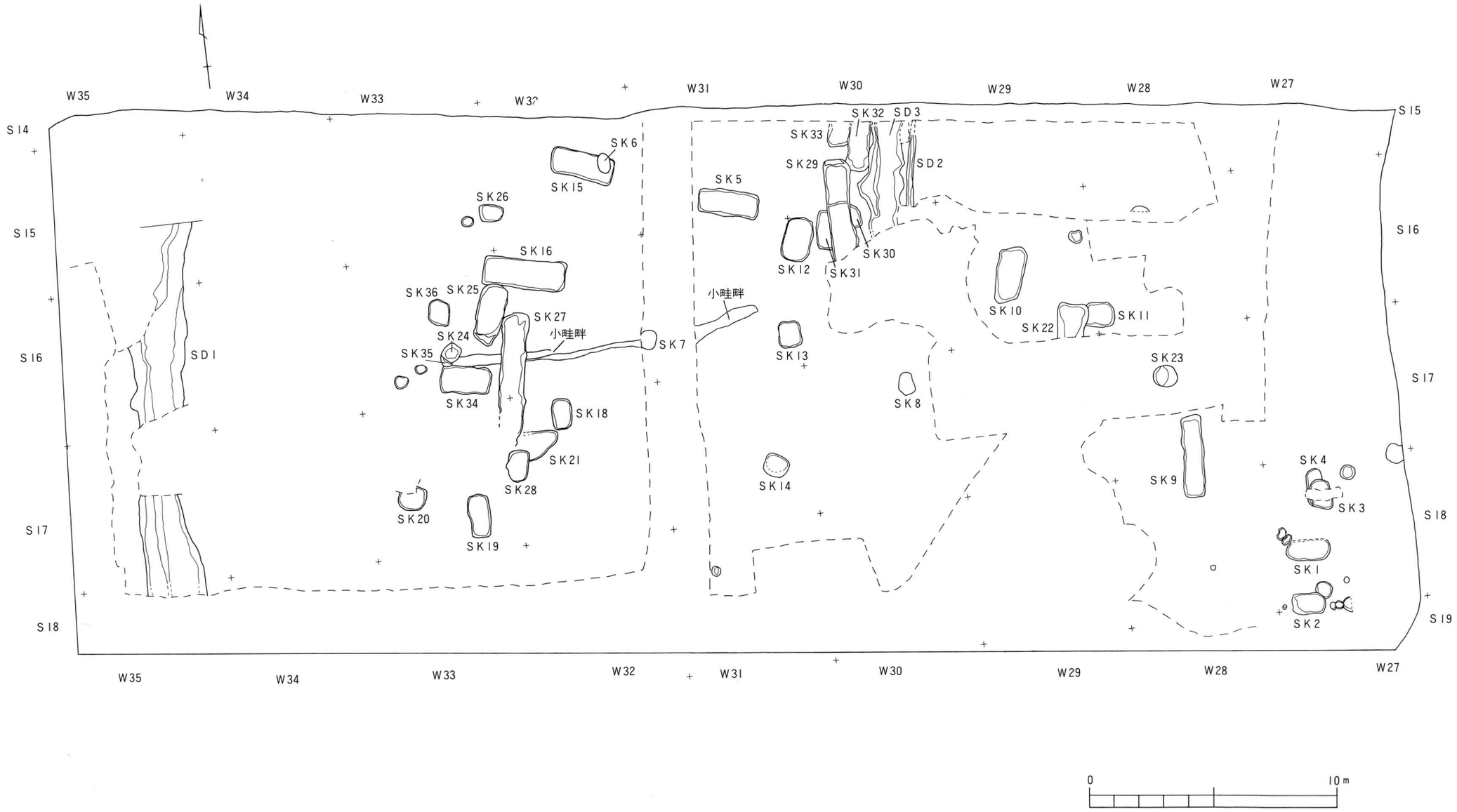
分析土層＝本土層説明…III層ａ＝第III－８層、III層ｂ＝第III－９層、IV層ａ＝第IV－11層、IV層ｂ＝第IV－12層、VI層＝第VI－９層。また、VIII層１は鋤跡状遺跡の直上土壌であり、VIII層２は同遺構の検出面である。

＊第５図、土色等説明

第Ｉ層：造成土・攪乱土
第II層：現代耕作土
第III層
　１層：暗オリーブ灰色粘土（2.5ＧＹ４/１）、２層：灰黄褐色粘土（10ＹＲ４/２）
　３層：オリーブ灰色粘土（10Ｙ４/２）、４層：暗緑灰色粘土（7.5ＧＹ４/１）
　５層：オリーブ灰色粘土（10Ｙ５/２）、６層：にぶい黄褐色粘土（10ＹＲ５/４）
　７層：暗オリーブ灰色シルト（５ＧＹ４/１）
　８層：灰オリーブ色粘土～シルト（7.5Ｙ５/２）
　８’層：灰オリーブ色シルト（7.5Ｙ５/２）・８層との境界に灰白色微砂が堆積している（33.80ｍより以西）
　８”層：灰オリーブ色シルト（7.5Ｙ５/２）・８’層との境界に灰白色微砂が堆積している（40ｍより以西）
　９層：オリーブ灰色シルト（10Ｙ５/２）
　10層：灰オリーブ色粘土～シルト（7.5Ｙ５/３）
第IV層
　１層：灰色砂質土（7.5Ｙ４/１）、２層：暗オリーブ灰色粘土（2.5ＧＹ４/１）
　３層：オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ５/１）、４層：暗オリーブ色シルト（５ＧＹ４/１）
　５層：暗緑灰色粘土（10ＧＹ４/１）、６層：オリーブ褐色粘土（2.5Ｙ４/４）
　７層：オリーブ褐色砂質土（2.5Ｙ４/３）、８層：暗緑灰色粘土（7.5ＧＹ４/１）
　９層：暗青灰色粘土（10ＢＧ３/１）・IV－８層混じり
　10層：暗緑灰色粘土（５Ｇ４/１）、11層：暗青灰色シルト（５Ｂ４/１）
　12層：灰色粘土（５Ｙ４/１）、13層：暗青灰色シルト（10ＢＧ４/１）
　14層：オリーブ灰色シルト（10Ｙ５/２）、15層：褐色シルト（10ＹＲ４/４）
　16層：灰色シルト（10Ｙ４/１）
第VI層
　１層：暗灰色粘土～シルト（Ｎ３/　）、２層：暗緑灰色粘土（10Ｇ４/１）
　３層：緑灰色シルト（５Ｇ５/１）、４層：暗青灰色シルト（10ＢＧ４/１）
　４’層：暗青灰色シルト（10ＢＧ４/１）・暗灰色シルト（Ｎ３/　）混じり
　５層：黄褐色シルト（2.5Ｙ５/４）、６層：暗緑灰色粘土～シルト（10ＧＹ４/１）
　７層：灰色シルト（10ＹＲ５/６）、８層：灰色シルト（Ｎ４/　）
　９層：暗緑灰色シルト（7.5ＧＹ４/１）、10層：褐灰色粘土～シルト（10ＹＲ４/１）
第Ａ層：褐色粘土（7.5ＹＲ４/６）
第Ｂ層：暗緑灰色砂質土（５Ｇ４/１）
第Ｃ層：暗灰色粘土～砂質土（Ｎ３/　）
第Ｄ層：黒褐色シルト（10ＹＲ３/１）
第Ｅ層：褐灰色シルト（10ＹＲ５/１）
第Ｇ層：緑灰色粘土～シルト（10Ｇ６/１）
第Ｇ’層：緑灰色砂質土（10Ｇ６/１）
＊点描は微砂や粗砂礫層である。また、第Ｖ層の土色等は付記していない。



第５図　Ａ地区北壁土層図



第6図　A地区遺構平面図

3　遺構・遺物

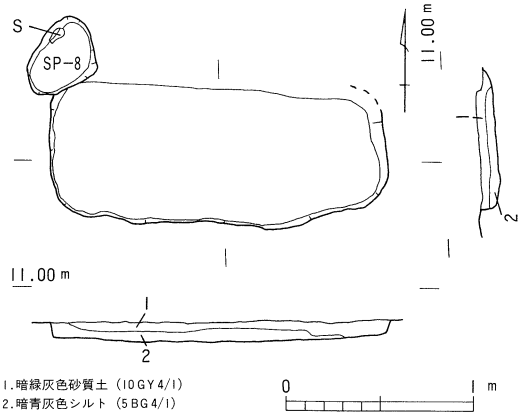
調査区は、以前の工事関係の掘削により部分的に第Ⅴ層あるいは第Ⅵ層まで及んでいることもあり、それぞれの遺構確認層に違いがみられる。検出された遺構は、土坑35基、溝３条、小畦畔状遺構１条、鋤跡状遺構、柱穴15基である。

土坑状遺構

土坑35基を検出した。そのうち３基から埋葬遺体を出土した。

ＳＫ－１（第７図）

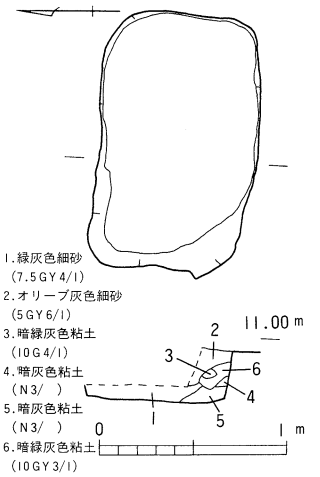
ＳＫ－１はＳ18W27に所在し、確認面は第Ⅵ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.96ｍ、短軸約0.90ｍ、深さ約0.10ｍを測る。長軸方向はＮ－90°－Ｅで東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は暗青灰色シルトである。出土遺物はない。



第７図　ＳＫ－１測量図

ＳＫ－２（第８図）

ＳＫ－２はＳ18W27に所在し、確認面は第Ⅴ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.29ｍ、短軸約0.79ｍ、深さ約0.26ｍを測る。長軸方向はＮ－90°－Ｅで東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土と暗灰色粘土で、オリーブ灰色細砂・暗緑灰色細砂がみられる。出土遺物はない。



第８図　ＳＫ－２測量図

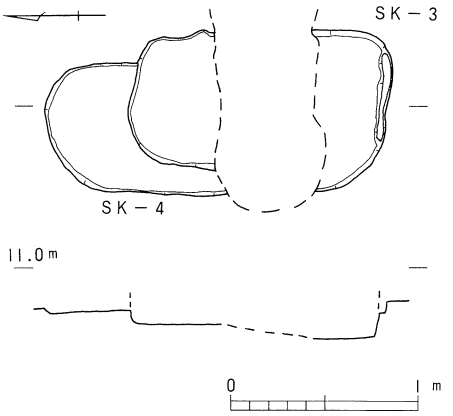
ＳＫ－３（第９図）

ＳＫ－３はＳ18W27に所在し、確認面は第Ⅵ層で、ＳＫ－４を切って掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.36ｍ、短軸約0.86ｍ、深さ約0.20ｍを測り、中央部が攪乱を受けている。長軸方向はＮ－０°－Ｅと磁北方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。

ＳＫ－４（第９図）

ＳＫ－４はＳ18W27に所在し、確認面は第Ⅵ層でＳＫ－３に切られて検出する。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.97ｍ、短軸約0.68ｍを測り、深さは不明である。長軸方向はＮ－１°

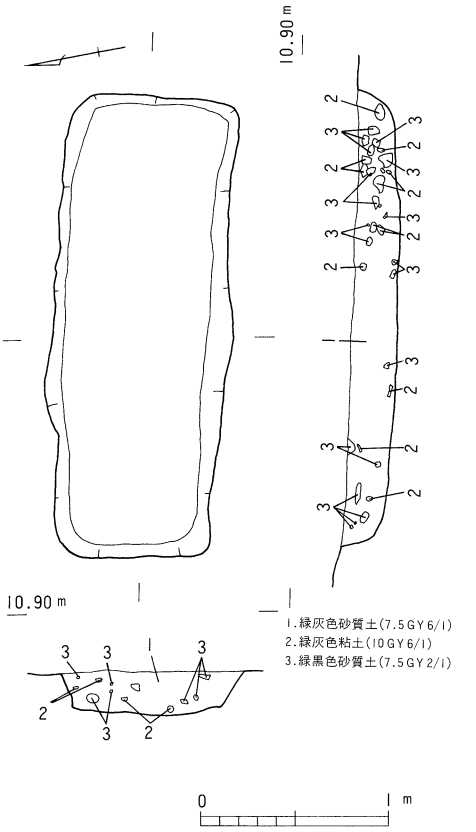
－Wでほぼ磁北である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。



第9図　SK－3・4測量図

SK－5（第10図）

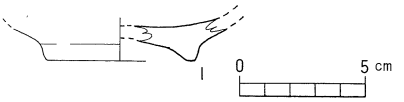
SK－5はS15W31に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.24m、短軸約1.70m、深さ約0.24mを測る。長軸方向はN－80°－Wで東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面からやや直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土で、ブロック状の緑灰色砂質土と緑黒色粘土などが見られる。出土遺物には図示したものの他、白磁碗・瓦器・土師器・土鍋・黒色土器の細片がある。



第10図　SK－5測量図

SK－5出土遺物（第11図）

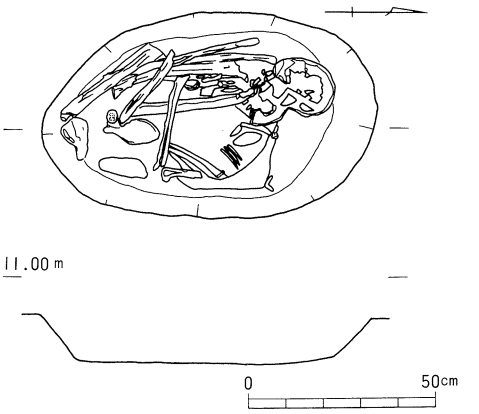
1は白磁碗の底部片である。断面逆台形状の高台を削り出している。高台径約5.8cmを測り、灰白色の釉がかかっている。



第11図　SK－5出土遺物実測図

SK－6（第12図）

SK－6はS15W31に所在し、確認面は第V層である。SK－15を切って掘られている。

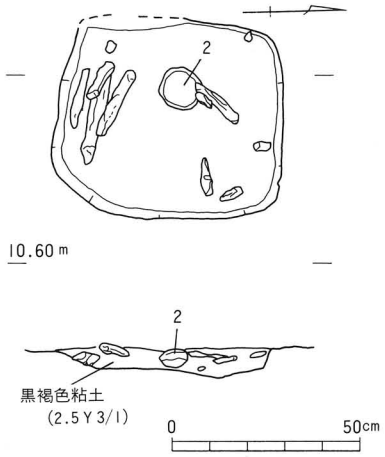


第12図　SK－6測量図

平面形は楕円形に近く、長軸約0.84m、短軸約0.38m、深さ約0.12mを測る。長軸方向はN－0°－Eで磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から擂鉢状にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。埋葬遺体1体を検出している。埋葬方法は、西向き北枕の屈葬である。この出土遺体についての鑑定は、分析編Ⅶ－1に掲載している。副葬遺物はなく、土師器・土鍋の細片が出土している。

ＳＫ－７（第13図）

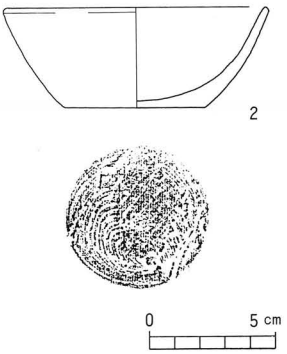
ＳＫ－７はＳ16W31・32に所在し、試掘トレンチにより大部分が削平されている。確認面は、遺構の西肩で第Ⅵ層からである。平面形は隅丸方形で、長軸約0.58m、短軸約0.53m、深さ約0.08mを測る。長軸方向はN－2°－Eでほぼ磁北である。断面形は逆台形を呈し、床面には起状がみられる。壁は床面から擂鉢状にたち上がる。埋土は黒褐色粘土である。埋葬遺体と思われる骨片を出土するが、削平のため骨の残存が悪く埋葬方法は不明である。副葬遺物に土師器杯1点がある。



第13図　ＳＫ－７測量図

ＳＫ－７出土遺物（第14図）

2は土師器杯の完形品である。口径10.6cm、器高4.0cmを測る。底面は回転糸切りで、内外面とも撫で調整である。



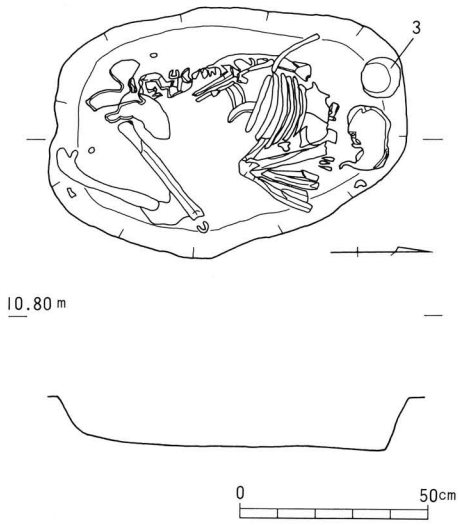
第14図　ＳＫ－７出土遺物実測図

ＳＫ－８（第15図）

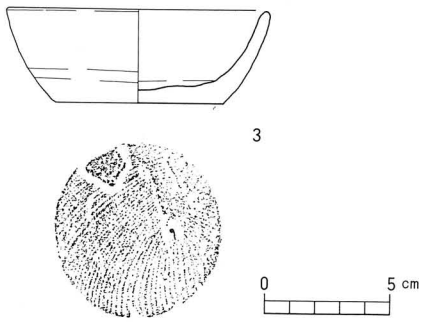
ＳＫ－８はＳ17W30に所在し、確認面は第Ⅴ層である。平面形は楕円形に近く、長軸約0.93m、短軸約0.67m、深さ約0.14mを測る。長軸方向はN－0°－Eでほぼ磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から擂鉢状にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。埋葬遺体1体を検出している。埋葬方法は、東向き北枕の屈葬である。この出土遺体と埋土の残留脂肪酸についての鑑定及び分析は、分析編Ⅶ－1・3に掲載している。また、歯牙には黒色染料の付着がみられ、第6次上層調査D区で検出されたＳＫ－57出土の黒色染料付着の歯牙と比較分析し、その結果を分析編Ⅶ－2に掲載している。副葬遺物に土師器杯1点があり、他に土鍋の細片が出土している。

ＳＫ－８出土遺物（第16図）

3は土師器杯の完形品である。口径10.3cm、器高5.6cmを測る。底面は静止糸切りで、内外面とも撫で調整を施している。



第15図　ＳＫ－８測量図

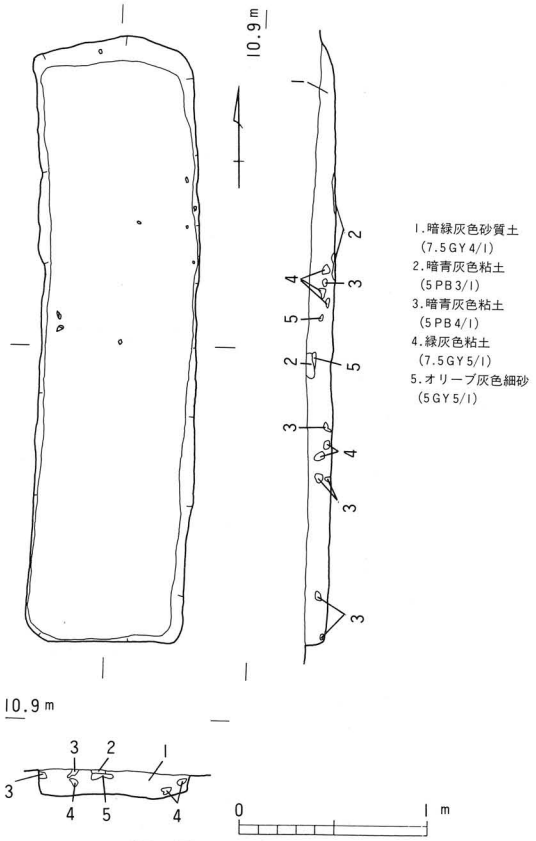


第16図　ＳＫ－８出土遺物実測図

ＳＫ－９（第17図）

ＳＫ－９はＳ17・18W28に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約3.20ｍ、短軸約0.80ｍ、深さ0.13ｍを測る。長軸方向はＮ－０°－Ｅでほぼ磁北である。壁は南側で、床面から直に立ち上がり、北側では緩やかにたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の暗青灰色粘土・緑灰色粘土・細砂などがみられる。出土遺物には、土師器椀・土師器皿（底面回転糸切り）・摩滅した土師器などの細片がある。

ＳＫ－９の規模は、南江戸闘目遺跡で検出されたＳＫ－４と同一の規格性がみられる。



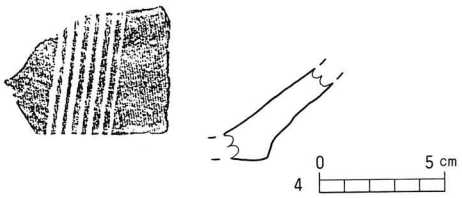
第17図　ＳＫ－９測量図

ＳＫ－10（第18図）

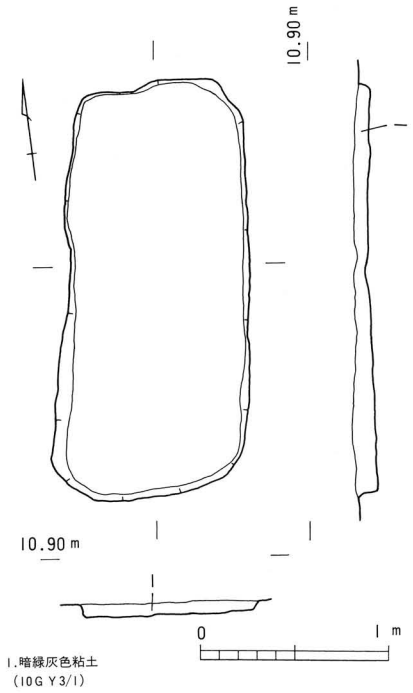
ＳＫ－10はＳ16W29に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.33ｍ、短軸約0.94ｍ、深さ0.70ｍを測る。長軸方向はＮ－７°－Ｅである。断面形は逆台形を呈し、壁は床面からやや直にたち上がる。埋土は、暗緑灰色粘土である。出土遺物には図示したものの他、土師器・瓦器の細片がある。

ＳＫ－１０出土遺物（第19図）

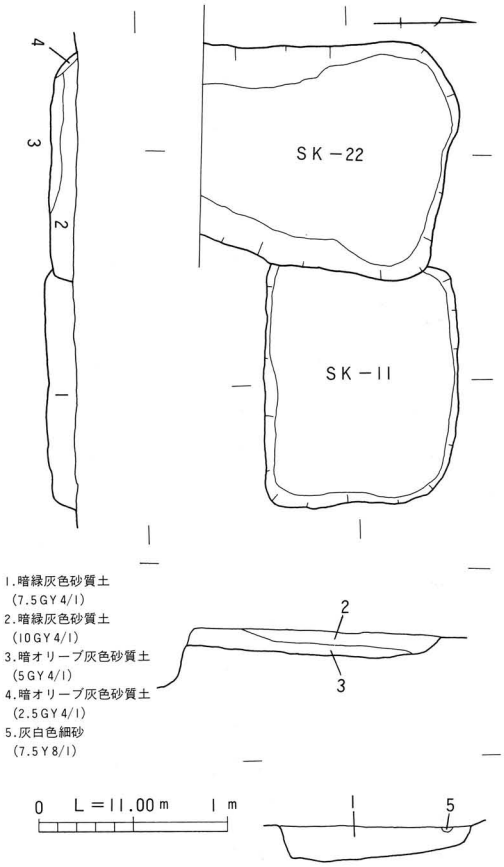
４は備前焼擂鉢の底部である。内面に７条の櫛目が施されている。



第19図　ＳＫ－１０出土遺物実測図



第18図　ＳＫ－１０測量図



第20図　ＳＫ－１１・２２測量図

ＳＫ－１１（第20図）

ＳＫ－11はＳ16W28・29に所在し、確認面は第Ⅵ層である。西肩からＳＫ－22が掘られている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.20ｍ、短軸約1.01ｍ、深さ0.16ｍを測る。長軸方向はＮ－90°－Ｅの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の灰白色細砂がみられる。出土遺物には、土師器の細片がある。

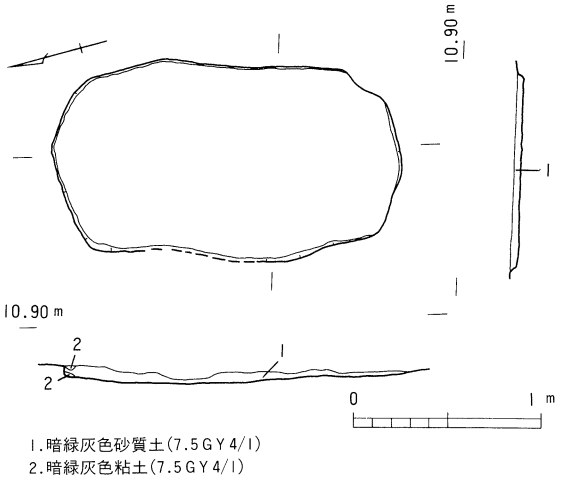
ＳＫ－２２（第20図）

ＳＫ－22はＳ16W29に所在し、確認面は第Ⅵ層である。ＳＫ－11の西肩を切って掘られている。平面形は隅丸方形で、検出された長軸は約1.35ｍ、短軸約1.18ｍ、深さ約0.14ｍを測る。長軸方向はＮ－０°－Ｅで磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から擂

鉢状にたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土・暗オリーブ灰色砂質土などである。出土遺物には、土師器の細片がある。

ＳＫ－12（第21図）

ＳＫ－12はＳ16W30・31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.83ｍ、短軸約1.06ｍ、深さ0.02～0.07ｍを測る。長軸方向はＮ－15°－Ｅである。壁の南側は床面から緩やかにたち上がり、北側は直に立ち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の暗緑灰色粘土がみられる。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。



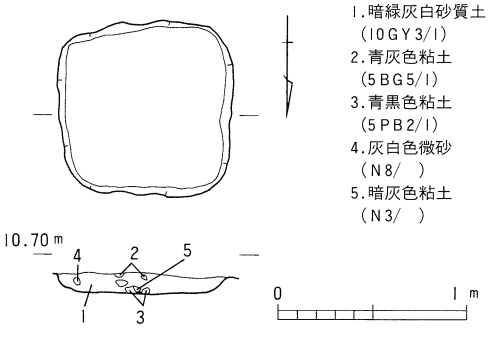
第21図　ＳＫ－12測量図

ＳＫ－13（第22図）

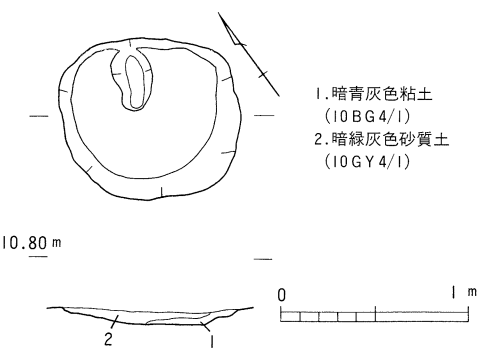
ＳＫ－13はＳ16W31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸方形で、長軸約0.91ｍ、短軸約0.88ｍ、深さ0.12ｍを測る。長軸方向はＮ－90°－Ｅである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の青黒色粘土・暗灰色粘土・青灰色粘土・微砂などがみられる。出土遺物には、瓦器・土鍋の細片がある。

ＳＫ－14（第23図）

ＳＫ－14はＳ17W31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸で円形に近い方形で、長軸約0.93ｍ、短軸約0.85ｍ、深さ0.06ｍを測る。長軸方向はＮ－55°－Ｗである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は暗青灰色粘土である。出土遺物はない。



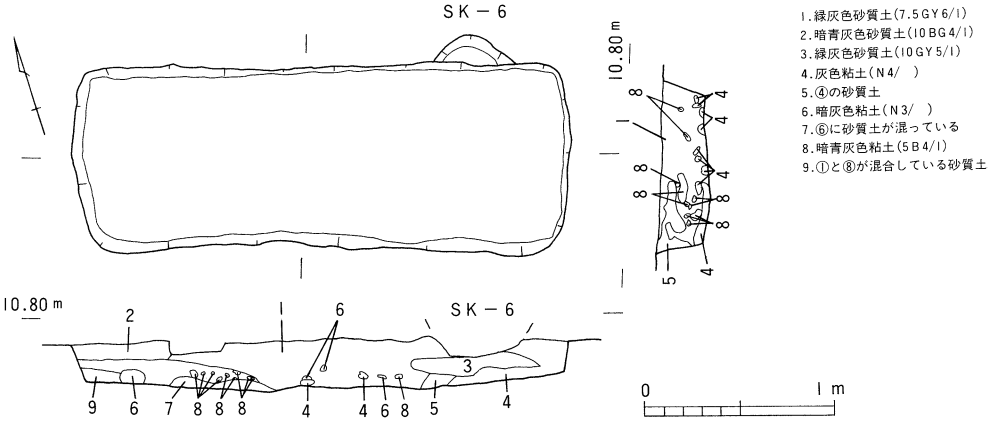
第22図　ＳＫ－13測量図



第23図　ＳＫ－14測量図

ＳＫ－１５（第24図）

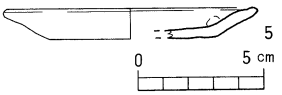
ＳＫ－15はＳ15W32に所在し、確認面は第Ｖ層である。北東部分をＳＫ－６に切られる。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.25ｍ、短軸約0.92ｍ、深さ0.26ｍを測る。長軸方向はＮ－73°－Ｗである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土を基層として暗灰色粘土・暗青灰色粘土・灰色粘土などのブロック状の混入がみられる。出土遺物には、図示できなかったものに瓦器・土鍋の細片がある。土坑墓と比較するため埋土の脂肪酸分析を行い、結果を分析編Ⅶ－３に掲載している。



第24図　ＳＫ－１５測量図

ＳＫ－１５出土遺物（第25図）

５は土師器皿である。口縁端部をやや上に曲げる「て」の字状のものである。口径約9.6cm、器高1.2cmを測る。内外面とも撫で調整である。



第25図　ＳＫ－１５出土遺物実測図

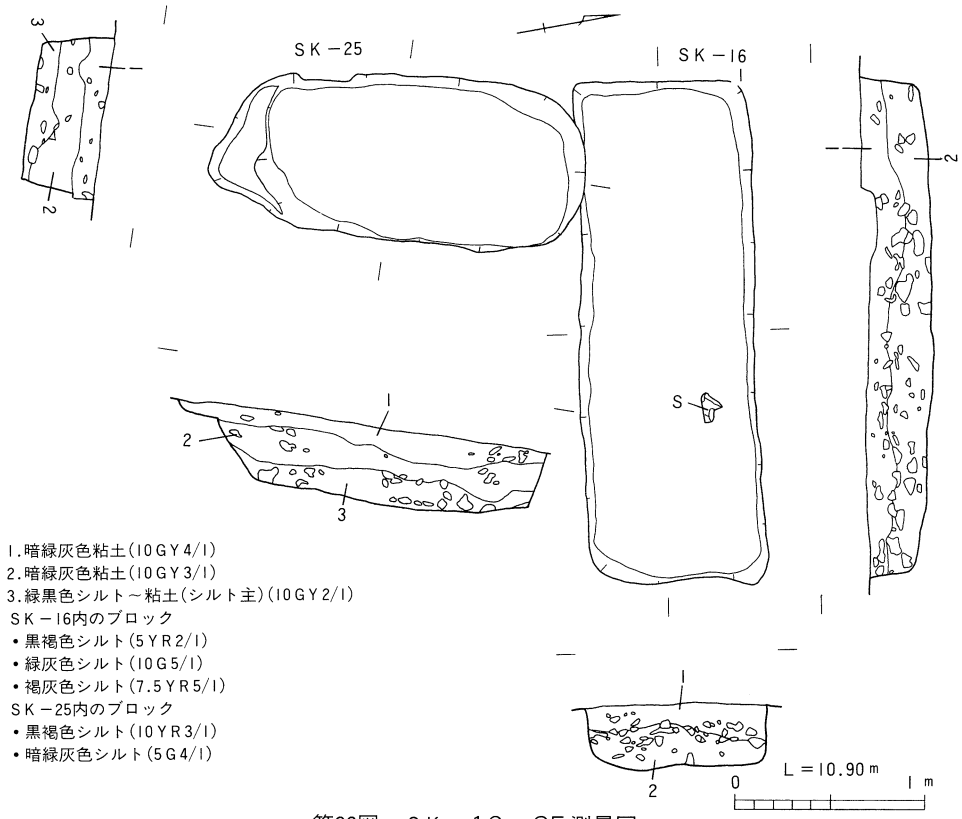
ＳＫ－１６（第26図）

ＳＫ－16はＳ16W32・33に所在し、確認面は第Ｖ層である。南側の一部からＳＫ－25が掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.86ｍ、短軸約0.95ｍ、深さ0.33ｍを測る。長軸方向はＮ－82°－Ｗの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑灰色粘土に緑灰色シルト・黒褐色シルトなどのブロックが多数混在している。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師器・黒色土器の細片と緑泥片岩１点がある。

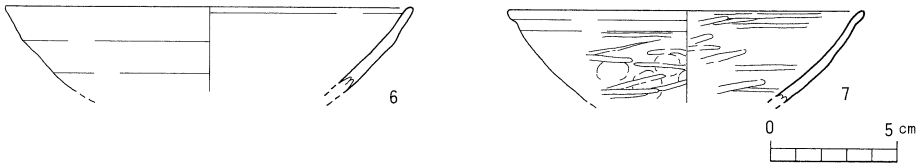
ＳＫ－１６出土遺物（第27図）

６は土師器椀の口縁部である。口径16cmを測り、内外面ともに磨きが施されている。

７は瓦器椀の口縁部である。口縁は外反し端部を丸くおさめている。口径14cmを測る。内面に横方向の暗文、外面には指頭痕と磨きがあり、口縁部は横撫でされている。和泉型瓦器椀である。



第26図　SK－16・25測量図



第27図　SK－16出土遺物実測図

SK－25（第26図）

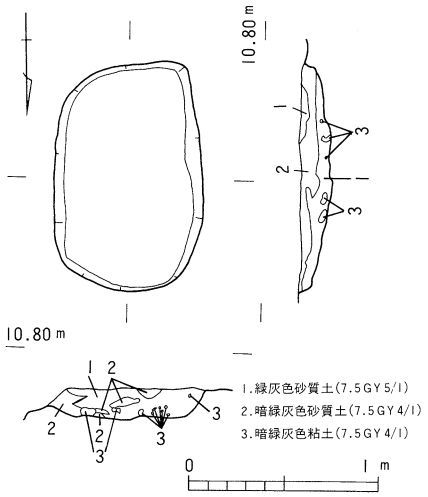
SK－25はS16W32・33に所在し、確認面は第V層である。SK－16を切って掘られている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.95m、短軸約0.87m、深さ約0.39mを測る。長軸方向はN－19°－Eの南北方向である。断面形は逆台形を呈し、南側に一段平坦な面がある。壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は大きく三層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、中層も暗緑灰色粘土、下層は緑黒色シルトで、SK－16と同様のブロックが多数混在している。ある。出土遺物はない。

SK－17

SK－17はS16W32において検出したが、表面精査で消失した。

ＳＫ－18（第28図）

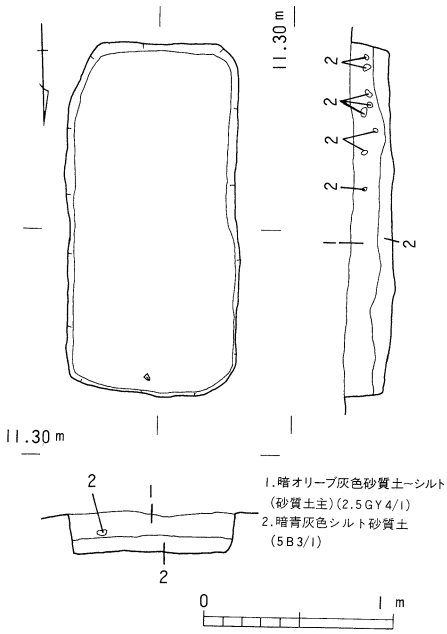
ＳＫ－18はＳ17W32に所在し、確認面は第VI層である。東側は削平を受けている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.14ｍ、短軸約0.82ｍ、深さ約0.17ｍを測る。長軸方向はＮ－０°－Ｅと磁北である。断面形は逆台形を呈し、床面に起伏がみられる。壁は床面から直にたち上がる。埋土は二層に分層でき、上層は暗緑灰色砂質土、下層は緑灰色砂質土にブロック状の暗緑灰色粘土などがみられる。出土遺物には、土師器の細片がある。



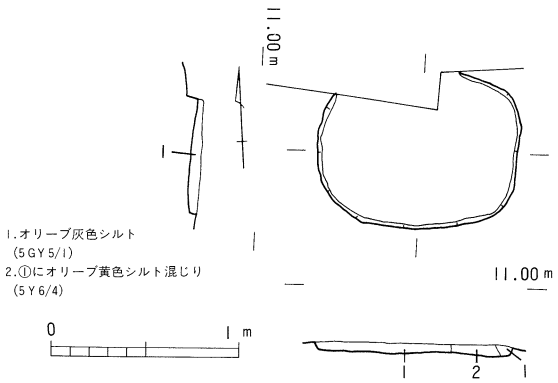
第28図　ＳＫ－18測量図

ＳＫ－19（第29図）

ＳＫ－19はＳ17W33に所在し、確認面は第Ｖ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.82ｍ、短軸約0.83ｍ、深さ約0.20ｍを測る。長軸方向はＮ－０°－Ｅと磁北に沿う南北方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗オリーブ灰色砂質土、下層は暗青灰色シルトである。上層中にブロック状の下層が混入している。出土遺物には黒色土器・土師器の細片と、外面に細線蓮弁文の青磁碗の破片１点がある。



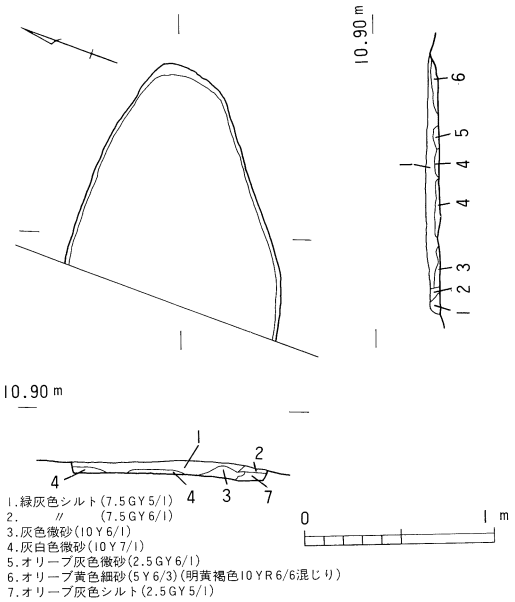
第29図　ＳＫ－19測量図



第30図　ＳＫ－20測量図

ＳＫ－20（第30図）

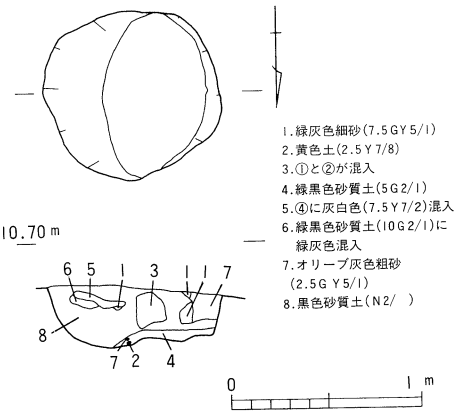
ＳＫ－20はＳ17W33に所在し、確認面は第VI層である。北側は削平を受けている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.50ｍ、短軸約0.61ｍ、深さ約0.06ｍを測る。長軸方向はＮ－86°－Ｗと東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土はオリーブ灰色シルトとオリーブ黄色シルトである。出土遺物はない。



第31図　ＳＫ－21測量図

ＳＫ－21（第31図）

ＳＫ－21はＳ17W32に所在し、確認面は第Ⅵ層である。西側が削平を受けているため、平面形は楕円形と思われ、東半分のみ検出した。検出した長軸は約1.39ｍ、短軸約1.02ｍ、深さ約0.07ｍを測る。長軸方向はＮ－70°－Ｅの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は上層に緑灰色シルト、下層に微砂が堆積している。床面からＳＫ－28を検出する。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。



第32図　ＳＫ－23測量図

ＳＫ－23（第32図）

ＳＫ－23はＳ17W28に所在し、確認面は第Ⅷ層の砂礫層からである。平面形は隅丸方形あるいは円形で、長軸約0.94ｍ、短軸約0.88ｍ、深さ約0.33ｍを測る。壁の東側は床面から緩やかに内弯しながらたち上がり、西側にやや平坦な床をもち、直に立ち上がる。埋土は黒褐色砂質土に緑黒色粘土・黄色土・粗砂などがみられる。埋土の黒褐色砂質土について花粉分析を行い、結果を分析編Ⅶ－5に掲載している。出土遺物には図示したものの他、瓦器の細片がある。

ＳＫ－23出土遺物（第33図）

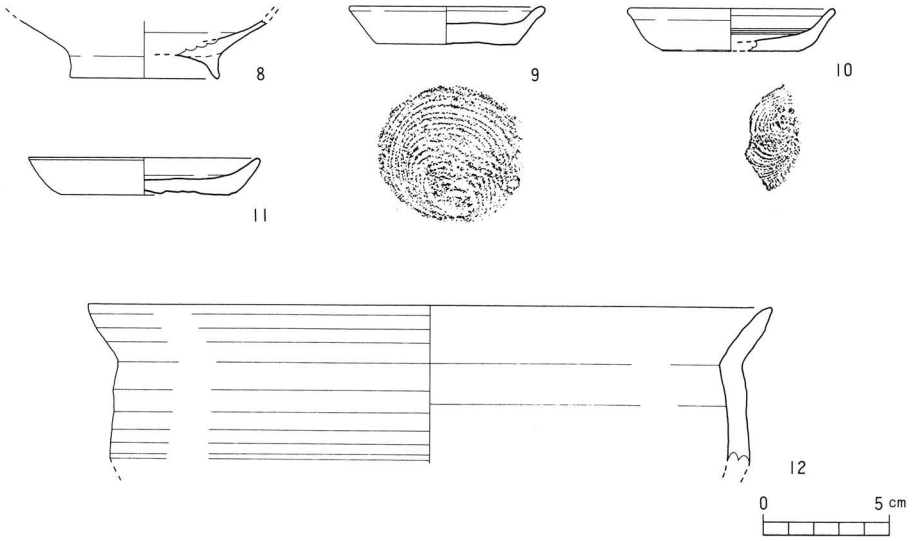
8は土師器椀の底部である。断面三角形の高台を貼り付けている。内外面とも撫で調整である。

9・10・11はともに土師器皿である。いずれも底面回転糸切りで、内外面とも横撫で調整である。11の底面には板状圧痕がみられる。

12は土師質の土鍋である。内外面には撫で調整がみられる。

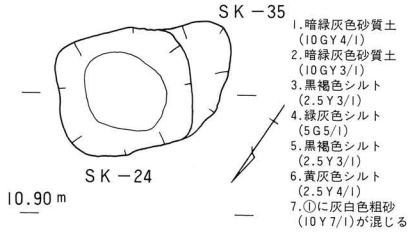
ＳＫ－24（第34図）

ＳＫ－24はＳ16W33に所在し、確認面は第Ⅴ層である。ＳＫ－35を切って掘り込まれている。平面形は隅丸方形で、長軸約0.76ｍ、短軸約0.70ｍ、深さ約0.12ｍを測る。長軸方向はＮ－47°－Ｅである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。



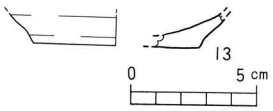
第33図　ＳＫ－23出土遺物実測図

埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は黒褐色シルトで、ブロック状の緑灰色シルト・黒褐色シルトなどがみられる。出土遺物には図示したものの他、土師器細片がある。

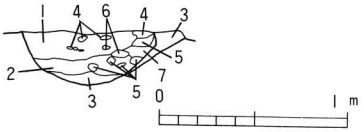


ＳＫ－24出土遺物（第35図）

13は土師器杯の底部である。底面は回転糸切りで、内外面とも撫で調整である。



第35図　ＳＫ－24
出土遺物実測図



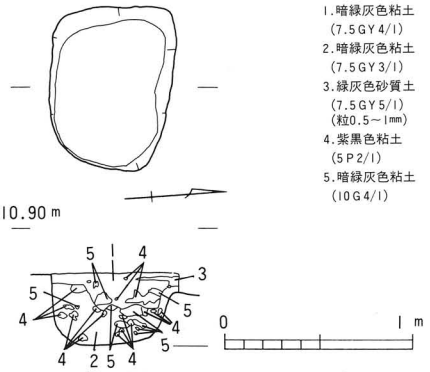
第34図　ＳＫ－24・35測量図

ＳＫ－35（第34図）

ＳＫ－35はＳ16W33に所在し、確認面は第Ｖ層である。ＳＫ－24に大部分切られているため、検出できた平面形は楕円形で、長軸約0.62ｍ、短軸約0.20ｍ、深さ約0.06ｍを測る。壁は緩やかにたち上がる。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物はない。

ＳＫ－26（第36図）

ＳＫ－26はＳ15W32・33に所在し、確認面は第Ｖ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.86ｍ、短軸約0.68ｍ、深さ約0.38ｍを測る。長軸方向はＮ－85°－Ｗの東西方向である。断面形はＵ字状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑

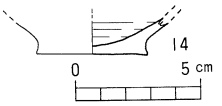


第36図　ＳＫ－26測量図)

灰色粘土で、ブロック状の緑灰色砂質土・紫黒色粘土などがみられる。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋の細片がある。

ＳＫ－26出土遺物（第37図）

14は土師器杯あるいは円盤高台の椀と思われる。摩滅のため底面の切り離しは不明である。



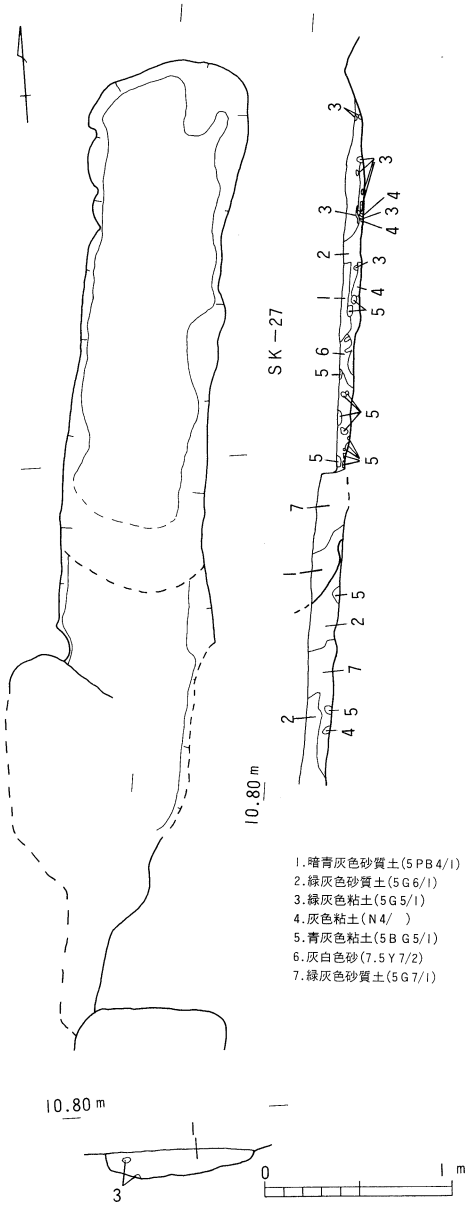
第37図　ＳＫ－26
出土遺物実測図

ＳＫ－27（第38図）

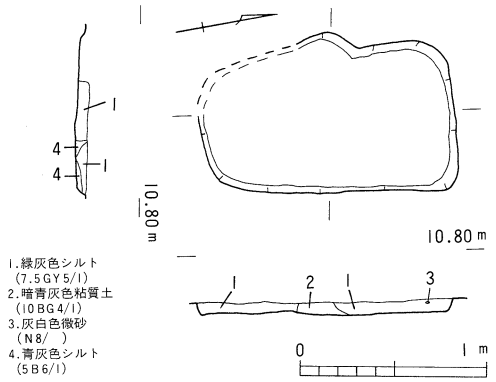
ＳＫ－27はＳ16W32・33に所在し、確認面は第Ⅴ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約4.50ｍ、短軸約0.78ｍ、深さ約0.10～0.12ｍを測る。長軸方向はＮ－８°－Ｅの南北方向である。断面形はレンズ状を呈し、壁は平坦な床面から緩やかにたち上がる。埋土は暗青灰色砂質土・緑灰色砂質土にブロック状の緑灰色粘土・灰色粘土・青灰色粘土などが混入している。出土遺物には、土師器細片がある。

ＳＫ－28（第39図）

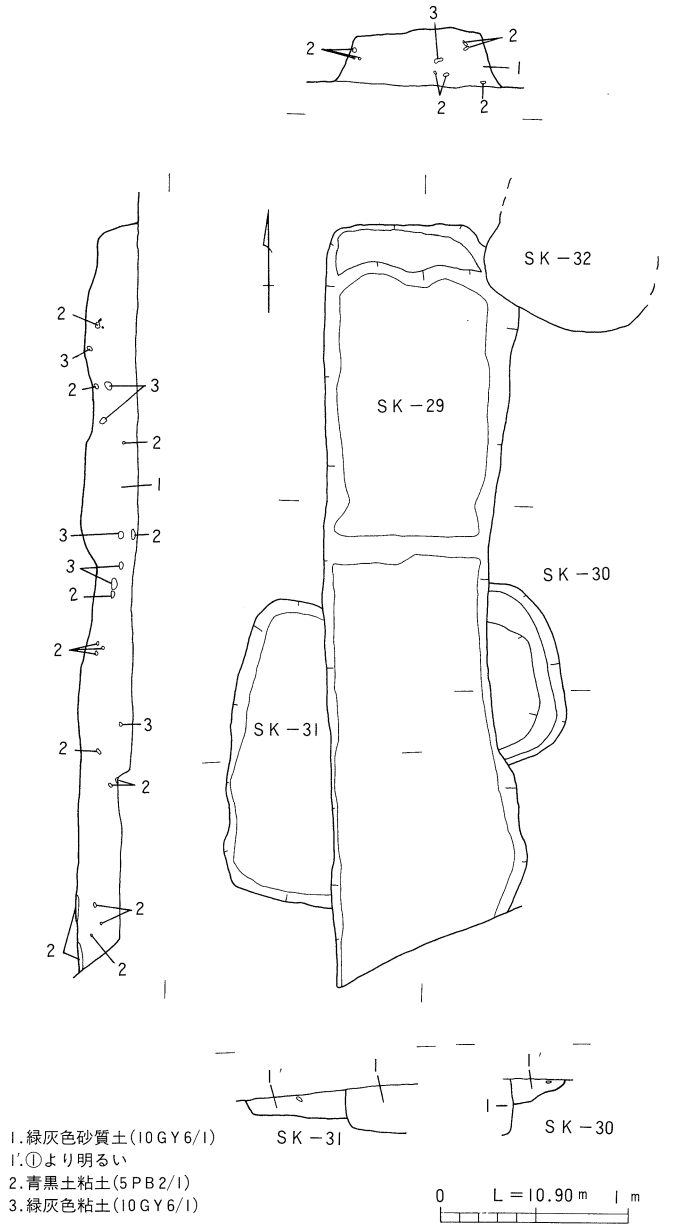
ＳＫ－28はＳ17W32・33に所在し、ＳＫ－21の床面から検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.37ｍ、短軸約0.86ｍ、深さ約0.07ｍを測る。長軸方向はＮ－12°－Ｅである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色シルト・暗青灰色粘質土・青灰色シルトなどである。出土遺物はない。



第38図　ＳＫ－27測量図



第39図　ＳＫ－28測量図



第40図　SK－29・30・31測量図

SK－29（第40図）

SK－29はS15・16W30に所在し、確認面は第VI層である。SK－30・31を切って掘られ、南端は削平されている。平面形は隅丸長方形で、長軸約3.70m以上、短軸約0.92m、深さ約0.30mを測る。長軸方向はN－0°－Eで磁北である。床面には起伏がある。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土に若干の青黒色粘土・緑灰色粘土のブロックがみられる。出土遺物には図示したものの他、瓦質鉢・土鍋の細片がある。

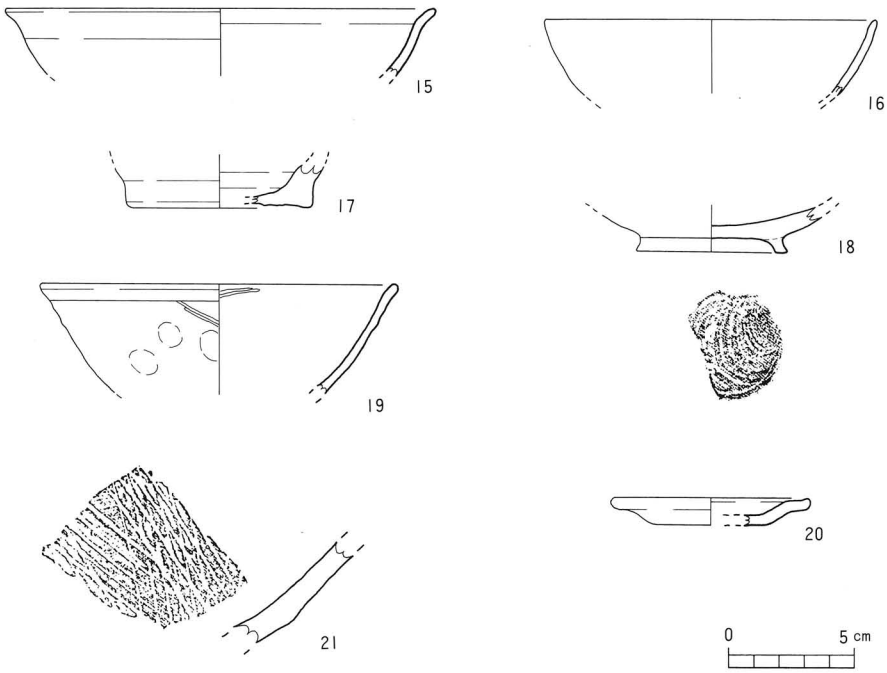
SK－29出土遺物（第41図）

15～18は土師器椀である。15は口径16.8cmを測り、口縁部は外反し端部を丸く仕上げている。内外面とも撫で調整を施している。16は口径13cmを測り、口縁部は内弯しながら立ち上がる。内外面とも撫で調整を施している。18は底部で高台径5.6cmを測る。底面は回転糸切りされた後に断面四角形の高台が貼り付けられている。内外面とも撫で調整を施している。17は底部で、底面回転糸切りで円盤高台のものである。

20は土師器皿である。口縁端部を上方向に少し折り曲げ、「て」の字状にしている。内外面とも撫で調整を施している。

19は瓦器椀である。推定口径14cmを測る。口縁はやや外反し、撫で調整が施されている。内外面に暗文が施され、外面には指頭痕も見られる。

21は土師質擂鉢である。内面に６条の櫛目が放射状に施されている。



第41図　ＳＫ－29出土遺物実測図

ＳＫ－30（第40図）

ＳＫ－30はＳ16W30に所在し、確認面は第Ⅵ層である。ＳＫ－29に切られているため、平面形は隅丸の方形あるいは長方形と思われる。検出した長軸は約2.40ｍ、短軸約1.86ｍ、深さ約0.06ｍを測る。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物には、土鍋細片がある。

ＳＫ－31（第40図）

ＳＫ－31はＳ16W30に所在し、確認面は第Ⅵ層である。ＳＫ－29に東側を切られているため、平面形は隅丸の方形あるいは長方形と思われる。検出した長軸は約3.30ｍ、短軸約1.00ｍ、深さ約0.12ｍを測る。長軸方向はＮ－７°－Ｅである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。

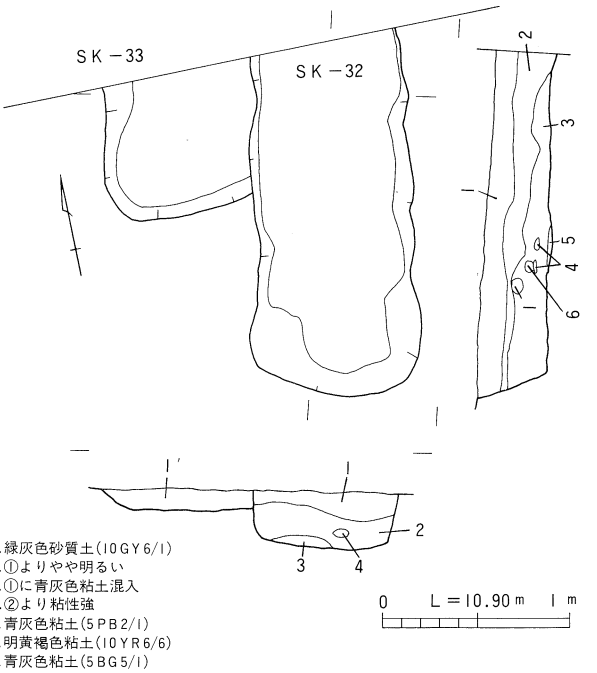
ＳＫ－32（第42図）

ＳＫ－32はＳ16W30に所在し、確認面は第Ⅵ層である。北側は調査区外へ広がる可能性がある。ＳＫ－33の東側を切って掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.34ｍ、短軸約0.82ｍ、深さ約0.26ｍを測る。長軸方向はＮ－15°－Ｅでほぼ南北方向である。断面

形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は三層に分かれ、上層は緑灰色砂質土、中層は緑灰色砂質土（青灰色粘土混じり）、下層は緑灰色砂質土（やや粘性強い）であり、下層に若干の青灰色粘土・明黄色砂・青灰色粘土のブロックが混入している。出土遺物には、土師器皿（底面回転糸切り）・土鍋の細片がある。

ＳＫ－33（第42図）

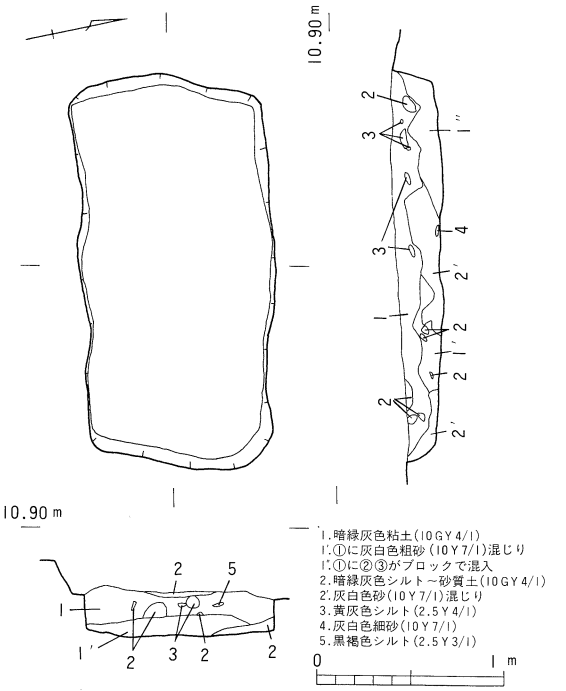
ＳＫ－33はＳ16W30に所在し、確認面は第Ⅵ層である。東側をＳＫ－32に切られている。平面形は隅丸方形あるいは長方形と思われ、調査区外へ広がる。検出した東西長は約0.81ｍ、南北長は約0.74ｍ、深さ約0.12ｍを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から緩やかにたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物はない。



第42図　ＳＫ－32・33測量図

ＳＫ－34（第43図）

ＳＫ－34はＳ16W33に所在し、確認面は第Ⅴ層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.24ｍ、短軸約1.00ｍ、深さ約0.25ｍを測る。長軸方向はＮ－80°－Ｗの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は上層に暗緑灰色粘土、下層に暗緑灰色シルトなど、ブロック状の黄灰色シルトなどがみられる。出土遺物には、土師器椀がある。



第43図　ＳＫ－34測量図

ＳＫ－34出土遺物（第44図）

22は土師器椀である。底面が回転糸切りされた後に断面四角形の高台を貼り付けている。

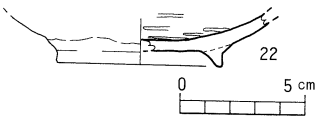
外面には横撫でが施されている。

ＳＫ－36（第45図）

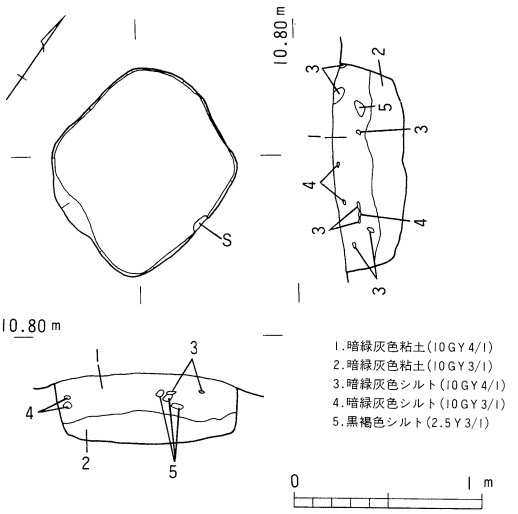
ＳＫ－36はＳ16W33に所在し、確認面は第Ｖ層である。平面形は隅丸方形あるいは菱形で、長軸約1.20ｍ、短軸約1.01ｍ、深さ約0.39ｍを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑灰色粘土で、上層に若干のブロック状の暗緑灰色シルトなどがみられる。出土遺物には図示したものの他、土師器・瓦器・土鍋・備前焼擂鉢の細片がある。

ＳＫ－36出土遺物（第46図）

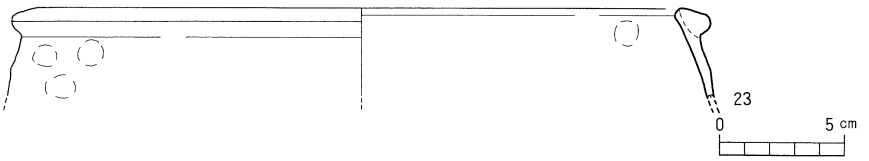
23は土師質の土釜の口縁部で、口径25.8cmを測り、口縁外面に断面三角形の凸帯が貼り付けられている。



第44図　ＳＫ－34出土遺物実測図



第45図　ＳＫ－36測量図



第46図　ＳＫ－36出土遺物実測図

【参考文献】

＊上田　真・水本完児：『南江戸闔目遺跡』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991

＊尾上　実：「南河内の瓦器椀」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』、1983

＊間壁忠彦：『備前焼』（考古学ライブラリー60）、1991

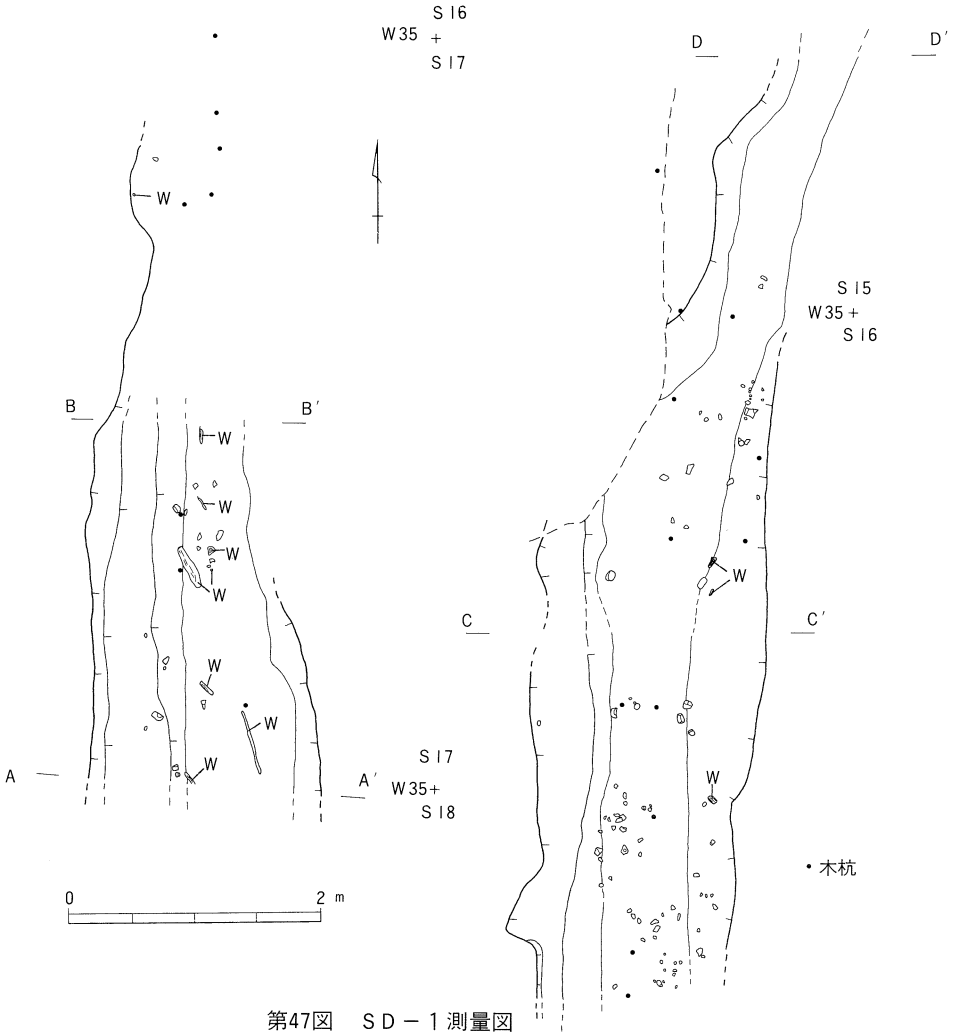
溝状遺構

調査区の西端第Ⅳ－ａ層上面から１条、北東部の第Ⅵ層上面から２条、計３条検出した。

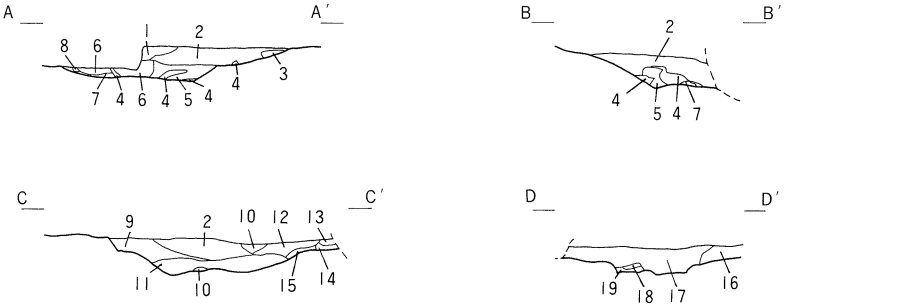
ＳＤ－１（第47・48図）

調査区西のＳ15～17W35において、第Ⅳ－ａ層上面で検出した南北方向の溝である。この溝は、幅1.80～1.85ｍ、深さ約0.25ｍ、検出長約14ｍを測る。中央と北西周辺は攪乱を受けている。主軸方向はほぼＮ－０°－Ｅで、北側2.3ｍ分はやや北東に振れＮ－13°－Ｅを測る。断面形は舟底形を呈し、壁は底面から緩やかに立ち上がり、一段の平坦面を成して緩やかに上がる。埋土は、微砂や細砂を含み大まかに二層に分けられる。上層は暗オリーブ灰色砂質土、下層は青灰色系の砂質土～シルトに若干のブロック状黒褐色粘土などを含む層である。

この溝には、木杭が南北列として19本打ち込まれている。遺物は、近世の陶磁器や瓦などを出土している。



第47図　ＳＤ－１測量図



1.浅黄色シルト(7.5Y7/3)
2.暗オリーブ灰色砂質土(5GY4/1)
3.緑灰色細砂(10G6/1)
4.灰白色浅黄色砂(5Y7/4)
5.暗青灰色砂質土(10BG4/1)
6.暗青灰色粘質土(10BG4/1)
7.明青灰色シルト(5BG7/1)
8.明緑灰色細砂(7.5GY8/1)
9.オリーブ灰砂質土(2.5GY5/1)
10.浅黄色細砂(5Y7/4)
11.暗青灰砂質土(10BG4/1)
12.灰色砂質土(7.5Y4/1)
13.オリーブ灰色粘質土(7.5Y5/2)
14.緑灰色粘質土(10GY5/1)
15.緑灰色粘質土(7.5GY5/1)
16.黄褐色シルト粘土(2.5Y5/6)
17.黒褐色シルト(2.5Y3/2)
18.緑灰色粘土～シルト(5G5/1)
19.緑灰色シルト(5G5/1)

第48図　ＳＤ－１土層図

ＳＤ－１出土遺物（第49・50図）

磁器碗（24～29）　24は染付の端反り碗である。外面に草花文が描かれている。25は染付の丸腰碗である。外面に菊花格子目文、見込みにコンニャク判による五花弁とトチン跡がみられる。26は染付碗で、腰の張った体部に草花が描かれている。27は染付碗で、腰のやや張る丸みのある体部で、呉須は緑色で二条巡っている。28・29は円筒形の碗で、体部は丸ノミによる削りが加えられ、明緑灰色の釉がかかっている。29の底部は蛇ノ目凹形高台である。

磁器碗蓋（30）　30は染付碗蓋で、内面は四方欅文、外面は鱗状の文様が描かれている。

磁器皿（31～36）　31は口縁を波状にした輪花状の染付皿である。外面は草花文、内面は潰し小文、高台内面に「夾」の文字が描かれている。32は口縁を波状にした輪花状の皿である。全体に摩滅がひどい。高台部と見込み部を除いて明緑灰色の釉がかかっている。33は染付皿で、内面に二重の格子文が描かれている。34・35は染付皿で、底部は蛇ノ目凹形高台である。34は内面に五弁花文が描かれ、トチン跡が残る。35は内面に花文とトチン跡が残る。36は染付皿で、外面に草花文、内面に五弁文が描かれている。

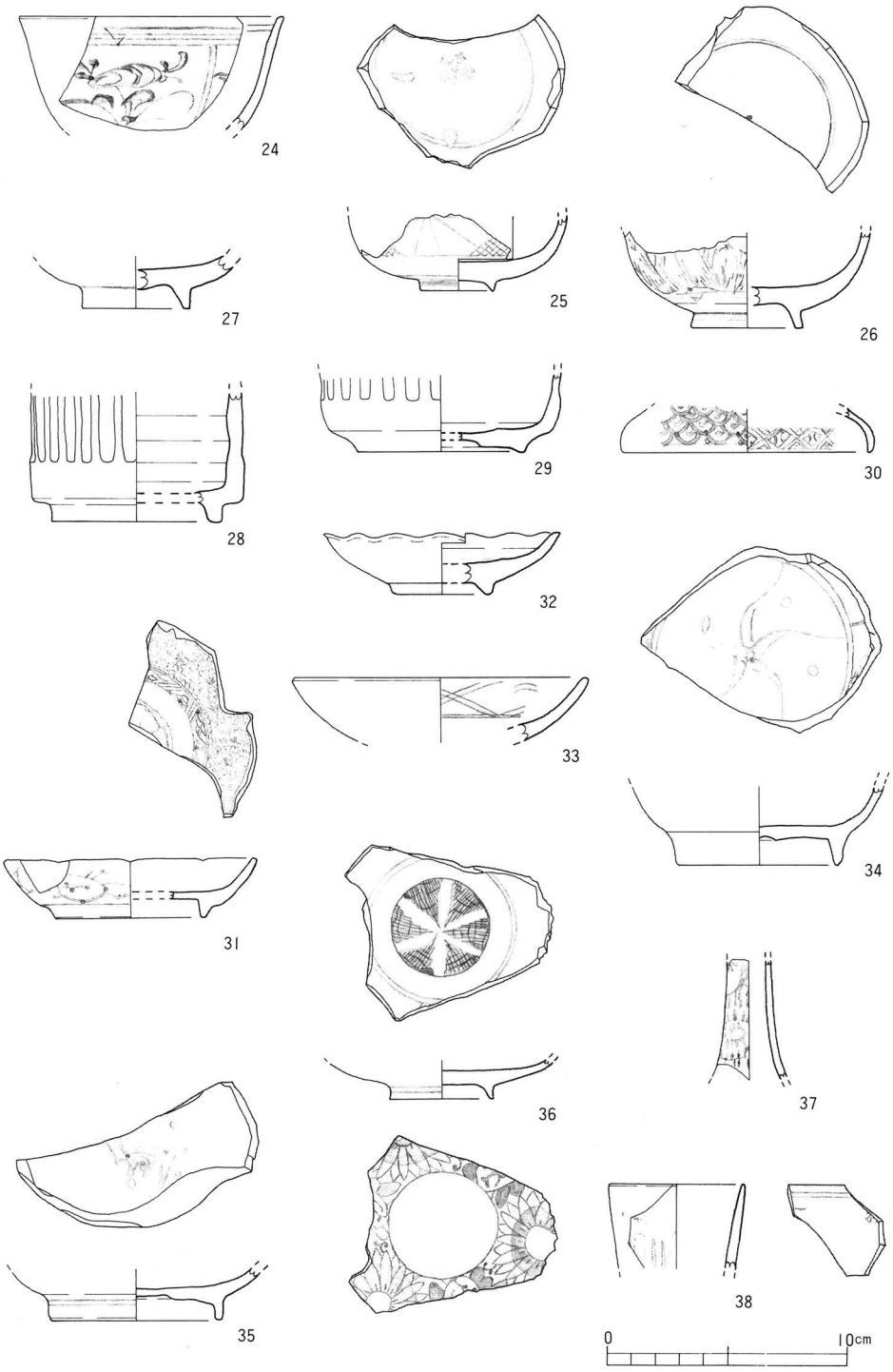
磁器徳利（37）　37は染付徳利で、外面に蛸唐草文が描かれている。

磁器猪口（38）　38は染付猪口で、外面に草花文、内面に文字が描かれている。

陶器碗（39・40・41）　39・40はやや腰の張る体部をもつ。39はにぶい黄橙色の釉が内外面にかかっている。40は灰オリーブ色の釉がかかり、灰色の呉須により二条の線が描かれている。41は削り出し高台で、黒色の釉が高台部を除く内外面にかかっており、天目碗とも考えられる。

陶器猪口（42）　42は猪口で、ロクロ成形のため内外面ともに稜が残る。口縁端部は内側に張り出し、全体がにぶい赤褐色を呈している。

灯火具（43）　43は秉燭で、底面回転糸切りの後に孔を開けている。底部を除き、全体に

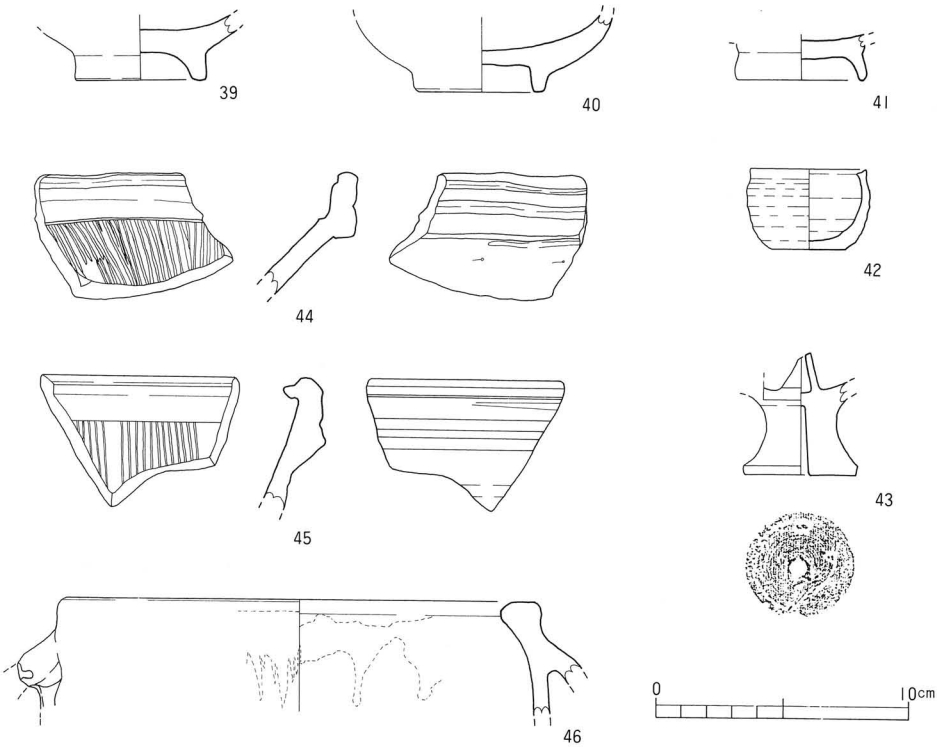


第49図　ＳＤ－１出土遺物実測図（1）

暗オリーブ色の釉がかかっている。

陶器擂鉢（44・45）　44・45ともに、口縁外面に二条の凹線が巡る。44の内面には１単位10条の擂目が全体に施されている。45の内面には１単位12条の擂目がある。

陶器鉢（46）　46は取手が付く鉢である。口縁は肥厚し、緑色の釉がかかっている。



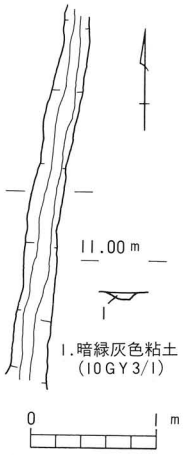
第50図　ＳＤ－１出土遺物実測図（2）

ＳＤ－２（第51図）

ＳＤ－２はＳ15W30の第Ⅵ層において検出した南北の溝である。検出長約3.00ｍ、幅約0.26ｍ、深さ約0.06ｍを測る。主軸方向はＮ－９°－Ｅである。断面形は逆台形を呈し、壁はやや平坦な床面から斜めに立ち上がる。埋土は、暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。

ＳＤ－３（第52図）

ＳＤ－３はＳ15・16W30の第Ⅵ層において検出した南北の溝である。検出長約4.50ｍ、幅約1.0～1.9ｍ、深さ約0.08～0.18ｍを測る。主軸方向はＮ－10°－Ｅである。断面形は逆台形を呈し、西側に一段高い平坦面を有し、壁は床面から斜めに立ち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、若干の緑灰色粘土・微砂がみられる。出土遺物には、摩滅した土師器の細片がある。

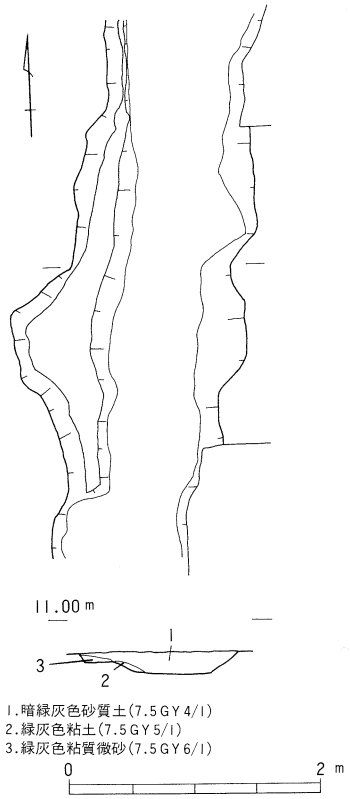


第51図
ＳＤ－２測量図

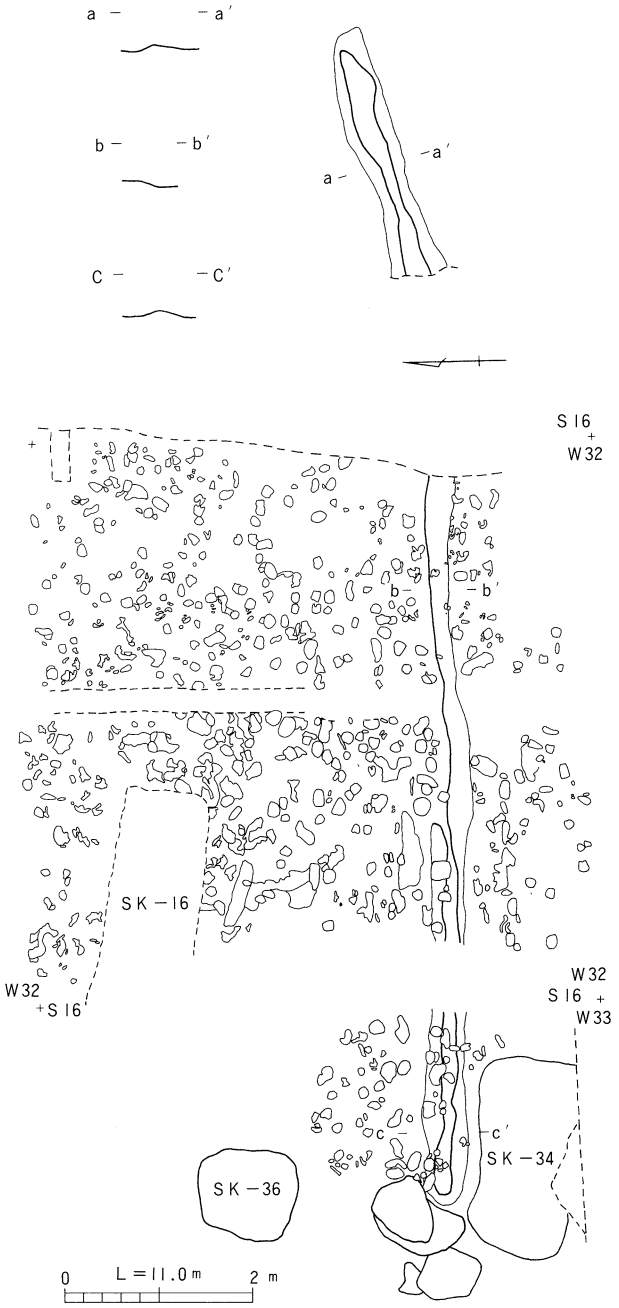
小畦畔状遺構（第53図）

調査区の中央西側Ｓ16W31・32・33の第VI層で確認した東西方向の小畦畔である。検出した畦畔の中央部は、試掘トレンチによって削平を受けている。検出長約10.5ｍ、幅約0.3～0.4ｍ、高さ約0.05ｍを測る。断面形は東側と西側で蒲鉾状、中央は段状を呈している。畦畔周辺に多数の人・牛の足跡が残り、これら全ての足跡内に砂が堆積していることから、洪水によって埋没したものと思われる。

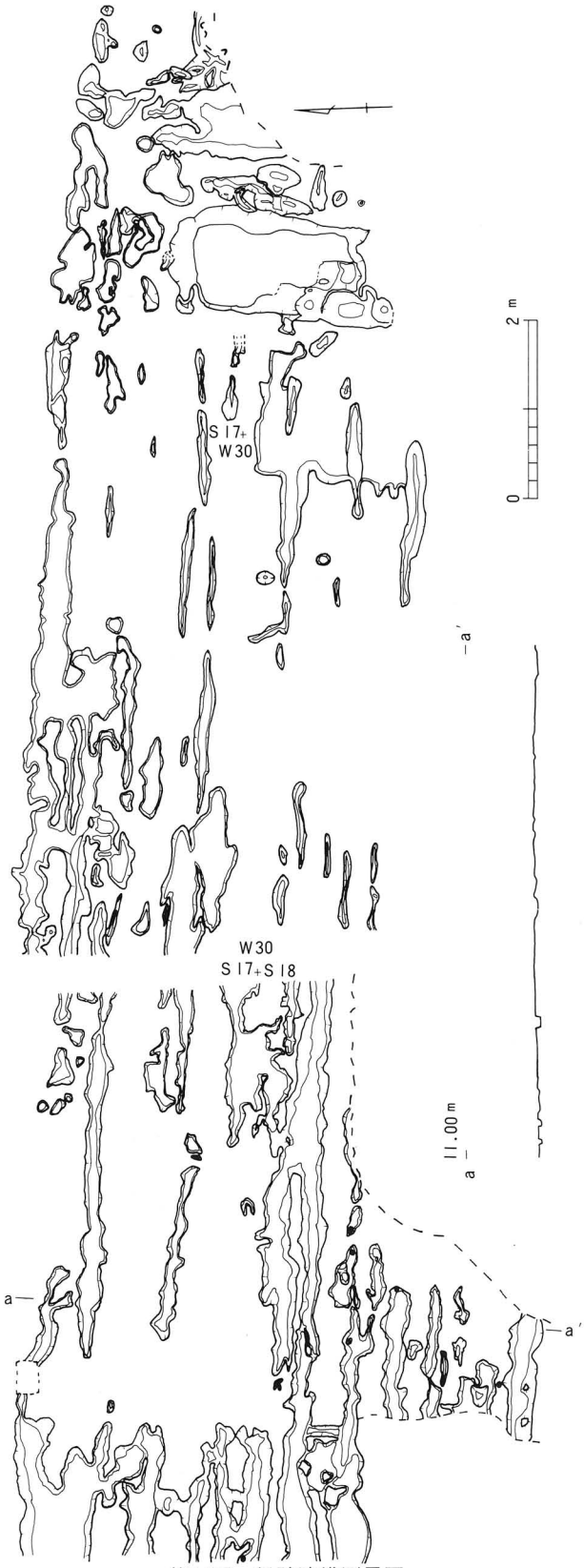
また、調査区内の第VI層（Ｓ15・16・17W27・28・29）からも、同様の砂で埋没した足跡群を確認している。



第52図　ＳＤ－３測量図



第53図　小畦畔遺構測量図



第54図　鋤跡遺構測量図

鋤跡状遺構（第54図）

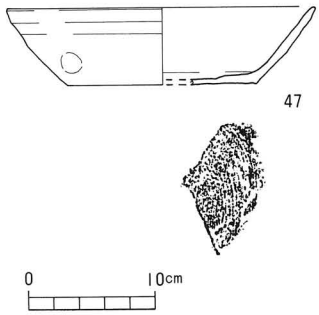
調査区の南側Ｓ17・18W29・30・31の第Ⅷ層緑灰色シルト面において検出した東西方向の小溝群である。この小溝群は、検出長約17ｍ、幅約0.1～0.28ｍ、深さ約0.02ｍを測り、鋤跡と判断した。主軸はＥ－2°－Ｓである。埋土は黒褐色粘土で第Ⅶ層と同じ土層である。出土遺物には、土師器・黒色土器などの細片があり、これら遺物は第Ⅶ層の包含遺物と同時期のものである。

各層出土遺物

第Ⅴ層出土遺物（第55・56図）

47は土師器杯である。底部から斜め方向に直に立ち上がる。口径約12.2cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りである。内外面とも撫で調整を施している。

48は北宋銭の「天禧通宝」である。銭径2.43cm、孔径0.63cm、重さ2.69ｇを測る。



第55図　第Ⅴ層出土遺物実測図

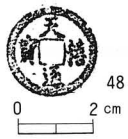
第Ⅵ層出土遺物（第57図）

第Ⅵ層は、小畦畔状遺構・足跡などを検出した土層である。

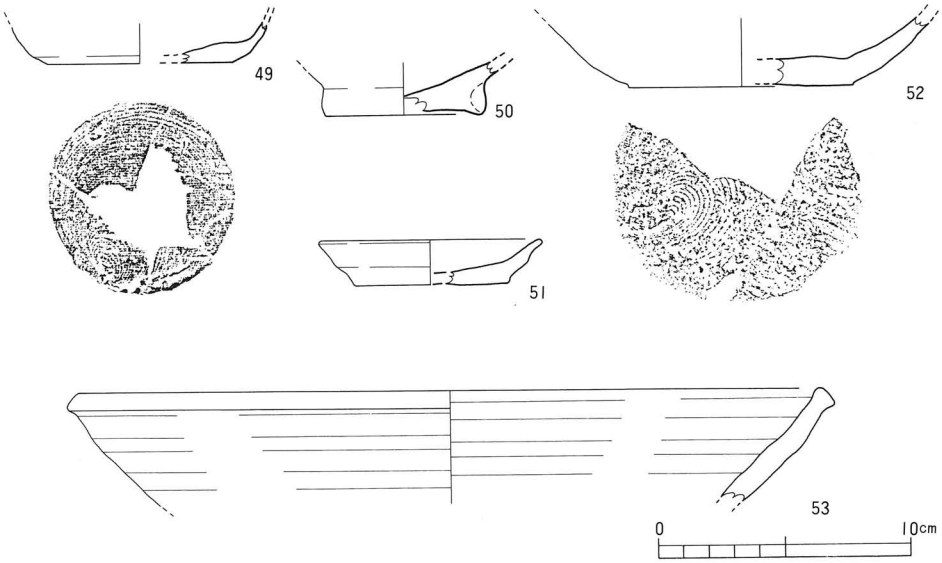
50は土師器椀の底部である。底面は摩滅のため切り離しは不明であり、円盤高台の外面に貼り付けを行い、やや輪高台状にしている。内面は撫で調整が施されている。

49は土師器杯の底部である。底面は回転糸切りで、内面は撫で調整が施されている。

51は土師器皿である。底面は回転ヘラ切りで、内外面とも撫で調整が施されている。



第56図　第Ⅴ層出土銭拓影図



第57図　第Ⅵ層出土遺物実測図

52・53は東播系こね鉢である。52は第VII層出土破片と接合した底部片である。底面に回転糸切り痕が残る。53は口縁部である。口縁断面形は四角形を呈し、内外面とも撫で調整が施されている。

第VII層出土遺物（第58～68図）

土師器椀（第58～63図、54～138）

底部から口縁にかけて残存しているのは、54のみである。54は吉備系土師器椀である。54～80は口縁部である。54～78は口縁が外反し端部を丸く仕上げているものである。この中でも、55は口縁外面に屈曲部を伴う。69は鋭く外反する口縁をもつ。65・74は外面に磨きが施され、61・69は内面に磨きが施されている。77の口縁は外反せず直に立ち上がるものである。78はやや硬質の焼きである。79・80は内弯しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。

81～138は底部である。81～133は輪高台の底部である。87は回転糸切りにより底部が円盤状高台になり、その外側に輪高台として貼り付けている特徴がある。134～138は円盤状高台または平高台のもので、134・135は底面回転糸切りである。138はやや硬質の焼きで底面は糸切りである。

出土した土師器椀の底部の中で特に輪高台の椀について簡単な分類をおこなう。

I群：底面の切り離しが糸切りのもの

II群：底面の切り離しがヘラ切りのもの

これら輪高台の断面形態からも、四角形（A群）と三角形（B群）に大別できる。また、高台の張り出し方から外方向のもの（1群）と他（2群）に大別でき、分類してみる。

これら輪高台の底部の一部には内面に磨きが残るものもあるが、大部分が摩滅しているため、調整方法による分類は不可能である。

I－A－a群……81・82・83・84・85・86

I－A－b群……87・88・89・90

I－B－a群……91・92・93・94・95・96

I－B－b群……97・98・99・100

II－A－a群……101・102

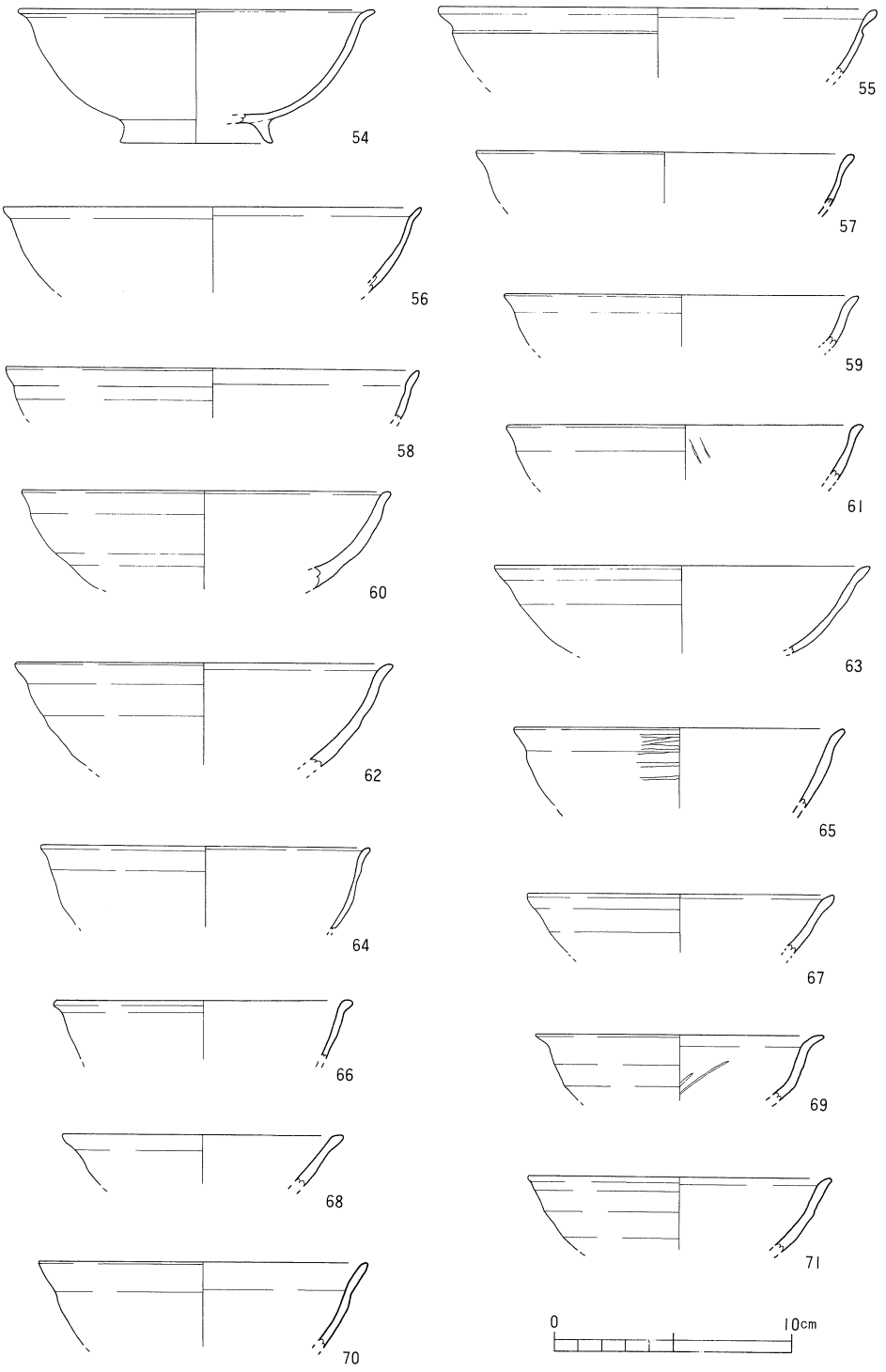
II－B－a群……103・104・105

106～133は底面の切り離しが不明なものであるが、これらの中でも前述のA・B群とa・b群に分類できる。ただし、106・107・108は内面の調整で刷毛目の後に磨きが施されているため、調整方法として一つの群を形成するものとして別にする。

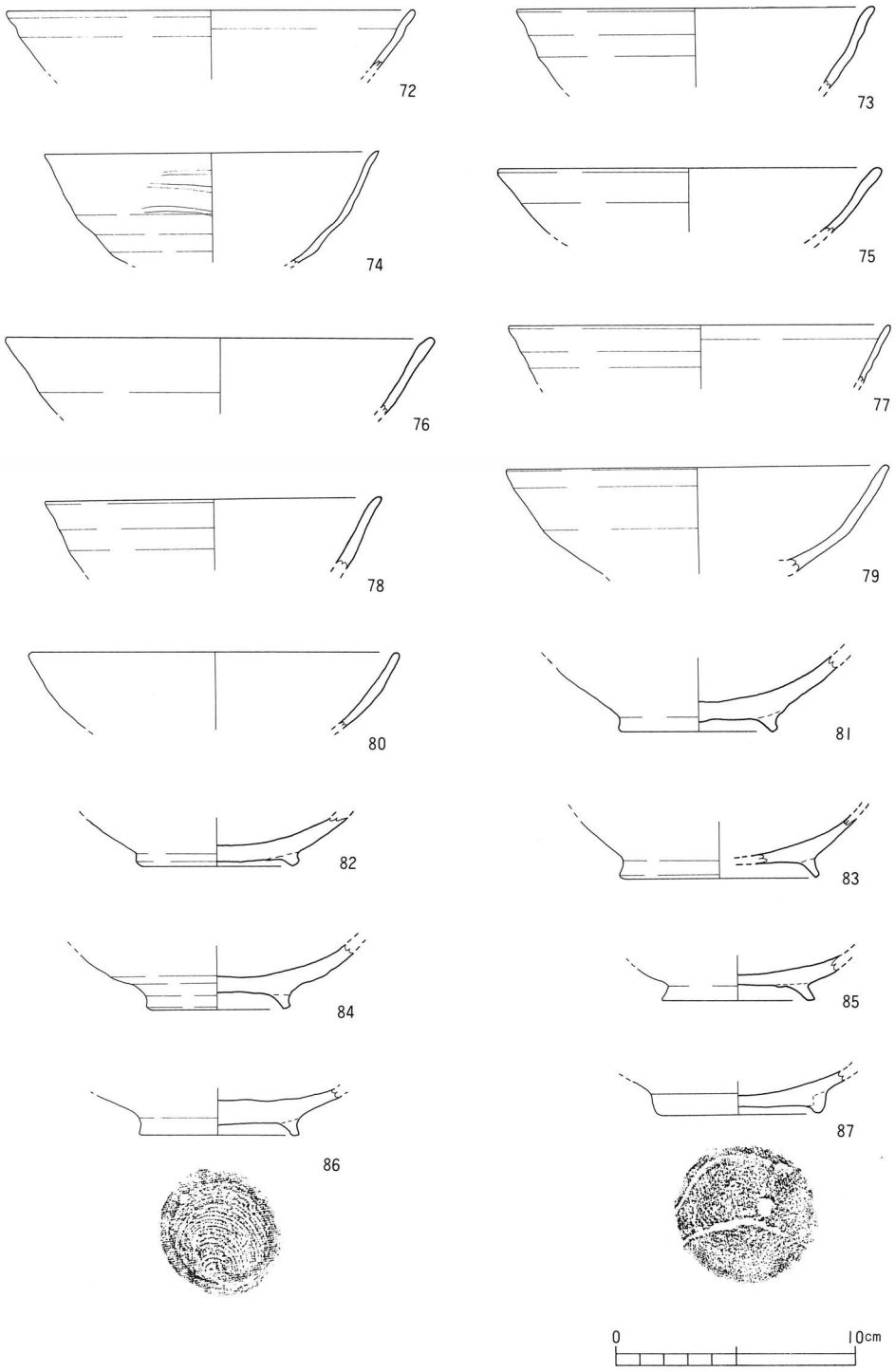
A－a群……109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・120・122

A－b群……119・121・123・124・125

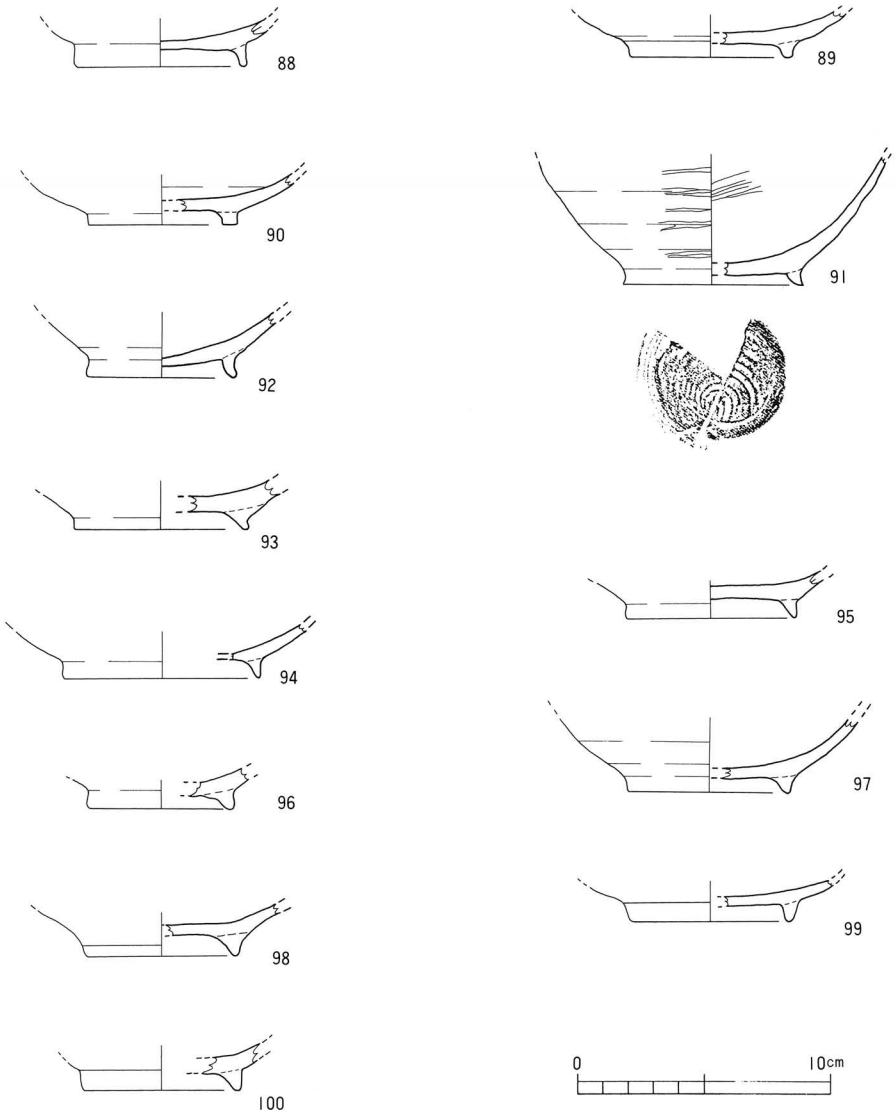
B－a群……126・127・128・129・130・131・132・133



第58図　第VII層出土遺物実測図（1）



第59図　第Ⅶ層出土遺物実測図（2）



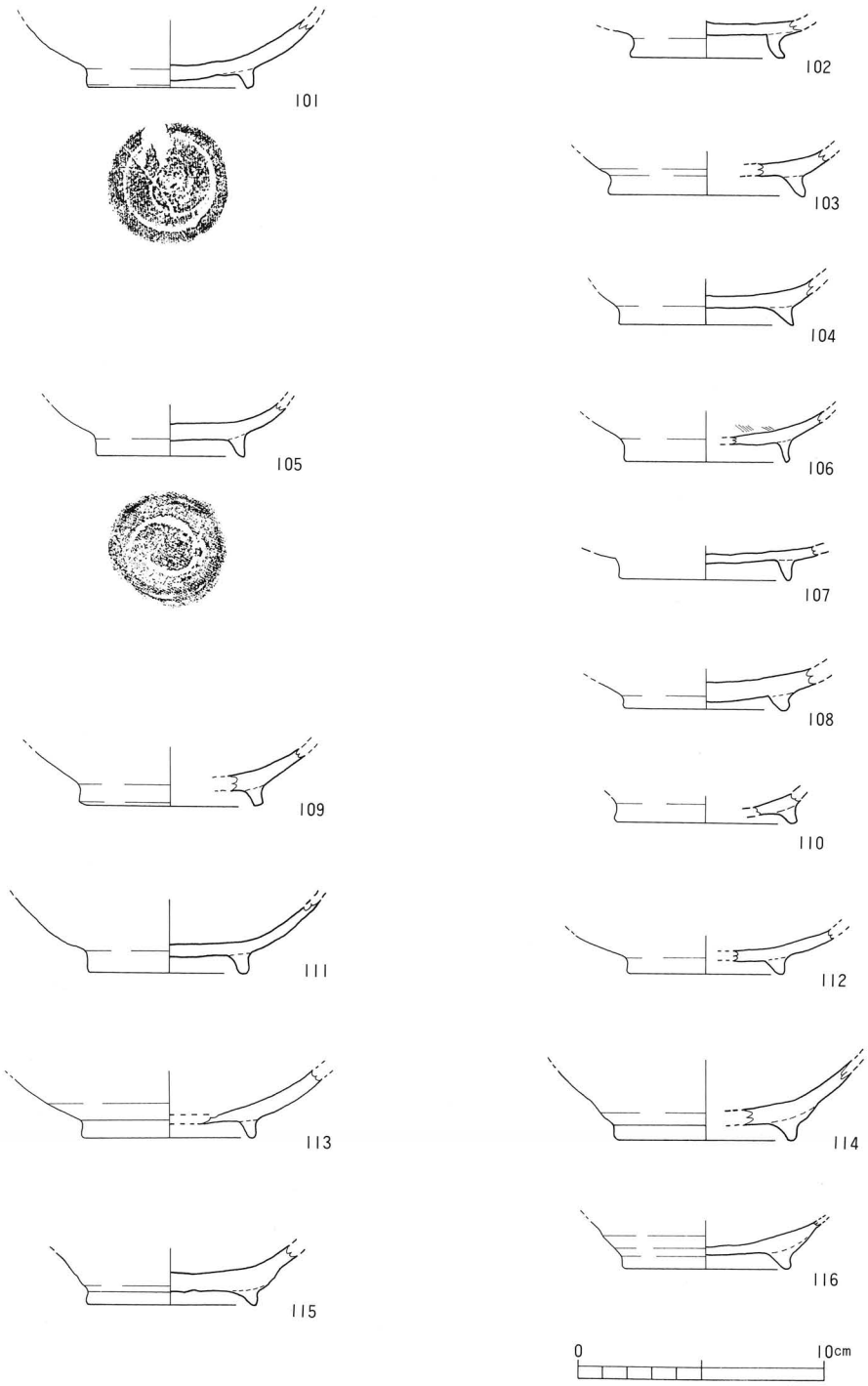
第60図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (3)

土師器杯（第63図、139～149）

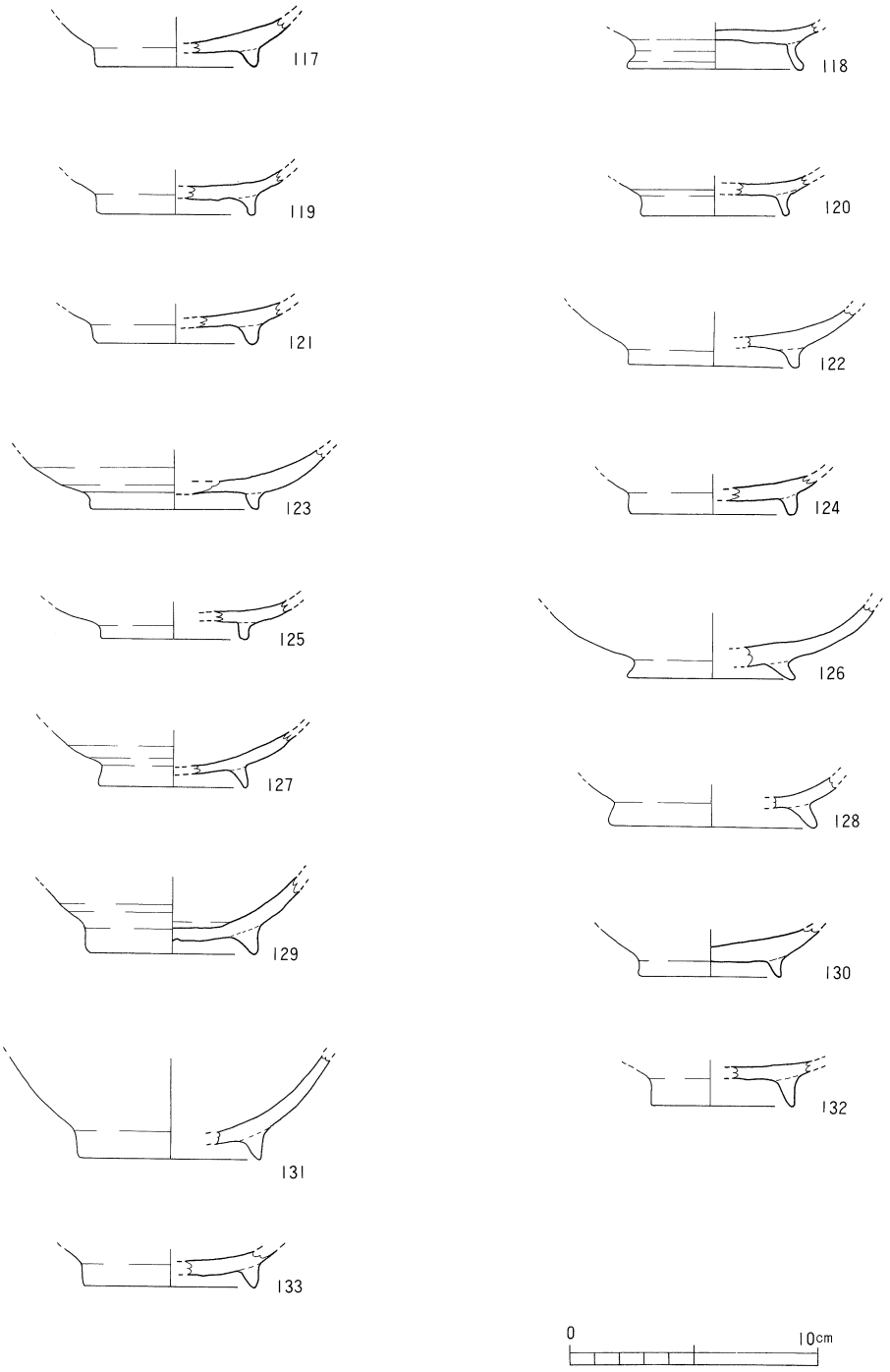
139・140・141は底部から口縁にかけて残存しているもので、139・140の底面は回転ヘラ切りで、141は摩滅のため不明である。140は完形品である。

142・143・144・145は口縁部である。146～149は底部である。146～149の底面はすべて回転ヘラ切りである。

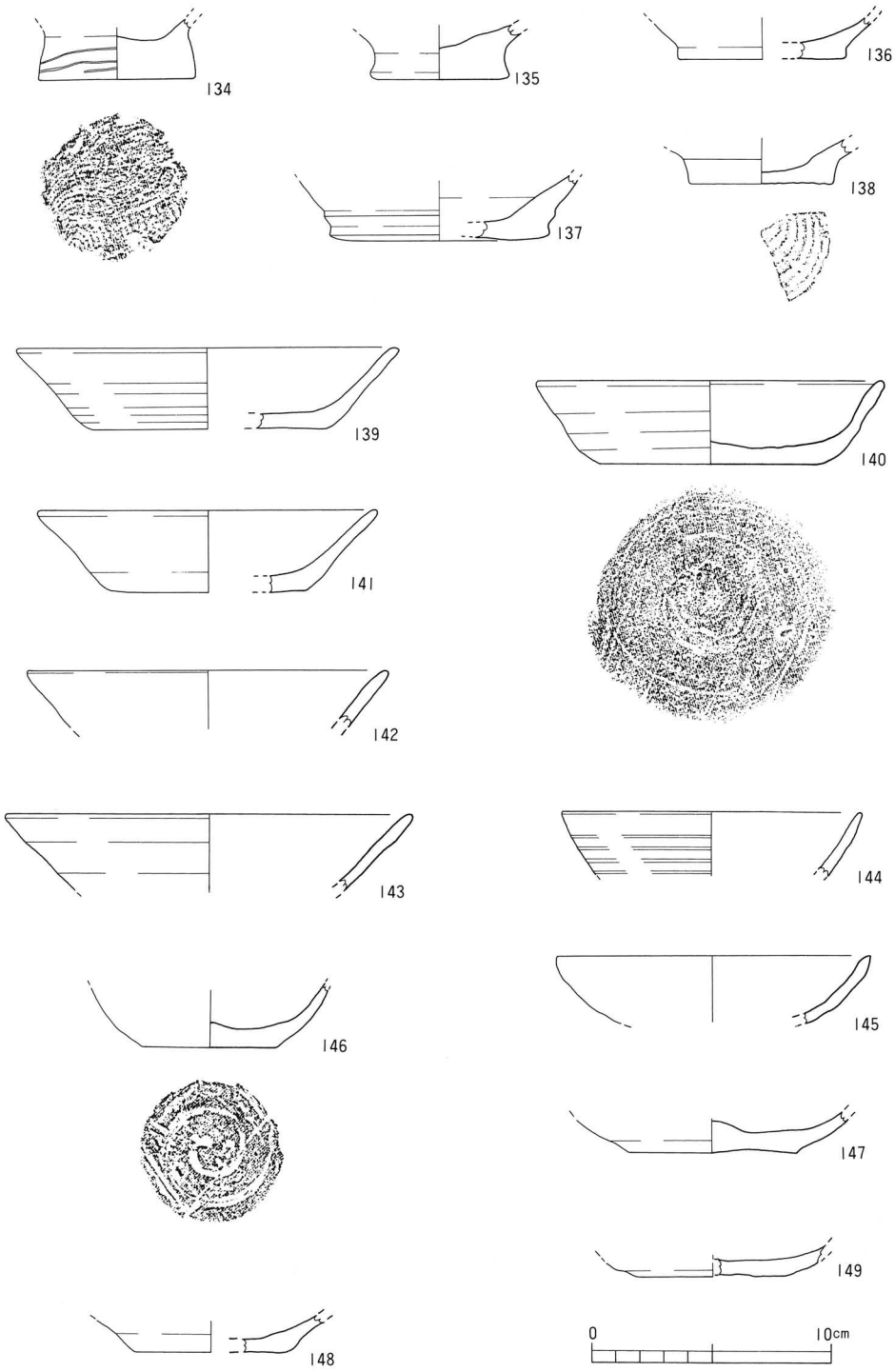
145は手づくね成形によるものと考えられる。



第61図　第Ⅶ層出土遺物実測図（4）



第62図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (5)



第63図　第Ⅶ層出土遺物実測図 (6)

土師器皿（第64図）

150～160は、底面がヘラ切りによるものである。

161～164は、底面が糸切りによるものである。

165～168は底部に指頭痕がみられ、手づくねである。

169～173は摩滅のため底面の切り離しなどは不明である。

174～181は口縁部が「て」の字状を呈する皿である(1)。

黒色土器椀（第65図、182～193）

182・183・184は口縁部で、口縁部は外反している。184は口縁内面に１条の沈線が巡る。

185～193は底部で、全て貼り付け輪高台である。189は内面に磨きが施されている。

瓦器椀（第65・66図、194～215）

194・195は楠葉型瓦器椀の口縁部である。口縁部内面に１条の沈線が巡り、内外面ともに幅の細い磨きが施されている。楠葉型瓦器の編年(2)では、Ⅰ－２期にあたる。

196～206は和泉型瓦器椀の口縁部である。内外面ともに磨きが施されている。これらは和泉型瓦器の編年(3)では、Ⅱ－２・３期にあたる。

207～213は底部で、全て貼り付け高台である。

瓦器皿（第66図、214・215）

214は口径5.9cmを測り、内面に磨きが施されている。

土烙（第67図、216）

216は土師質の土烙の蓋と思われる口縁部である。

土鍋（第67・68図、217～222）

217～222は土師質の土鍋の口縁部で、頸部から口縁にかけて外傾している。内外面とも刷毛目調整が施されている。217の口縁はやや内弯気味に外傾し、222の口縁は平坦に近く外傾している。

瓦質甕（第68図、223）

223は甕の口縁部である。外面に横方向の刷毛目が施されている。

須恵器椀・皿（第68図、224・225・226）

224・225はともに輪高台の椀底部である。224は貼り付け高台である。

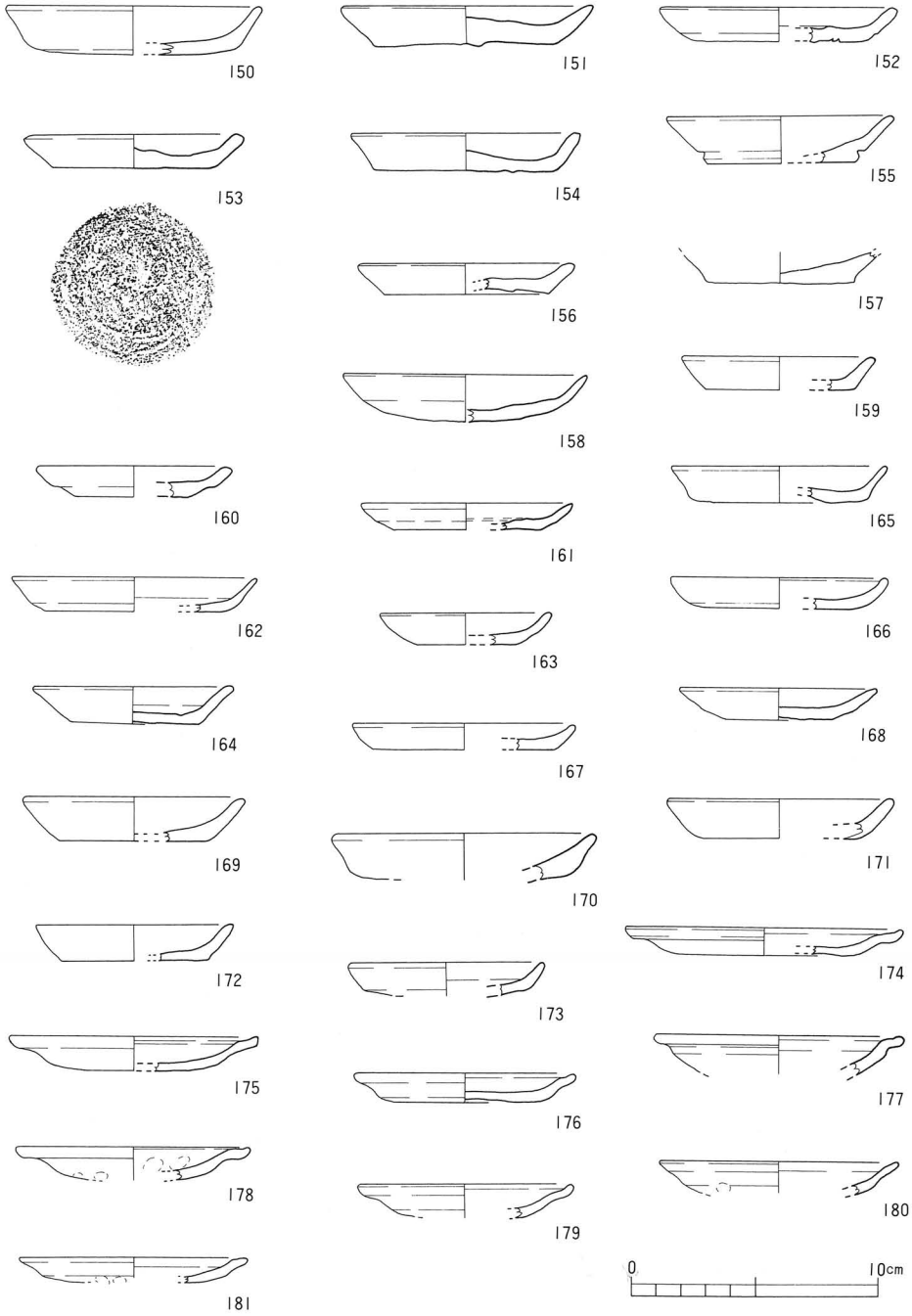
226は底面が回転糸切りされている皿である。

須恵器鉢（第68図、227）

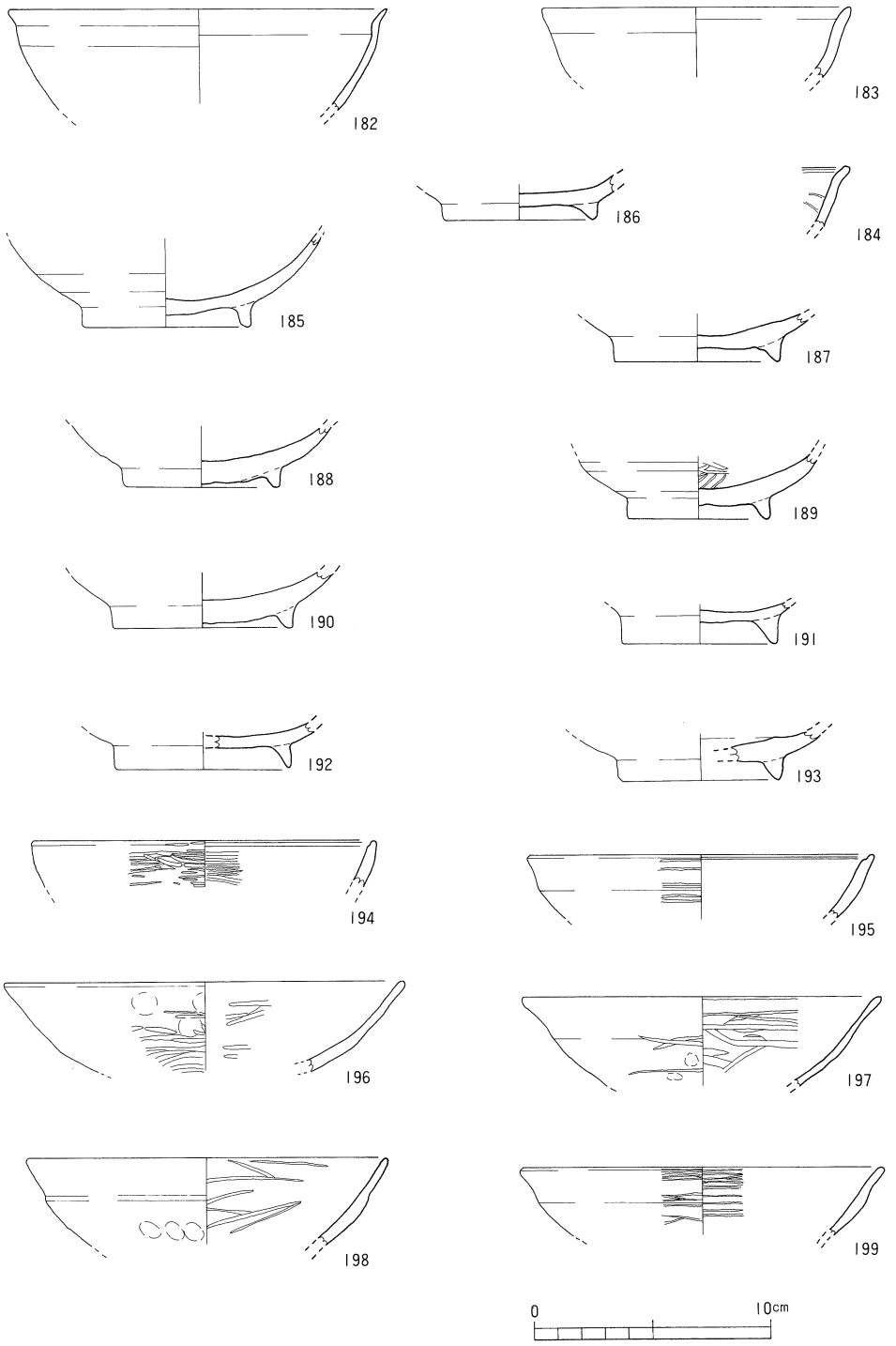
227は鉢の底部である。色調は灰白色を呈する。底面にかすかな擦痕が見られる。篠窯系と思われるが断定できない。搬入品であろう。

須恵器壺（第68図、228）

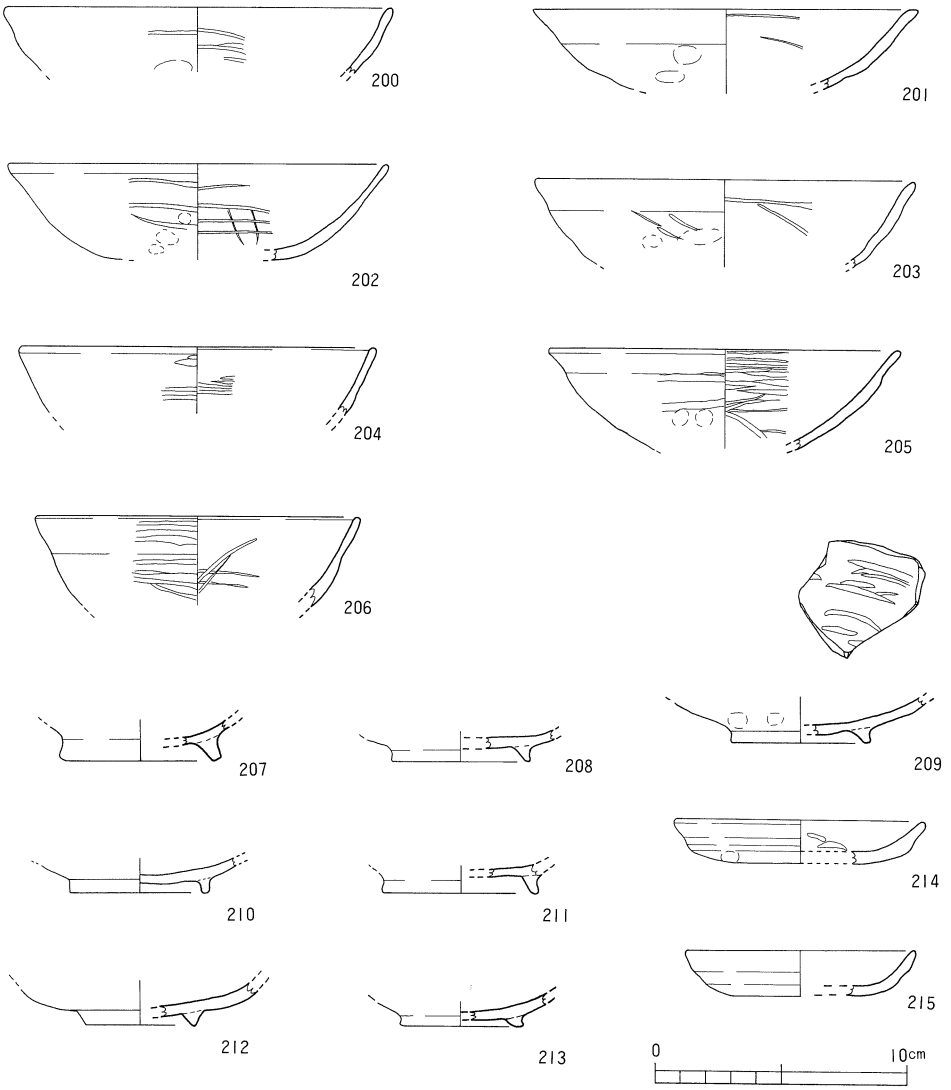
228は壺の口縁部である。口縁端部を内側に折り曲げ肥厚させている。内外面とも撫で調整が施されている。



第64図　第VII層出土遺物実測図（7）



第65図　第VII層出土遺物実測図 (8)

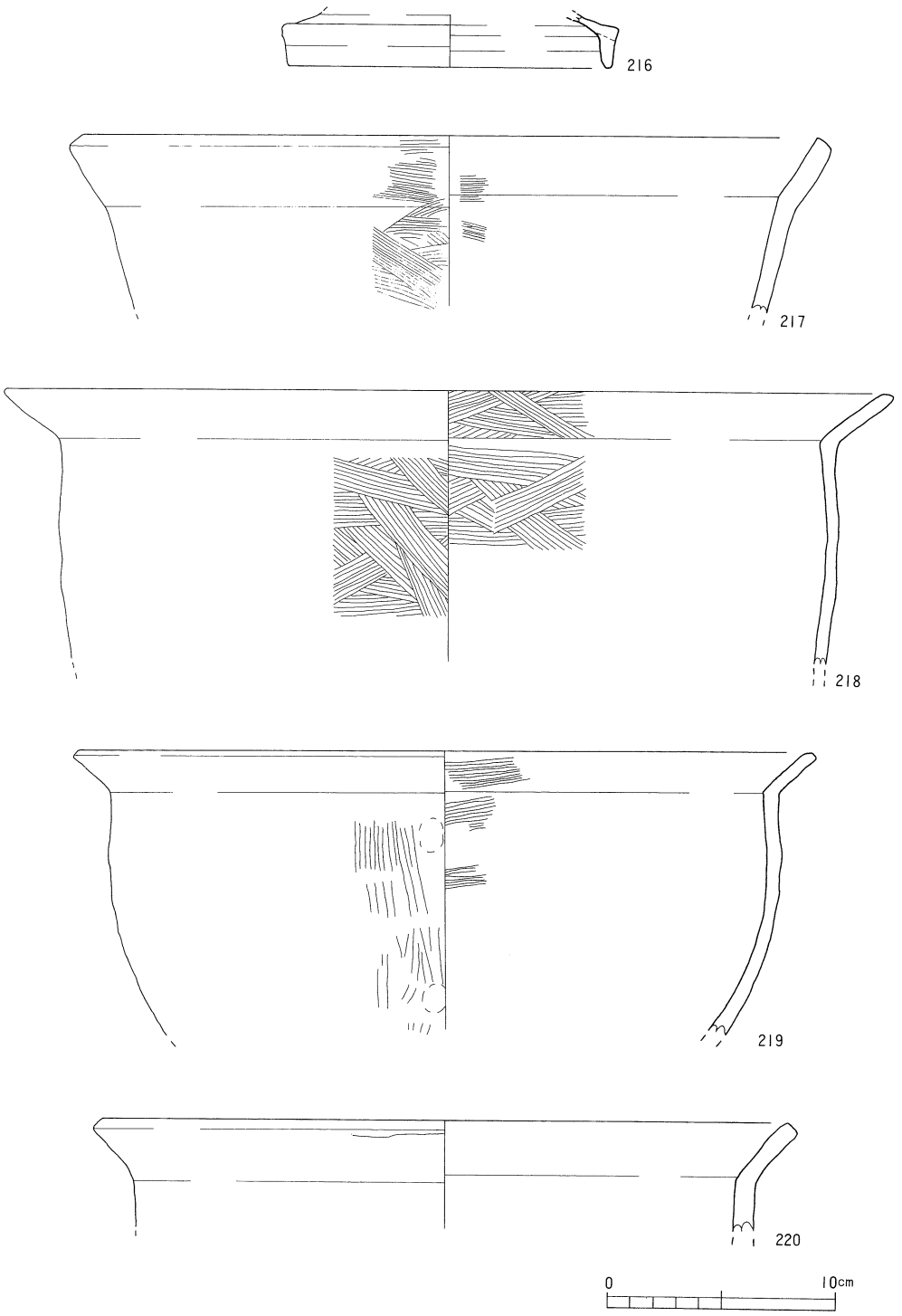


第66図　第VII層出土遺物実測図 (9)

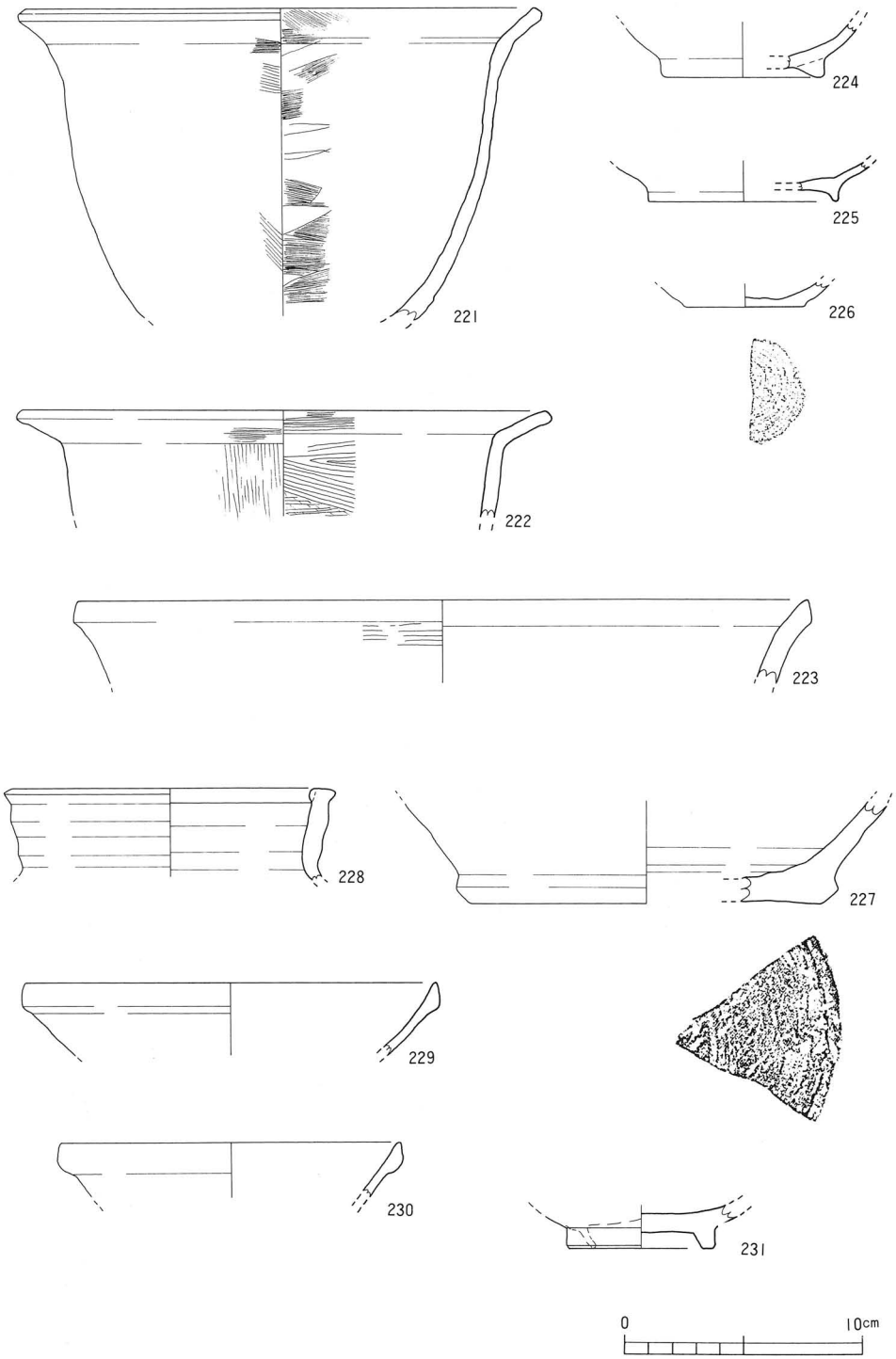
白磁碗（第68図、229・230・231）

229・230は玉縁状の口縁部をもつ碗である。231は底部で削り出し高台である。高台部に釉はかかっていない。いずれも白磁碗IV類にあたる(4)。

その他の出土遺物には、図示したもののほか桃核片・獣骨片などがある。



第67図　第VII層出土遺物実測図 (10)



第68図　第VII層出土遺物実測図 (II)

4　工事立会調査

平成４年５月28日と同年６月１日、工事掘削中に立会調査を行う。

結果、標高約8.0ｍにおいて層厚約50～80㎝を測る緑灰色シルト層を工事壁面の四方で水平面として確認した。このシルト層の一部を採取してプラント・オパール分析を行う。結果は分析編Ⅶ－６に掲載している。

緑灰色シルト層の上下には厚く砂礫層が堆積していた。この緑灰色シルト層は、第６次下層調査で検出された緑灰色粘土、また、第１・２次調査の「井堰」基底層の青灰色粘土と同一層であると考えられる（土色の違いは地下水の影響による）。

この緑灰色シルト層は、弥生時代末までに形成された自然堤防である(5)。

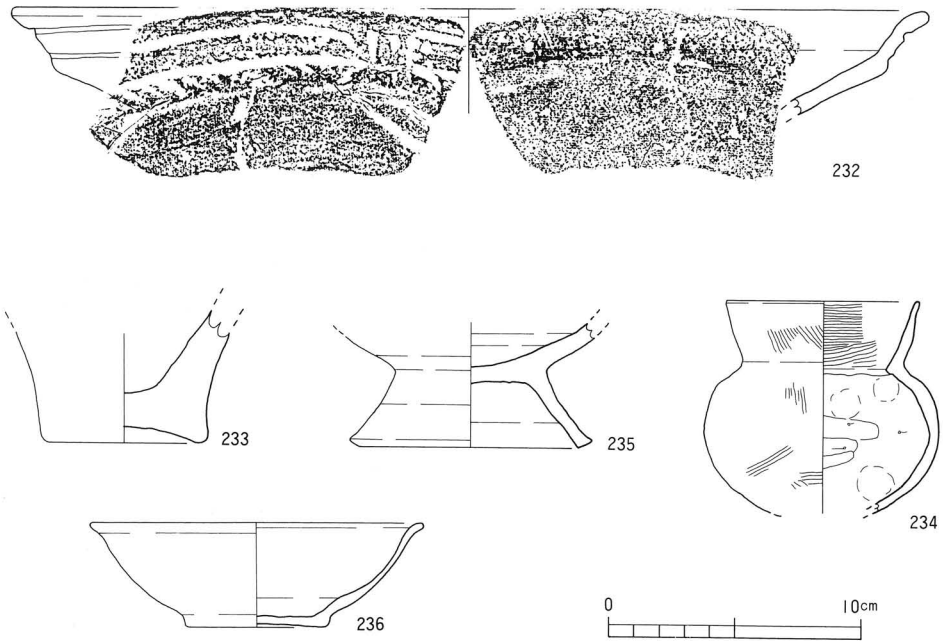
第３堰の南西部は、自然堤防が連続していた地形と解釈できる。

工事立会調査出土遺物（第69図）

図化した遺物は、前述の緑灰色シルト層より上位の砂礫層、標高約10.0ｍから採集した遺物である。

232は縄文式土器の浅鉢の口縁部である。口縁外面には沈線による方形の区画をもち擬縄文が残る。後期前半に属すると思われる。

233は弥生式土器の甕の底部である。上げ底を呈し、底部内面には指頭痕が見られる。中期前半と思われる。



第69図　下層立会調査出土遺物実測図

234は小型壺である。内外面に刷毛目が残り、体部内面には指頭痕と横方向の削りが見られる。古墳時代中期後半頃と思われる。

235は須恵器の台杯椀の高台部である。「八」の字状に断面四角形の細長い高台をもつ。高台高3cmを測る。古墳時代後期のものと考えられる。

236は須恵器椀である。円盤高台の椀で、底部から内弯しながら立ち上がり、口縁部を外反させて端部を丸く仕上げている。底面の切り離しは不明である。内面には火だすきが残る。器壁は薄く、搬入品の可能性がある。

［註］

(1)（財）京都市埋蔵文化財研究所の小森俊寛・百瀬正恒・吉村正親の三氏から大阪の淀川流域の「て」の字口縁土師器皿ではないかとご教示頂いた。

(2)橋本久和：「高槻における中世土器の編年」『上牧遺跡発掘調査報告書』高槻市教育委員会、1980

(3)尾上実：「南河内の瓦器椀」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』（1983）並びに、森島康雄：「畿内産瓦器椀の併行関係と暦年代」『大和の中世土器 II －大和型瓦器椀とその周辺－』（1992）

(4)森田勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集 4』、1978

(5)古照遺跡第8・9次の調査結果から考察されている。第8・9次調査の概報は『松山市埋蔵文化財調査年報 V』（1993）に掲載している。

Ⅳ　Ｂ地区の概要

1　調査の経過

Ｂ地区は、第６次調査地の西側隣接地である。工事対象は南北約26ｍ、東西約19ｍ、面積約494㎡である。

調査区グリットは、Ｎ７～11W31～34の範囲に入る。

平成４年１月６日、調査地の東半分を工事用道路として残し、西半分について遺物包含層まで重機によって掘削を南側から始める。

同年１月７日、包含層を掘り下げ、遺物測量を開始する。

同年１月８日、掘削が終了し、グリット杭打ちを行う。北壁を精査、土層図を作成する。

同年１月９日、ＳＰ・ＳＫなどの遺構を検出する。また、土師器皿などが数枚重なる集積遺構を三カ所で検出する。

同年１月13日、西壁を精査し土層図を作成する。

同年１月29日、検出遺構の測量を開始する。土砂走行車及びベルトコンベアを調査区に入れて土砂を調査区外へ搬出し、遺構精査を行う。

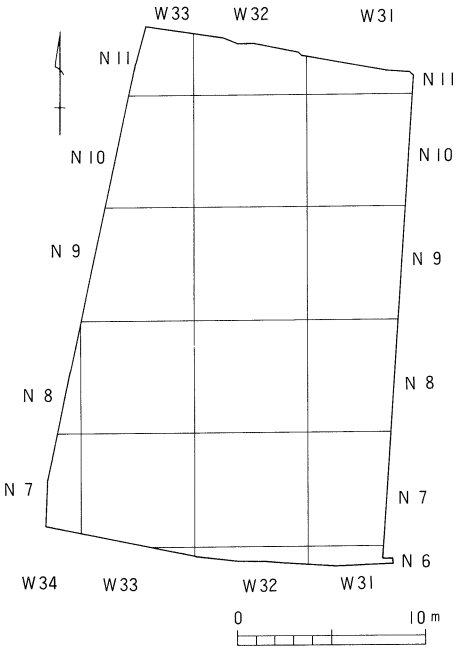
同年２月25日、調査区東半分（工事用道路）の掘削を南側から開始する。グリット杭打ちを行う。南壁と北壁を精査し土層図を作成する。

同年２月26日、重機による掘削が終了する。Ｎ８・９W32に多量の土器が集積しているため、６ｍグリットを更に50㎝区画に細区分して測量を行いながら、取り上げていく。

同年３月17～27日までの間、例年になく降雨が多く、雨の中での測量作業を行う。

同年３月31日、調査区の屋外調査を終了する。調査実施面積は約460㎡である。

同年８月６・７日、工事掘削に伴い下層の立会調査を行う。工事掘削深さの標高約9.60ｍまでの間は、砂礫層が厚く堆積していた。工事用排水ポンプ設置のために一部を掘り下げた結果、標高約9.40ｍで黒褐色粘土を検出した。この黒褐色粘土は第６次下層調査で検出された粘土層と思われ、西方への広がりが確認できた。



第70図　Ｂ地区グリット設定図

2　土層

調査区は、標高約12.80～12.90ｍに立地する。調査区の約２/３は、造成以前に旧耕作土の掘削・搬出が行われている。その行為は包含層あるいは遺構検出面までにも及んでいる。

調査区の土層図は、基本的に第Ⅰ～Ⅷ層に分層できる。

第Ⅰ層は現代造成土及び攪乱層である。土層図では第Ⅰ層を割愛した。西壁では第Ⅰ層が第Ⅵ層まで及んでいる。

第Ⅱ層は造成前の旧耕作土である。この第Ⅱ層は南壁の東側一部でしか残っていない。

第Ⅲ層は、青灰色（５ＢＧ５/１）粘土で層厚約10cm前後を測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅳ層は、オリーブ黄色（7.5Ｙ６/１）粘土で層厚約５～10cmを測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅴ層は、緑灰色（５Ｇ５/１）粘土～シルトで層厚約10～20cmを測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

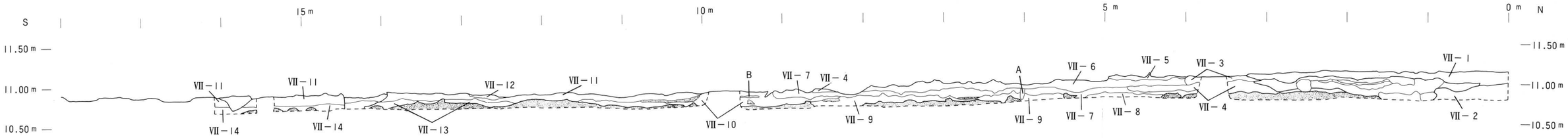
第Ⅵ層は遺物包含層で、３層に分かれる。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅵ－１層は西側で黄灰色（2.5Ｙ４/１）粘土～シルト、第Ⅴ－２層は黒褐色（2.5Ｙ３/１）粘土～シルトで、これらの二層に多量の土器が包含されている。特に第Ⅵ－２層の約10ｍ地点の落ち込み（遺構？）から瓦器椀１点、手づくね土師器杯・皿各１点ずつが重なって出土している。

第Ⅵ－３層は暗緑灰色（10ＧＹ４/１）シルトであり、西から約8.9～15ｍの間で第Ⅵ－２層の直上に堆積している。第Ⅵ－３'層の砂質土が第Ⅴ層と第Ⅵ－３層との間で部分的に見られる。第Ⅵ－３層からは土器が若干出土している。

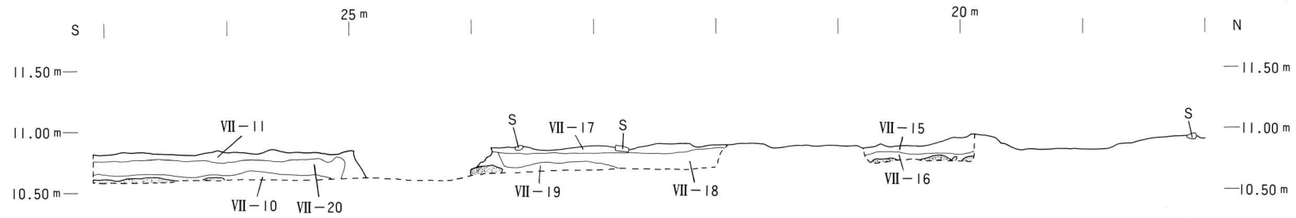
第Ⅶ層上面からＳＰ・ＳＫ・ＳＤなどの遺構を検出している。この第Ⅶ層は約22の土層に細分している（第71図の土層図において、土層番号のないものは遺構内埋土である）。

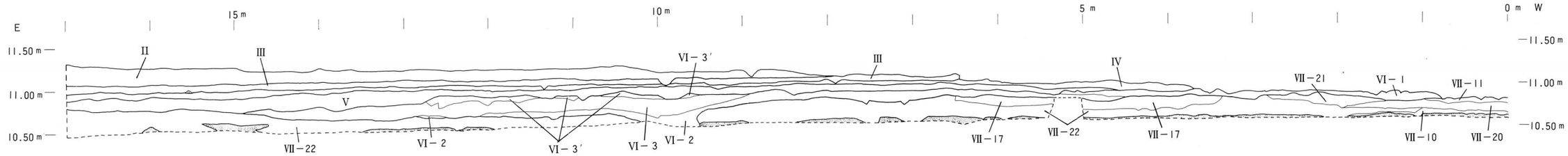
第Ⅷ層は、第Ⅶ層下の細砂層であり、浅黄色（2.5Ｙ７/４）、灰白色（５Ｙ７/１）、灰色（Ｎ６/　）などである（土層図では点描にしている）。



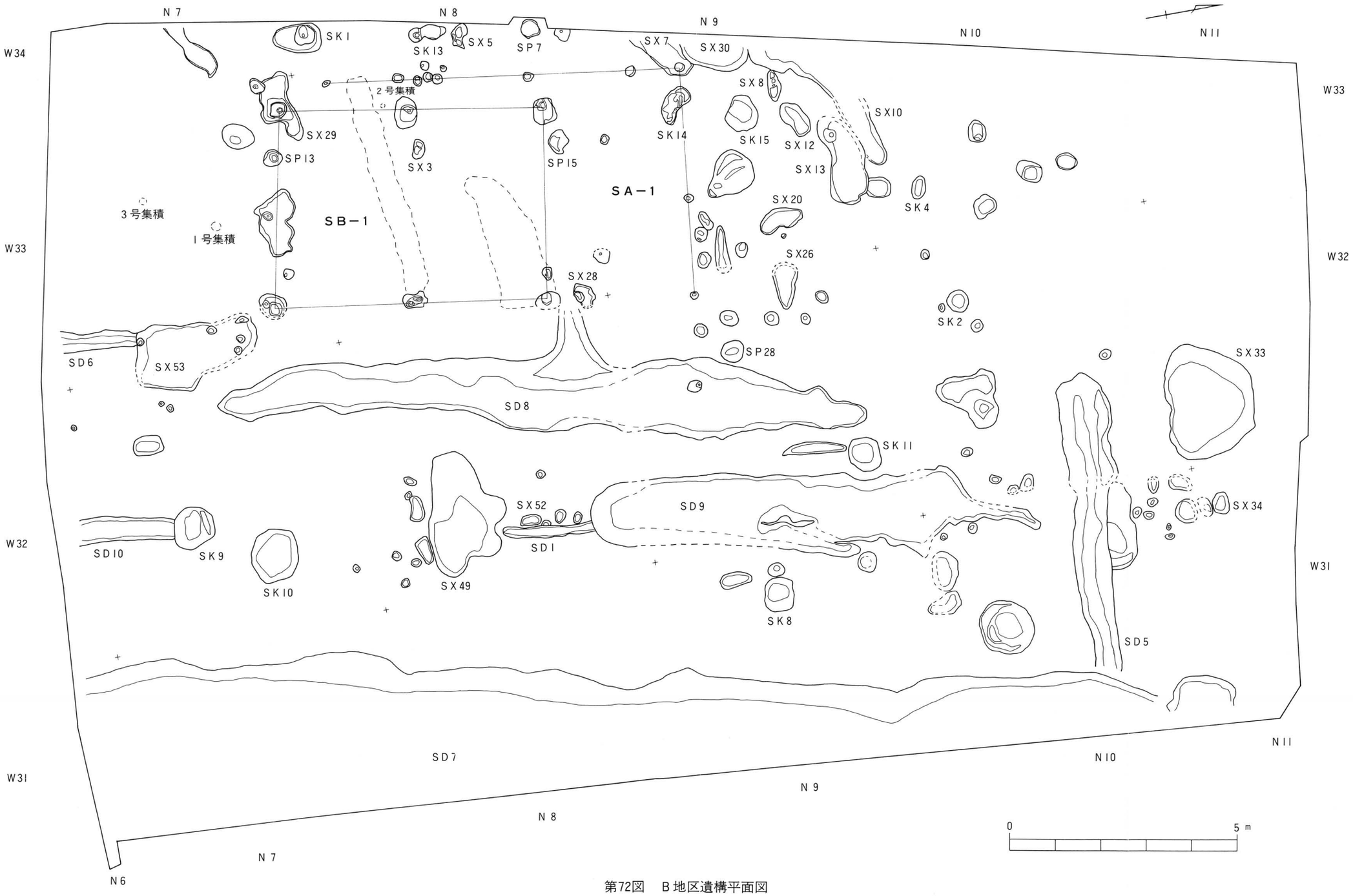
土層説明

第II層：現代耕作土
第III層：青灰色粘土(5BG5/1)
第IV層：オリーブ黄色粘土(7.5Y6/1)
第V層：緑灰色粘土～シルト(5G5/1)
第VI－1層：黄灰色粘土～シルト(2.5Y4/1)
第VI－2層：黒褐色粘土～シルト(2.5Y3/1)
第VI－3層：暗緑灰色シルト(10GY4/1)
第VI－3′層：暗緑灰色砂質土(10GY4/1)
第VII－1層：暗緑灰色粘土(7.5GY4/1)、土器多含
第VII－2層：黄褐色粘土～シルト(10YR5/6)、明褐色(7.5YR5/6) 斑点あり
第VII－3層：灰オリーブ色粘土(7.5Y5/3)
第VII－4層：暗青灰色粘土～シルト(10BG4/1)
第VII－5層：黄灰色粘土(2.5Y4/1)
第VII－6層：暗灰黄色粘土～シルト(2.5Y4/2)
第VII－7層：浅黄色シルト(2.5Y7/3)
第VII－8層：青灰色砂質土(5BG5/1)
第VII－9層：緑灰色シルト(7.5Y5/1)
第VII－10層：緑灰色シルト(10GY5/1)
第VII－11層：緑灰色粘土～シルト(10GY6/1)
第VII－12層：青灰色粘土(10BG5/1)
第VII－13層：緑灰色砂質土(10G5/1)
第VII－14層：暗青灰色粘土(5BG4/1)
第VII－15層：緑灰色シルト(10G6/1)
第VII－16層：浅黄色粘土(5Y7/4)
第VII－17層：暗緑灰色シルト(10G4/1)、明褐色斑点あり
第VII－18層：黄褐色シルト(2.5Y5/3)、暈管状斑紋あり
第VII－19層：灰色砂質土(10Y6/1)
第VII－20層：黄灰色粘土～シルト(2.5Y5/1)、暈管状斑紋あり
第VII－21層：灰黄褐色粘土～シルト(10YR4/1)
第VII－22層：暗緑灰色粘土～シルト(10GY3/1)、明褐色斑点あり
第A層：黄灰色粘土～シルト(2.5Y4/1)
第B層：黒褐色粘土(2.5Y3/1)
＊点描は砂等の堆積である。また、遺構の土色等は付記していない。
＊Sは石である。





第71図　B地区西壁・南壁土層図



第72図　B地区遺構平面図

2　遺構・遺物

遺構は、第Ⅴ層上面より検出された。掘立柱建物跡１棟、柵列遺構２条、土坑状遺構16基、溝状遺構10条、柱穴状遺構33基、性格不明遺構58基、土器集積遺構３基である。
以下、主要な遺構について説明する。

掘立柱建物

調査区の西側において１棟検出した。

ＳＢ－１（第73・74図）

Ｎ７・８Ｗ33に位置する１間×３間の南北棟の建物である。棟方向はＮ－11°－Ｗを測る。規模は梁行約4.2～4.4ｍ、桁行約5.7～6.0ｍを測り、床面積は約25.8㎡である。いずれの柱穴に柱痕跡は認められなかった。Ｐ３は、ＳＸ－29の床面から検出した。

柱穴から出土した遺物には、図示できなかったものに土鍋、瓦質甕、常滑焼、須恵器、青磁の破片や木炭、鉄滓などがある。

ＳＢ－１出土遺物（第75・76図）

237～243はＰ１出土である。237・238・239は土師器杯で、いずれも底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。237は口径11.8㎝、器高3.3㎝、238は口径12.1㎝、器高2.9㎝、239は口径14.6㎝、器高3.3㎝を測る。これら杯の口縁部は、237はやや内傾、238はやや外傾、239はやや内傾する体部からそのまま口縁端部にいたる。

240～243は土師器皿で、これらの底面も全て回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径7.6～8.8㎝、器高1.2～1.5㎝を測る。240・243はやや内傾する体部のもので、241・242は底部から斜め方向に立ち上がるものである。

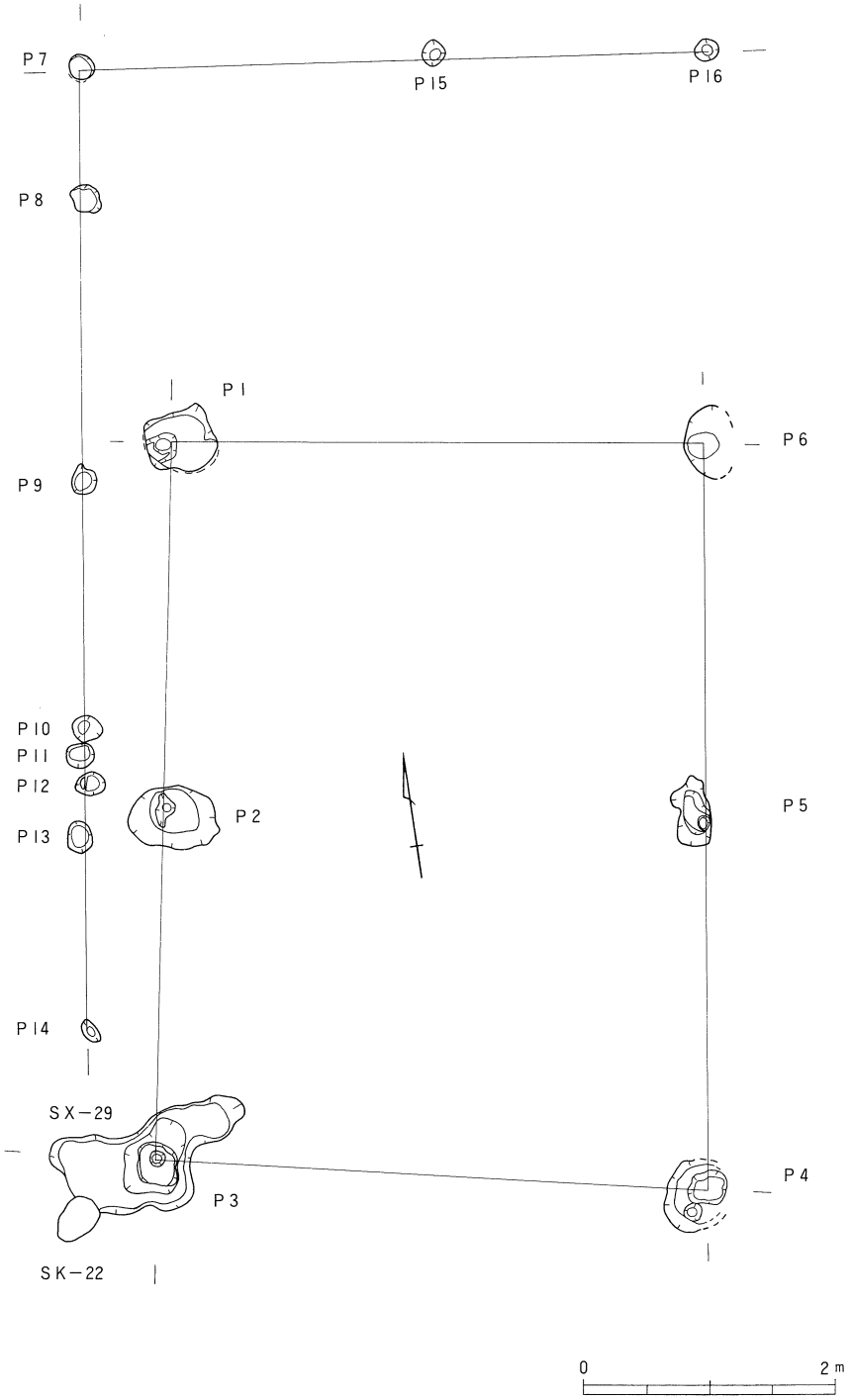
244～247はＰ２出土である。244は土師器椀で口径10.0㎝、器高3.4㎝、高台径4.4㎝を測る。全体に摩滅しているため調整は不明。断面逆台形状の高台がつく。

245・246は土師器杯である。245はやや肥厚する口縁部である。全体に摩滅している。口径12.0㎝を測る。246の底面は回転糸切りで、外面には横撫でによる稜がみられる。口径9.2㎝、器高3.3㎝を測る。

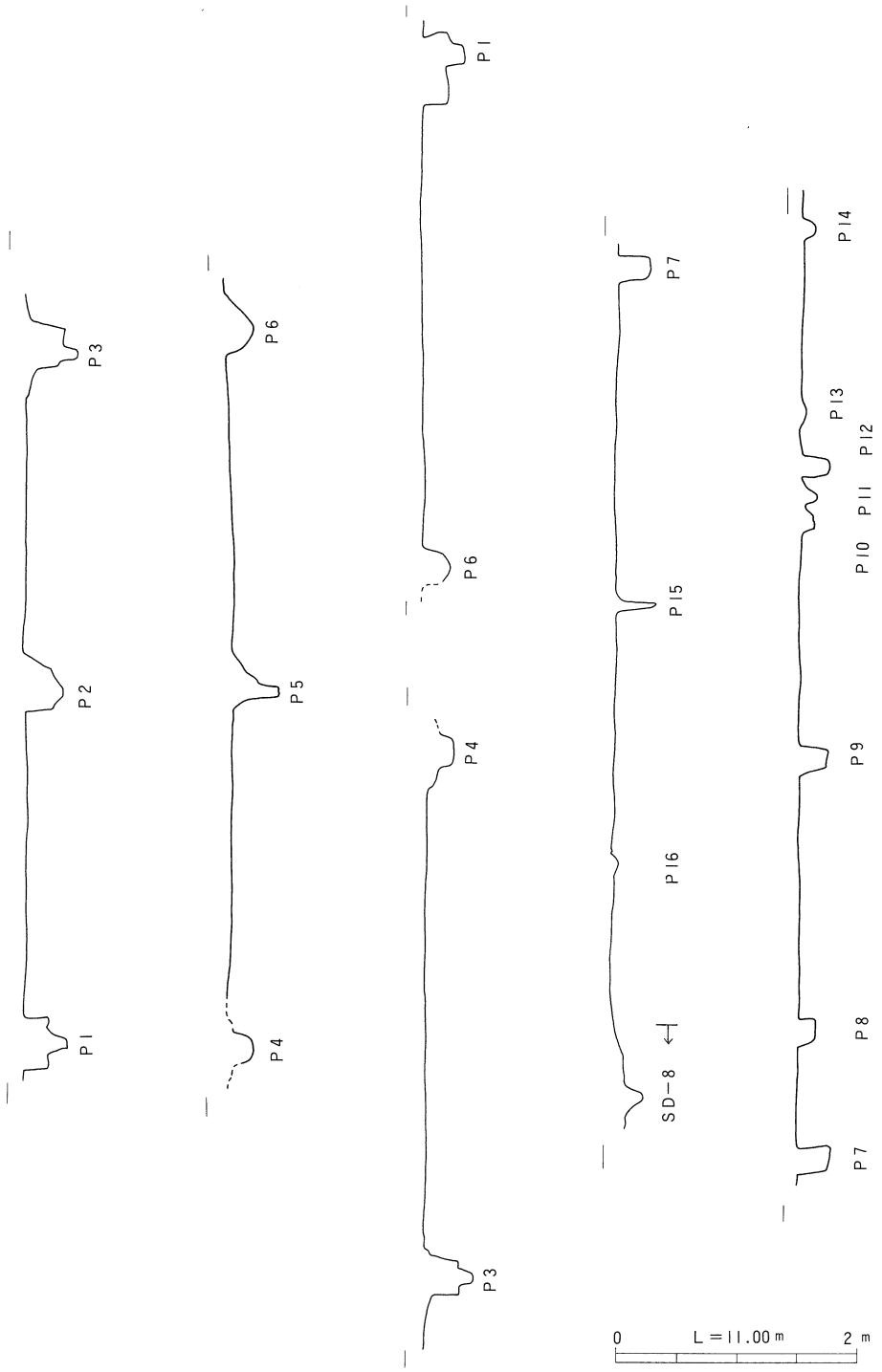
247は土師質の土釜である。内傾する口縁部をもち端部を丸く仕上げている。口縁部やや下がった位置にやや丸みのある断面三角形の凸帯が貼り付けられている。体部外面はやや煤けている。

248はＰ３出土の東播系こね鉢の口縁部である。口縁部は丸みのある四角形を呈し、内外面とも横撫で調整が施されている。口径26.2㎝を測る。この破片は、ＳＫ－15出土破片と接合した（第99図にも掲載）。

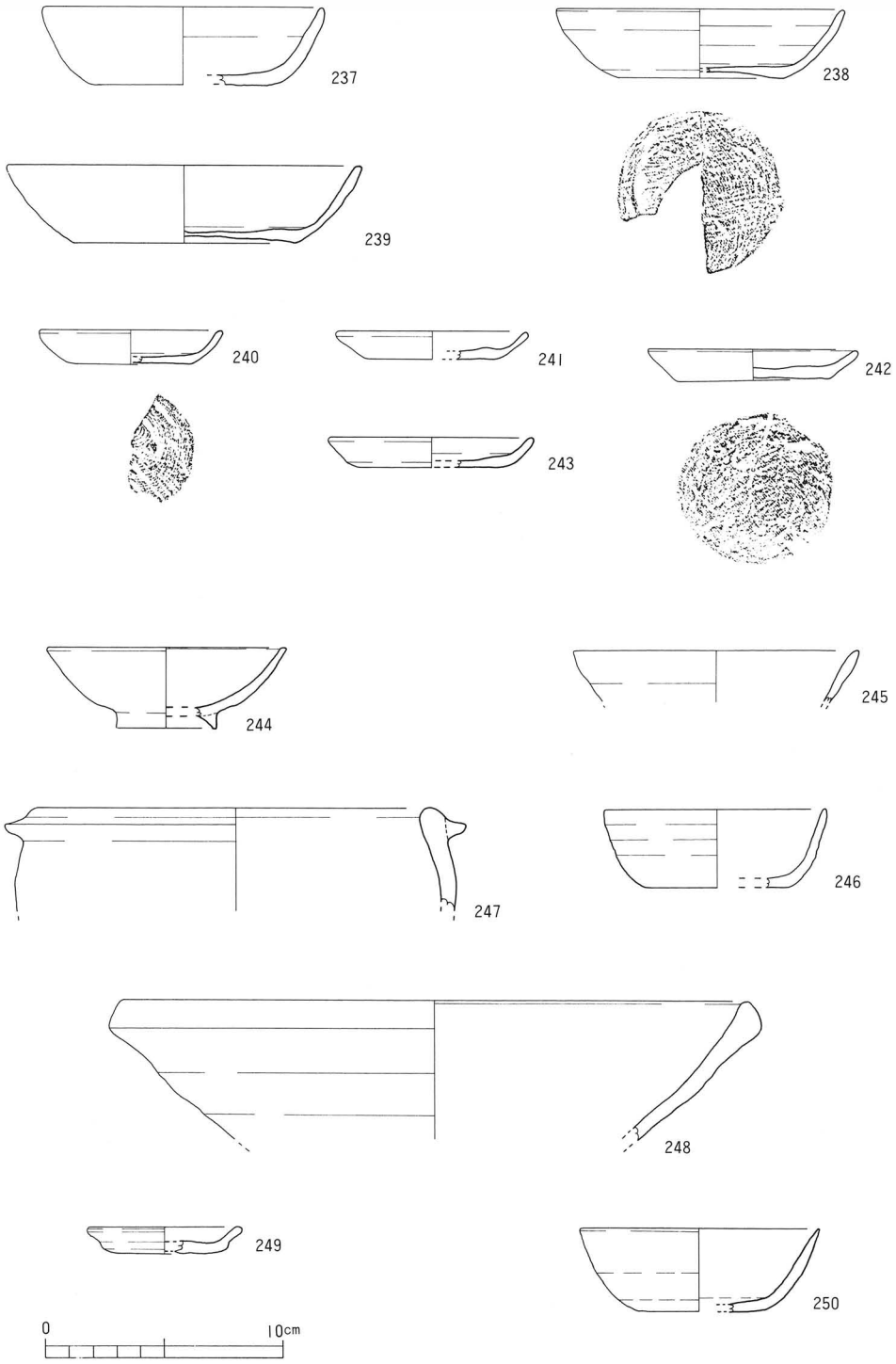
249はＰ４出土の土師器皿である。口縁部は強い横撫でにより外傾し端部を丸く仕上げて



第73図　ＳＢ－１・ＳＡ－１測量図（I）



第74図　ＳＢ－１・ＳＡ－１測量図 (2)



第75図　ＳＢ－１出土遺物実測図（1）

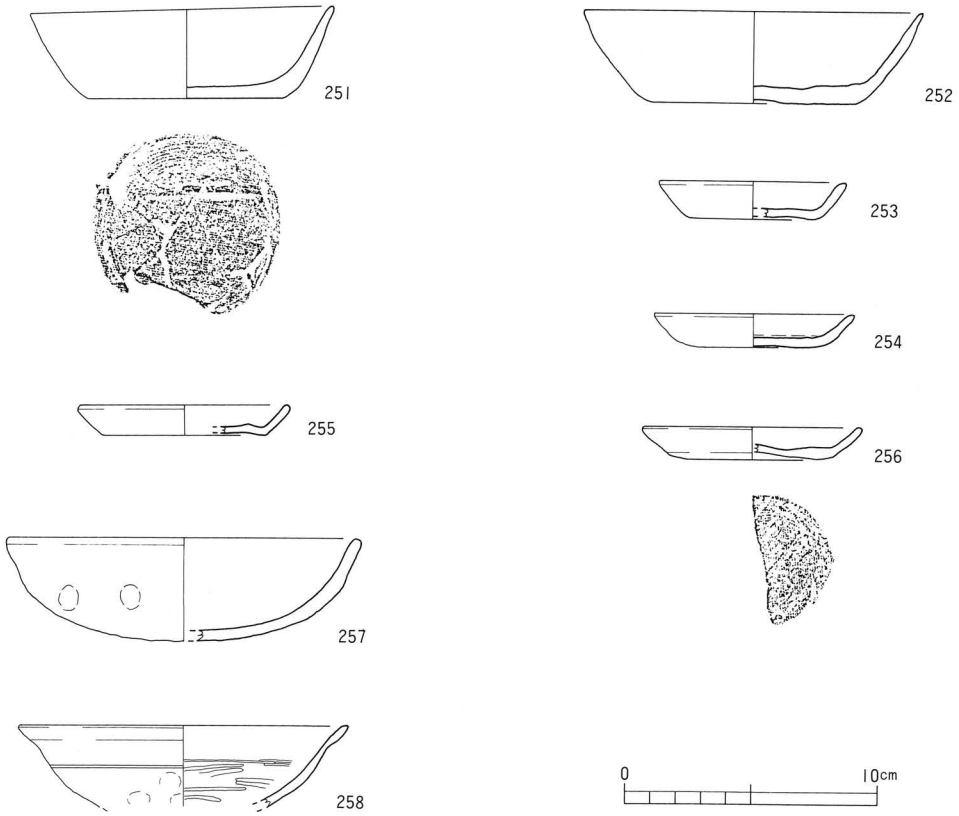
いる。底部に指頭痕がみられ、手づくねである。口径6.0cm、器高1.1cmを測る。

250はＰ５出土の土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部からやや内弯しながら立ち上がり、端部を細く仕上げている。内外面とも撫でが施されている。内面は煤け、灯明として使用されたと思われる。口径10.0cm、器高3.5cmを測る。

251～258はＰ６出土である。251・252は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。いずれも底部から外方向へ立ち上がり、口縁端部を細く仕上げている。内外面とも横撫でが施されている。251は口径12.0cm、器高3.6cm、252は口径13.4cm、器高3.7cmを測る。

253～256は土師器皿である。253・255・256の底面は回転糸切りで口径7.3～8.6cm、器高1.2～1.5cmを測る。253・256は底部から内弯気味に立ち上がり、255は底部から外傾して立ち上がり、いずれも端部を丸く仕上げ、内外面とも横撫でが施されている。254は手づくねで、口径8.0cm、器高1.3cmを測る。口縁外面には横撫でが施され、端部を丸く仕上げている。底部に指頭痕がみられる。

257・258は瓦器椀である。257は底部から内弯しながら丸く立ち上がり、口縁部は横撫でによりやや内傾気味となり、端部を丸く仕上げている。全体に摩滅し暗文は不明である。内面



第76図　ＳＢ－Ｉ出土遺物実測図（2）

と口縁外面に炭素の付着がみられる。口径14.0cmを測る。おそらく丸底で無高台になる。杯と考えられる。258は内面に横方向の暗文が見られる。口縁外面は横撫でにより外反し、端部を丸く仕上げている。体部には成形時の２条の浅い沈線が巡り、指頭痕がみられる。おそらく有高台の椀であろう。口径13.0cmを測り、内外面ともに炭素の付着がみられる。

柵列遺構

調査区中央西で南北方向の柵列とこの柵列から更に東西方向に続く柵列を検出した。

ＳＡ－１（第73・74図）

Ｎ７・８・９Ｗ32・33にまたがって位置する柵列である。南北長約7.72ｍ、東西長約4.96ｍを測る。南北軸はＮ－８°－Ｅ、東西軸はＥ－６°－Ｓで、直行角は92°を測る。ＳＢ－１の北と西面を囲み同遺構に付随する柵列と思われる。

Ｐ７はＳＸ－７の床面から検出した。柱穴から出土した遺物には図示したものの他、土釜・土鍋の破片がある。

ＳＡ－１出土遺物（第77図）

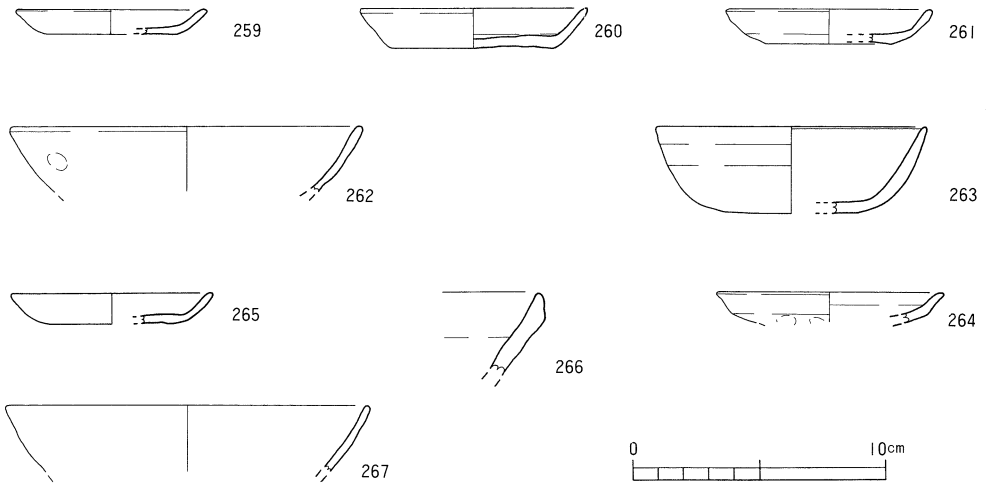
259はＰ７出土の土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.6cm、器高1.0cmを測る。

260はＰ８出土の土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径9.0cm、器高1.6cmを測る。

261～264はＰ12出土である。261・264は土師器皿である。261は底面回転糸切りで、底部から内傾ぎみに立ち上がり端部を丸く仕上げている。口径8.0cm、器高1.4cmを測る。264は手づくねのもので、口縁外面には横撫でが施され、その下部に指頭痕がある。口径9.0cmを測る。

263は土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部近くからやや内弯気味に立ち上がり端部をやや丸く仕上げている。外面には横撫でが施されている。

262は瓦器椀の口縁部で、口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。口径



第77図　ＳＡ－１出土遺物実測図

14.0cmを測る。

265・266はＰ14出土である。265は土師器皿で、底面は回転糸切りである。底部から内弯気味に立ち上がり端部を丸く仕上げている。内外面とも撫でが施されている。口径8.0cm、器高1.2cmを測る。

266は東播系こね鉢の口縁部で、口縁端部を上方向につまみ上げている。

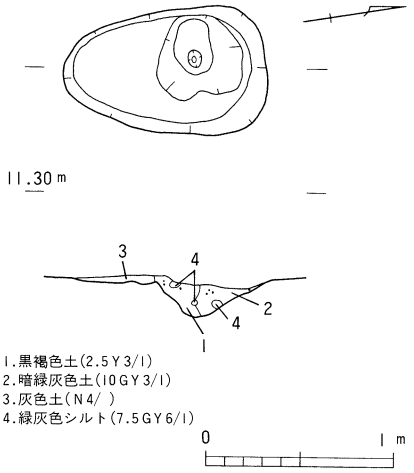
267はＰ15出土の瓦器椀の口縁部である。口縁外面には弱い横撫でが施され、内弯気味になり端部を丸く仕上げている。口径14.4cmを測る。内外面に炭素の付着がみられる。

土坑状遺構

調査区において、16基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

ＳＫ－１（第78図）

ＳＫ－１はＮ10W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.62ｍ、短軸約0.45ｍ、深さ約0.12ｍを測る。断面形は凹凸のあるレンズ状を呈し、南側に一段の平坦面をもつ。埋土は暗緑灰色粘土と黒褐色土に分かれ、ブロック状の緑灰色シルトと若干の炭が混入している。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器・土鍋・青磁碗・黒色土器の破片と鉄滓がある。



第78図　ＳＫ－１測量図

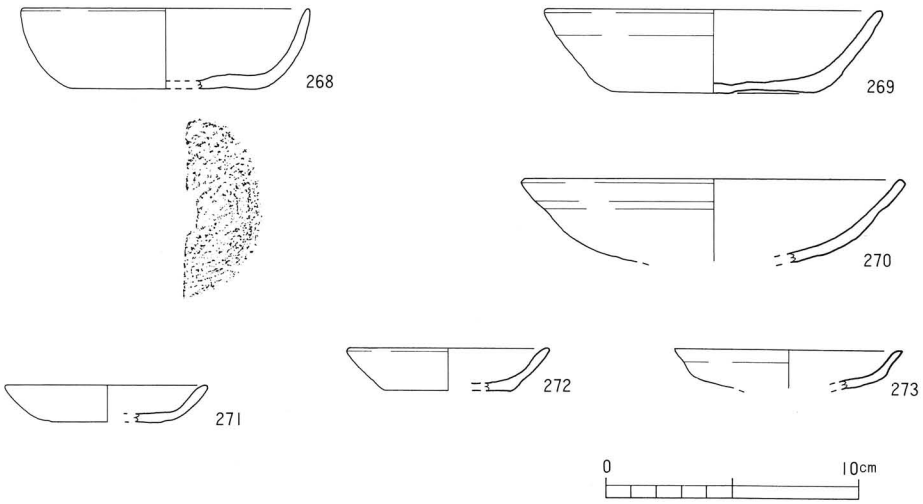
ＳＫ－１出土遺物（第79図）

268・269・270は土師器杯である。268・269は底面が回転糸切り、270は手づくねである。268は底部から内弯しながら立ち上がり端部をやや細く仕上げている。口径11.4cm、器高3.2cmを測る。269は底部から外傾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。外面には横撫でによる稜がみられる。口径13.4cm、器高3.4cmを測る。270は丸底になる底部から内弯しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。口縁外面には横撫でが施され外傾する。口径15.0cmを測る。

271・272・273は土師器皿である。271・272は底面が回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径8.0cm、器高1.4・1.7cmを測る。271・272はともに底部からやや内弯ぎみに立ち上がり、口縁部がやや肥厚し、端部を丸く仕上げている。273は手づくねで口径9.0cmを測る。口縁外面は横撫でにより外傾気味になり、端部を丸く仕上げている。底部外面には粘土紐巻き上げの成形痕がみられる。

ＳＫ－２（第80図）

ＳＫ－２はＮ10W32において検出した。平面形は円形で、長軸約0.49ｍ、短軸約0.44ｍ、深さ約0.04ｍを測る。断面形は、逆台形を呈し、平坦な底面から北壁はやや直に立ち上がり、



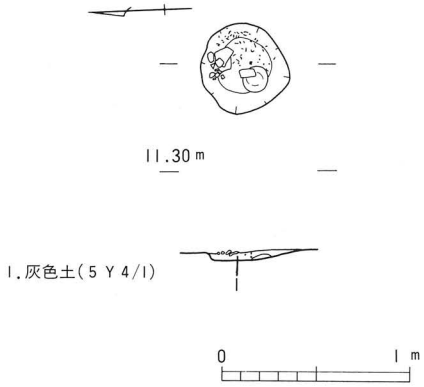
第79図　ＳＫ－１出土遺物実測図

南壁はなだらかに立ち上がる。特に東側で炭が点在している。埋土は灰色シルトである。出土遺物には、土師器・瓦器の破片がある。

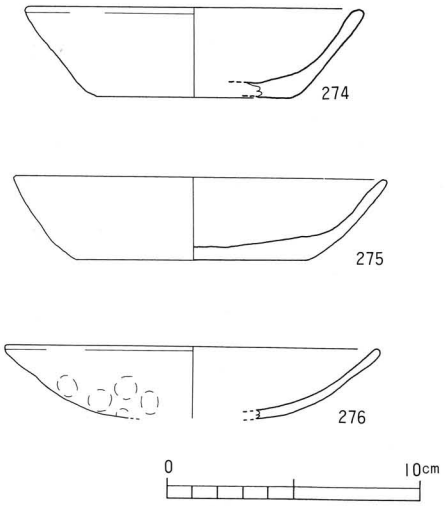
ＳＫ－２出土遺物（第81図）

274・275は土師器杯で、全体に摩滅している。ともに底面は回転糸切りである。274は底部から内弯しながら立ち上がり、口縁部は内側に肥厚し、端部を丸く仕上げている。口径13.0cm、器高3.6cmを測る。275は完形品で、底部からやや内弯しながら立ち上がり、口縁部は外傾し、端部を丸く仕上げている。口径14.8cm、器高3.3cmを測る。

276は瓦器椀の口縁部である。口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が見られる。内面は摩滅している。口径14.7cmを測る。



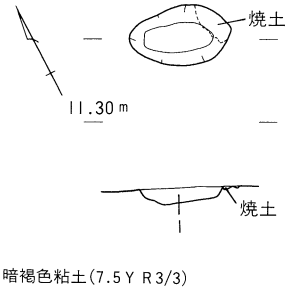
第80図　ＳＫ－２測量図



第81図　ＳＫ－２出土遺物実測図

ＳＫ－４（第82図）

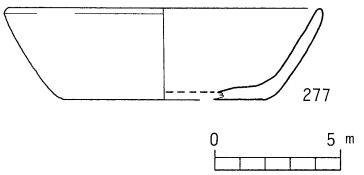
ＳＫ－４はＮ10Ｗ33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45ｍ、短軸約0.40ｍ、深さ約0.04ｍを測る。断面形は逆台形状を呈し、底面にはやや緩やかな勾配があり、壁はこの床面から斜めに立ち上がる。遺構の東肩周辺に赤褐色の焼土がみられる。埋土は暗褐色粘土である。出土遺物には土師器杯がある。



第82図　ＳＫ－４測量図

ＳＫ－４出土遺物（第83図）

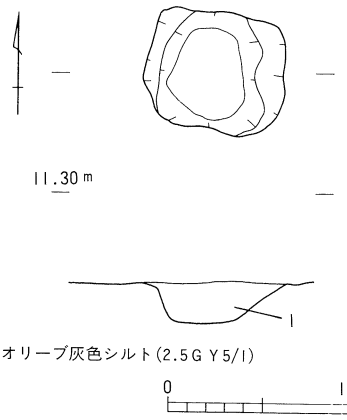
277は土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部からやや内弯気味に立ち上がり口縁部近くで少し内傾し、端部を丸く仕上げている。口径12.4cm、器高3.7cmを測る。



第83図　ＳＫ－４出土遺物実測図

ＳＫ－８（第84図）

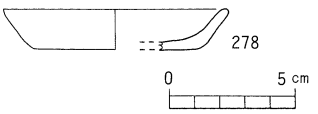
ＳＫ－８はＮ９Ｗ31において検出した。平面形は隅丸方形に近く、長軸約0.72ｍ、短軸約0.64ｍ、深さ約0.20ｍを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面から斜め方向に立ち上がり、東側と西側においては一段の広がりをもって立ち上がる。埋土はオリーブ灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋の破片がある。



第84図　ＳＫ－８測量図

ＳＫ－８出土遺物（第85図）

278は土師器皿で、底面は回転糸切りである。底部からやや内弯気味に立ち上がり口縁近くで外傾し、端部を丸く仕上げている。口径9.0cm、器高1.7cmを測る。



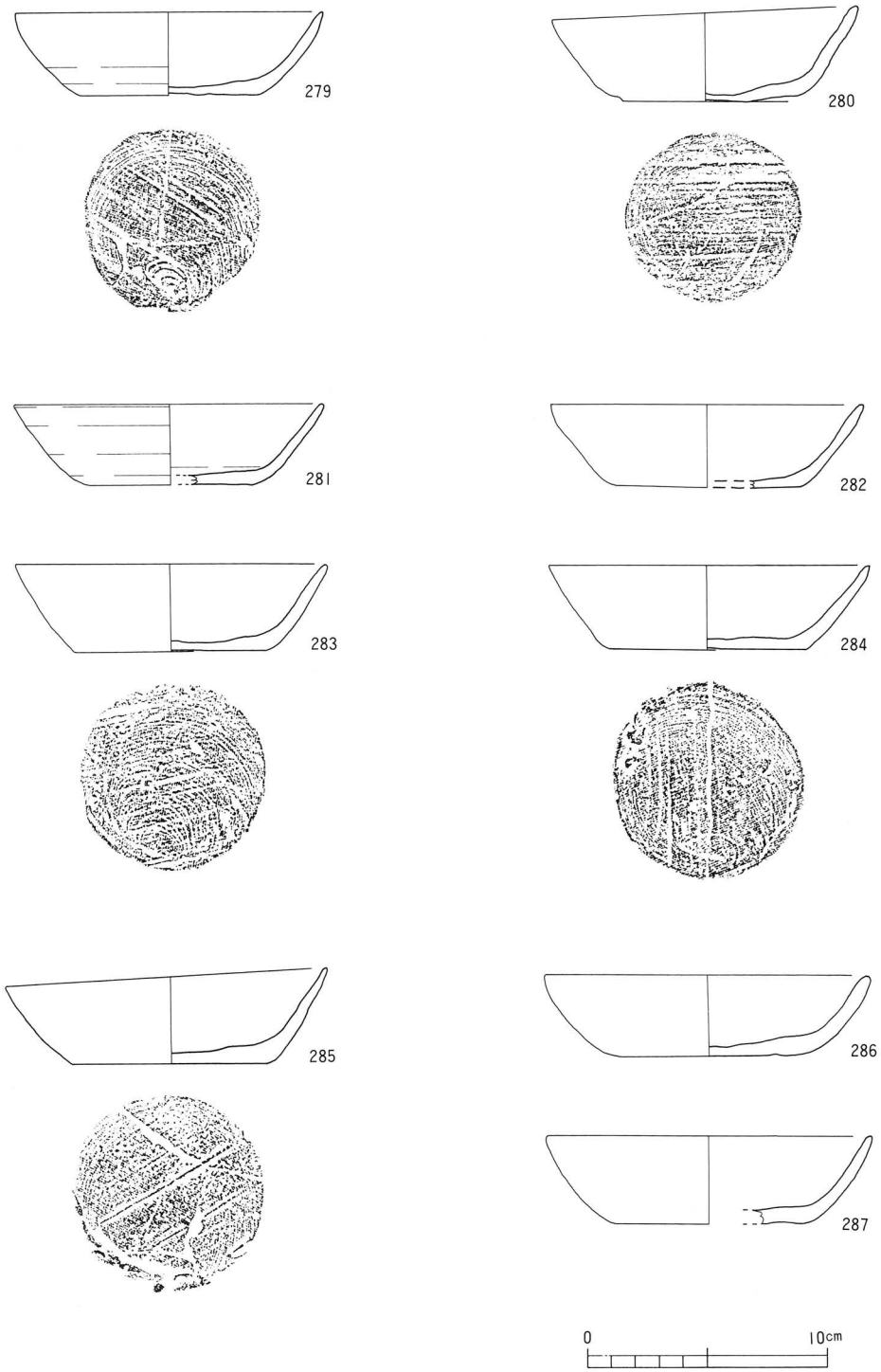
第85図　ＳＫ－８出土遺物実測図

ＳＫ－９（第88図）

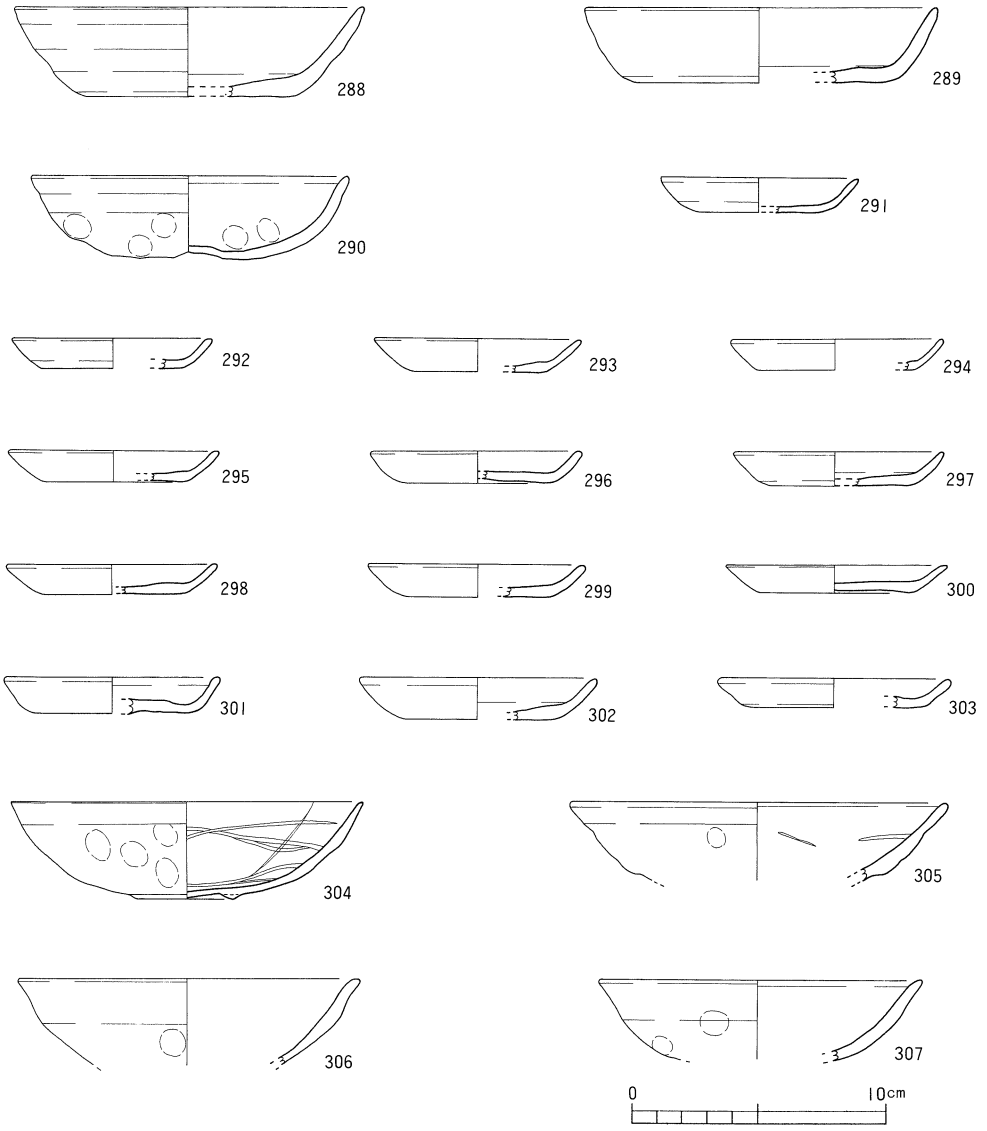
ＳＫ－９はＮ７Ｗ32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.85ｍ、短軸約0.75ｍ、深さ約0.25ｍを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は底面から丸みを持って立ち上がる。北側に平坦な段をもつ。埋土は３層に分かれ、上層は緑灰色粘土、中層は暗灰色シルト、下層は黒色粘土である。特に中・下層から土師器・瓦器を出土している。出土遺物には図示したものの他、土鍋の破片がある。

ＳＫ－９出土遺物（第86・87図）

279～290は土師器杯である。279～289は底面が回転糸切りで板状圧痕がみられる。これら



第86図　ＳＫ－９出土遺物実測図（1）



第87図　ＳＫ－９出土遺物実測図 (2)

は口径12.6～13.9cm、器高3.0～4.0cmを測る。いずれも内外面とも横撫でが施されている。289のみ口径13.9cmと大振りでありながら器高3.0cmと低い。290は手づくねの杯で、完形品である。口径12.6cm、器高3.0cmを測る。口縁部は横撫でにより、外反する。体部以下に指頭痕がみられる。

291～303は土師器皿で、291～302は底面が回転糸切りのものである。これらは口径7.8～9.5cm、器高1.1～1.7cmを測る。303は手づくねの皿で、口径8.8cmを測る。

304・305・306・307は瓦器椀である。304は完形品で、内面に螺旋状の暗文が施され、口縁

部外面には横撫でが施されている。高台は形骸化し、粘土紐を貼り付けただけのものである。口径14.0cm、器高3.9cm、高台径4.0cmを測り、全体に灰白色を呈している。305は口径15.0cm、306は口径13.5cm、307は口径12.7cmを測る。いずれの瓦器椀も口縁部外面に横撫でが施されている。

ＳＫ－10（第89図）

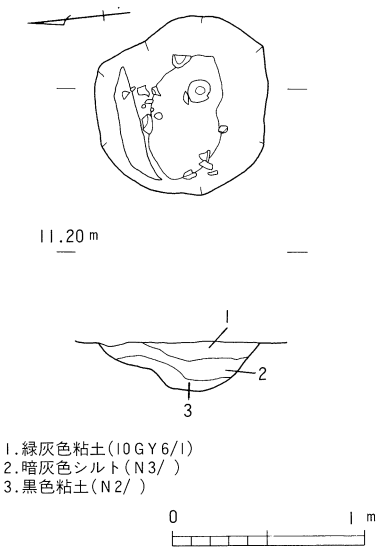
ＳＫ－10はＮ７Ｗ32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.10ｍ、短軸約1.00ｍ、深さ約0.12ｍを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直に立ち上がる。埋土は灰色シルトである。出土遺物には土師器・瓦器・土鍋がある。

ＳＫ－10出土遺物（第90図）

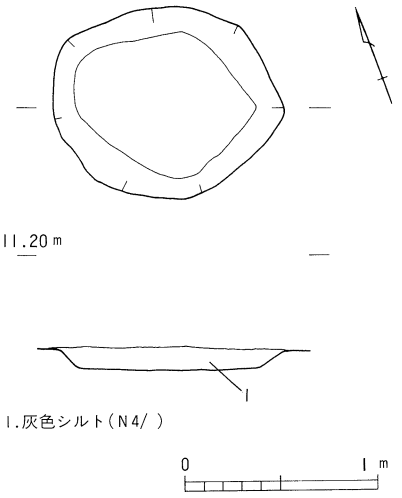
308・309・310は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径12.0～12.3cm、器高3.3～3.6cmを測る。308・310は底部から内弯しながら立ち上がり、308は端部を丸く仕上げ、310は端部を細く仕上げている。309は底部から外傾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。

311～315は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径6.5～8.6cm、器高1.0～1.3cmを測る。311は底部から斜め方向に立ち上がり端部を丸く仕上げている。312～315は、いずれも底部から内弯しながら立ち上がり端部を丸く仕上げているものである。

316は瓦器椀の口縁部である。丸みのある体部をもち、口縁は横撫でにより外傾する。内面には横方向の暗文があり、外面に指頭痕がみられる。口径13.2cmを測り、内外面とも黒色を呈する。

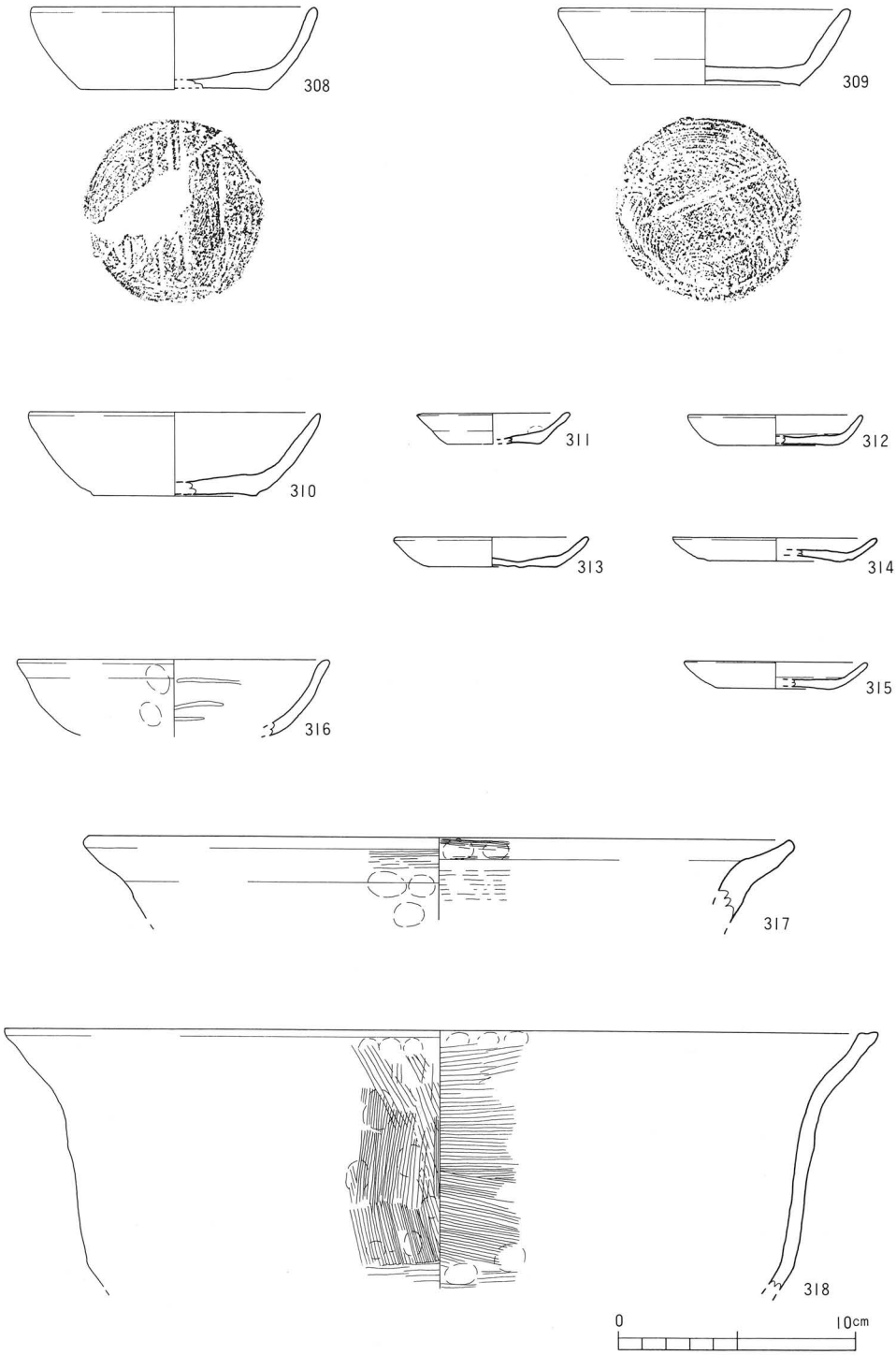


第88図　ＳＫ－９測量図



第89図　ＳＫ－10測量図

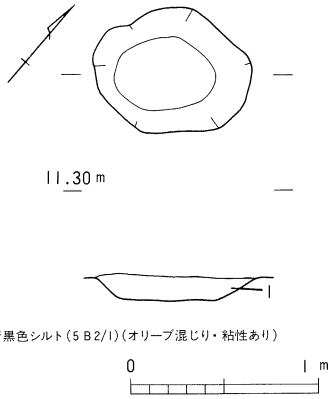
317・318は土師質の土鍋である。317は厚での口縁部をもち、口径30.0cmを測る。口縁部は、頸部からやや内弯しながら立ち上がり、端部は断面四角形を呈する。内外面とも横方向の刷毛目が施され、外面は煤けている。318は底部からやや斜めに立ち上がり、体部はやや外傾し、頸部から口縁にかけてやや内弯気味に外傾する。口縁端部には若干の窪みが巡り、内面に横方向、体部外面は縦方向、底部は横方向の刷毛目が施されている。口径37.0cmを測る。



第90図　ＳＫ－１０出土遺物実測図

ＳＫ－１１（第91図）

ＳＫ－11はＮ９Ｗ32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.70ｍ、短軸0.64ｍ、深さ約0.15ｍを測る。断面形はレンズ状を呈し、壁は平坦な床面からやや直に立ち上がる。埋土は青黒色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・土師質鉢の破片がある。

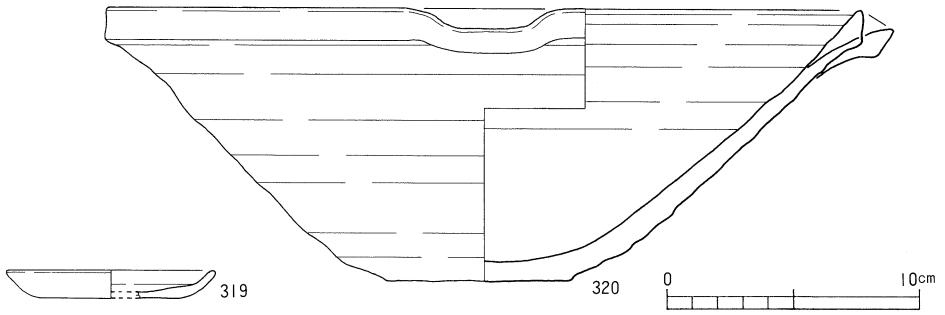


第91図　ＳＫ－１１測量図

ＳＫ－１１出土遺物（第92図）

319は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.3cm、器高1.1cmを測る。底部から内弯しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。

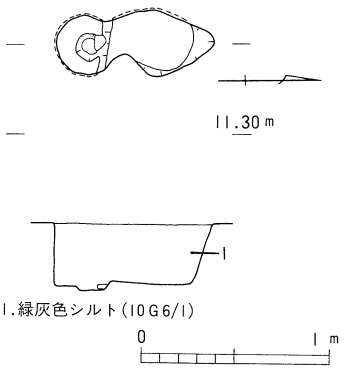
320は東播系のこね鉢で、口径30.0cm、器高10.9cm、底径7.0cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りと思われる。内外面とも横撫でが施されている。底部内面には、下部から高さ約７cmまでの間に凹凸が著しく残っている。ＳＫ－11出土にしているが、ＳＫ－11から出土したのは体部片１点のみでる。その他の破片は、散逸した状態で他から出土している。底部はＮ９Ｗ32、体部はＳＫ－11・ＳＤ－８・Ｎ８Ｗ32・Ｎ９Ｗ32・Ｎ11Ｗ32、口縁部はＳＤ－８・Ｎ８Ｗ32・Ｎ９Ｗ32から出土した破片と接合している。ＳＤ－８の廃絶時期と同時期と考えられる。



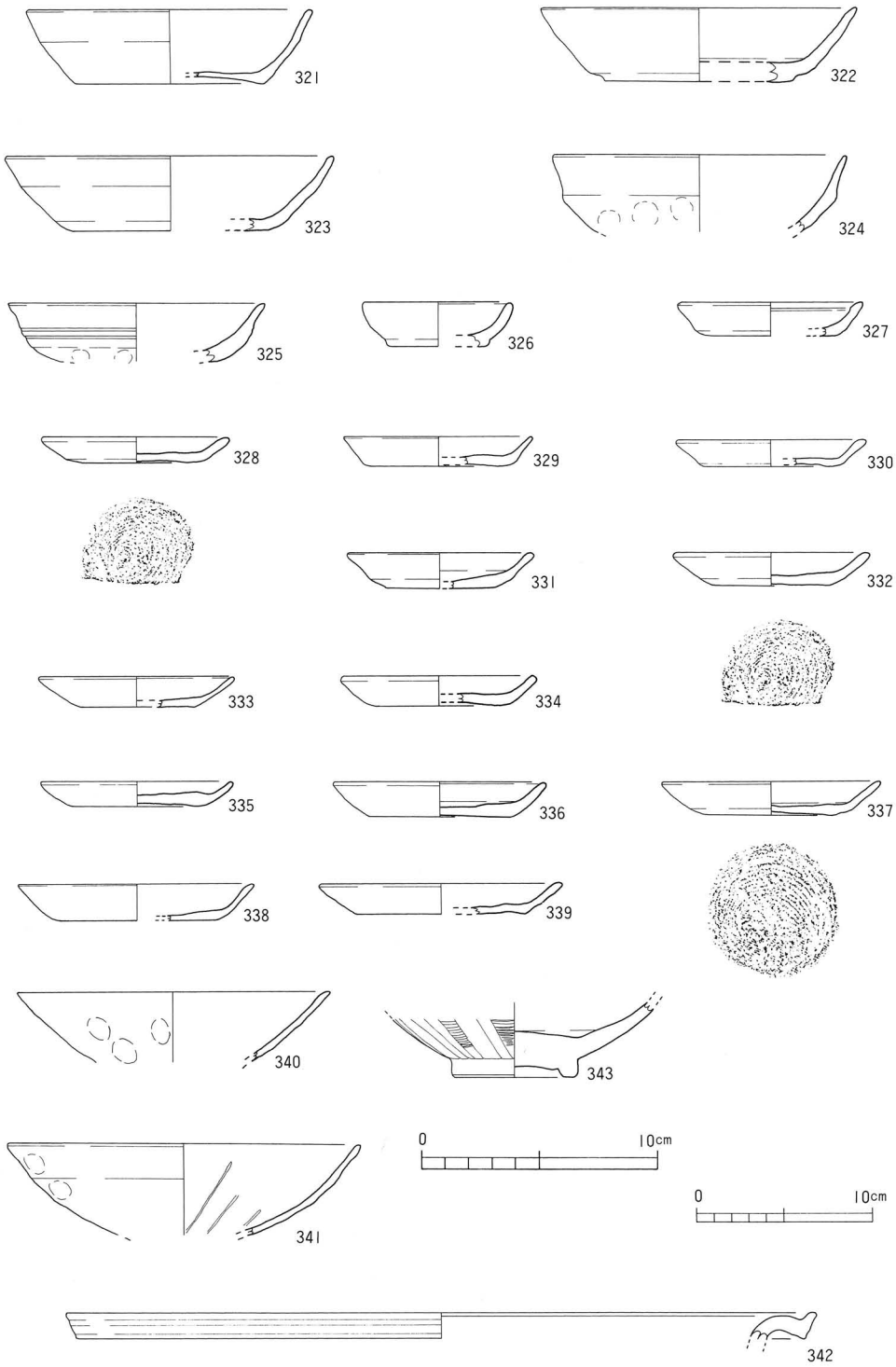
第92図　ＳＫ－１１出土遺物実測図

ＳＫ－１３（第93図）

ＳＫ－13はＮ10Ｗ33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.90ｍ、短軸0.20～0.35ｍ、深さ約0.34ｍを測る。断面形は台形状を呈す。壁はやや平坦な床面から直に立ち上がる。床面に１箇所円形の窪みがある。埋土は青緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、



第93図　ＳＫ－１３測量図



第94図　ＳＫ－１３出土遺物実測図(342は1/4)

瓦器・土鍋・土師質鉢の破片がある。

ＳＫ－１３出土遺物（第94図）

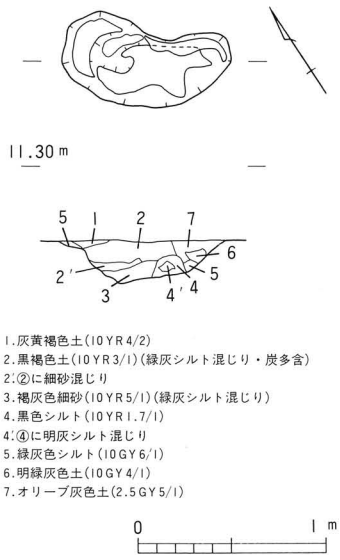
321～325は土師器杯である。321・322・323は底面回転糸切りで、口径11.8～14.0cm、器高3.2cmを測る。324・325は手づくねで、324は口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が見られ、口径12.4cmを測る。325は口径10.8cmを測り、口縁部外面に横撫でが施され、沈線２条が巡る。下部に指頭痕がみられる。内面は摩滅している。

326～339は土師器皿で、全て底面が回転糸切りのものである。口径6.2～10.4cm、器高1.1～1.9cmを測る。326は口径6.2cm、器高1.9cmを測り、全体に厚みがあり、他の土師器皿とは若干異なるものである。326は口縁部内側が肥厚している。330・331は底部近くに撫でによる弱い稜ができ、331は外傾気味に立ち上がる。337は完形品で底部を切り離した後、周縁を撫で消している。

340・341は瓦器椀の口縁部である。340は口径13.2cmを測る。口縁外面には弱い横撫でが施され、その下部に指頭痕が見られる。摩滅している。341は口径15.0cmを測り、内面には斜め方向の暗文が施され、口縁外面には横撫でと指頭痕がみられる。

342は常滑焼き甕の口縁部である。口径43.0cmを測る。口縁部の形態から、赤羽一郎氏の編年(1)では第Ⅱ段階後半期に比定され、13世紀前半に位置づけられている。

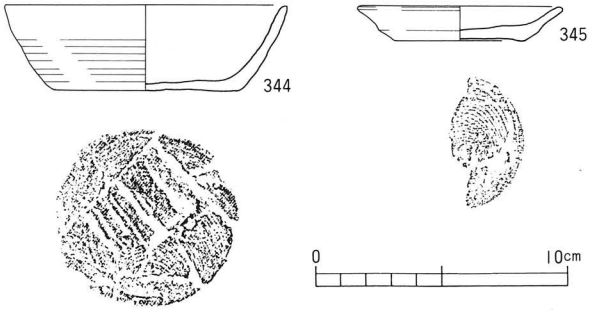
343は龍泉窯系青磁碗の底部である。外面にはヘラ状工具と櫛あるいは刷毛により蓮弁の文様が全面に施されている。高台は削り出しによる。高台の内部を除いて明緑灰色の釉がかかっている。



第95図　ＳＫ－１４測量図

ＳＫ－１４（第95図）

ＳＫ－14はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.44ｍ、短軸約0.20ｍ、深さ約0.26ｍを測る。断面形はややレンズ状を呈し、床面はなだらかな面の段をもつ。南壁は床面から斜め方向に立ち上がり、北壁には平坦な面を一段もつ。東壁はオーバハングしている。埋土は



第96図　ＳＫ－１４出土遺物実測図

最下部に褐灰色細砂と黒色シルト、それより上位には黒褐色土とオリーブ灰色土であり、若干ブロックを含む。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器・土鍋・瓦質甕の破片がある。

ＳＫ－１４出土遺物（第96図）

344は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.2cm、器高3.4cmを測る。底部からやや内弯気味に立ち上がり端部を丸く仕上げている。体部外面には幅の狭い横撫でが施されている。

345は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.2cm、器高1.4cmを測る。底部から外傾気味に立ち上がり、強い横撫でによりやや外反して稜が残る。口縁端部は丸く仕上げている。

ＳＫ－１５（第97図）

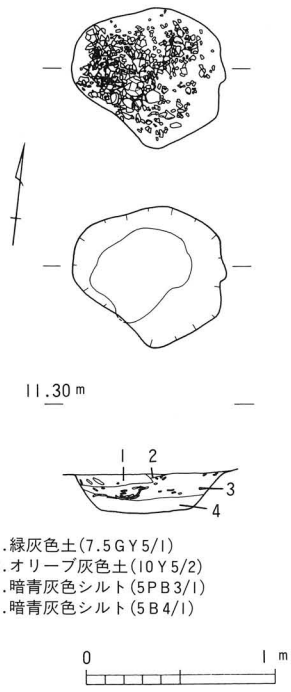
ＳＫ－15はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.81ｍ、短軸約0.75ｍ、深さ約0.20ｍを測る。断面形は台形状を呈し、東壁は平坦な床面から斜め方向に立ち上がり、西壁は丸く内弯気味に立ち上がる。埋土は３層に分層でき、上層は緑灰色土、中層は暗青灰色シルト、下層は中層に似て暗青灰色シルトである。遺物は上・中層から主に出土している。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器・土鍋・瓦質甕の破片がある。

ＳＫ－１５出土遺物（第98・99図）

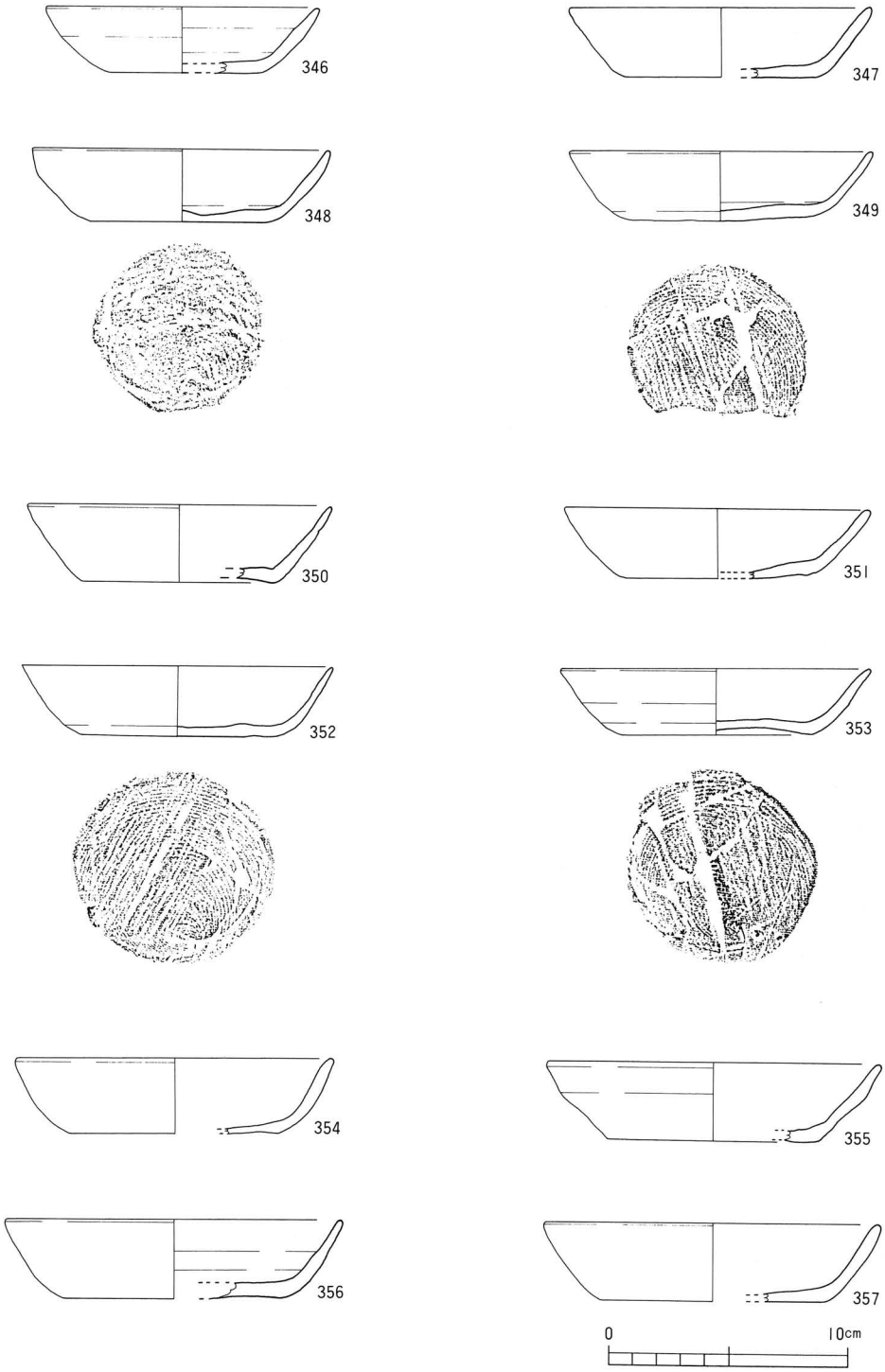
346～358は土師器杯で、全て底面が回転糸切りであり、中には板状圧痕がみられるものもある。口径11.4～14.6cm、器高2.8～3.8cmを測る。底面の拓本を載せている杯はほぼ完形品である。346は口径11.4cm、器高2.8cmと小振りのもので、内外面とも横撫でが施されている。354の口縁外面は、口縁端部から下１cmの間において色調が違ってやや灰色を呈している。重ね焼きによる痕跡かと思われる。355は口縁外面に強い横撫でにより稜がみられる。

359～371は土師器皿で、359～370は底面が回転糸切り、371は手づくねである。回転糸切りの皿は口径6.5～8.8cm、器高0.7～1.6cmを測り、中には板状圧痕がみられるものもある。359は器高0.7cmと最も低い。369と370は器高1.5cm・1.6cmと他の皿より比較的高く、370のみ口縁部が外反している。371は口径8.0cm、器高1.7cmを測り、口縁部は横撫でにより外反する。

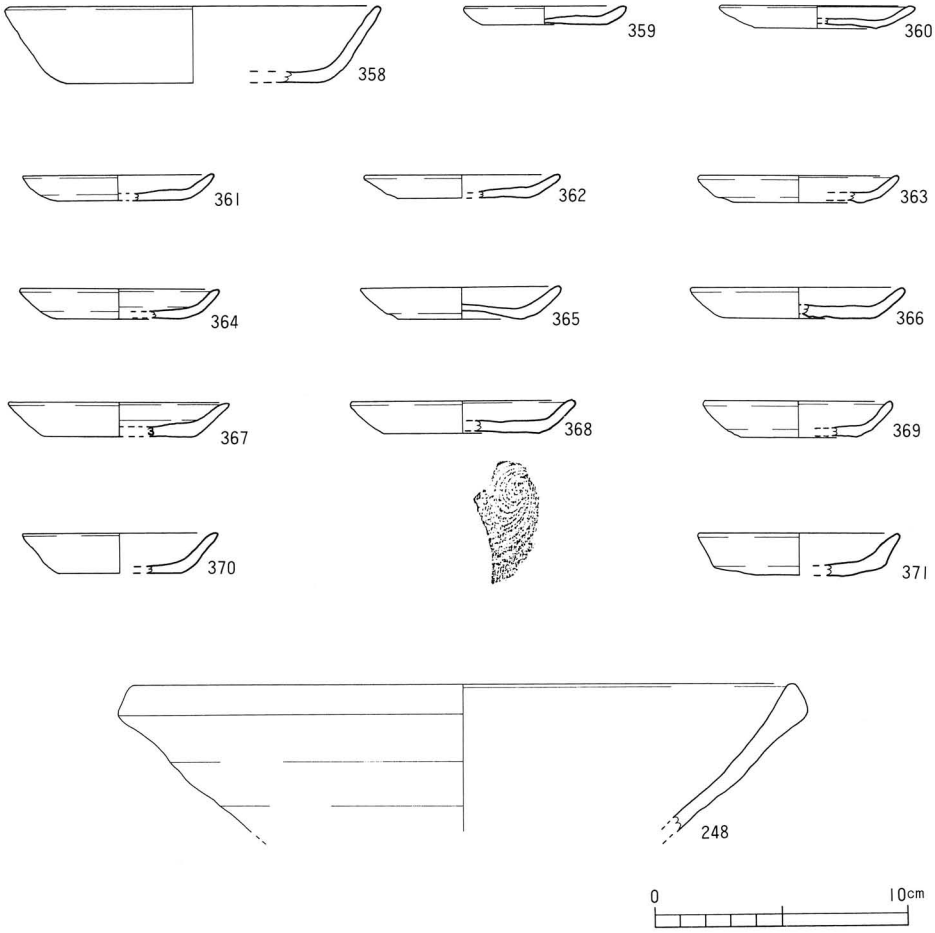
248は東播系のこね鉢である。ＳＢ－１のＰ３出土破片と接合した（第75図にも掲載）。



第97図　ＳＫ－１５測量図



第98図　ＳＫ－１５出土遺物実測図（1）



第99図　ＳＫ－１５出土遺物実測図 (2)

［註］

(1)赤羽一郎：『常滑焼－中世窯の様相－』（考古学ライブラリー23）、1984

【参考文献】

＊森田　稔：「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」『研究紀要　第３号』神戸市立博物館、1986

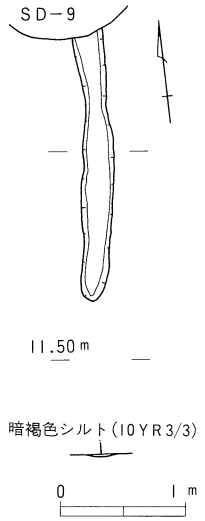
＊森田　勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集　４』、1978

溝状遺構

調査区において、10条検出した。以下、主要な遺構についてのみ記す。

ＳＤ－１（第100図）

ＳＤ－１はＮ８Ｗ32において検出した南北方向の浅い溝である。北側はＳＤ－９に切られている。検出長約2.20ｍ、幅約0.18ｍ、深さ約0.03ｍを測る。主軸はＮ－７°－Ｅである。断面形はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土釜の破片がある。



第100図　ＳＤ－１

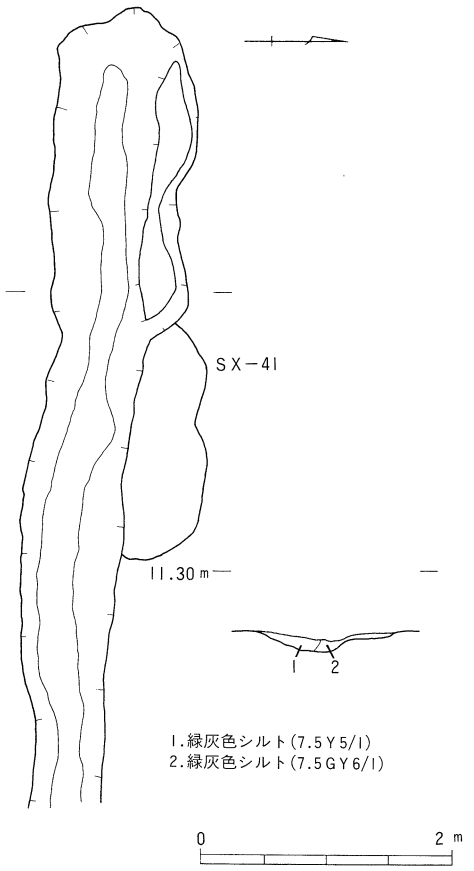
ＳＤ－１出土遺物（第102図）

372は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径12.0cm、器高3.7cmを測る。底部から斜め方向に立ち上がる。口縁部は横撫でが施されやや外反する。

373は土師質の土鍋である。口縁部は「く」の字となり、端部をやや丸く仕上げている。内面に横方向の刷毛目、頸部外面には撫でが施されている。口径22.0cmを測る。

ＳＤ－５（第101図）

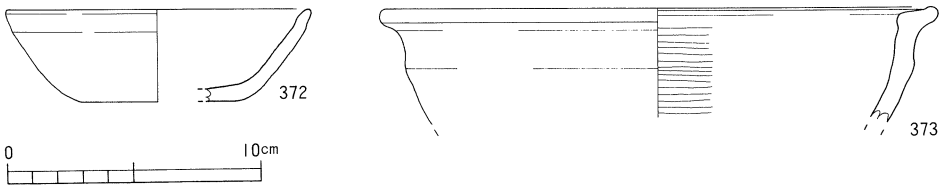
ＳＤ－５はＮ10Ｗ31・32において検出した東西方向の溝である。検出長約6.60ｍ、幅約0.80ｍ、深さ約0.20ｍを測る。主軸方向はＮ－87°－Ｗでほぼ東西になり、東側はＳＤ－７に切られている。断面形はレンズ状を呈し、西寄りの北側に平坦な一段をもつ。埋土は緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・青磁碗・常滑焼甕・置き竈の破片がある。



第101図　ＳＤ－５測量図

ＳＤ－５出土遺物（第103図）

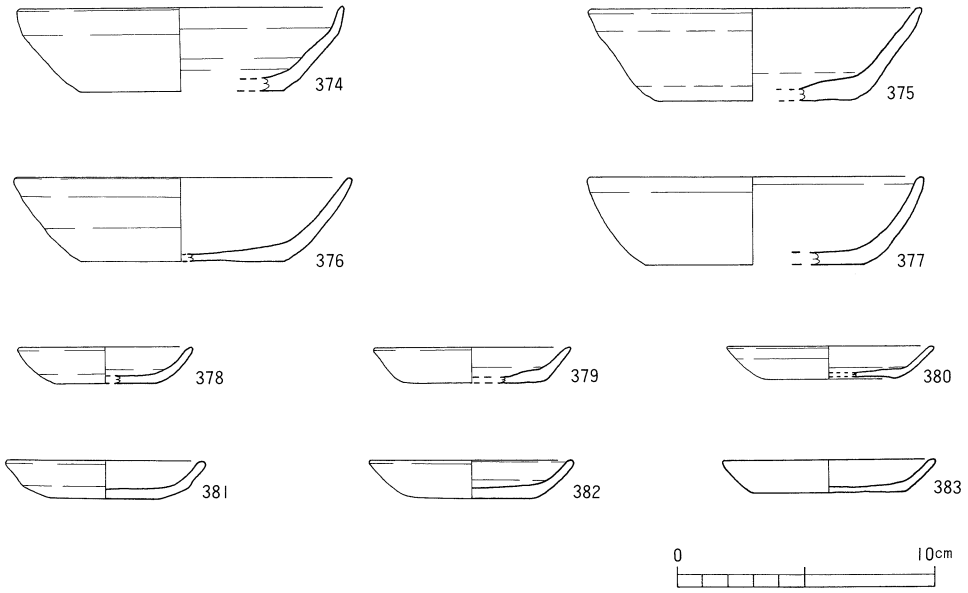
374～377は土師器杯で、全て底面は回転糸切りである。口径12.9～13.4cm、器高3.4～3.7cmを測る。374の口縁部は上方向に立ち上がる。375は底部からやや外反気味に立ち上がり、口縁部は横撫でにより少し外反する。376は底部から外方向へ内弯しながら立ち上がる。377は底部から内弯しながら立



第102図　ＳＤ－１出土遺物実測図

ち上がり、376よりは内傾している。

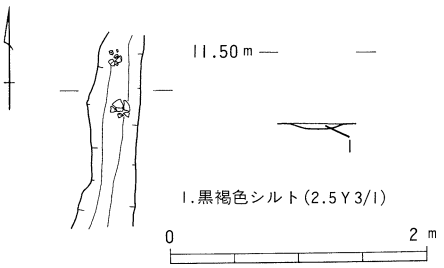
378～383は土師器皿で、全て底面は回転糸切りである。口径7.0～8.2cm、器高1.3～1.5cmを測る。382はほぼ完形品である。381は口縁外面に強い横撫でが施され外反している。



第103図　ＳＤ－５出土遺物実測図

ＳＤ－６（第104図）

ＳＤ－６はＮ７Ｗ33において検出した南北方向の溝である。検出長約1.70ｍ、幅約0.40ｍ、深さ約0.06ｍを測る。主軸方向はＮ－８°－Ｅである。断面形はレンズ状を呈し、埋土は黒褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・青磁碗・瓦質甕の破片がある。



第104図　ＳＤ－６測量図

ＳＤ－６出土遺物（第105図）

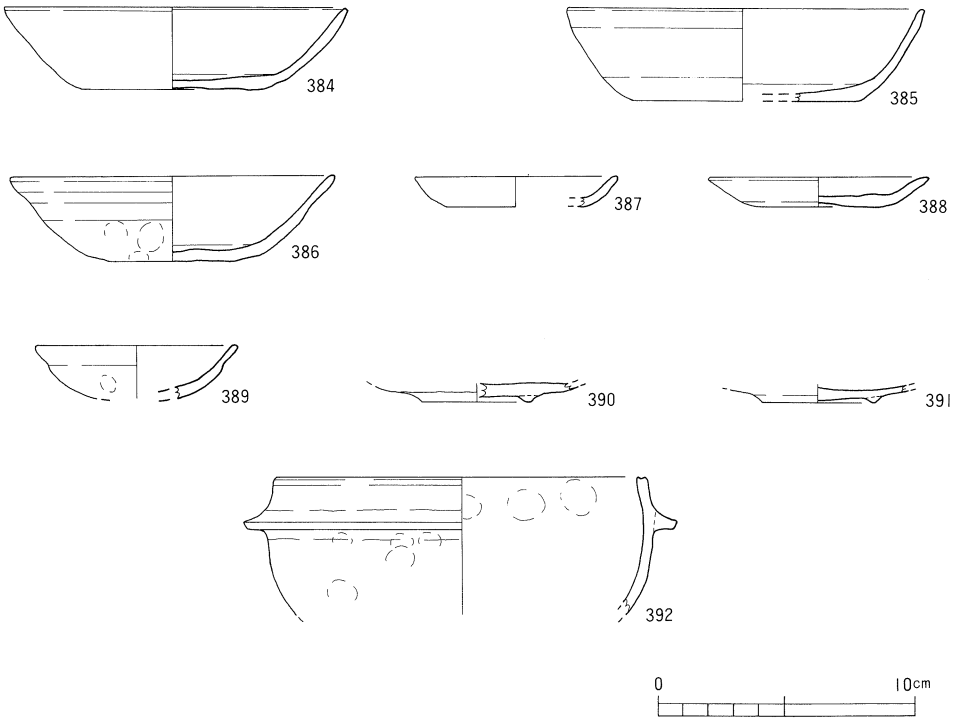
384・385・386は土師器杯である。384は完形に近く口径13.4cm、器高3.3cmを測る。底部から内弯

しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。全体に摩滅しているが、内面は撫でが施され底面に板状圧痕がみられ、おそらく回転糸切りと思われる。385は口径14.0cm、器高3.7cmを測り、底面が回転糸切りである。384と同様に底部から内弯しながら立ち上がり端部をやや細く仕上げ、器壁は384より薄い。386は手づくねで、口径12.8cm、器高3.4cmを測る。内面と口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。

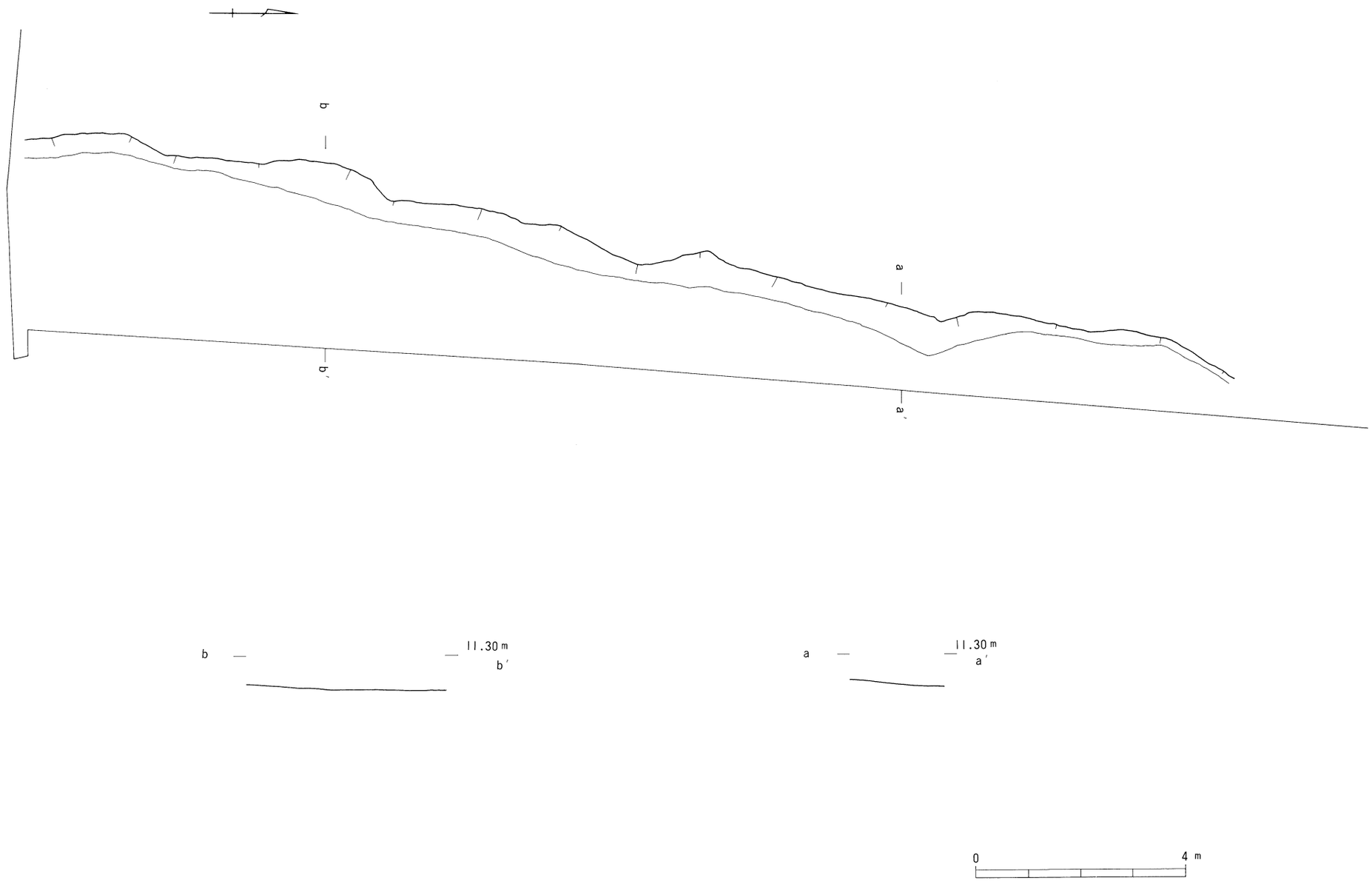
387・388・389は土師器皿である。387は口縁部であるが、底面に若干の糸切り痕跡がみられ、388と比べて硬質の焼きで、口径8.0cm、器高1.2cmを測る。内弯しながら立ち上がり端部は外反し、内外面とも撫で調整である。388は口径8.6cm、器高1.2cmを測り、底面は回転糸切りである。389は手づくねで、口径8.0cmを測る。口縁外面には強い横撫でが施されている。内面も撫でが施されている。底面には粘土紐巻き上げの痕跡を看取れる。

390・391は瓦器椀の底部である。いずれも形骸化した高台で粘土紐を貼り付けただけのものである。390は高台径4.4cmを測り、黒色を呈している。391は高台径4.4cmを測り、外面は灰白色、内面は黒色を呈し磨きがかすかにみられる。

392は瓦質の土釜である。口径14.5cmを測る。体部は内弯しながら口縁に至る。口縁端部には窪みが巡る。断面四角形の鍔が貼り付けられている。内外面とも撫でが施され、指頭痕が残る。



第105図　ＳＤ－６出土遺物実測図



第106図　ＳＤ－７測量図

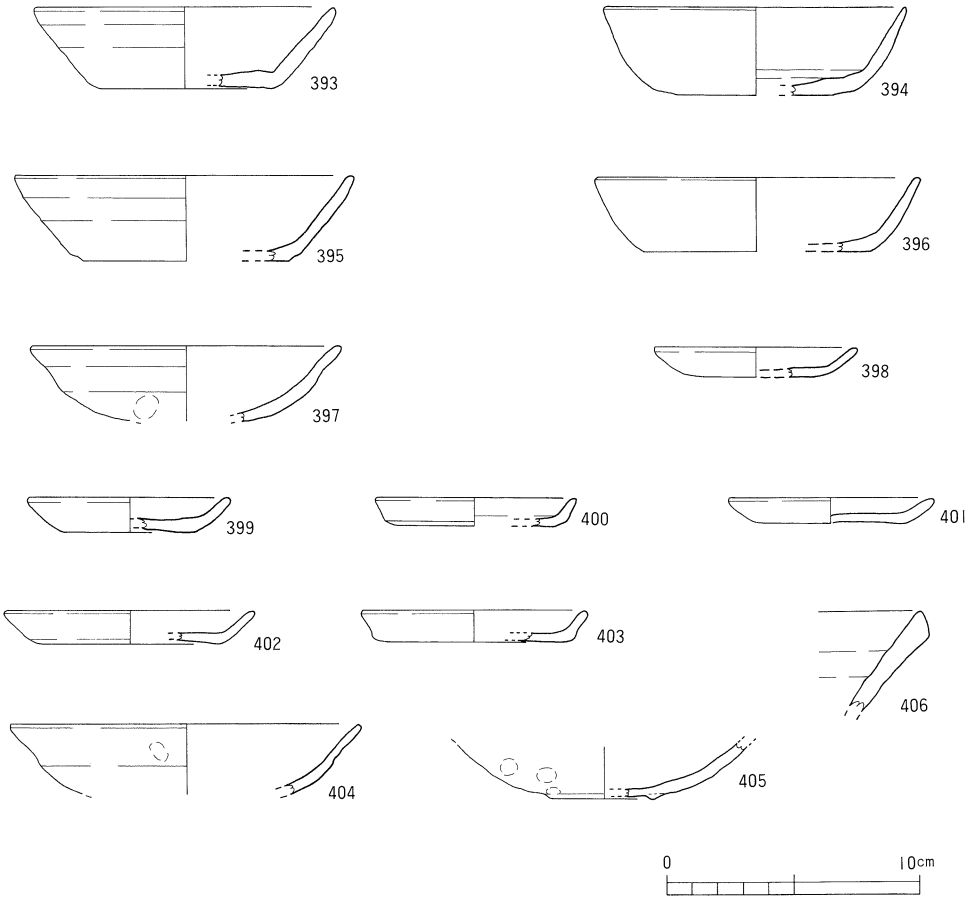
ＳＤ－７（第106図）

ＳＤ－７は調査区の東端Ｎ６～10W31において検出した南北方向の溝である。検出長約23.0ｍ、幅約4.0ｍ以上、深さ約0.12ｍを測り、西肩のみを検出している。主軸方向はＮ－12°－Ｅである。北側ではＳＤ－５を切っている。断面形は平底状を呈し、埋土は浅黄色砂である。出土遺物には図示したものの他、土鍋・土釜・青磁碗・常滑焼甕・置き竈の破片がある。

ＳＤ－７出土遺物（第107図）

393～397は土師器杯である。393～396の底面は回転糸切りで、口径11.8～13.3cm、器高3.0～3.5cmを測る。393は他より厚手に作られている。いずれも内外面とも横撫でが施されている。397は手づくねで、口径12.2cmを測る。口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。口縁部は外反し端部を丸く仕上げている。

398～403は土師器皿である。398～402の底面は回転糸切りで、口径7.9～10.0cm、器高1.0～1.4cmを測る。400は底部を切り離した後、周縁部を削り調整が施されて明瞭な稜が残る。



第107図　ＳＤ－７出土遺物実測図

402は底部を切り離した後、周縁部は横撫でによる弱い稜がみられる。403は手づくねで、口径8.8cmを測る。口縁部には横撫でが施され平底状を呈し、底部に指頭痕が残る。

404・405は瓦器椀である。404は口径13.8cmを測り、口縁端部のみ黒色を呈し、内外面は灰白色を呈している。口縁部外面には横撫でが施され、やや外反し端部を丸く仕上げている。405は高台径4.2cmを測る。丸みのある体部で、形骸化した粘土紐を貼り付けたものである。外面に指頭痕が残る。黒系の灰白色を呈し、全体に摩滅している。

406は東播系こね鉢の口縁部である。内外面とも横撫でが施されている。口縁断面は丸みのある四角形を呈している。

ＳＤ－８（第108図）

ＳＤ－８はＮ７～９W32において検出した南北方向の溝である。遺構検出前、特にＮ８Ｗ32のグリットから多数の遺物が出土し取り上げている。ＳＤ－８は、これら遺物取り上げ後に検出した遺構である。長さ約14.30ｍ、幅約1.50ｍ、深さ約0.05～0.11ｍを測る。主軸はＮ－10°－Ｅである。断面形は中央から南側では三角形状、北側では浅い台形状を呈している。西肩のやや北寄りに一段高い面をもち、西へと遺構が伸びてＴ字状になるが、この先端部は削平されて検出できなかった。また、北側の床面からＳＰ状の遺構を１基検出した。埋土は黒色粘土～シルトである。

遺構検出時の遺物は、図にみられるようにＴ字状周辺で特に集中している。

出土遺物の中には、先にグリットで取り上げた遺物や他の遺構・グリットから出土した遺物と接合したものもある。

これら図示したものの他、青磁碗・常滑焼甕の破片やガラス質スラグが付着した炉壁と思われる破片がある。

ＳＤ－８出土遺物（第109～117図）

土師器椀（第109図、407）

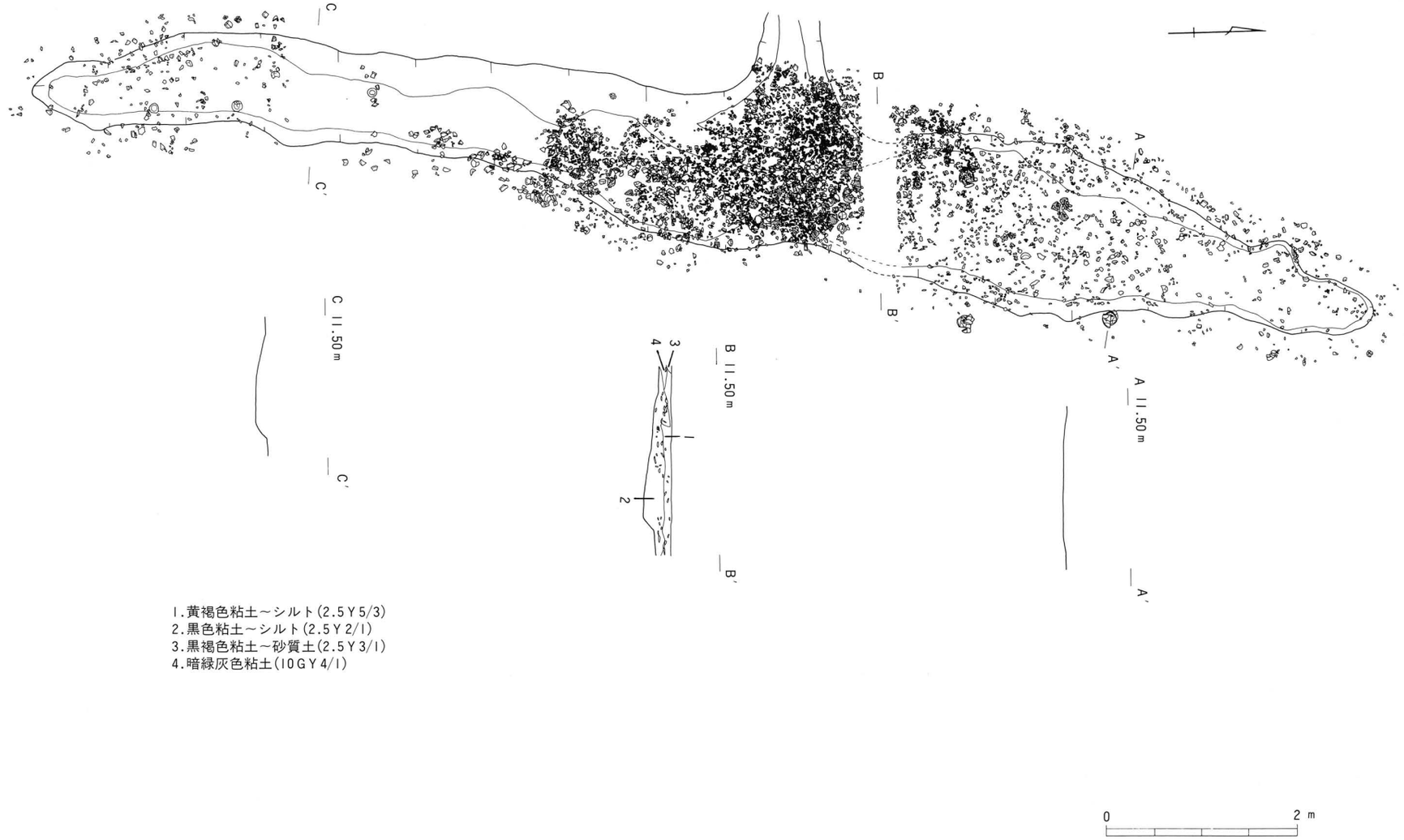
407は底部である。粘土紐の高台を貼り付けたもので、高台径3.6cmを測る。外面には指頭痕が、内面には磨きがかすかにみられる。吉備系土師器椀と思われ、13世紀後半と考えられる。

土師器杯（第109・111図、408～448）

408は高台付杯である。底面は回転糸切りした後、粘土紐を貼り付け輪高台としている。高台径3.7cmを測る。本調査区からはこの１点しか出土していない。

409～439は底面が回転糸切りである。口径11.0～14.0cm、器高2.8～3.8cmを測る。435は内面が煤けているため灯明として使用された可能性がある。422は他の杯と比べて色調が浅黄橙色である。

440～448は手づくねである。口径12.0～14.0cm、器高2.8～4.1cmを測る。



1.黄褐色粘土～シルト(2.5Y5/3)
2.黒色粘土～シルト(2.5Y2/1)
3.黒褐色粘土～砂質土(2.5Y3/1)
4.暗緑灰色粘土(10GY4/1)

第108図　ＳＤ－８測量図

土師器皿（第112・114図）

449～514は底面が回転糸切りである。口径6.8～9.8cm、器高0.9～1.8cmを測る。

515～534は手づくねである。口径7.0～9.0cm、器高1.1～2.1cmを測る。

瓦器椀（第115図、535～547）

535～547は瓦器椀である。口径11.8～16.0cmを測る。540は内面に横方向の暗文が施されている。537は内面見込みに暗文が施されている。544は内面に暗文が施されている。539は口縁外面のみ黒色である。543は外面と口縁内面のみ黒色である。538は全体に灰黒色を呈している。547は粘土紐を貼り付けただけの高台部である。

出土した瓦器椀は、いずれも口縁部外面を横撫で、下部に指頭痕がみられる。

瓦器皿（第115図、548・549）

548は口径8.3cm、器高1.7cmを測る。549は口径8.4cm、器高1.5cmを測る。いずれも口縁部内外面とも横撫でが施されている。

図化できた瓦器皿は、この２点のみである。

瓦質土鍋（第117図、559）

559は瓦質の土鍋で、口径30.0cmを測る。

須恵器椀（第116図、558）

558は平底を呈する底部である。底面は回転糸切りで、底径5.0cmを測る。内外面とも撫でが施されている。椀としているが、立ち上がりから皿または杯である可能性もある。

須恵器こね鉢（第116図、550～557）

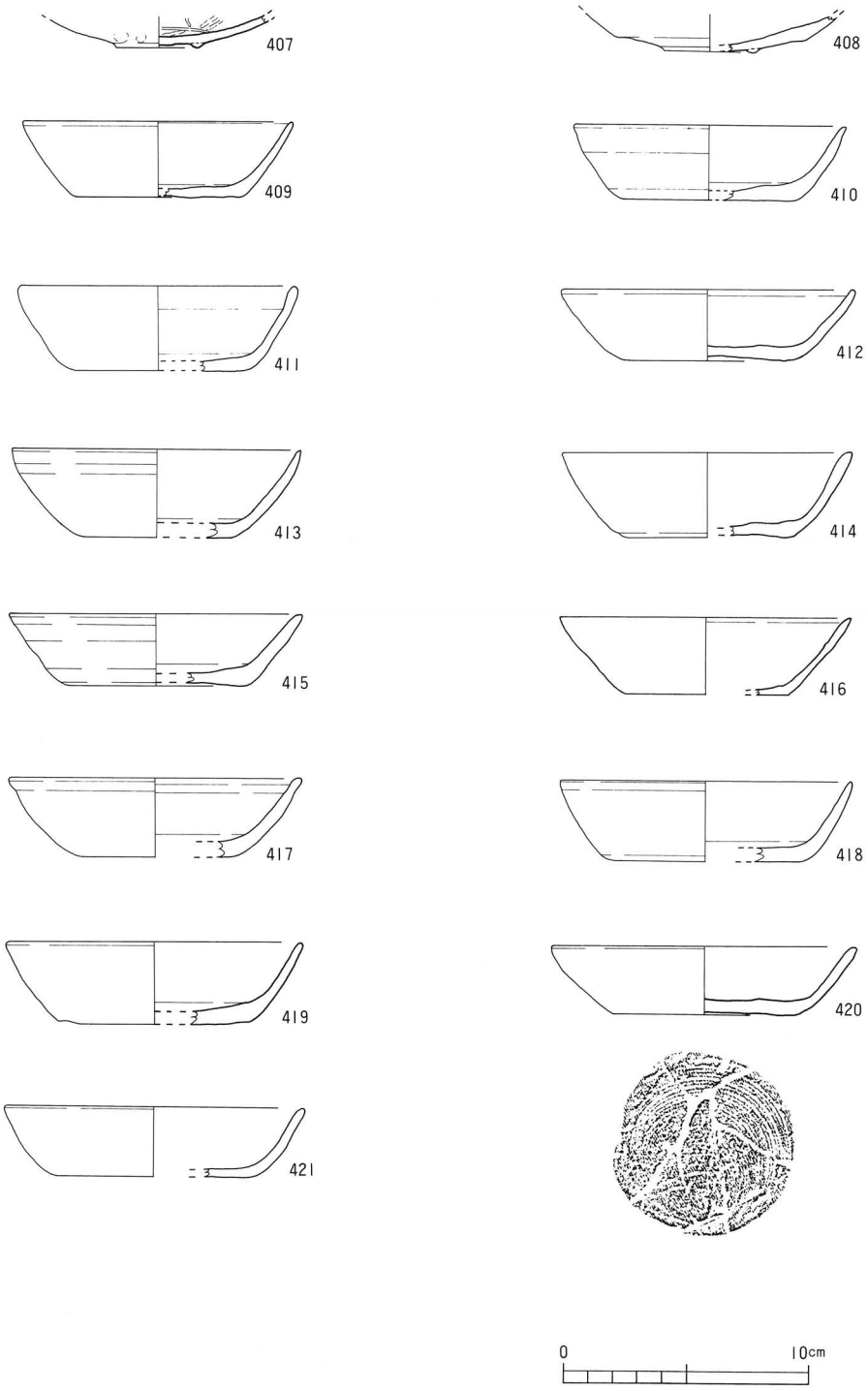
553は口縁部外面に丸みをもつ。556は557と同様に口縁部外面に丸みをもつ。554は口縁部外面に稜をもち、断面三角形状を呈している。555は554よりは丸みを持つ口縁断面三角形状で、全体に灰白色を呈して、やや軟質のものである。552は口径30.0cmを測る。グリットＮ９W32取り上げ破片と接合している。551は口径30.0cmを測る。口縁部は上方向につまみあげられている。550は口径28.0cmを測る。554と同様の口縁であり、拡張幅が広い。Ｎ９・10W32出土破片と接合している。553は口径35.0cmを測る。口縁部は557より薄く丸く仕上げられている。全体に灰白色を呈して、やや軟質のものである。Ｎ７W32・Ｎ11W33出土破片と接合している。

図化したこね鉢は、いずれも東播系のもので、内外面とも横撫でが施されている。

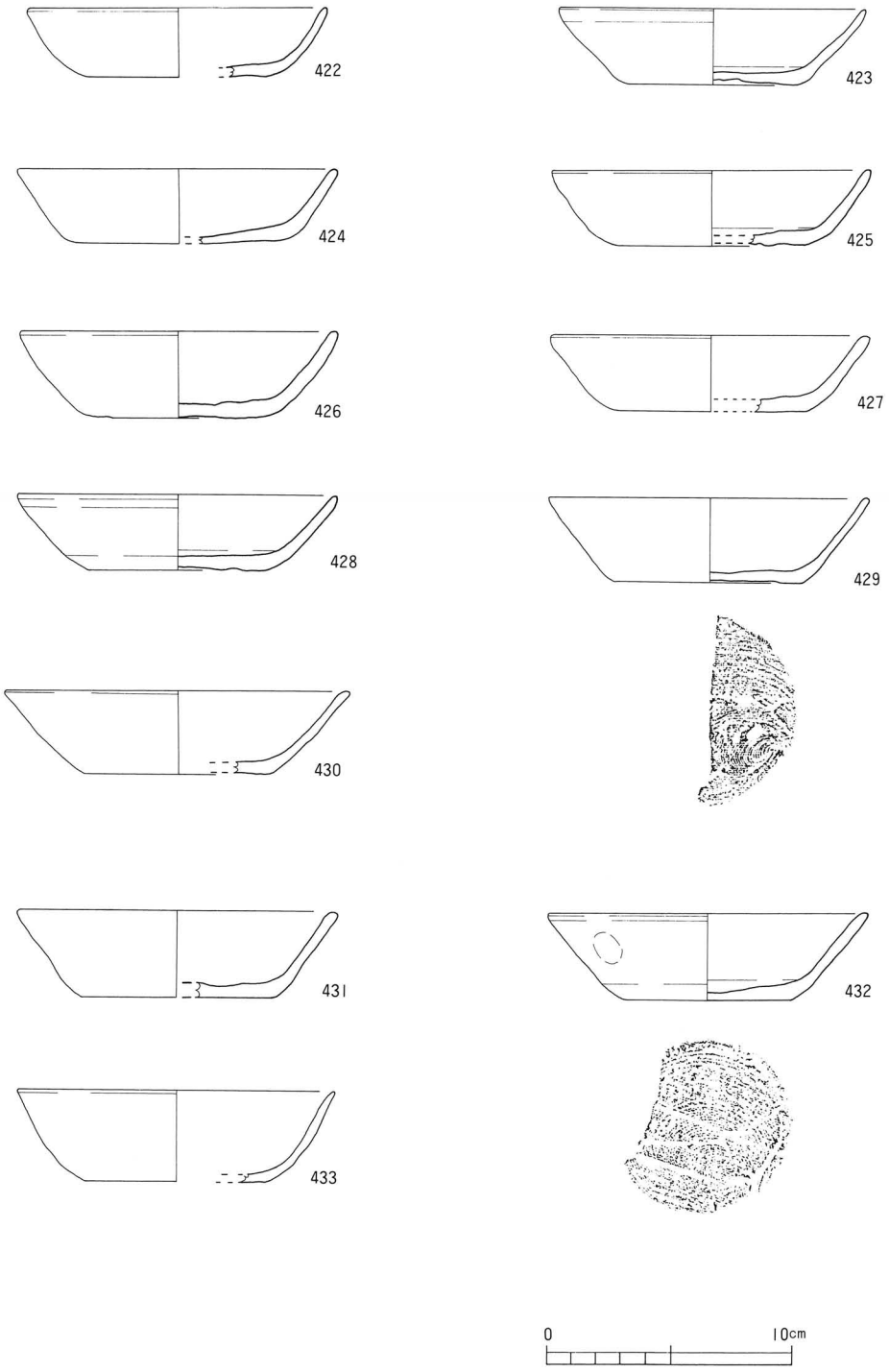
土鍋（第117図、560・561・562）

いずれも土師質の土鍋の口縁部である。

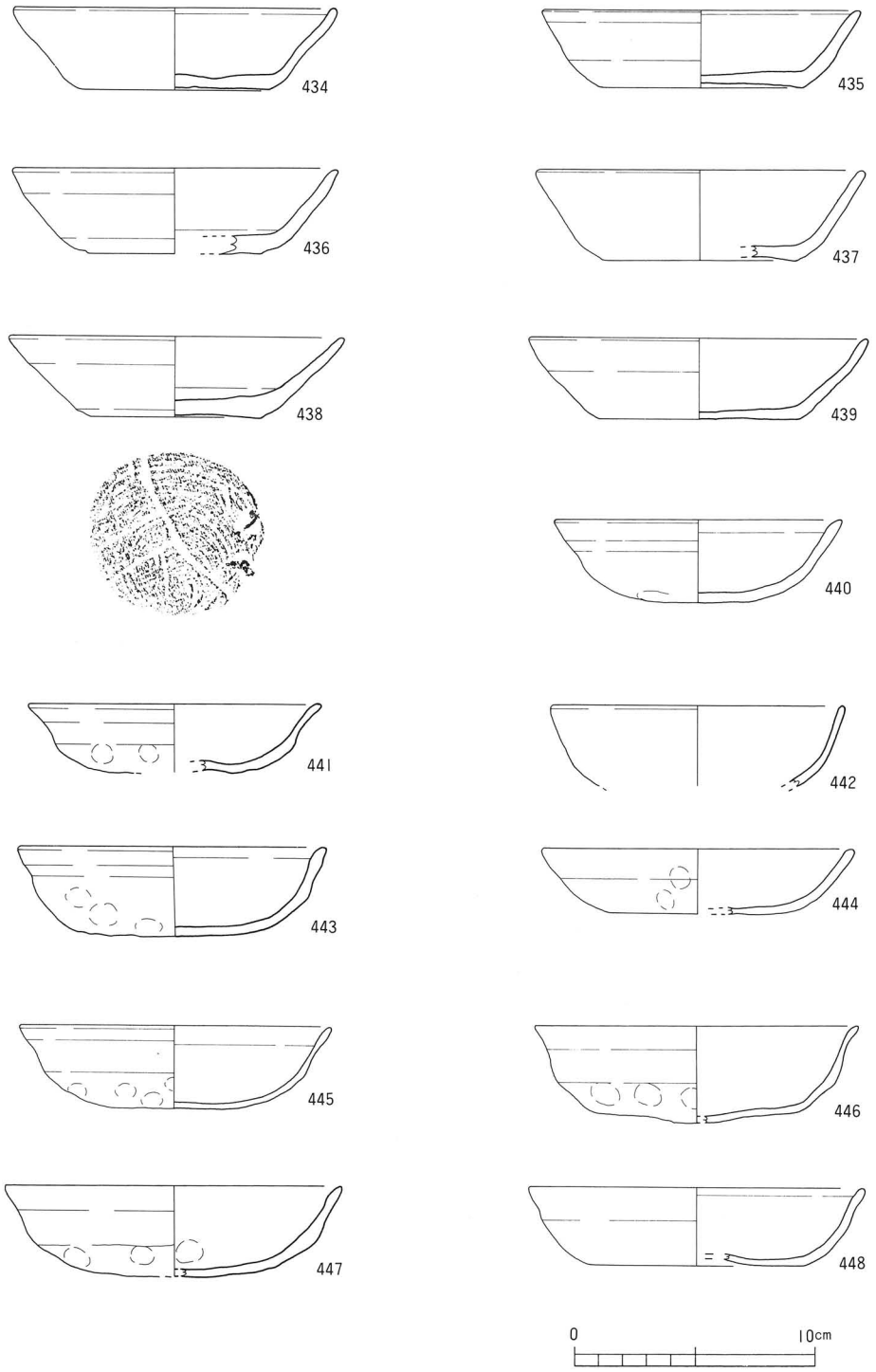
560は口径34.0cmを測り、内面は横方向の刷毛目が施されている。561は口径39.0cmを測る。内面は横方向、外面頸部から下部に縦方向の刷毛目が施されている。562は口径40.0cmを測る。内面は横方向の刷毛目が施され、口縁部は外傾し、端部は内傾している。



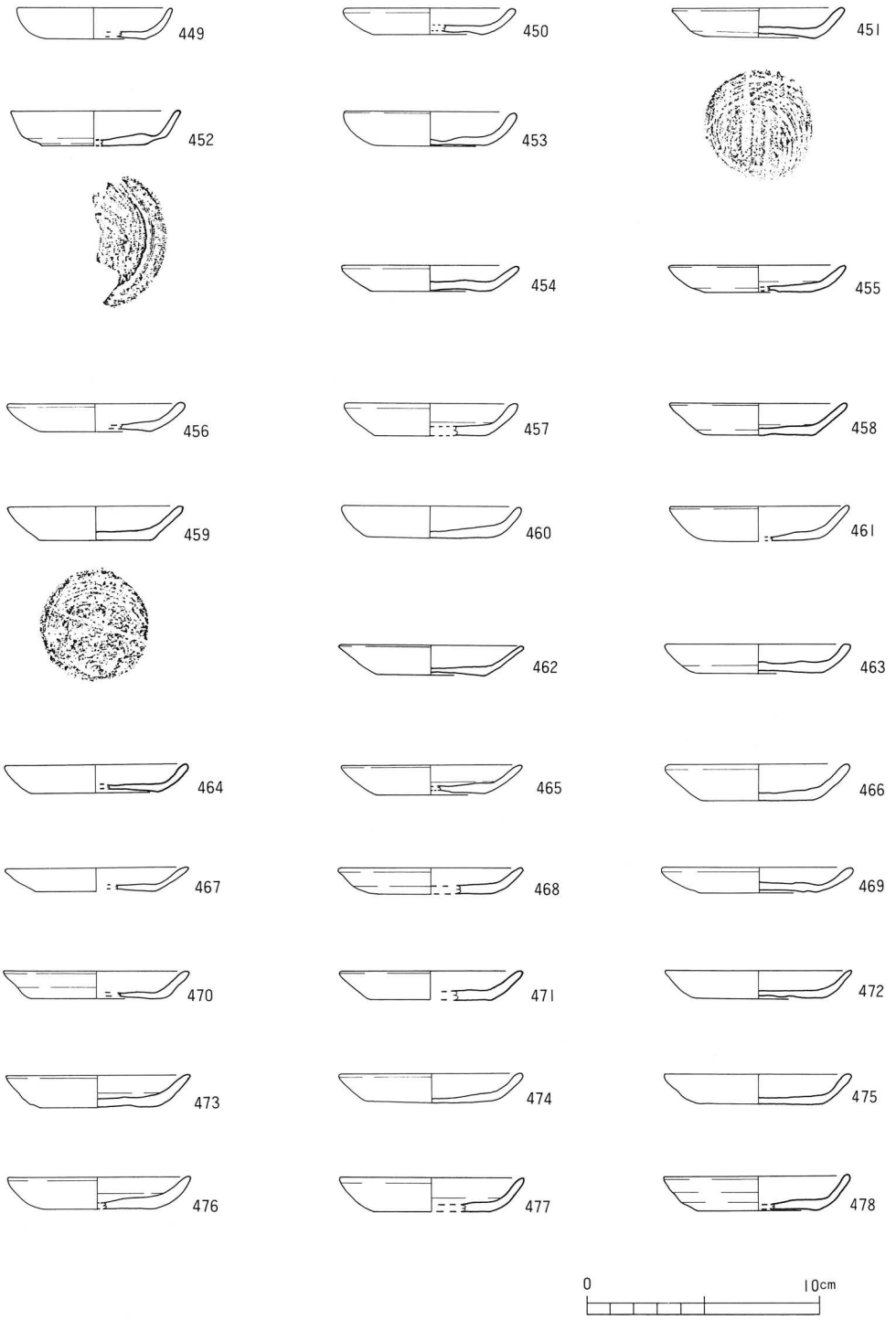
第109図　ＳＤ－８出土遺物実測図（1）



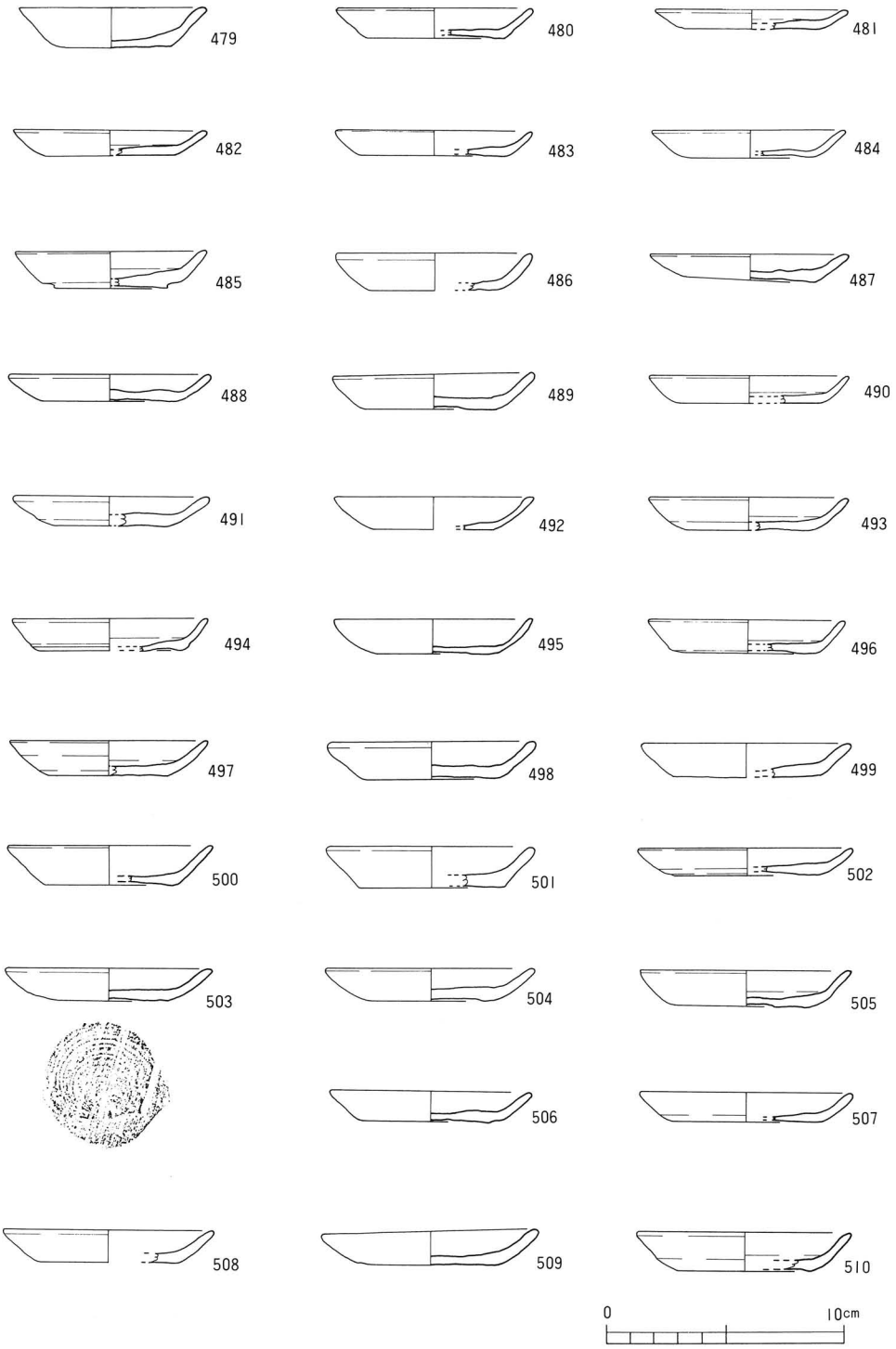
第110図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (2)



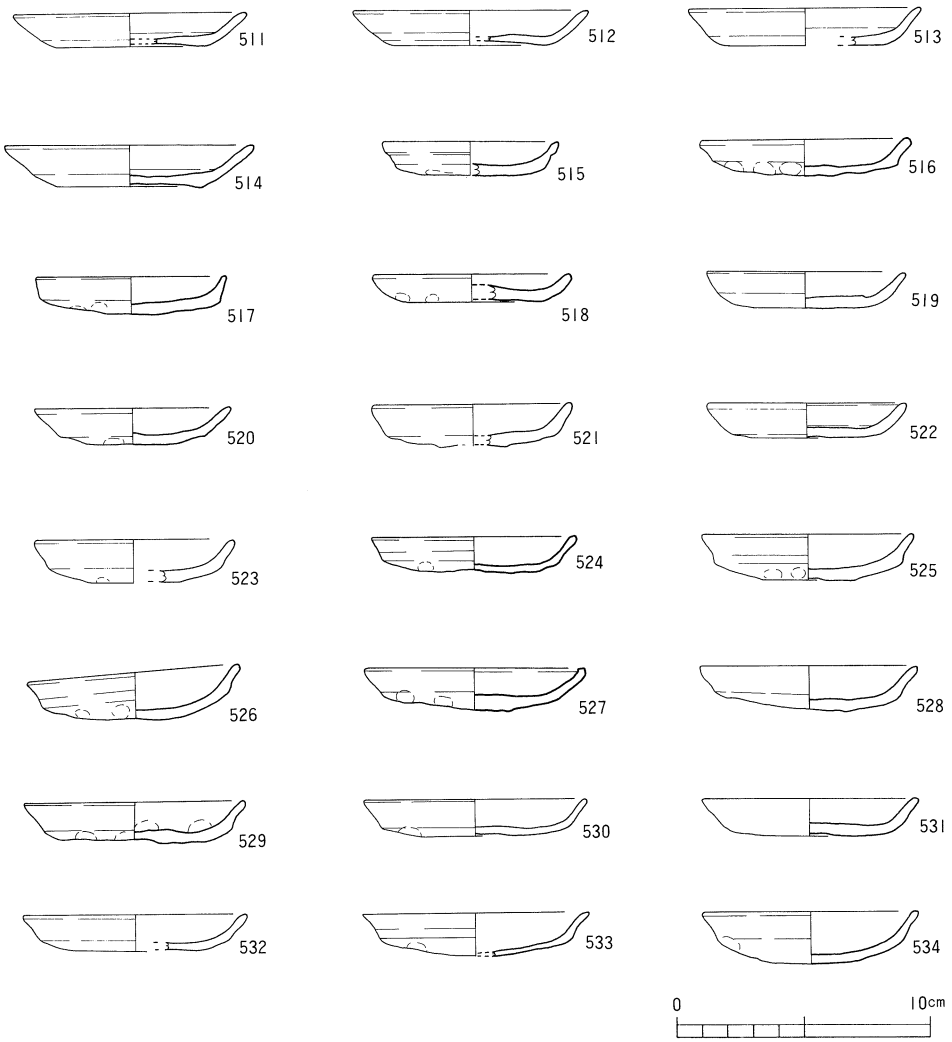
第111図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (3)



第112図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (4)



第113図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (5)



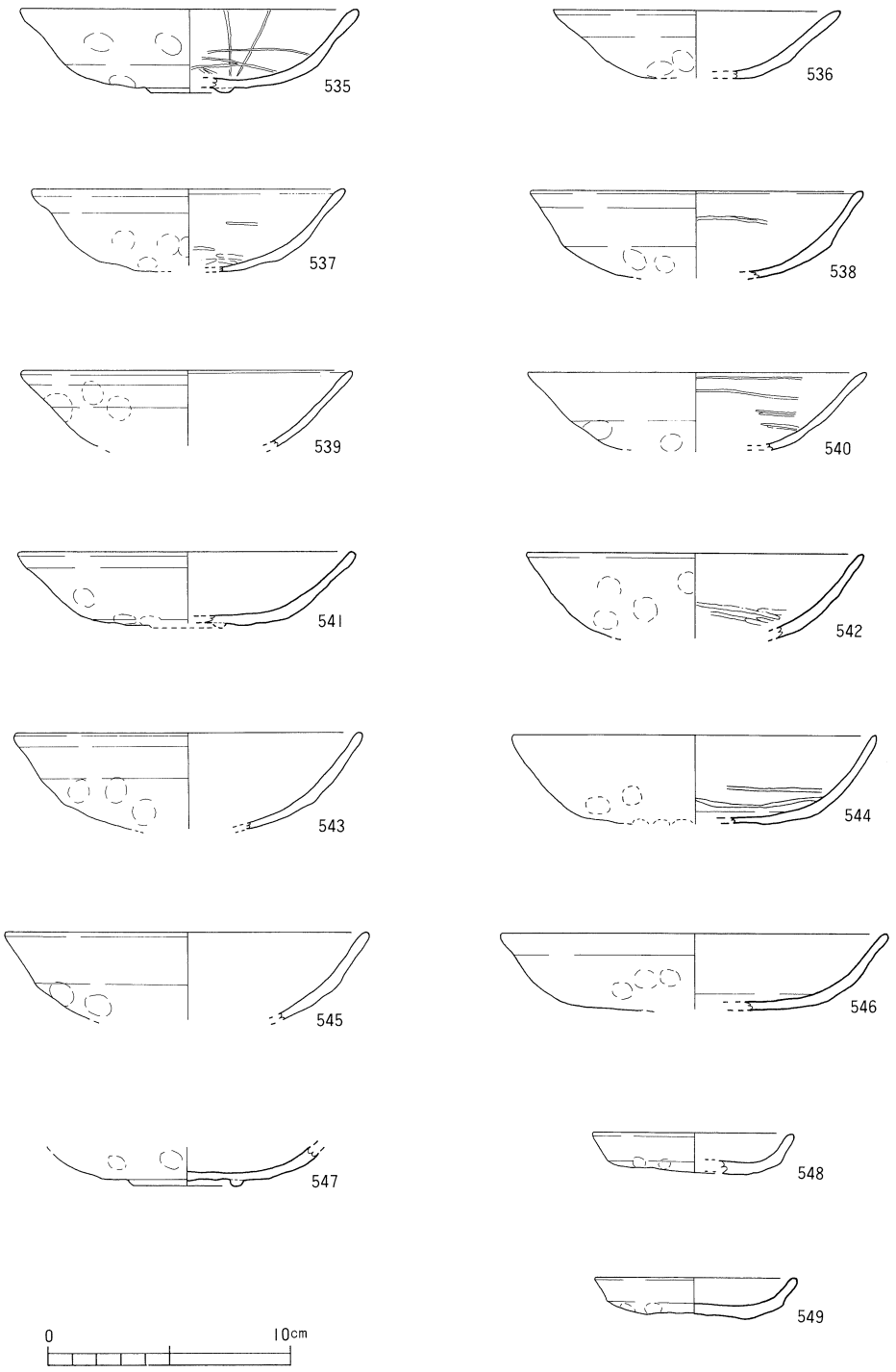
第114図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (6)

竈（第117図、563）

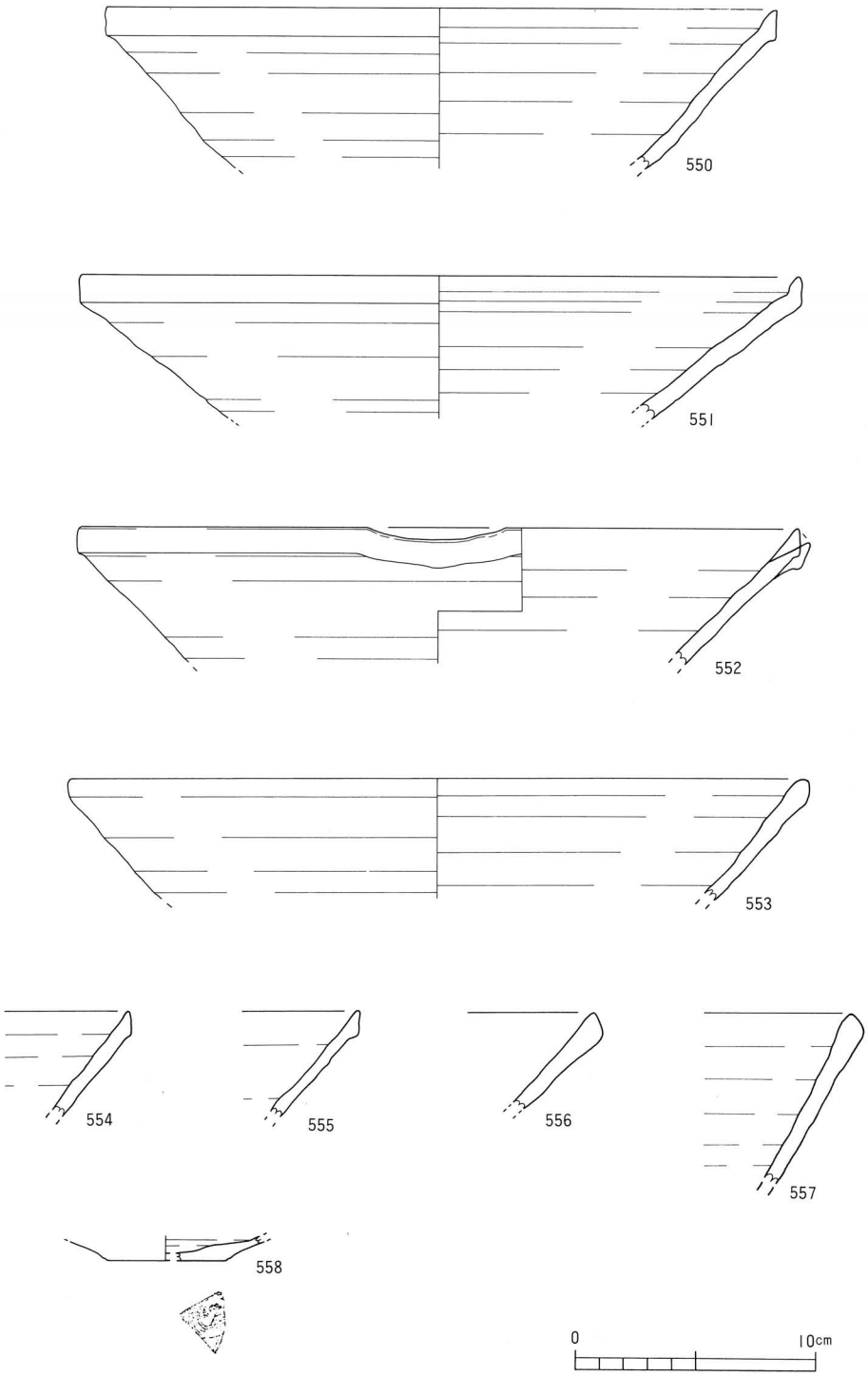
563は土師質の置き竈で、馬蹄形を呈している。釜穴の口径は推定で約28cmを測る。焚口上部の外面には、縦方向の刷毛目が施されている。廂部は斜め上方向に伸び、端部を丸く仕上げており、曲げ廂となる。

青磁皿（第117図、564）

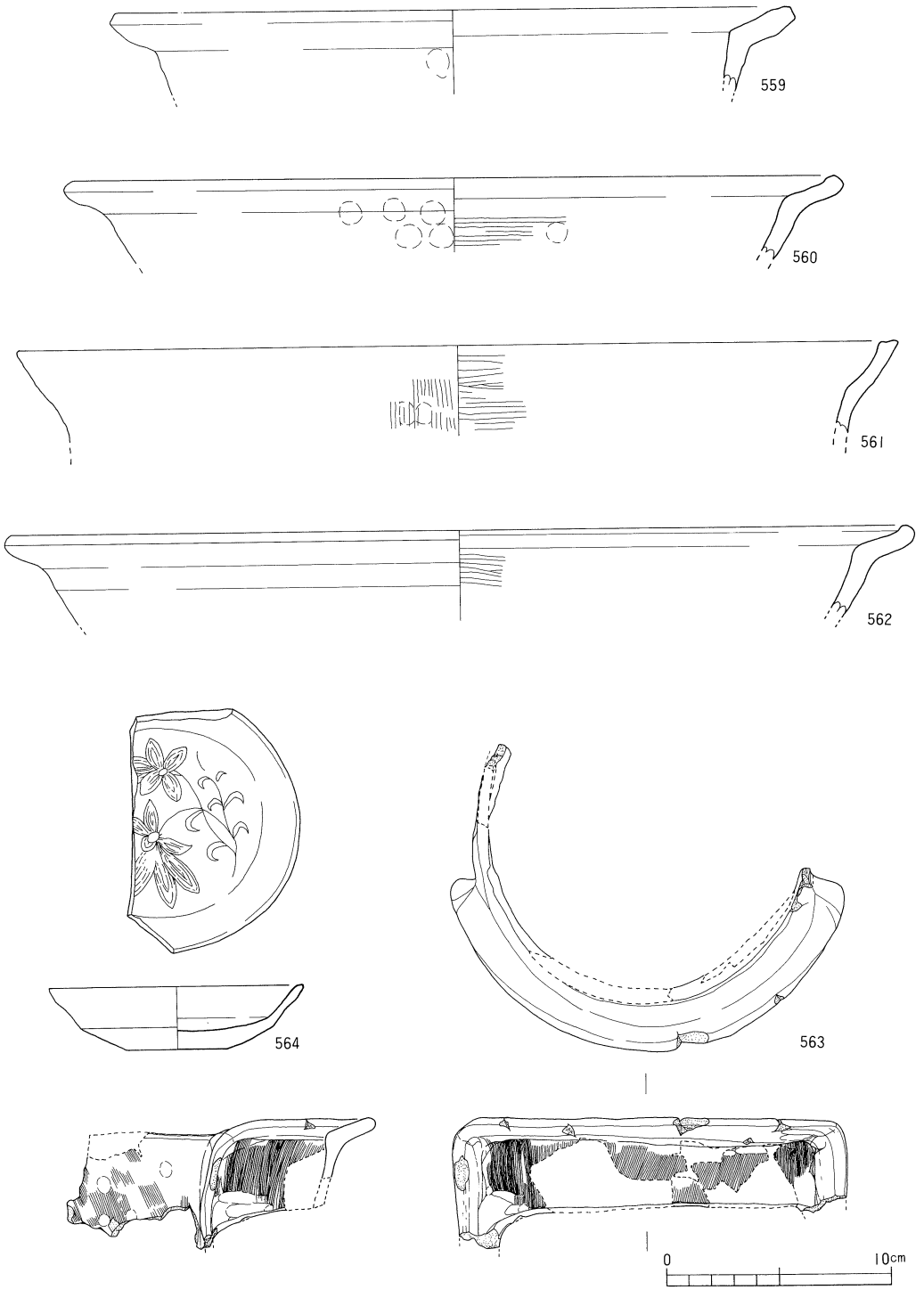
564は口径11.4cm、器高2.8cm、底径4.4cmを測る。内面見込み部には、草花文のスタンプが押されている。薄い緑色をおびた灰白色の釉がかかり、施釉後に底面の釉をカキ取っている。底面には墨書らしき跡がみられる。龍泉窯系のものと考えられる。



第115図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (7)



第116図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (8)



第117図　ＳＤ－８出土遺物実測図 (9) (563のみ1/6)

ＳＤ－９（第118図）

ＳＤ－９はＮ８・９・10W31・32において検出した南北方向の溝である。ＳＤ－８同様に、検出前に遺物が密集して出土していた。長さ約9.80ｍ、幅約1.70ｍ、深さ約0.08ｍを測る。主軸はＳＤ－８と同じＮ－10°－Ｅである。北側部分は東西幅約0.4ｍと細くなる。断面形は台形状を呈し、中央に高まりをもつ。埋土は黒色粘土である。検出後の出土遺物には土師器・須恵器があり、細片のため図示できなかった。

ＳＤ－10（第119図）

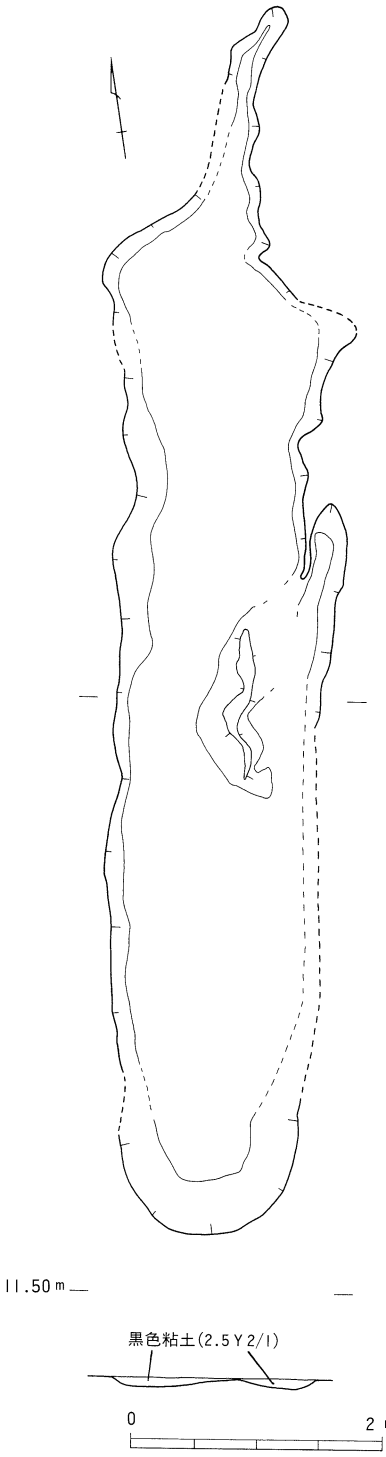
ＳＤ－10はＮ７W32において検出した南北方向の溝である。北側はＳＫ－９に切られている。長さ約2.10ｍ、幅約0.50ｍ、深さ約0.03ｍを測る。主軸はＮ－10°－Ｅである。断面形は平底状を呈し、埋土は暗灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、土鍋・須恵器の破片がある。

ＳＤ－10出土遺物（第120図）

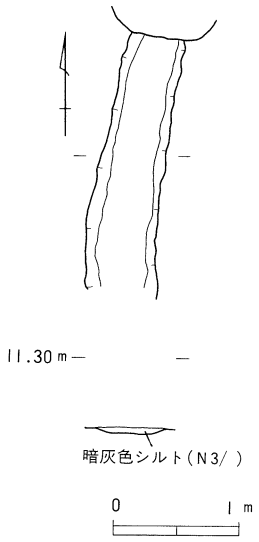
565・566は土師器杯で、いずれも底面は回転糸切りである。内外面とも撫でが施されている。565は口径14.0cm、器高3.6cmを測る。566は口径12.0cm、器高2.5cmを測る。

567は土師器皿で、手づくねによるものである。口径8.0cm、器高1.3cmを測る。

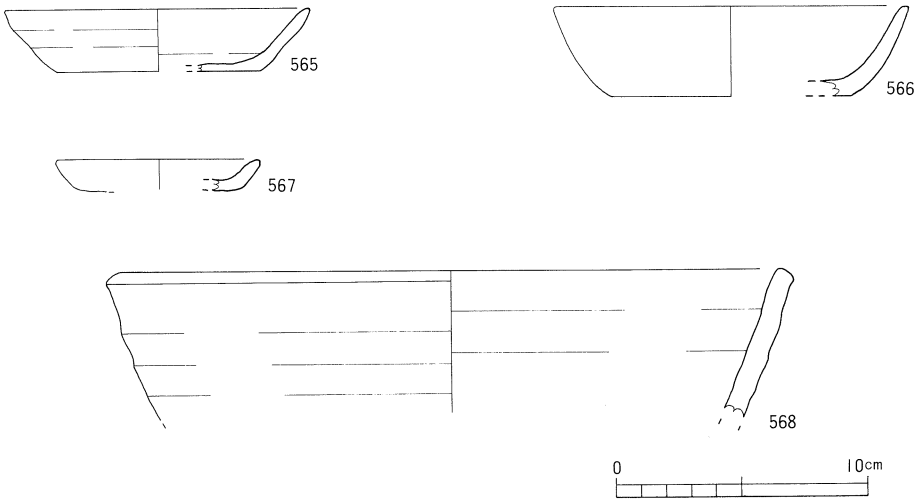
568はこね鉢の口縁部である。口縁部の断面は四角形を呈している。口径26.0cmを測る。



第118図　ＳＤ－９測量図



第119図　ＳＤ－10測量図



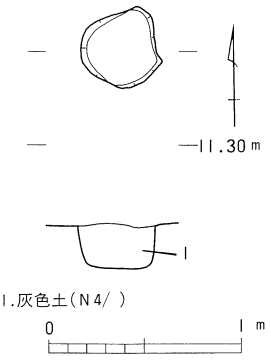
第120図　ＳＤ－１０出土遺物実測図

柱穴状遺構

調査区において、33基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

ＳＰ－７（第121図）

ＳＰ－７はＮ８Ｗ33・34において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.45ｍ、短軸約0.40ｍ、深さ約0.21ｍを測る。埋土は灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器・須恵器・青磁碗・砥石の破片がある。



第121図　ＳＰ－７測量図

ＳＰ－７出土遺物（第123図、569～574）

569・570は土師器杯である。570の底面は回転糸切りである。569は口径11cmを測る。570は口径11.4cm、器高2.9cmを測り、内外面とも撫でが施されている。底部から内弯しながら立ち上がり、口縁部がやや肥厚し端部を丸く仕上げている。

571～573は土師器皿で、全て底面が回転糸切りである。口径7.0～9.0cm、器高1.4～1.5cmを測る。

574は常滑焼の甕の底部である。底径14.0cmを測る。底部から外方向へ立ち上がりながら内弯していく。内面にはオリーブ色の釉がかかっている。

ＳＰ－１３（第122図）

ＳＰ－13はＮ７Ｗ33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45ｍ、短軸約0.35ｍ、深さ約0.35ｍを測る。埋土は暗青灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土鍋の破片がある。

ＳＰ－１３出土遺物（第123図、575）

575は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径13.0cm、器高3.1cmを測る。内外面とも横撫でが施されている。

ＳＰ－１５（第122図）

ＳＰ－15はＮ８Ｗ33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.50ｍ、短軸約0.46ｍ、深さ約0.20ｍを測る。埋土はオリーブ灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器の破片がある。

ＳＰ－１５出土遺物（第123図、576）

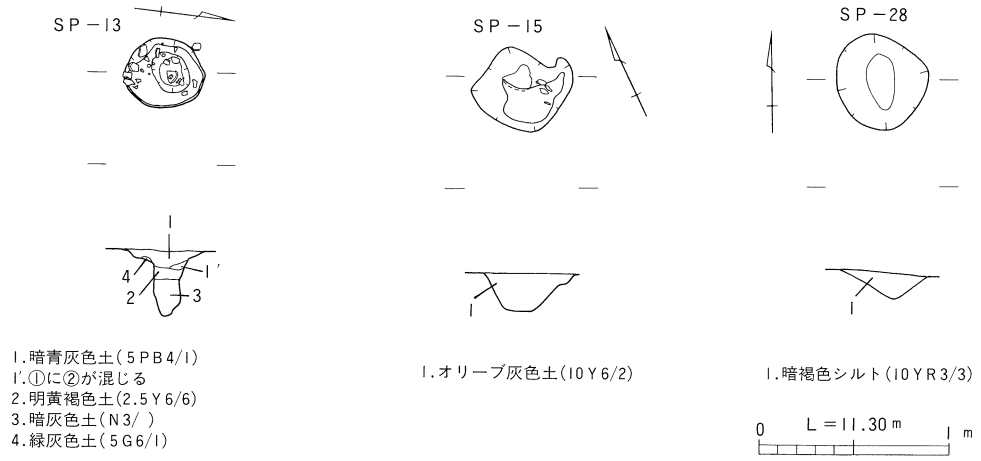
576は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.8cm、器高3.5cmを測る。内外面とも横撫でが施されている。

ＳＰ－２８（第122図）

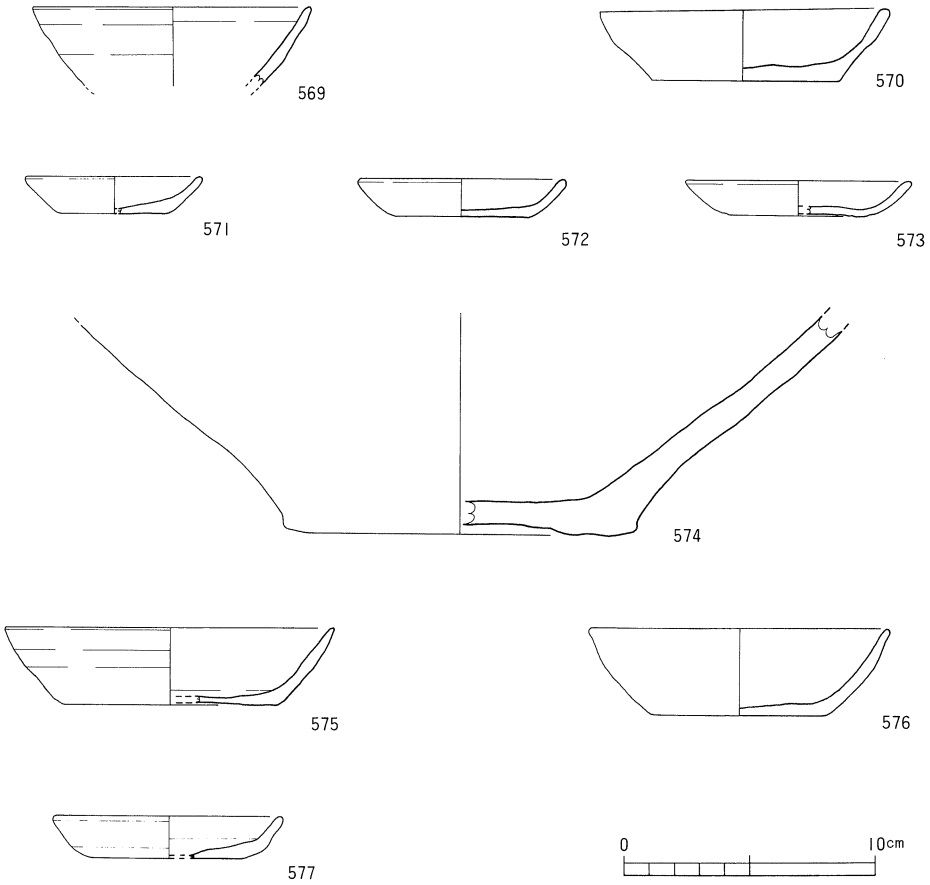
ＳＰ－28はＮ９Ｗ32において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.50ｍ、短軸約0.43ｍ、深さ約0.10ｍを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器の破片がある。

ＳＰ－２８出土遺物（第123図、577）

577は土師器皿である。底面は摩滅しているが、板状圧痕がみられ回転糸切りと思われる。口径9.2cm、器高1.7cmを測る。



第122図　ＳＰ－13・15・28測量図



第123図　ＳＰ－７・１３・１５・２８出土遺物実測図

土器集積遺構

調査区内の３箇所で検出した。明確な掘り方は認められず、土師器などが数枚重なって検出されたものである。

１号集積（第124図）

Ｎ７Ｗ33において、土師器杯及び皿が重積して出土した。約20枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したもののみである。

１号集積出土遺物（第127図、581～597）

581・582は土師器杯である。581は口径13.0cmを測り、内外面とも横撫でが施されている。582の底面は回転糸切りである。

583～597は土師器皿である。597のみ手づくねで口径7.6cmを測り、他は全て底面回転糸切

りである。596・592・593・594・588・590・595はほぼ完形品で、口径6.3～8.4cm、器高0.8～1.5cmを測る。

２号集積（第126図）

Ｎ８Ｗ33において検出した。約８枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したもののみである。

２号集積出土遺物（第127図、598～602）

598～601は土師器杯で、601のみ手づくねで口径13.2cmを測り、他は全て底面糸切りである。599は口径12.6cm、器高3.2cm、600は口径13.8cm、器高3.0cmを測る。

602は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.8cm、器高1.4cmを測る。

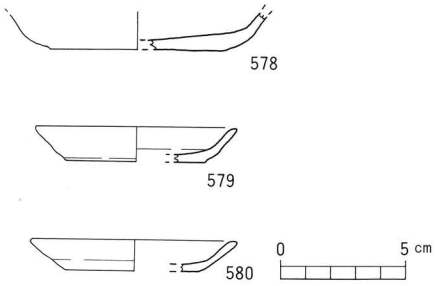
３号集積

Ｎ７Ｗ33において検出した。約５枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したもののみである。

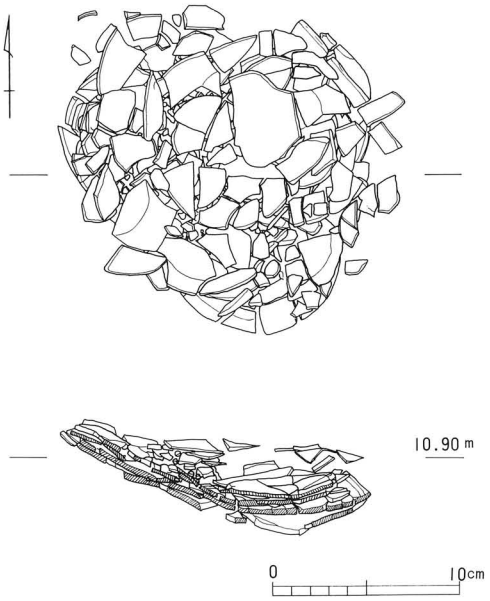
３号集積出土遺物（第125図）

578は土師器杯で、底面回転糸切りである。

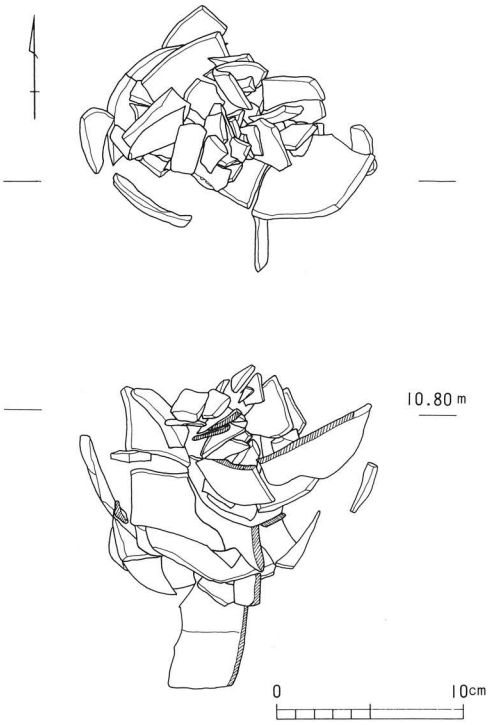
579・580は土師器皿で、底面回転糸切りである。



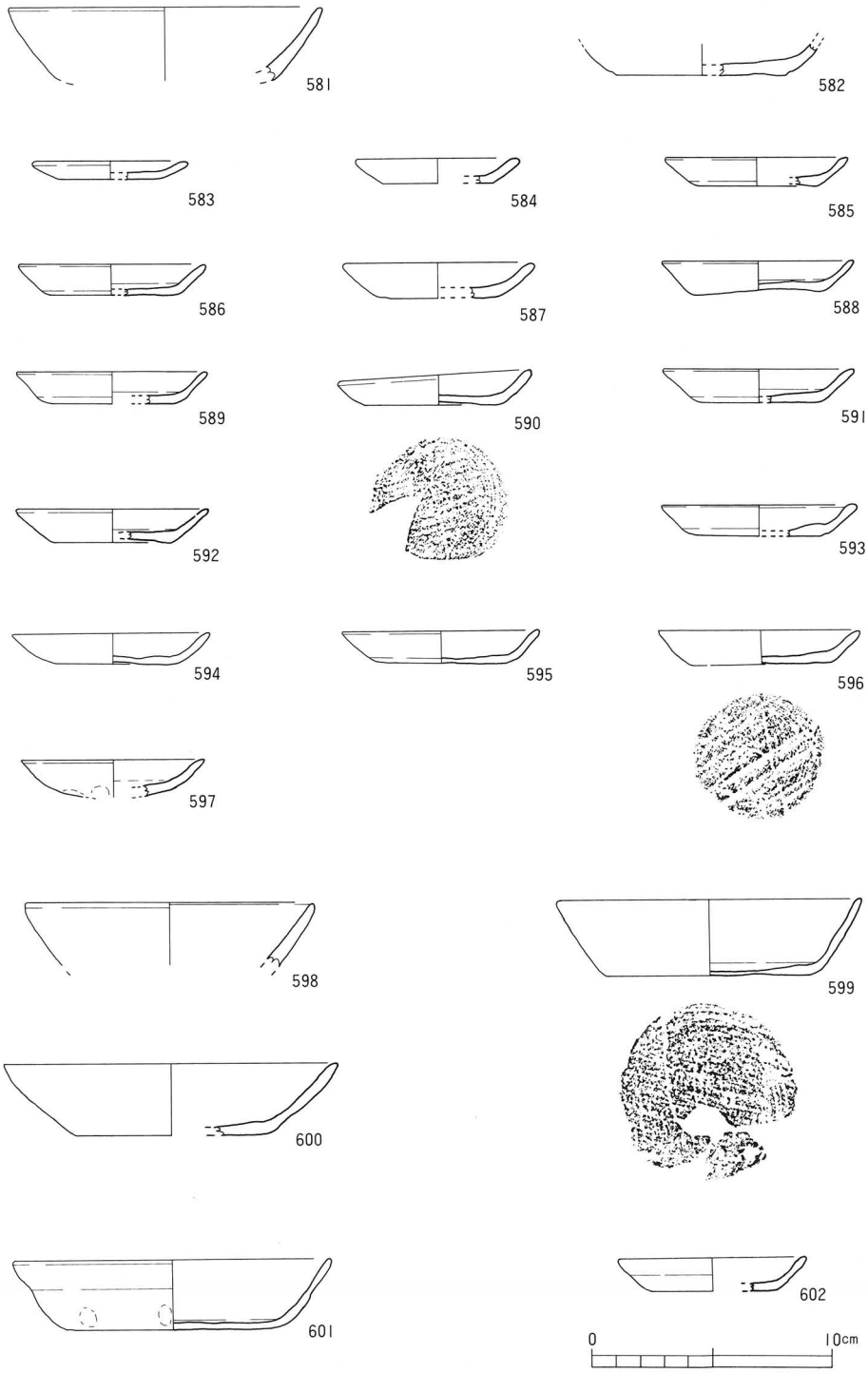
第125図　３号集積遺構出土遺物実測図



第124図　１号集積遺構測量図



第126図　２号集積遺構測量図



第127図　1・2号集積遺構出土遺物実測図

性格不明遺構

調査区において、58基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

ＳＸ－３（第128図）

ＳＸ－３はＮ８Ｗ33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.45ｍ、短軸約0.26ｍ、深さ約0.33ｍを測る。埋土は黒色シルトなどである。出土遺物には図示したものの他、土師質の土釜の破片がある。

ＳＸ－３出土遺物（第129図、603・604・605）

603・604は土師器皿で、底面は回転糸切りである。

605は瓦器椀の口縁部で、口径13.8cmを測る。

ＳＸ－５（第128図）

ＳＸ－５はＮ８Ｗ34において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.40ｍ、短軸約0.22ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、土師器の破片がある。

ＳＸ－５出土遺物（第129図、606～614）

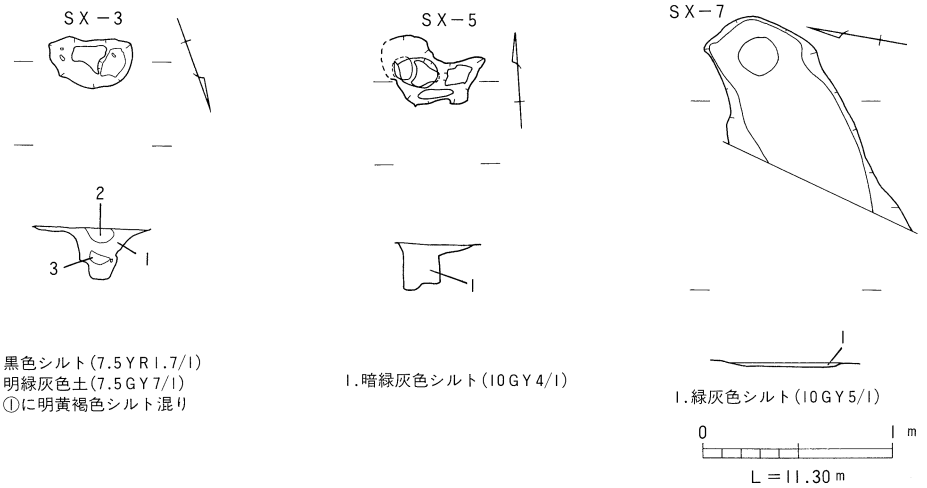
606・607は土師器杯である。底面は回転糸切りである。606は口径12.3cm、器高3.2cm、607は口径13.4cm、器高3.6cmを測る。

608～613は土師器皿で、いずれの底面も回転糸切りである。口径7.6～8.8cm、器高1.2～1.6cmを測る。

614は瓦器椀である。口径15.4cmを測る。全体に摩滅している。

ＳＸ－７（第128図）

ＳＸ－７はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形の長方形で、検出した長軸約1.10ｍ、短軸約0.70ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は緑灰色シルトである。床面からＳＡ－１の



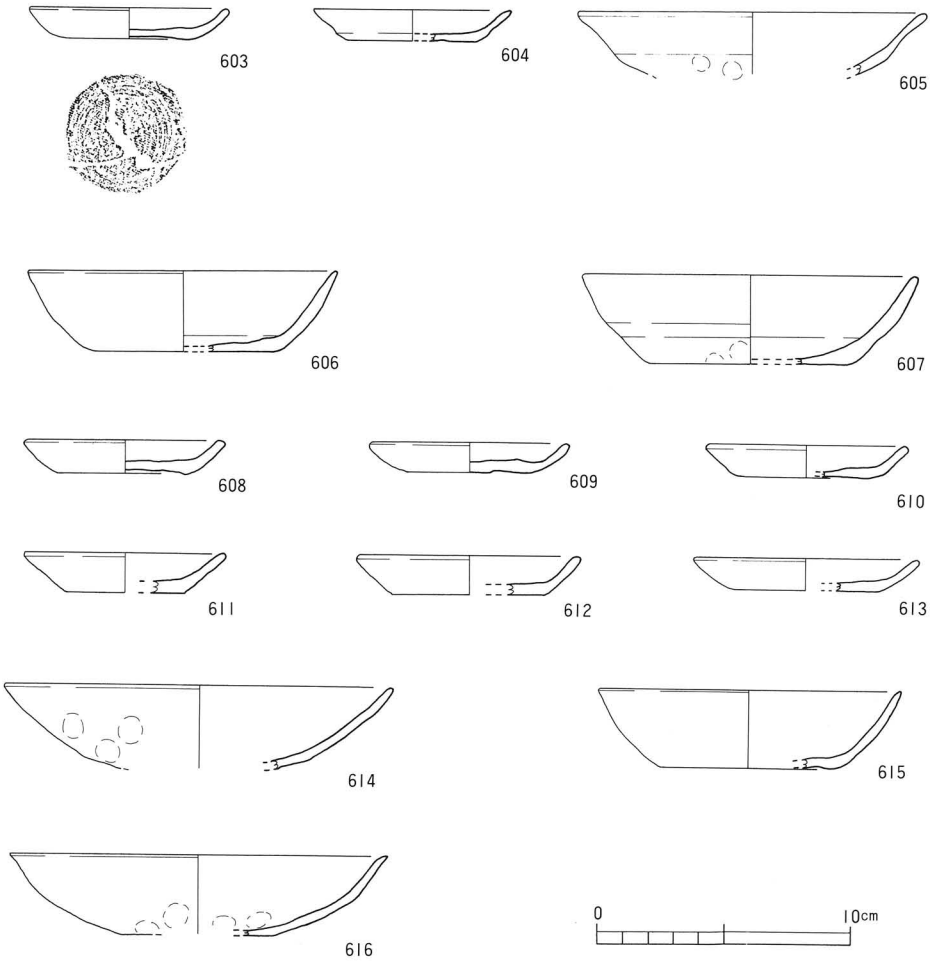
第128図　ＳＸ－３・５・７測量図

Ｐ７を検出した。出土遺物には図示したものの他、土師質の土鍋がある。

ＳＸ－７出土遺物（第129図、615・616）

615は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.8cm、器高3.1cmを測る。

616は瓦器椀で、口径15.0cmを測る。



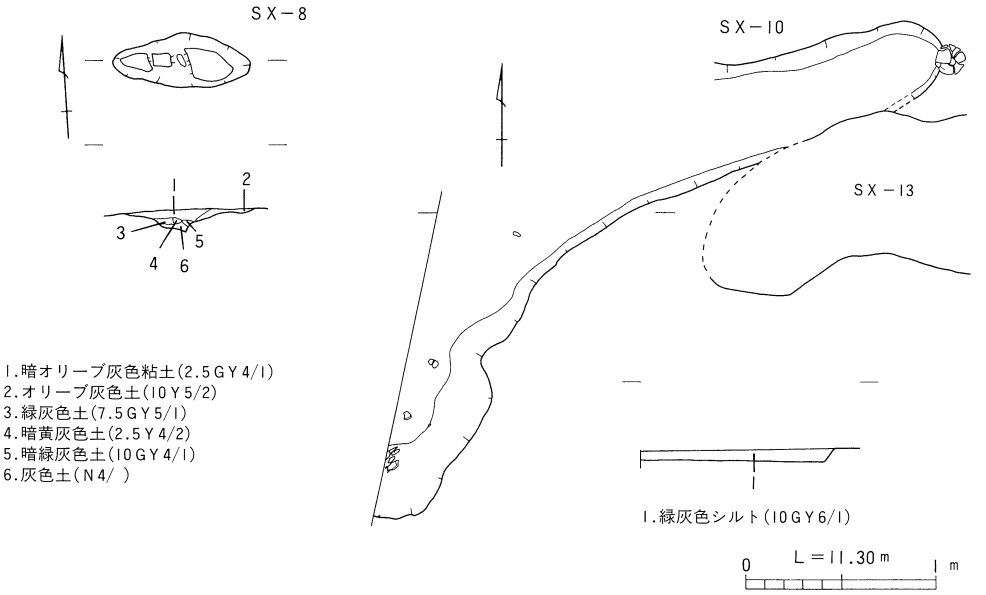
第129図　ＳＸ－３・５・７出土遺物実測図

ＳＸ－８（第130図）

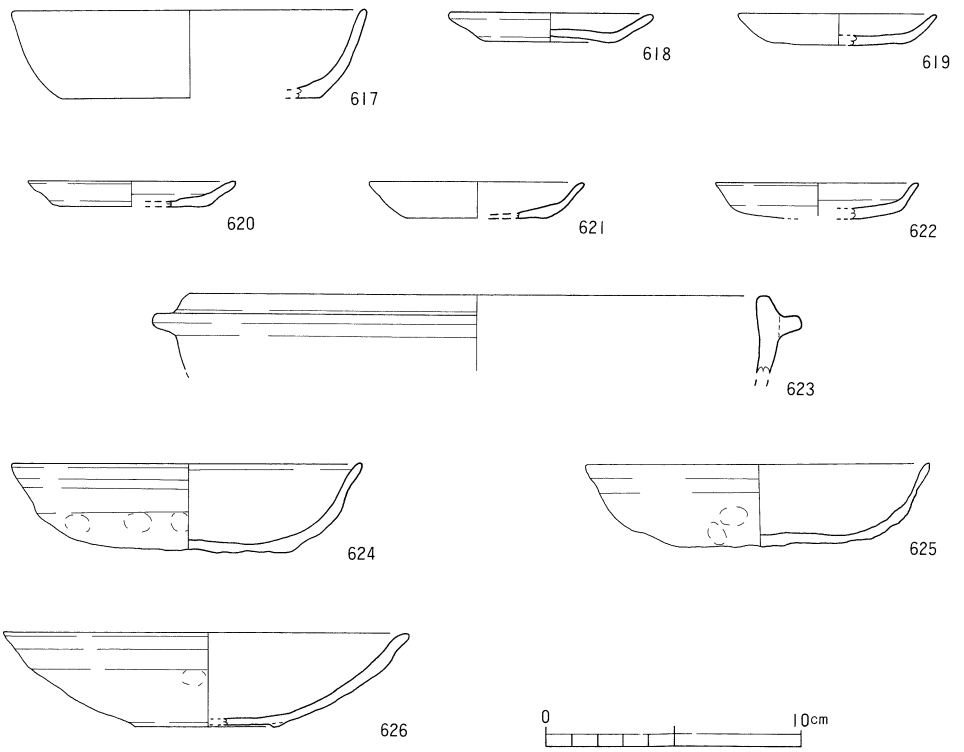
ＳＸ－８はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形の長方形で、長軸約0.65ｍ、短軸約0.30ｍ、深さ約0.10ｍを測る。埋土は暗オリーブ灰色粘土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

ＳＸ－８出土遺物（第131図、617～623）

617は土師器杯で、底面が回転糸切りのものである。口径14.0cm、器高3.5cmを測る。



第130図　SX－8・10測量図



第131図　SX－8・10出土遺物実測図

618～622は土師器皿である。618～621の底面は回転糸切りである。口径7.6～8.6cm、器高1.0～1.5cmを測る。622は手づくねで口径8.0cmを測る。

623は土師質の土釜の口縁部である。口径22.5cmを測る。

ＳＸ－10（第130図）

ＳＸ－10はＮ９・10W33において検出した。東南部の一部はＳＸ－13に切られている。平面形は長円形で、長軸約1.90ｍ、短軸約0.35ｍ以上、深さ約0.06ｍを測る。埋土は緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜・青磁碗の破片がある。

ＳＸ－10出土遺物（第131図、624・625・626）

624・625は土師器杯で、手づくねのものである。624はほぼ完形品で口径13.8cm、器高3.4cmを測る。625は口径13.6cm、器高3.2cmを測る。

626は瓦器椀で、口径16.0cm、器高3.8cm、高台径5.4cmを測る。粘土紐を貼り付けただけの形骸化した高台で、全体に摩滅している。

ＳＸ－12（第132図）

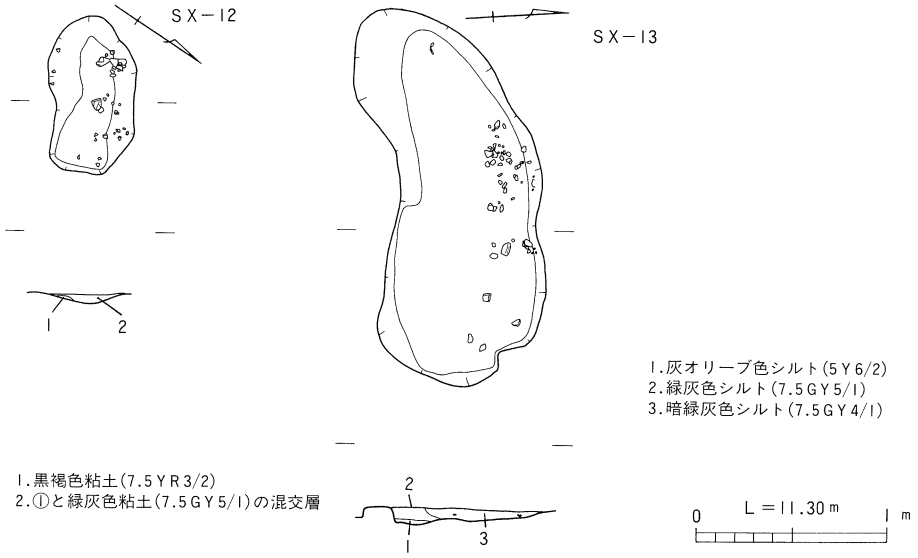
ＳＸ－12はＮ９W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45ｍ、短軸約0.40ｍ以上、深さ約0.04ｍを測る。埋土は黒褐色粘土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

ＳＸ－12出土遺物（第133図、627）

627は土師器杯の底部である。摩滅しているが、底面は回転糸切りと思われる。

ＳＸ－13（第132図）

ＳＸ－13はＮ９W33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.90ｍ、短軸



第132図　ＳＸ－12・13測量図

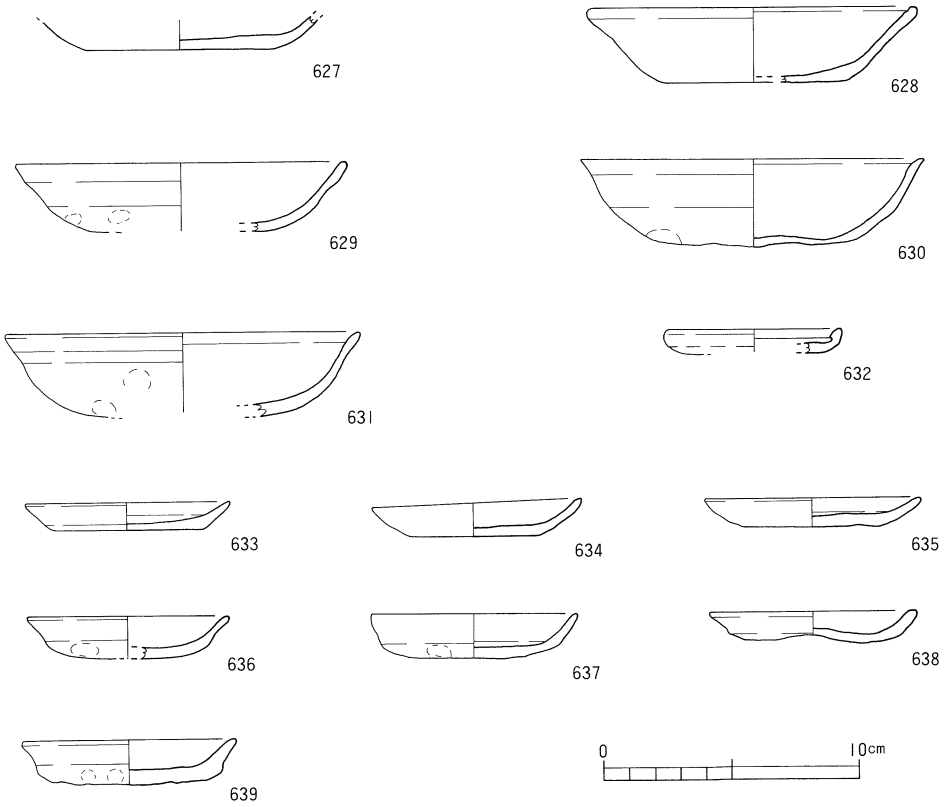
約0.50m、深さ約0.06mを測る。埋土は暗緑灰色シルトなどである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・須恵器・土師質の土釜・青磁碗の破片、ガラス質スラグの付着した炉片がある。

ＳＸ－１３出土遺物（第133図、628～639）

628～631は土師器杯である。628の底面は回転糸切りである。口径12.6cm、器高3.0cmを測る。629・630・631は手づくねの杯である。629は口径13.0cm、630は口径13.4cm、器高3.5cm、631は口径14.0cmを測る。630はほぼ完形品である。

632～639は土師器皿である。633・634・635は底面回転糸切りで、口径8.0～8.6cm、器高1.1～1.4cmを測る。636～639は手づくねのもので口径7.9～8.4cm、器高1.2～1.8cmを測る。634・635・637・639はほぼ完形品である。

632は、口縁部が内側に折り曲げられている。口径7.0cm、器高1.0cmを測り、本調査区からはこの１点のみの出土である。



第133図　ＳＸ－１２・１３出土遺物実測図

ＳＸ－20（第134図）

ＳＸ－20はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.43ｍ、短軸約0.90ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は暗灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器の破片がある。

ＳＸ－20出土遺物（第135図、640・641）

640は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.6cm、器高1.5cmを測る。

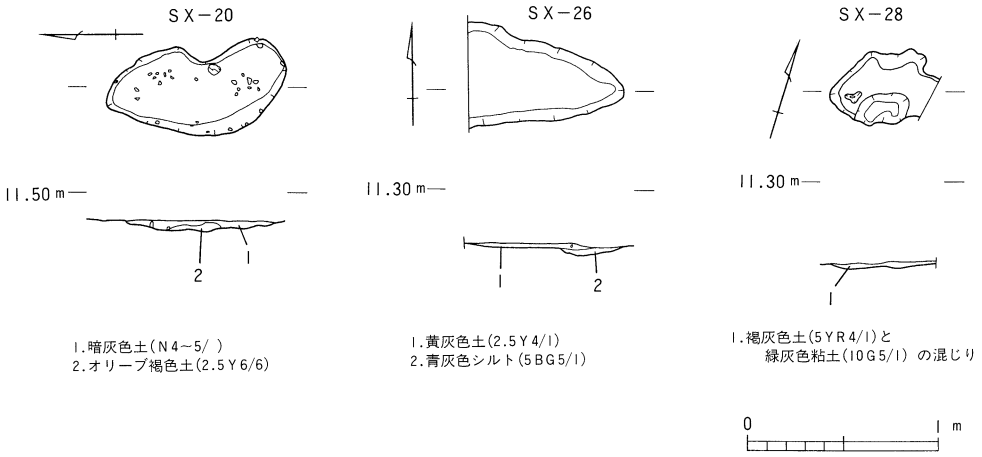
641は土師質の土鍋の口縁部である。口縁部内面には斜め方向の刷毛目、頸部外面には縦方向の刷毛目が施されている。

ＳＸ－26（第134図）

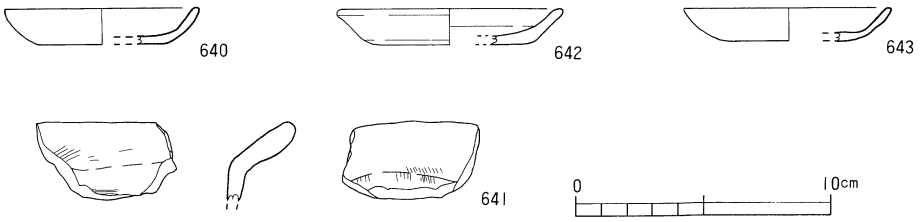
ＳＸ－26はＮ９Ｗ32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.65ｍ以上、短軸約0.45ｍ、深さ約0.03ｍを測る。埋土は黄灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

ＳＸ－26出土遺物（第135図、642）

642は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径9.0cm、器高1.4cmを測る。



第134図　ＳＸ－20・26・28測量図



第135図　ＳＸ－20・26・28出土遺物実測図

ＳＸ－28（第134図）

ＳＸ－28はＮ８Ｗ32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.55ｍ、短軸約0.40ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は褐灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

ＳＸ－28出土遺物（第135図、643）

643は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.2cm、器高1.3cmを測る。

ＳＸ－29（第136図）

ＳＸ－29はＮ７Ｗ33において検出した。南西部の一部はＳＸ－22に切られている。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.05ｍ、短軸約0.70ｍ、深さ約0.08ｍを測る。埋土は灰色土である。床面からＳＢ－１のＰ３が検出された。出土遺物には図示したものの他、土師器・瓦器の破片がある。

ＳＸ－29出土遺物（第137図、644）

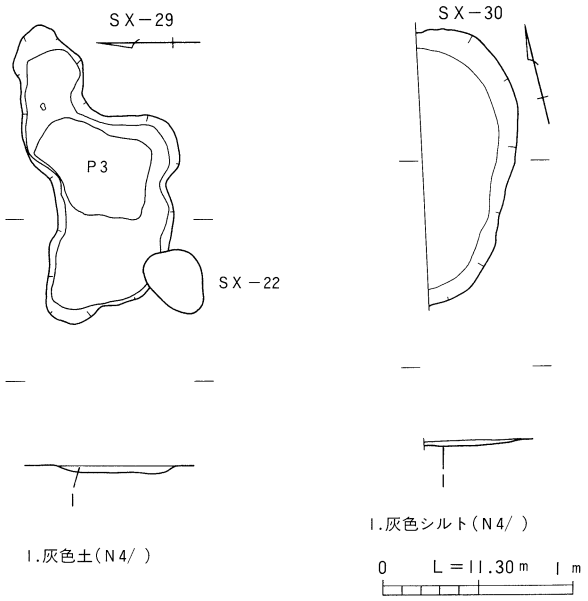
644は瓦質の鉢の口縁部である。

ＳＸ－30（第136図）

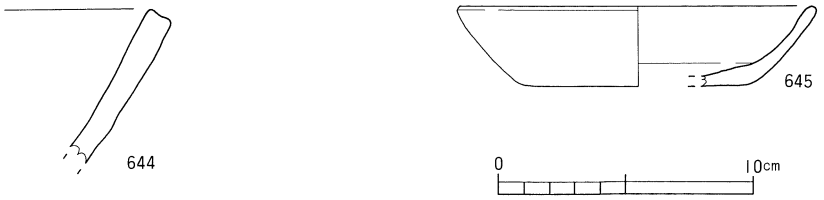
ＳＸ－30はＮ９Ｗ33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.50ｍ以上、短軸約1.30ｍ、深さ約0.03ｍを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には土師器がある。

ＳＸ－30出土遺物（第137図、645）

645は土師器杯である。底面は摩滅しているが、切り離しは回転糸によるものと思われる。口径14.0cm、器高3.2cmを測る。



第136図　ＳＸ－29・30測量図



第137図　ＳＸ－29・30出土遺物実測図

ＳＸ－33（第138図）

ＳＸ－33はＮ11Ｗ32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約2.30ｍ、短軸約1.90ｍ、深さ約0.07ｍを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

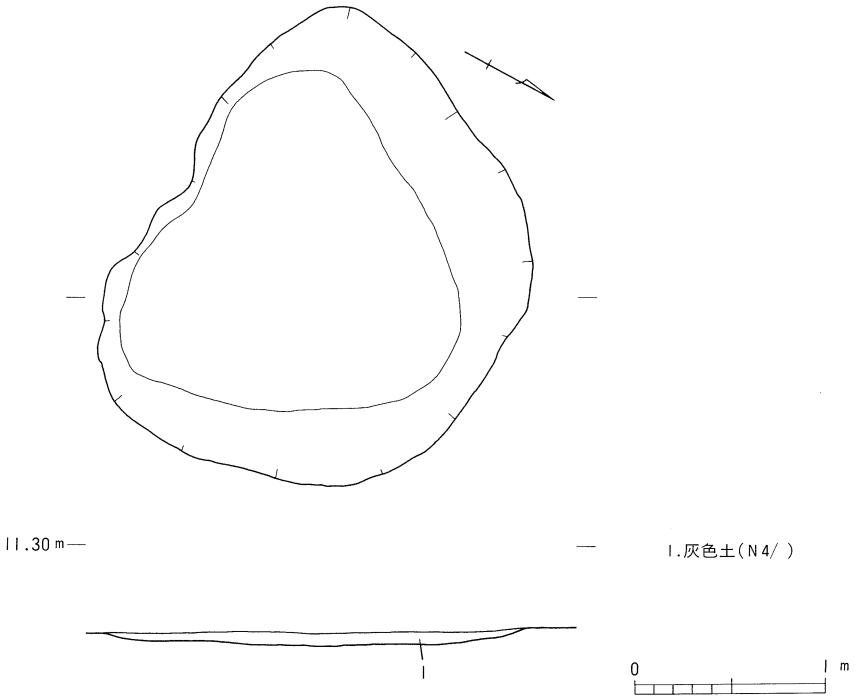
ＳＸ－33出土遺物（第139図）

646は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.2cm、器高3.2cmを測る。

647は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8:8cm、器高1.3cmを測る。

ＳＸ－34（第140図）

ＳＸ－34はＮ11Ｗ31において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.44ｍ、短軸約0.34ｍ、深さ約0.04ｍを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。



第138図　ＳＸ－33測量図

第139図　ＳＸ－33出土遺物実測図

ＳＸ－34出土遺物（第141図、648）

648は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.4cm、器高1.3cmを測る。

ＳＸ－49（第140図）

ＳＸ－49はＮ８Ｗ32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.26ｍ、短軸約0.13ｍ、深さ約0.03ｍを測る。埋土は暗緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器の破片がある。

ＳＸ－49出土遺物（第141・142図、649～666）

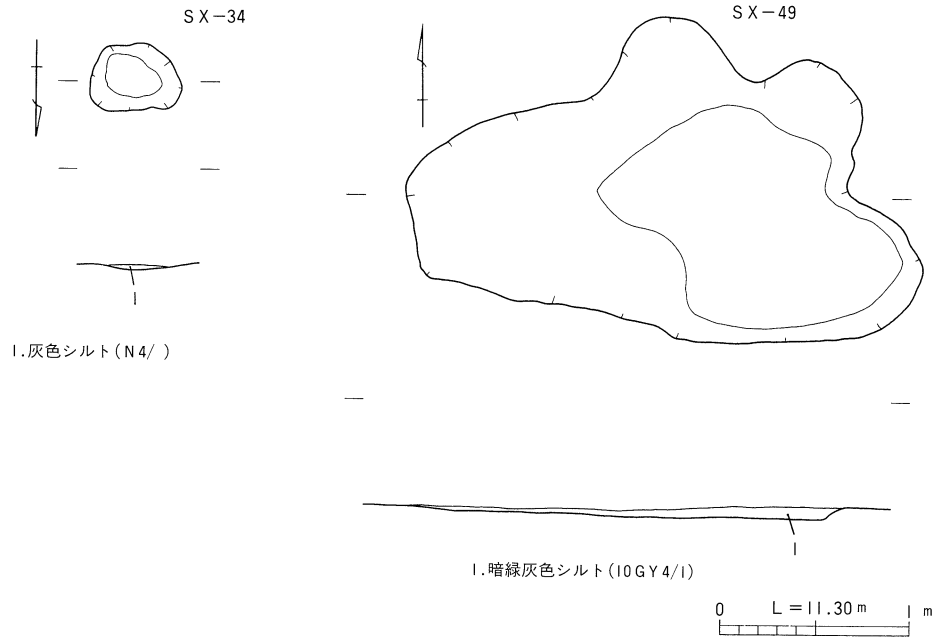
649～655は土師器杯である。全て底面は回転糸切りである。口径10.4～13.0cm、器高3.0～3.6cmを測る。

656～663は土師器皿である。656～660は底面が回転糸切りのものである。口径7.4～8.0cm、器高1.2～1.6cmを測る。661・662・663は手づくねのものである。口径7.8～8.4cm、器高1.2～1.5cmを測る。663は完形品である。

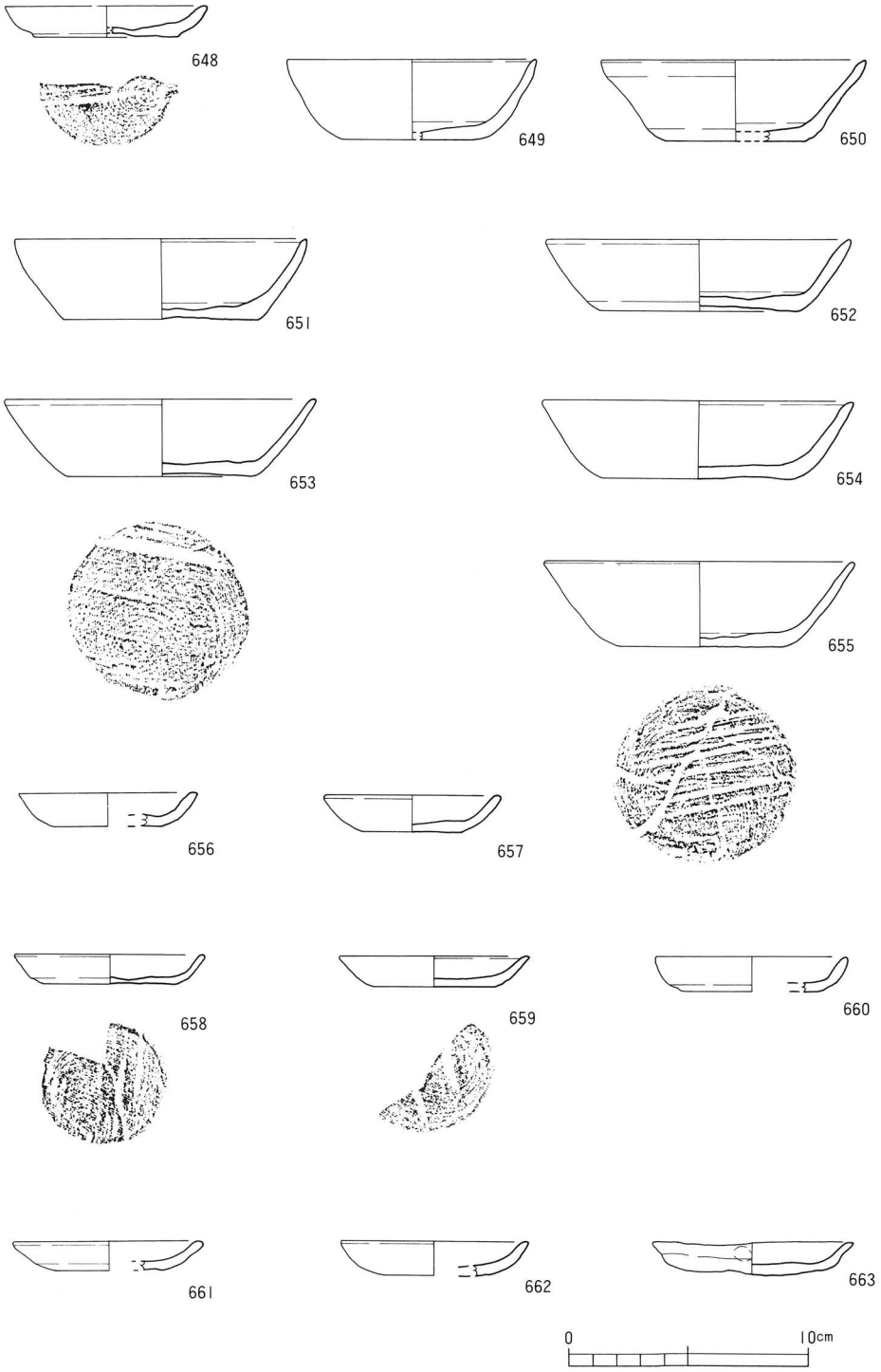
664は黒色土器Ａ類の椀底部である。高台径5.6cmを測り、全体に摩滅している。

665は土師質の土鍋の口縁部である。内面は横刷毛、外面は撫でが施されている。

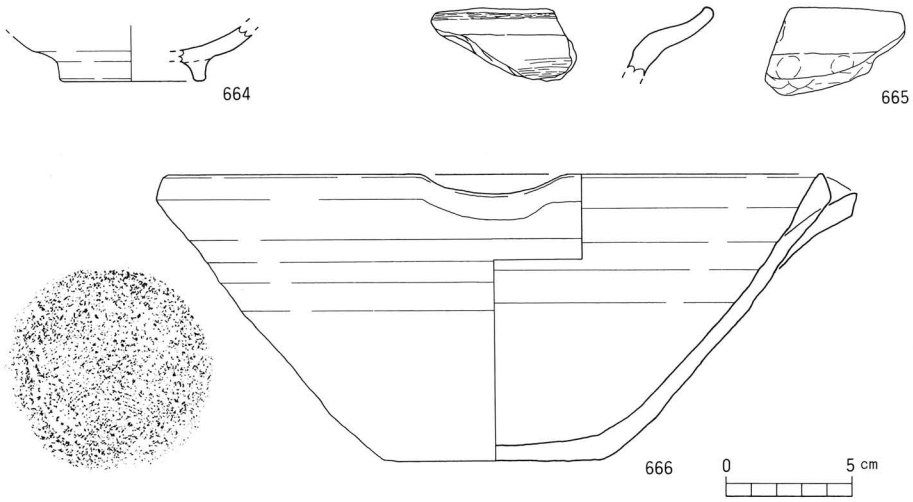
666は東播系こね鉢である。口縁部と体部の一部はＳＤ－８・Ｎ８Ｗ32から出土した破片と接合している。大部分がＳＸ－49出土である。口径26.0cm、器高11.4cm、底径8.8cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りである。内外面とも撫でが施されている。底部内面から高さ約７cmまでの間、特に凹凸が著しい。



第140図　ＳＸ－34・49測量図



第141図　ＳＸ－34・49出土遺物実測図（1）



第142図　ＳＸ－49出土遺物実測図 (2)

ＳＸ－52（第143図）

ＳＸ－52はＮ８Ｗ32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.24ｍ、短軸約0.44ｍ、深さ約0.03ｍを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器の破片がある。

ＳＸ－52出土遺物（第144図、667・668）

667・668は土師器杯で、底面は回転糸切りである。667は口径12.6cm、器高3.0cmを測り、668は口径13.7cm、器高3.5cmを測る。

ＳＸ－53（第143図）

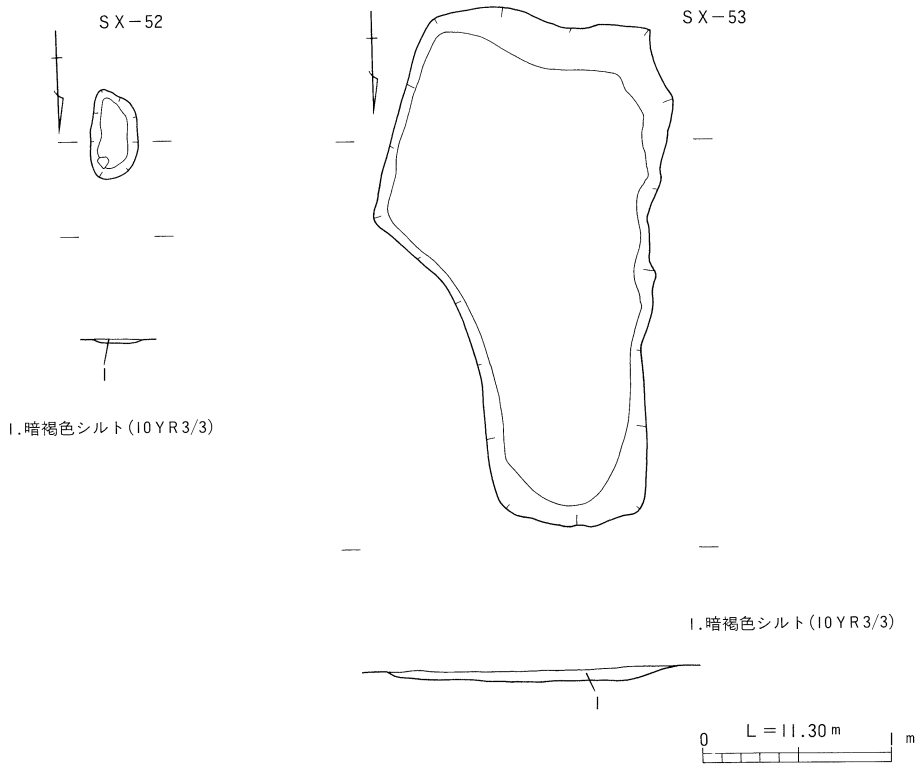
ＳＸ－53はＮ７Ｗ33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.14ｍ、短軸約0.25ｍ、深さ約0.05ｍを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器の破片がある。

ＳＸ－53出土遺物（第144図、669～674）

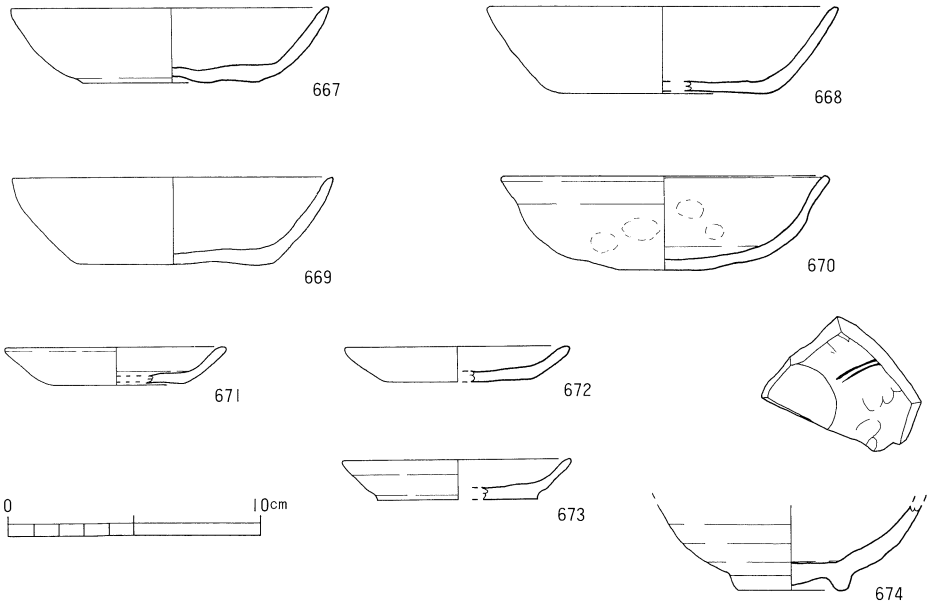
669・670は土師器杯である。669は底面が回転糸切り、670は手づくねのものである。669は完形品で口径12.7cm、器高3.5cm、底径7.4cmを測る。670は口径12.8cm、器高3.7cmを測る。

671・672・673は土師器皿で、いずれも底面は回転糸切りである。口径8.8～9.0cm、器高1.4～1.6cmを測る。

674は青磁碗である。高台は削り出しである。体部内面にはヘラによる花文が描かれている。内外面には明緑灰色の釉がかかり、高台部は無釉である。



第143図　SX－52・53測量図



第144図　SX－52・53出土遺物実測図

遺構外出土遺物

土師器杯（第145～153図）

675～757は全て底面回転糸切りの杯である（第145～151図）。682・686は完形品で、676・688・691・693・701・720・721・726・740・875はほぼ完形に近い。口径9.6～14cm、器高2.5～4.2cmを測る。675・676は器高に対して口径が小さく器高指数30.0を超えている。675は底部から直に上方向に伸びて口縁端部が肥厚しているものであり、678は口縁部外面に浅い段をもつ。

これらは、形態から数種類に分類可能であるが、その中で特徴的なものについて記述するならば、以下の通りである。

口縁端部が内傾するもの：679・680・682・683・685・686・696・702・703・704・707・708・714・721・736・737

口縁端部を細くさせるもの：678・689・694・698・700・723・724・729・735・738・743・745・747

口縁端部が外反するもの：681・684・692・706・711・712・715・734・746

口縁端部が肥厚するもの：705

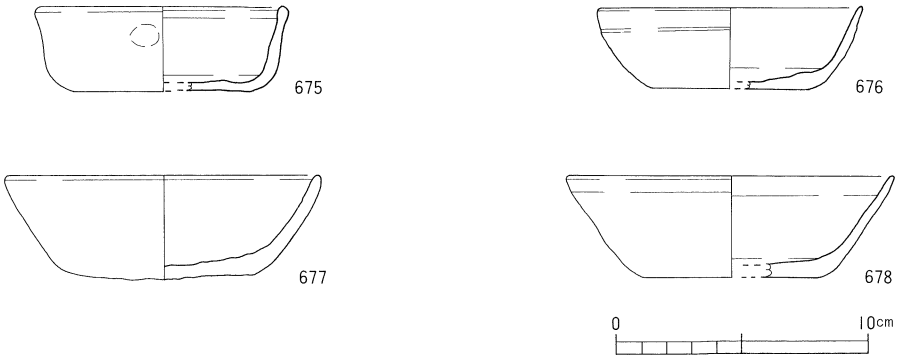
底部から内傾気味に立ち上がるもの：687・688・691・697・701・710・713・716・717・719・720・721・722・726・727・730・732・733・740・742・748・749・751・754・755・756・757

底部から外傾気味に立ち上がるもの：690・695・699・709・718・725・728・731・739・741・744・750

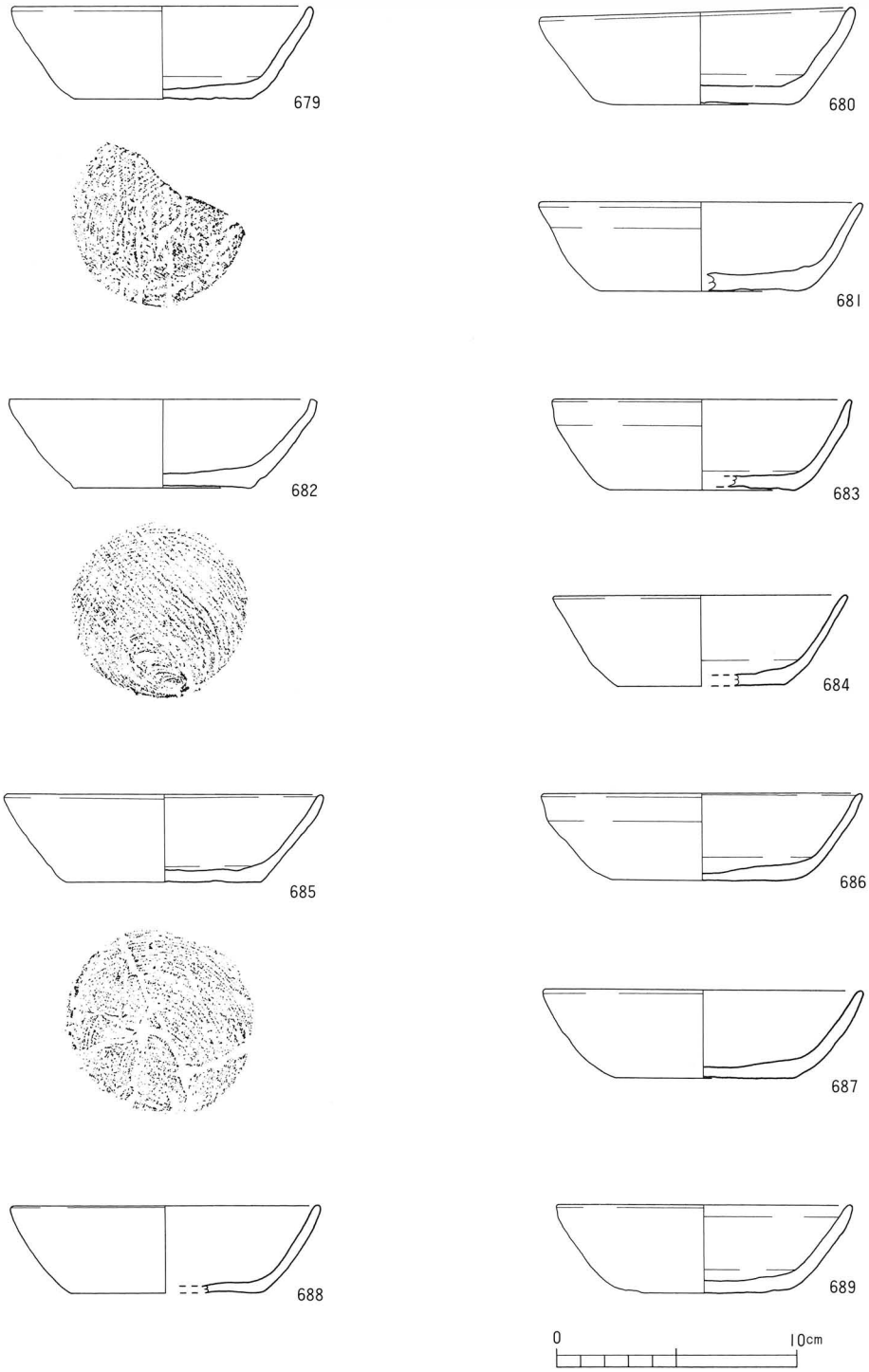
705は底部から内弯しながら上方向に立ち上がっている。

724は体部外面に多段の横撫でが施されている。

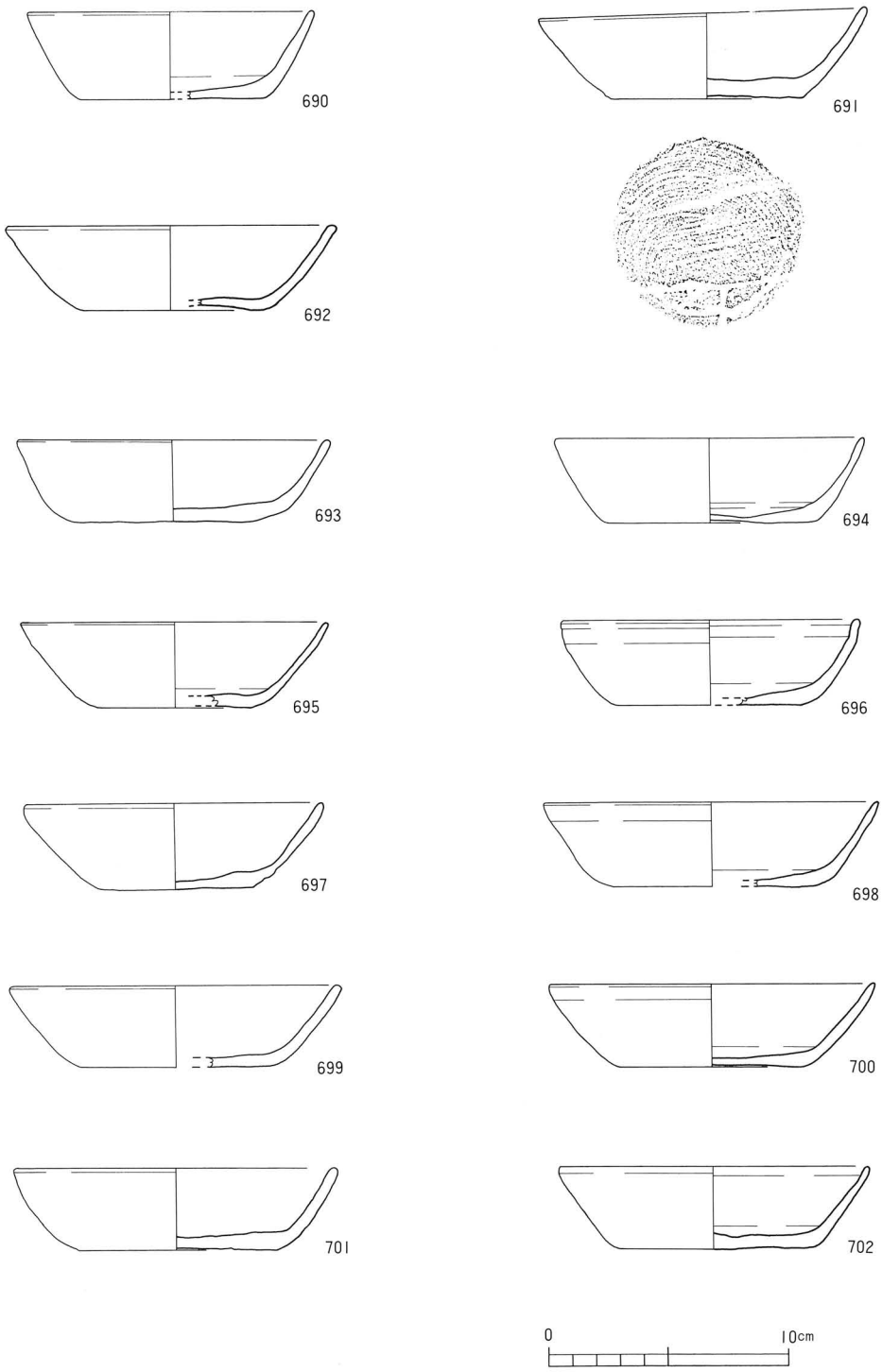
736の口縁部は屈曲して内傾している。



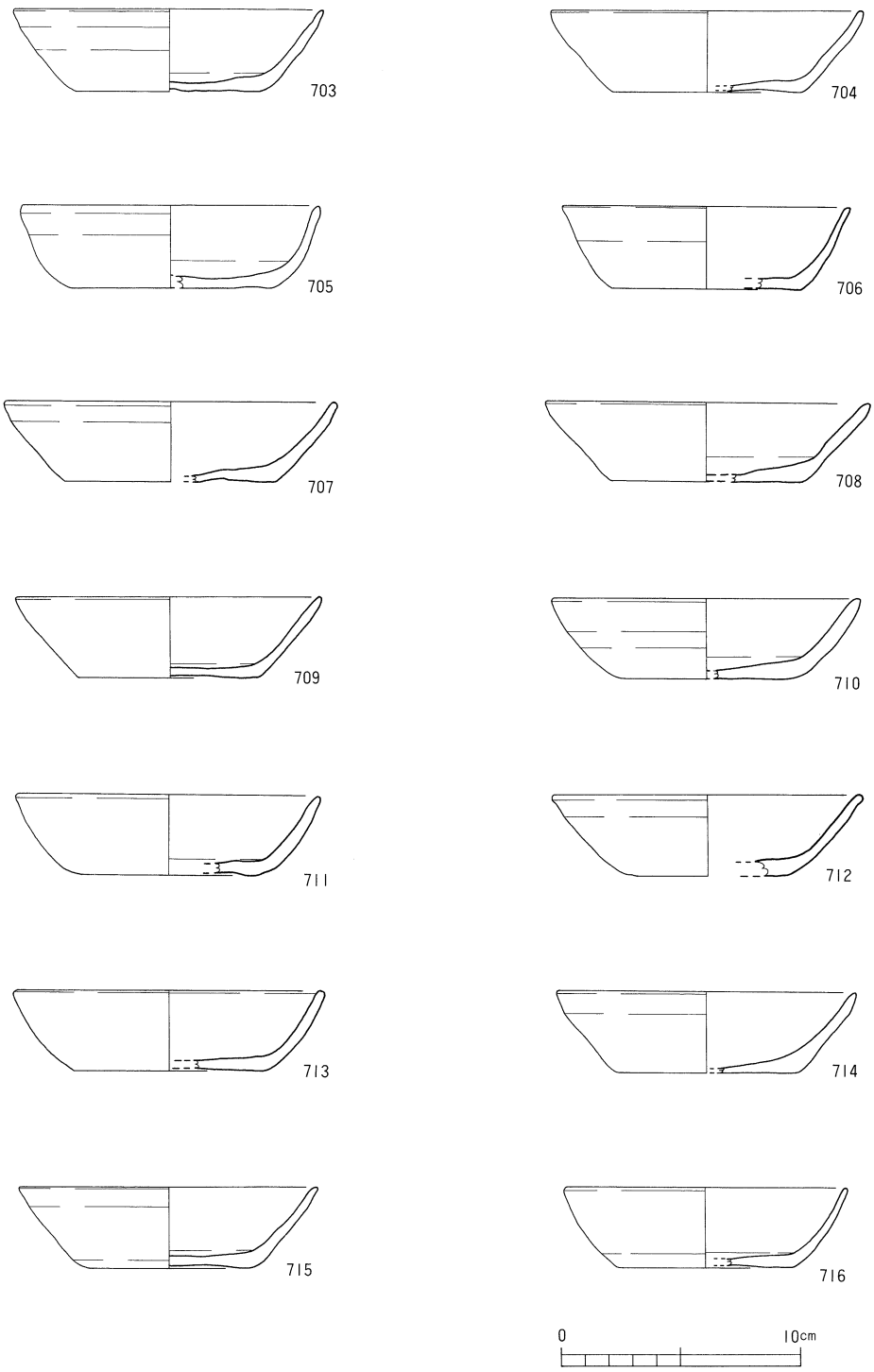
第145図　遺構外出土遺物実測図（1）



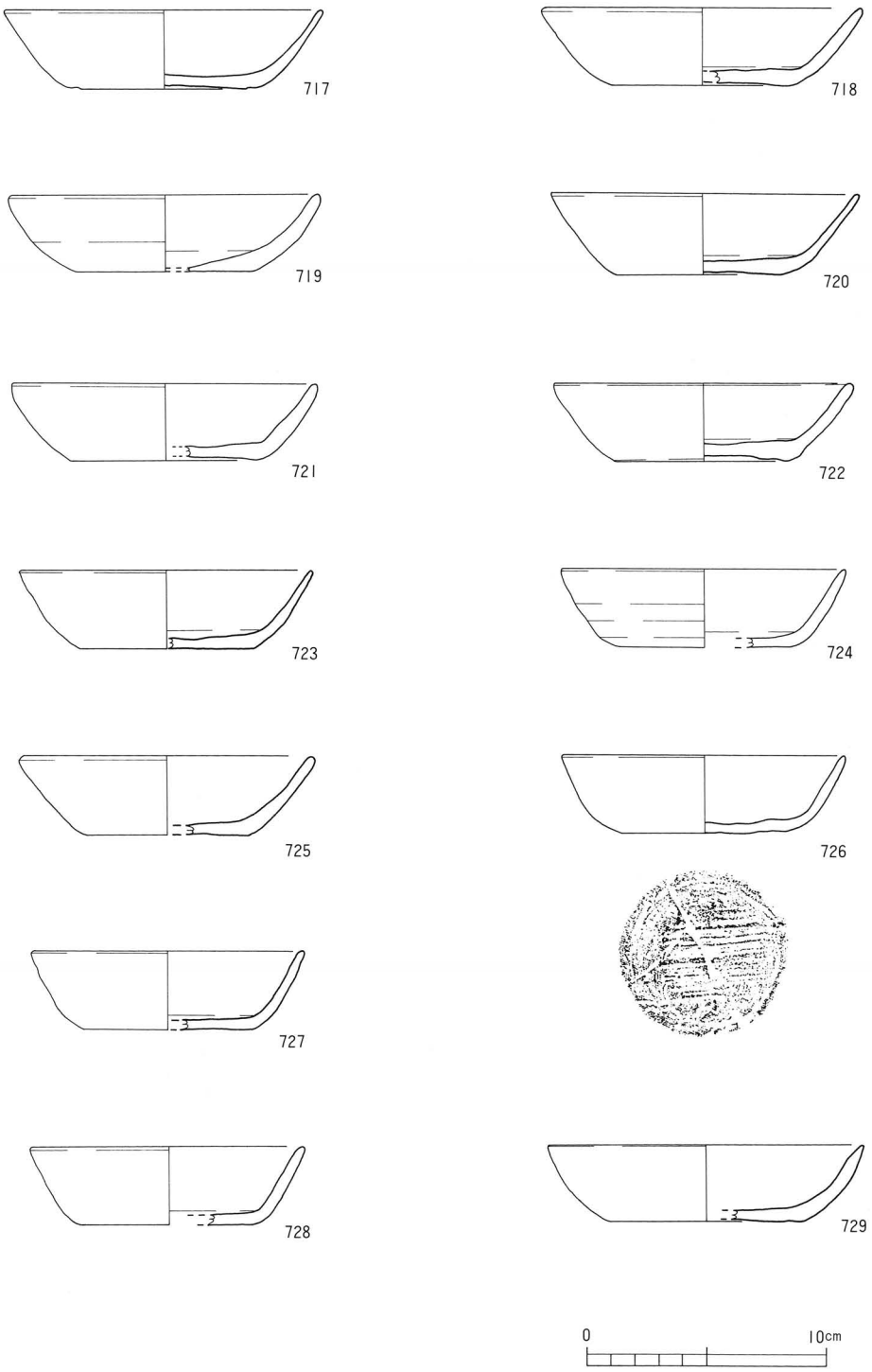
第146図　遺構外出土遺物実測図 (2)



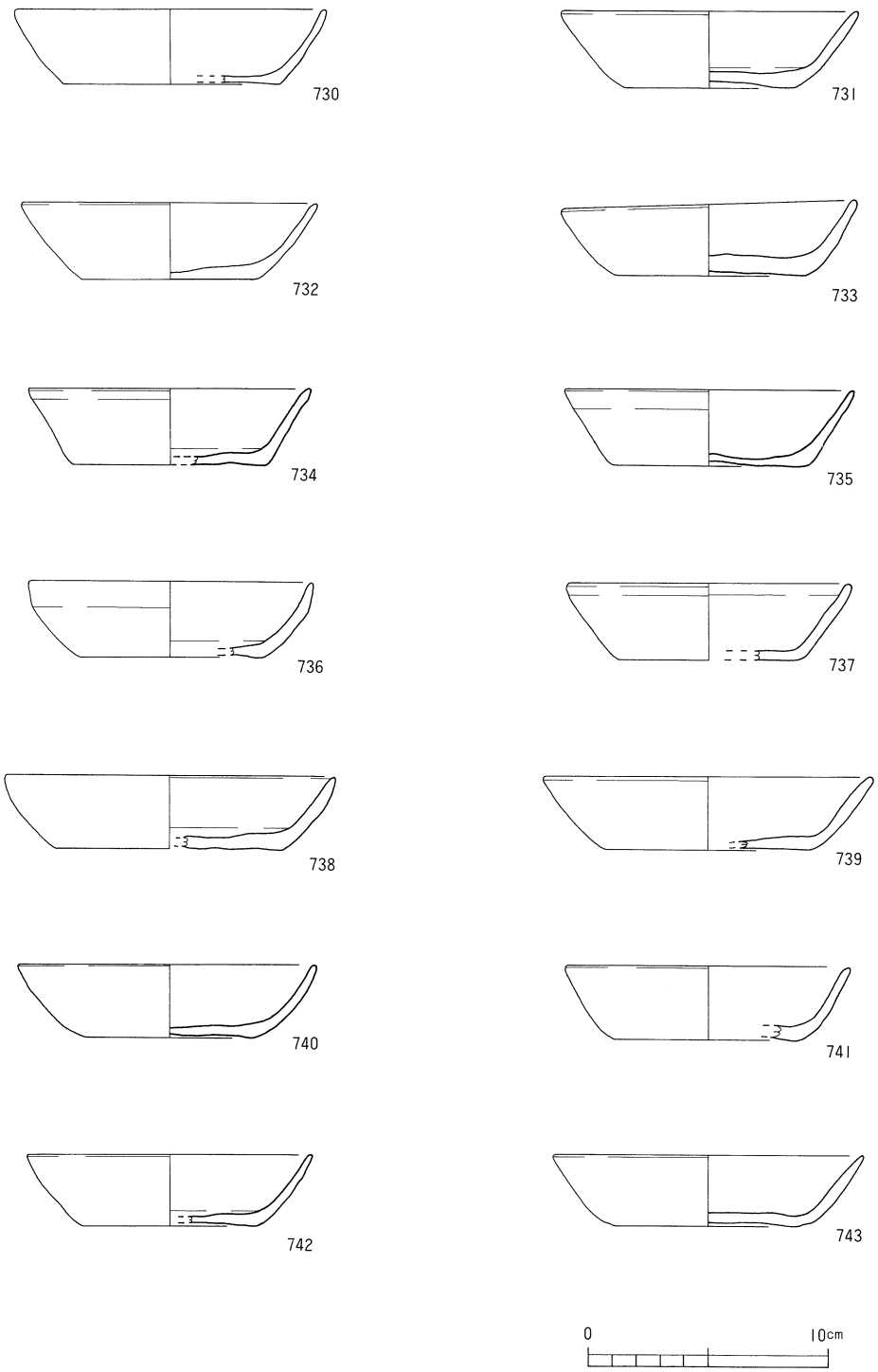
第147図　遺構外出土遺物実測図 (3)



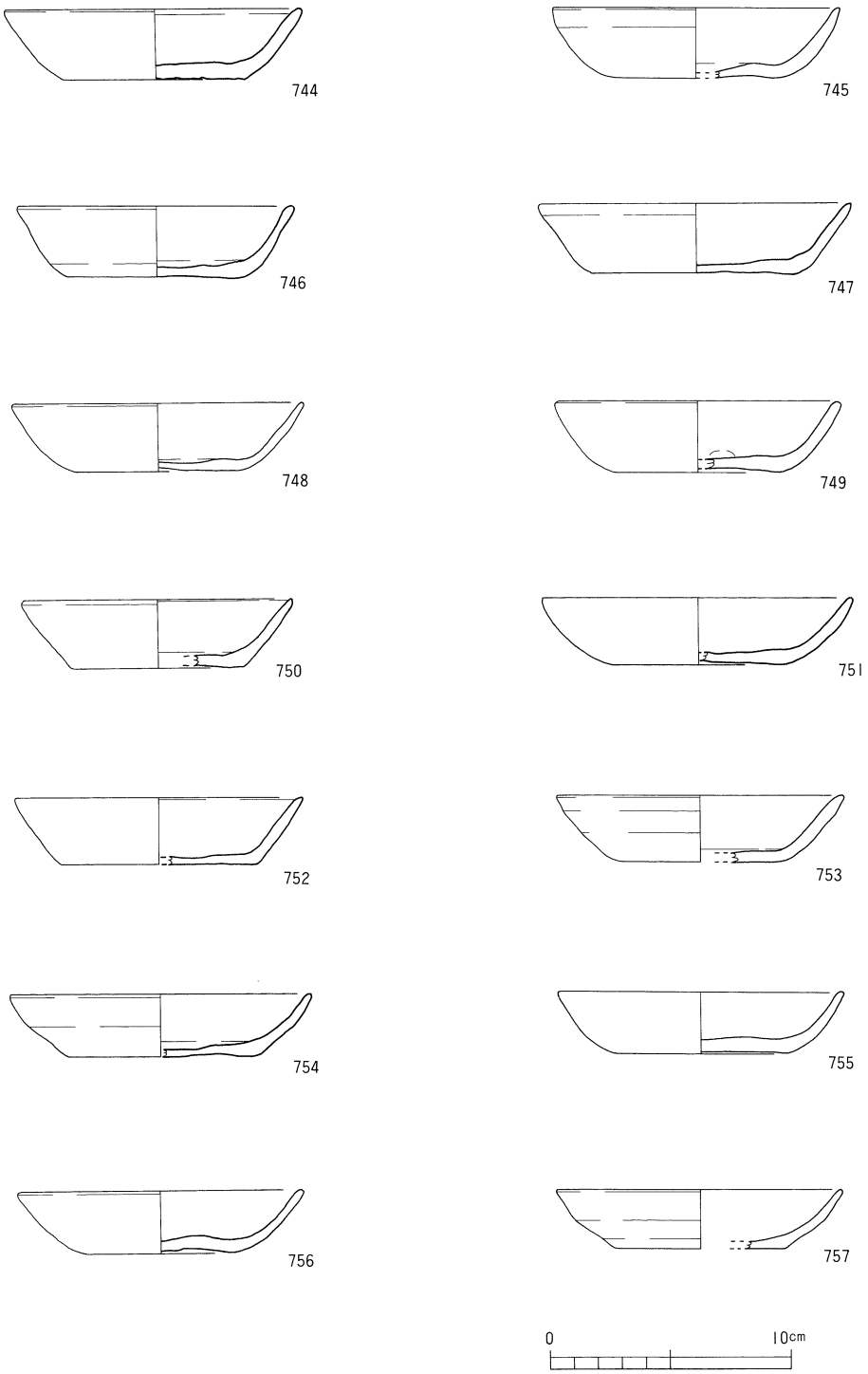
第148図　遺構外出土遺物実測図（4）



第149図　遺構外出土遺物実測図 (5)



第150図　遺構外出土遺物実測図 (6)



第151図　遺構外出土遺物実測図（7）

754・757は体部に屈曲をもって内弯している。

758～774は手づくねの杯である（第152・153図）。771は完形品、767・768・771はほぼ完形に近い。

全ての手づくね杯の口縁部外面は横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。

740は、口径12.5cm、器高3.1cmを測る。

765の外面には赤色顔料の様な付着がみられる。

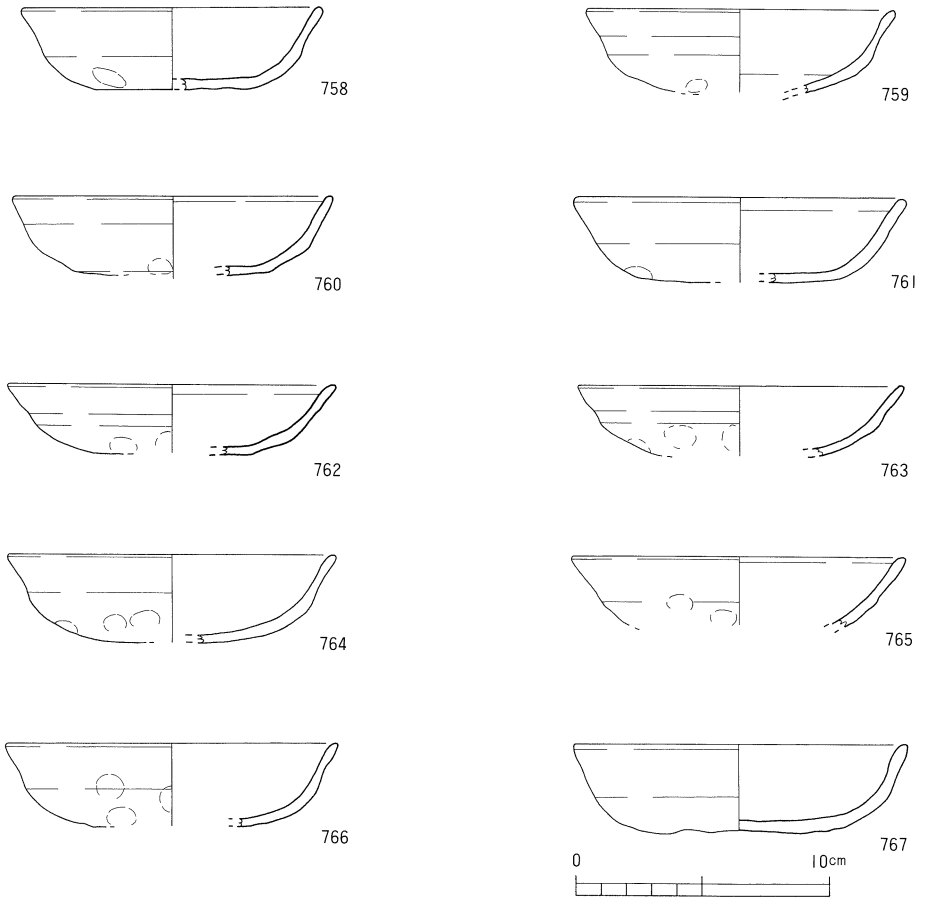
767は、口径13.2cm、器高3.4cmを測る。

768は、口径13.8cm、器高3.3cmを測る。

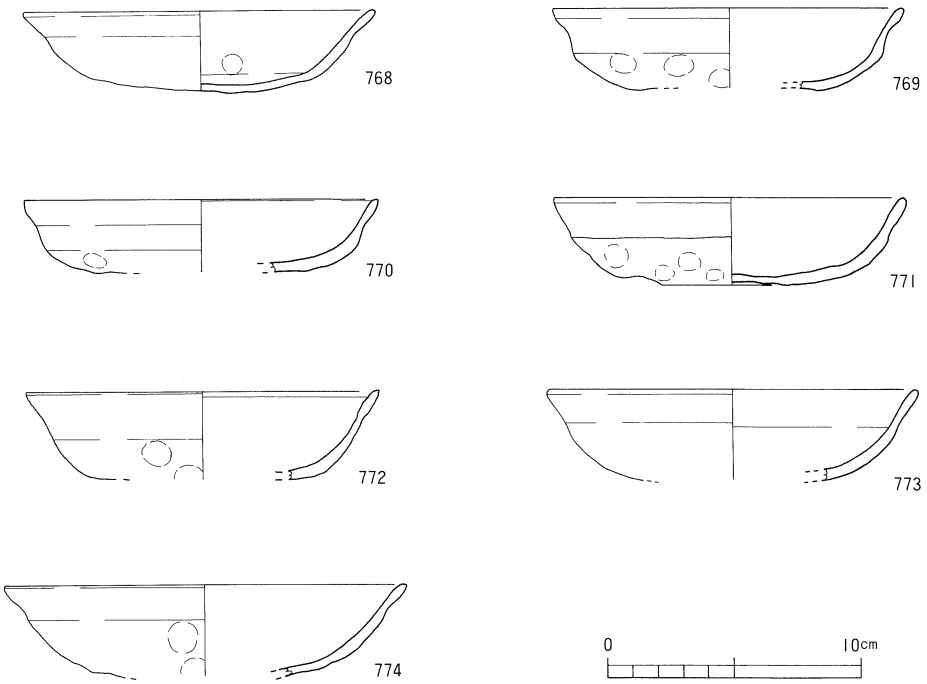
769・770は口縁部が横撫でにより極端に器壁が薄くなっている。

771は南壁から、974（第161図）の手づくね皿と1026（第165図）の瓦器椀と重なって出土しており、口径14cm、器高3.5cmを測る。

772は摩滅しているが、口縁端部内面に沈線が１条巡っている。



第152図　遺構外出土遺物実測図（8）



第153図　遺構外出土遺物実測図（9）

土師器皿（第154～162図）

775～941は底面回転糸切りの皿である（第154～159図）。795・808・812・813・818・830・849・874・879・922・923・930は完形品である。763・782・793・798・807・817・828・835・838・840・841・842・860・864・871・872・877・881・885・886・898・906・911・920・924・938・941は完形に近い。これらは口径6.9～11.9cm、器高0.9～2.0cmを測る。

775は口径11.9cmに対して器高2.0cmを測り、器高指数16.8であるため、皿として分類している。

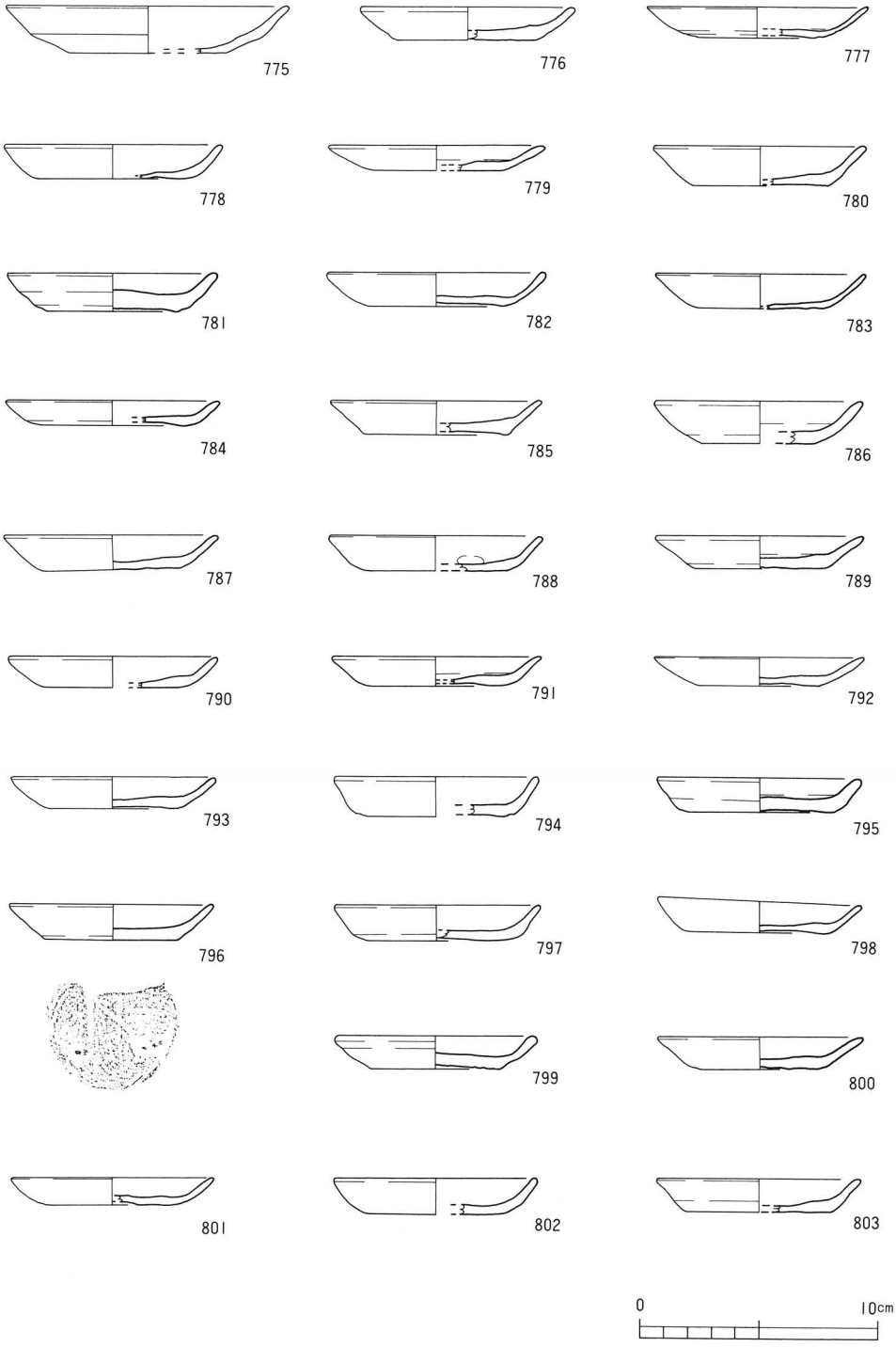
これら皿は、大きく分類するなら底部から口縁にかけて内弯するものと外傾するものとに分かれるが、口縁部の形態の特徴的なものについて以下の様に分類してみる。

口縁部が外反するもの：791・803・810・811・822・831・847・856・870・873・876・894・912・936

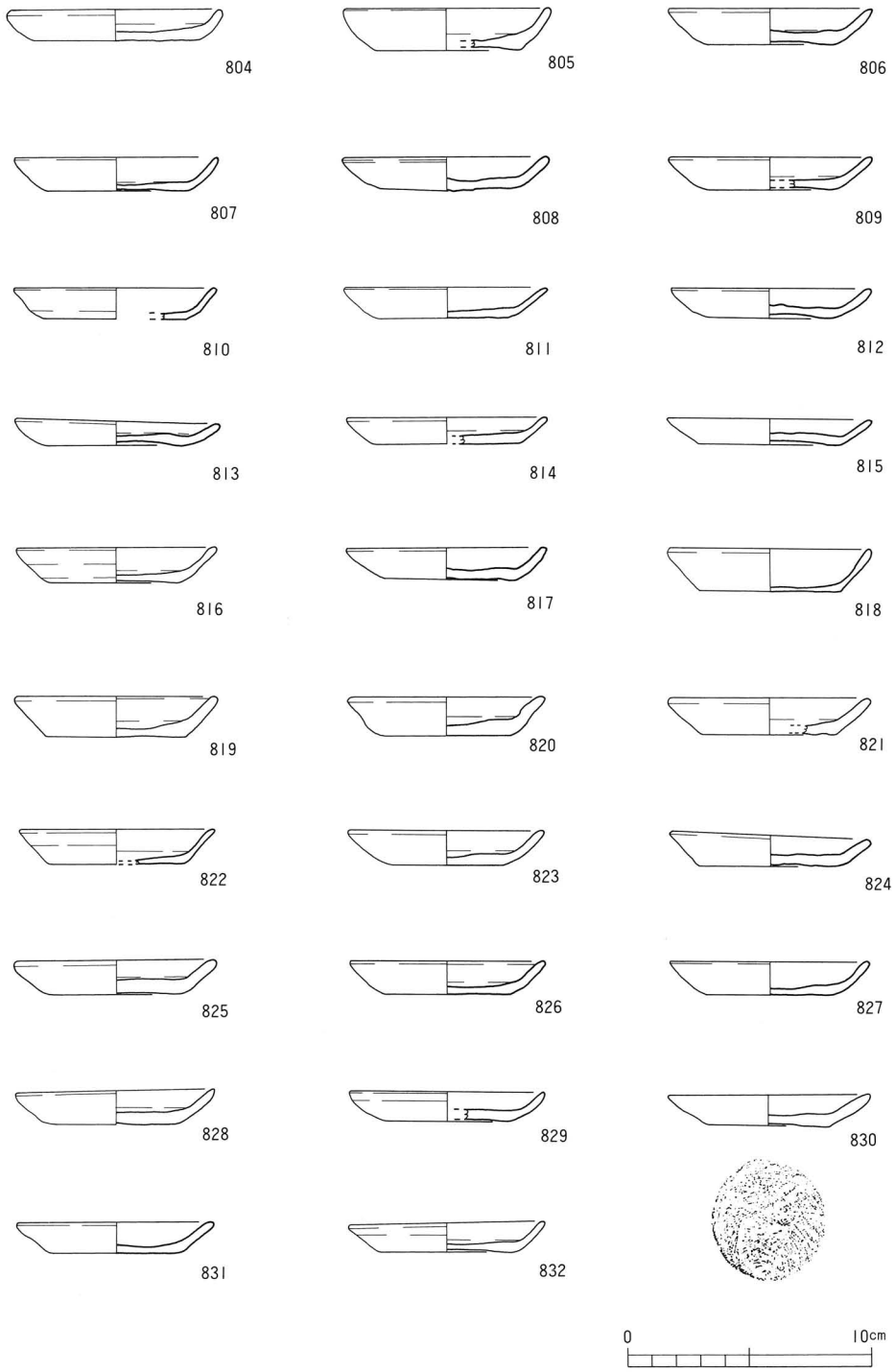
底部から内傾気味に立ち上がるもの：794・837・858・859・863・865・867・890・911・916・923・929・940

口縁端部が肥厚するもの：799・816・818・850・854・895・897・937

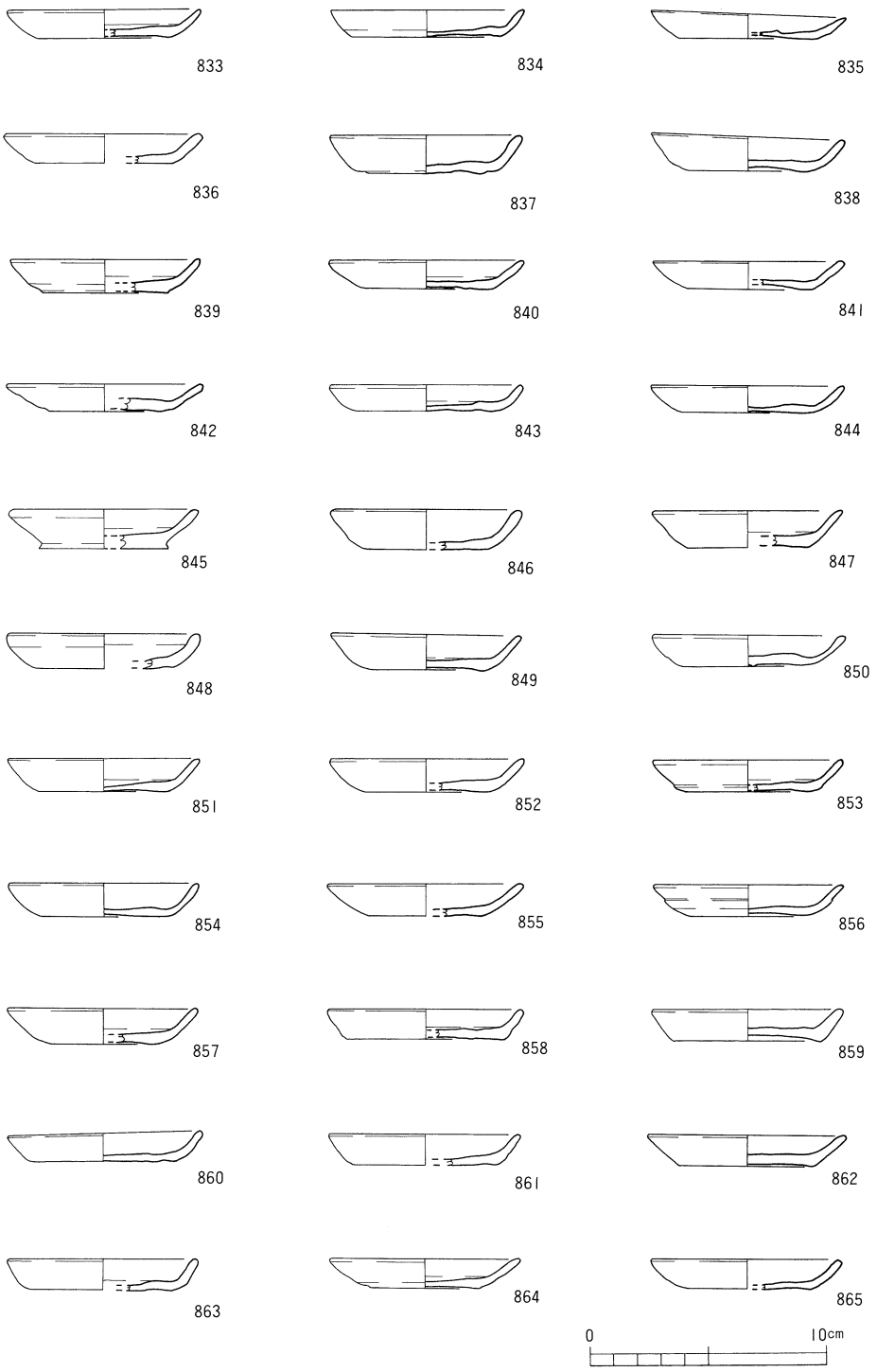
口縁端部が内傾気味のもの：829・848・872・915



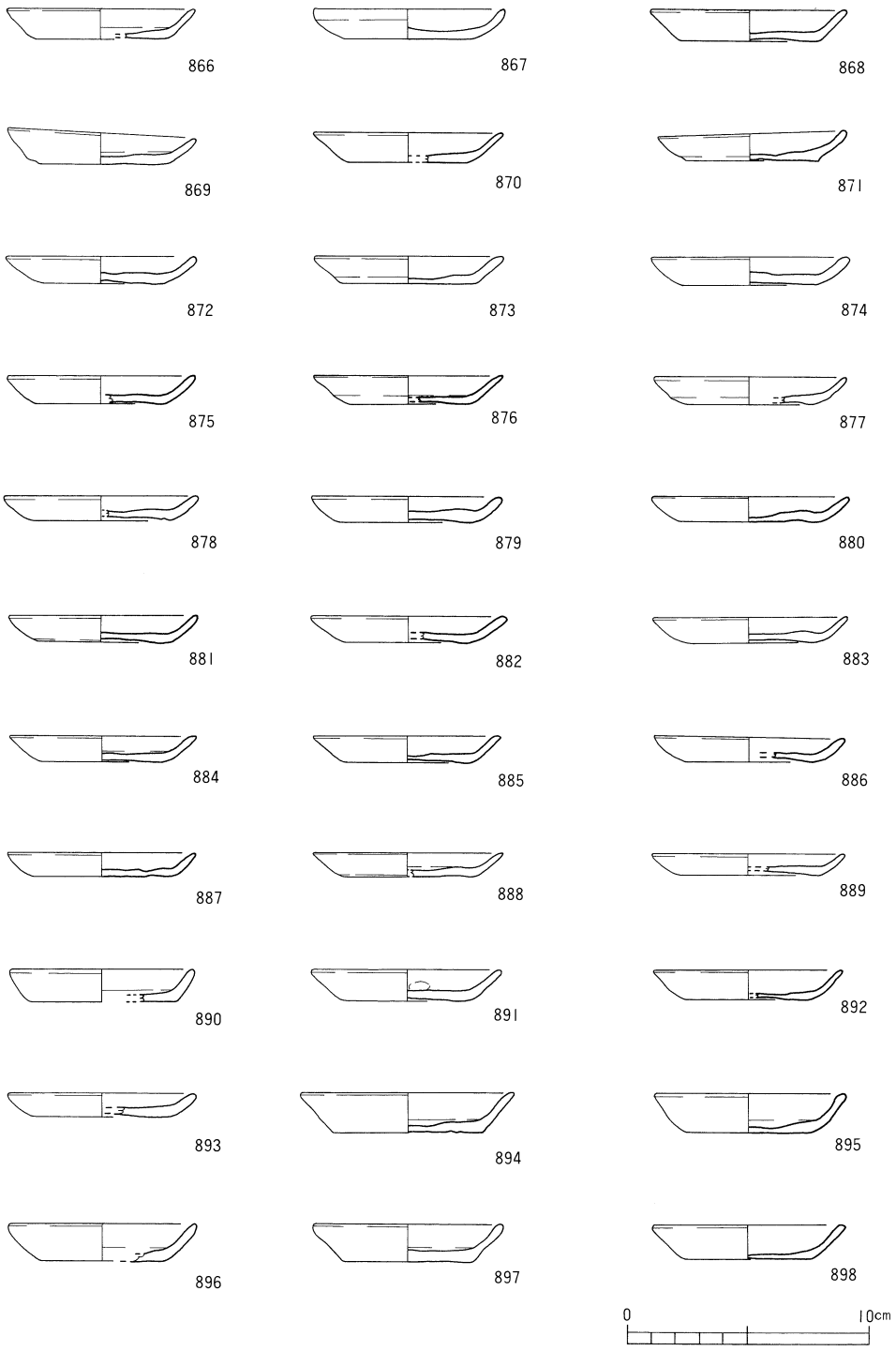
第154図　遺構外出土遺物実測図 (10)



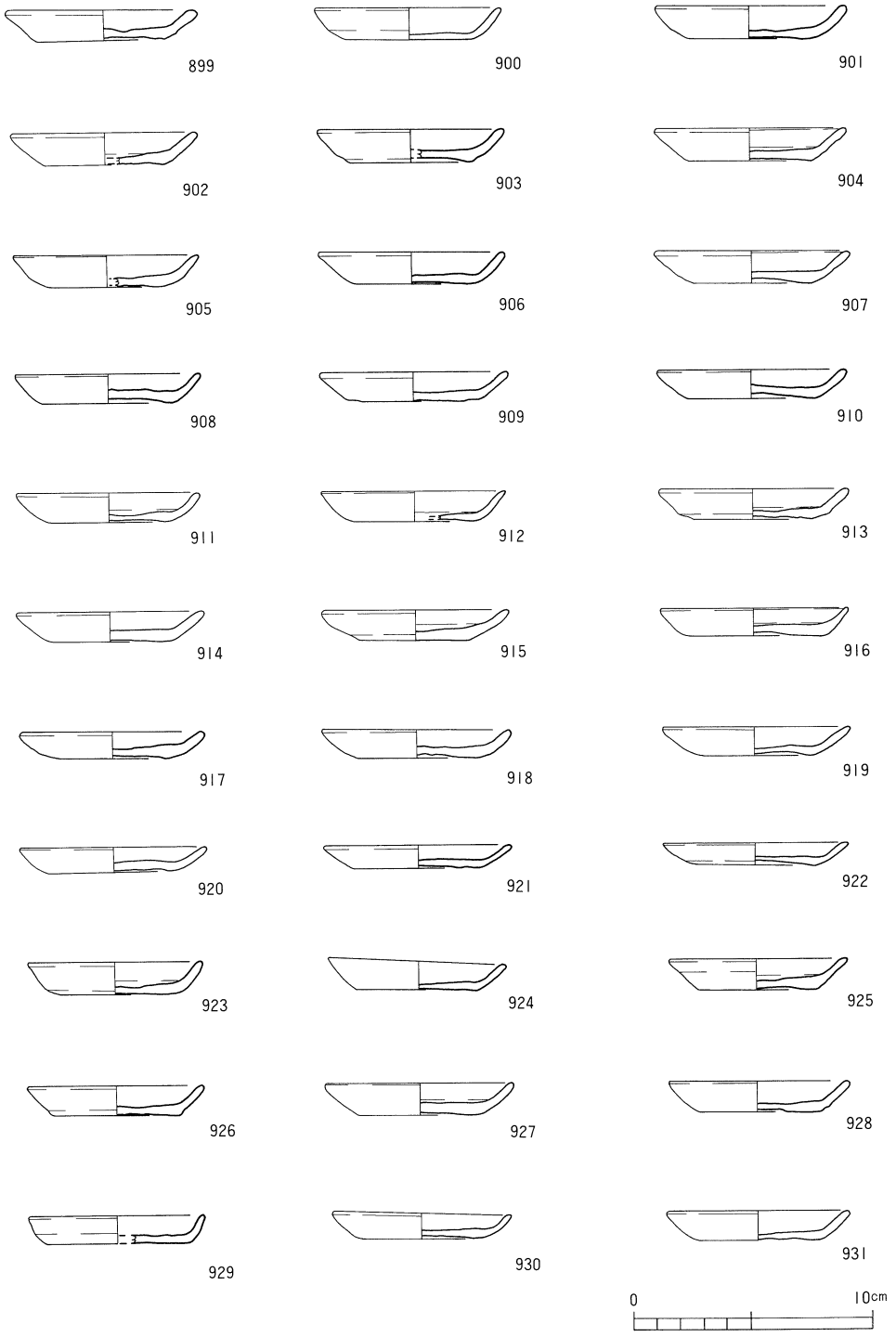
第155図　遺構外出土遺物実測図 (11)



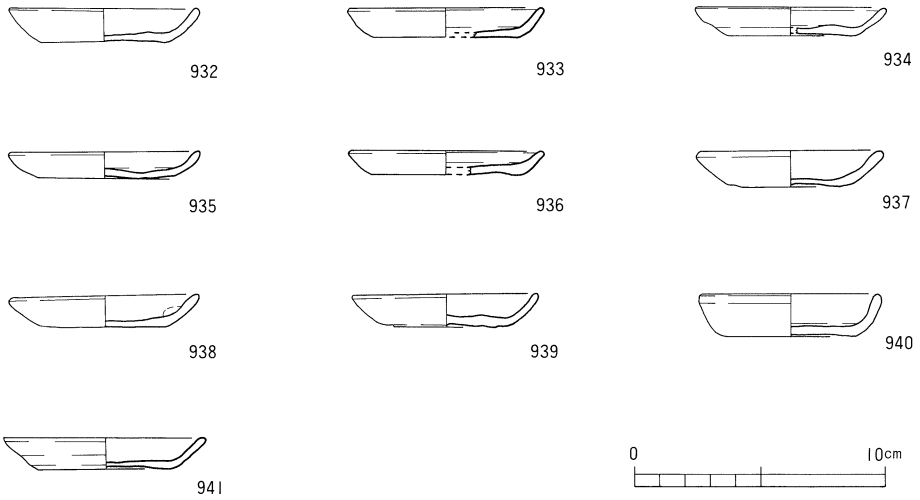
第156図　遺構外出土遺物実測図 (12)



第157図　遺構外出土遺物実測図 (13)



第158図　遺構外出土遺物実測図 (14)



第159図　遺構外出土遺物実測図 (15)

赤色顔料の様な付着がみられるのは、895は内面に、780・803・808・843・856・861・868・875・906・924・926は外面にみられる。

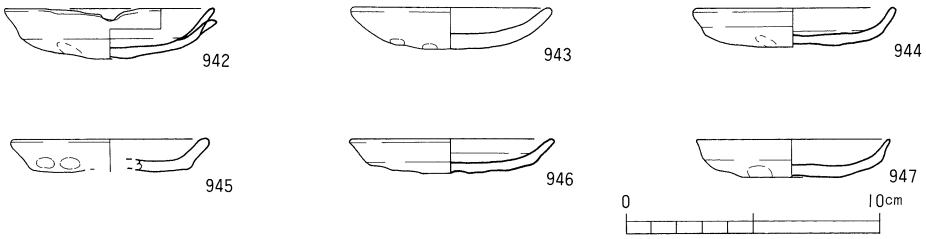
942～1008は手づくねの皿である（第160～162図）。これらは口径7.6～9.0cm、器高0.9～2.0cmを測る。969・952・957は完形品で、951・958・968・972・974・979・990・991・993・995・997・1004はほぼ完形に近い。

これら手づくねの皿は、全て口縁部内外面とも横撫でが施され、その下部に指頭痕がみられる。また、色調が白色を呈する皿もある。

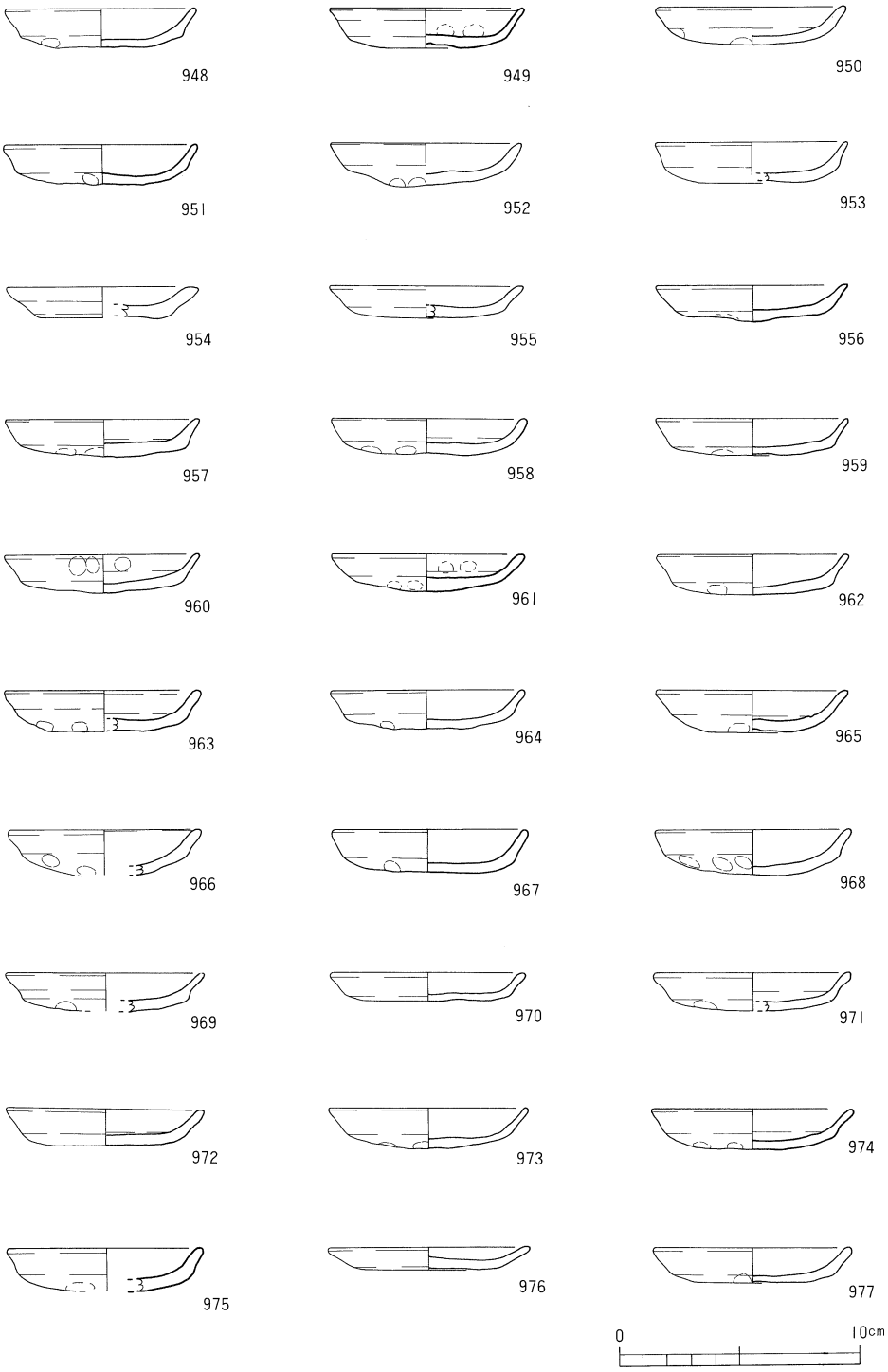
これらは、底部から屈曲して口縁部が外反または外傾しているものが大部分を占めているが、943の様に屈曲がないものもある。

942は口縁端部に、棒状工具によって片口部が作られているものである。

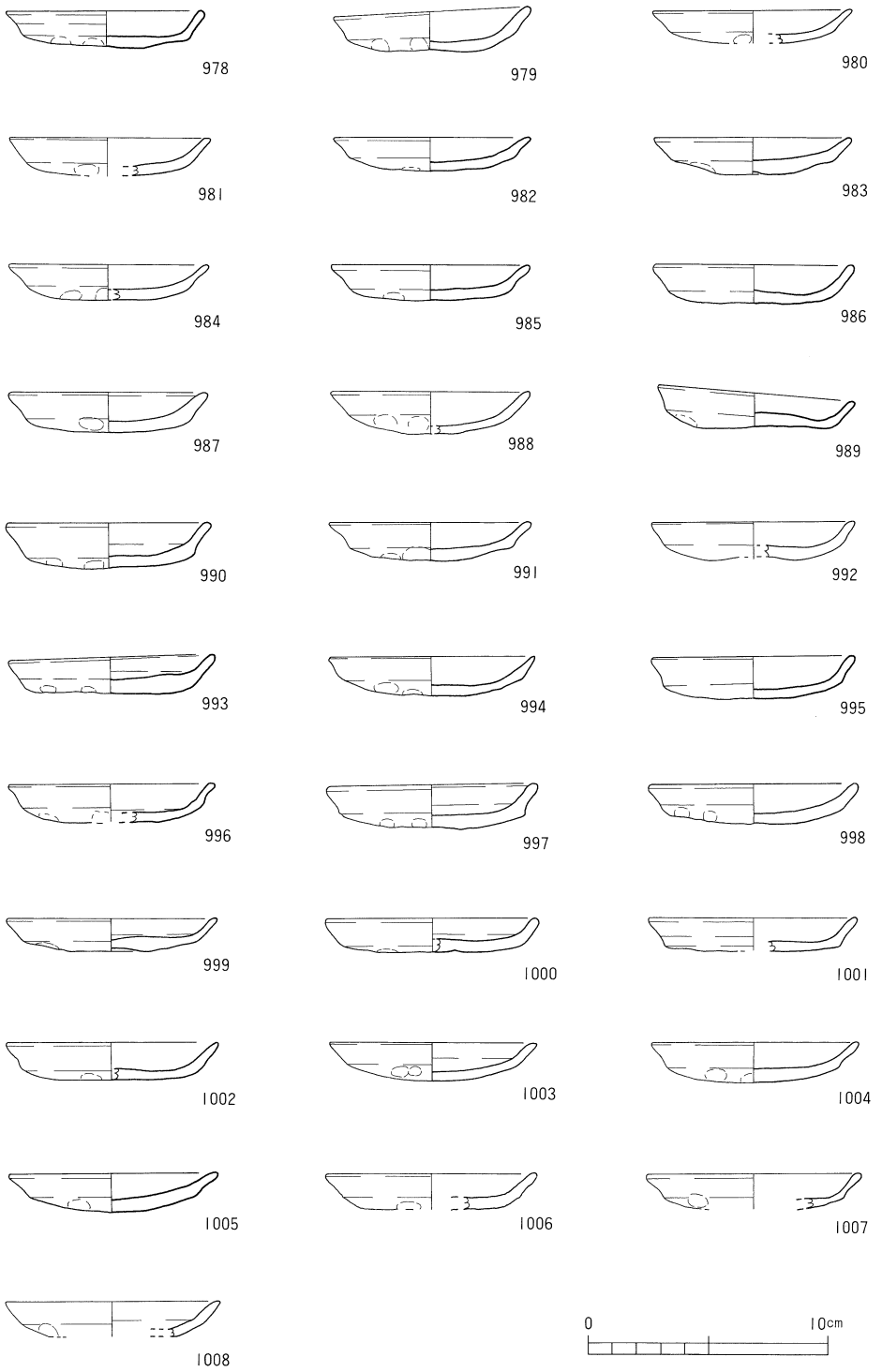
974は南壁から、771（第153図）の手づくね杯と1026（第165図）の瓦器椀と重なって出土しており、口径8.3cm、器高1.7cmを測る。



第160図　遺構外出土遺物実測図 (16)



第161図　遺構外出土遺物実測図 (17)



第162図　遺構外出土遺物実測図 (18)

黒色土器（第163図、1009）

1009はＡ類の椀底部である。全体に摩滅を受けている。一部高台が欠損している接合部分から、深さ約0.3cmを測る二条の沈線を巡らせた後に高台を貼り付けるという接合方法が窺い知れる。11世紀後半のものであろう。

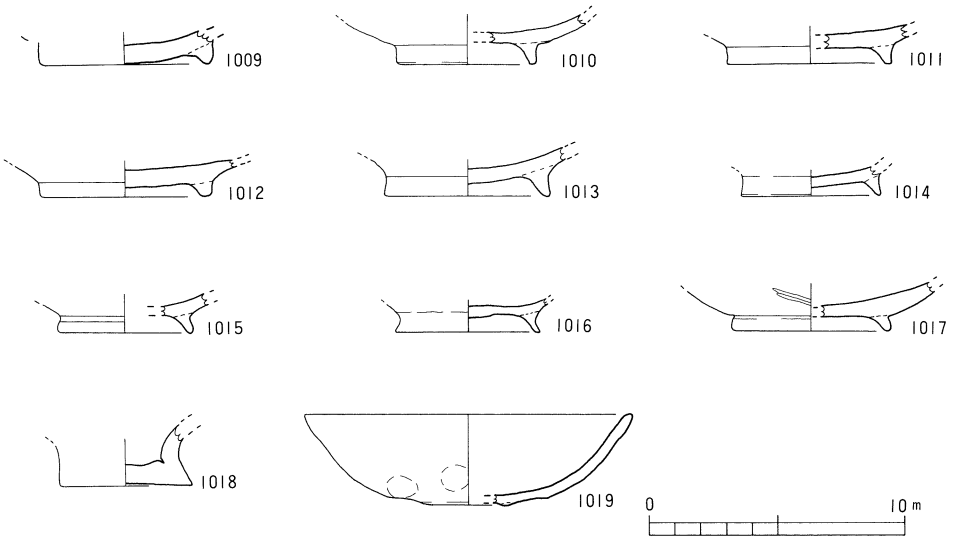
土師器椀（第163図、1010～1019）

1010・1011・1012は断面四角形の高台が貼り付けられ、1013・1014・1015・1016は断面三角形の高台がやや外方向に貼り付けられている。1016は全体に器厚が薄い。1017は断面四角形の高台が内弯気味に貼り付けられ、体部外面に磨きがかすかに施されている。

以上の椀は、おそらく11世紀後半から12世紀代と考えられる。

1018は円柱状の円盤高台の底部である。底部から外反気味に立ち上がる。底面に切り離し痕は看取れず、おそらく手づくね成形と考えられる。杯の可能性もある。

1019は高台から口縁部にかけて唯一残存している椀である。粘土紐を貼り付けた高台で、外面には指頭による凹凸が若干みられ、腰が張る器形をもつ。おそらく吉備系土師器椀と考えられ13世紀後半であろう。同様の土師器椀の出土例としては、南江戸鬮目遺跡において多量の土師器杯・皿を出土した２号集積遺構から１点出土している。



第163図　遺構外出土遺物実測図 (19)

瓦器椀・杯（第164～167図）

出土した瓦器椀は口径13.2～17.2cm、器高3.4～5.0cmを測る。1031・1033・1034は完形品である。1026・1030・1035はほぼ完形に近い。

1026は南壁から、771（第153図）の手づくね杯と974（第161図）の皿と重なって出土しており、口径14.4cm、器高4.4cmを測り、体部内面には幅狭の圏線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1031は口径15.1cm、器高3.7cmを測り、体部内面には幅広の圏線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1035は口径15.4cm、器高4.3cmを測り、体部内面には幅狭の圏線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1036は口径17.2cm、器高5.0cmを測り、出土した瓦器椀の中でも大型である。

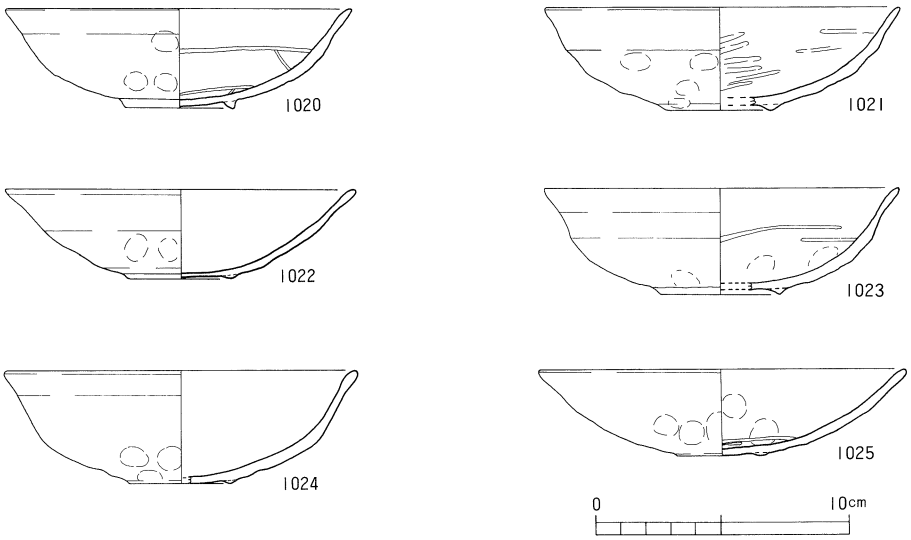
1044・1046は口縁部周辺にのみ炭素の付着がみられ、1025は炭素が飛んでしまい灰色を呈している。

1023・1042には炭素の付着がなく、1042はやや硬質のものである。

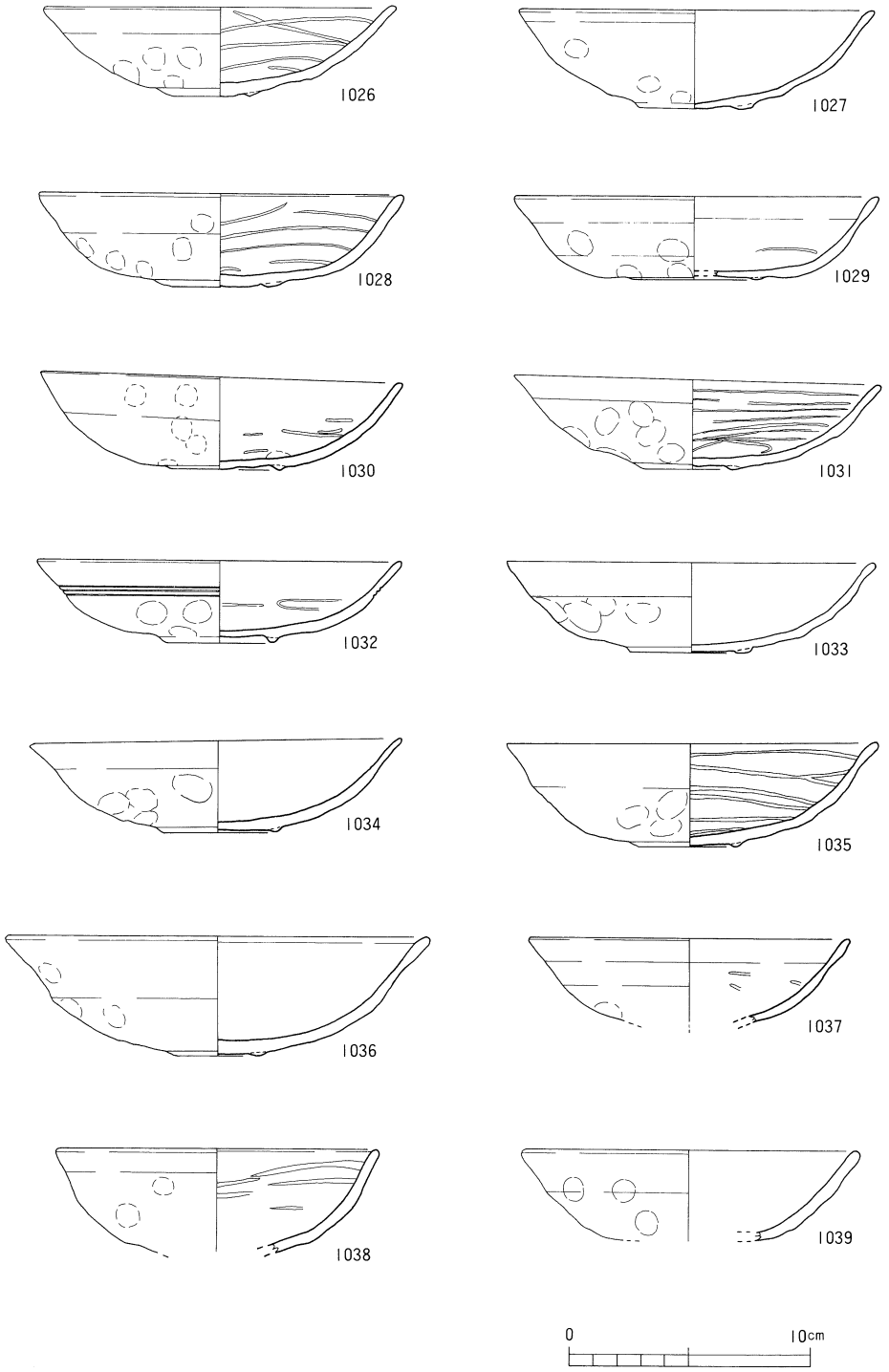
1052は底部で、断面四角形の高台が貼り付けられている。全体に摩滅している。

1053は外面に縦ヘラを施した無高台の楠葉型瓦器椀で、口径10cm、器高3.5cmを測る。13世紀後半から14世紀代のものである。

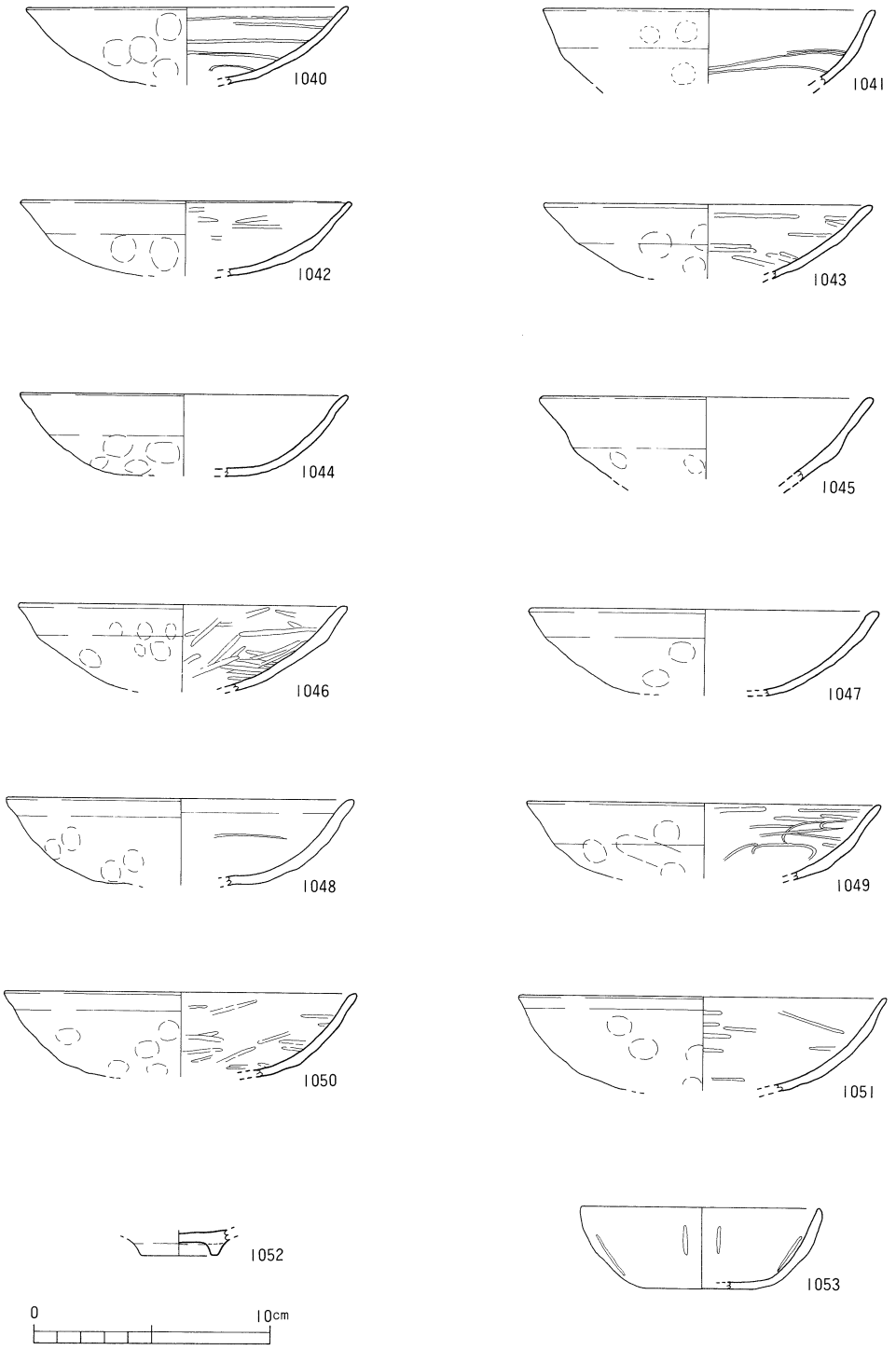
1054・1055は無高台で、平底を呈する瓦器杯である。口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が残る。1054は口径13.9cm、器高3.5cm、1055は口径14.0cm、器高3.2cmを測る。



第164図　遺構外出土遺物実測図 (20)



第165図　遺構外出土遺物実測図 (21)



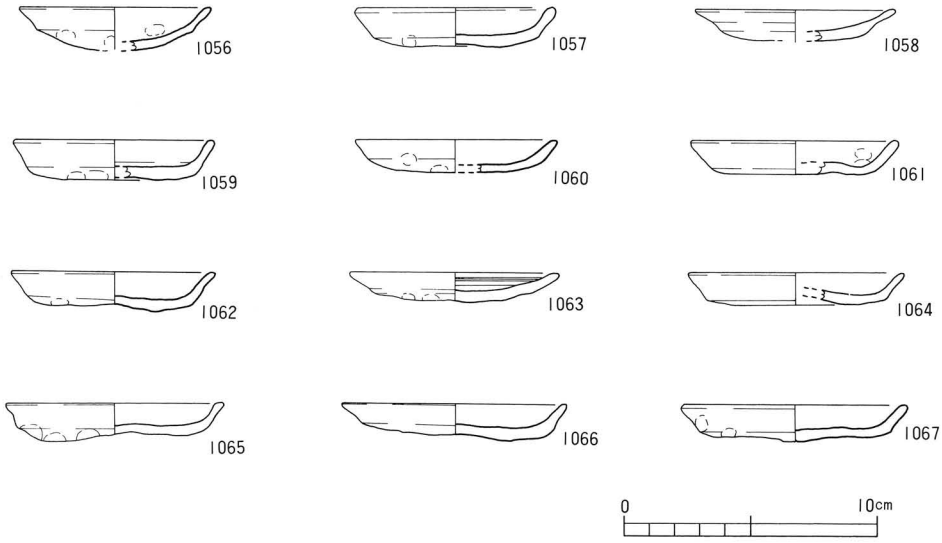
第166図　遺構外出土遺物実測図 (22)

第167図　遺構外出土遺物実測図 (23)

瓦器皿（第168図）

出土した瓦器皿は口径7.6～8.8cm、器高1.2～1.6を測る。1062・1063は完形品で、1065はほぼ完形に近い。

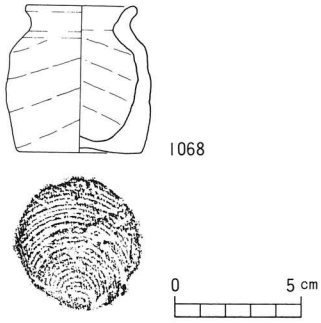
いずれも口縁部は横撫でされ底部外面に指頭痕が残る。



第168図　遺構外出土遺物実測図 (24)

土師器小壺（第169図）

1068は口径4.3cm、器高5.9cm、底径4.9cmを測る。粘土紐巻き上げ成形の痕跡が内外面に看取れる。底面は回転糸切りである。



第169図　遺構外出土遺物実測図 (25)

土師質土鍋（第170～174図）

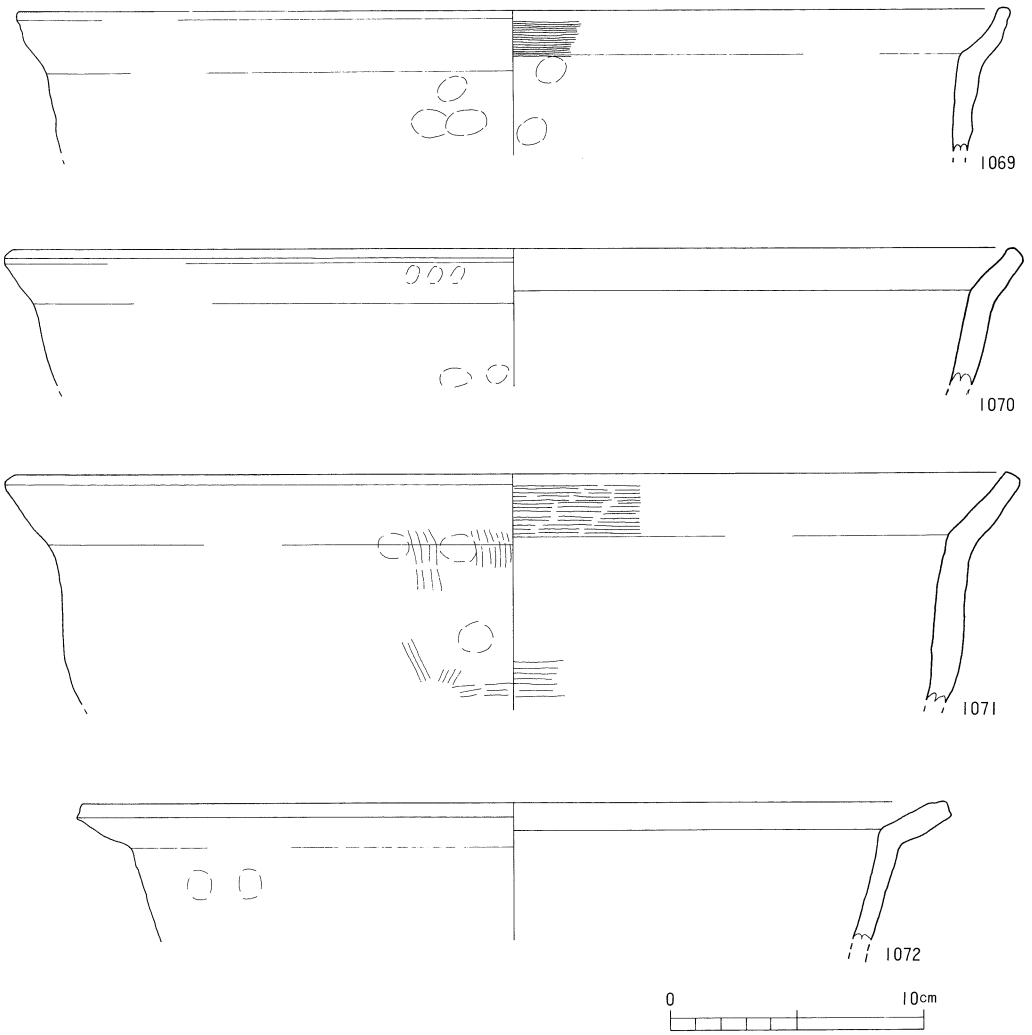
口縁部の器厚から大きく二種類に分類できる。厚いものをＡ類、薄いものをＢ類とする。

Ａ類（第170・171図）

Ａ類は、口縁端部の仕上げから更に２種類に分類できる。平坦に仕上げているものを１類、丸く仕上げているものを２類にする。

Ａ－１類（1069～1072）

1069は口縁部が屈曲し内傾している。口縁内面に横方向の刷毛目が、外面は横撫でが施されている。胴部外面は煤けており成形時の指頭痕がみられる。内面は黄灰色を呈している。

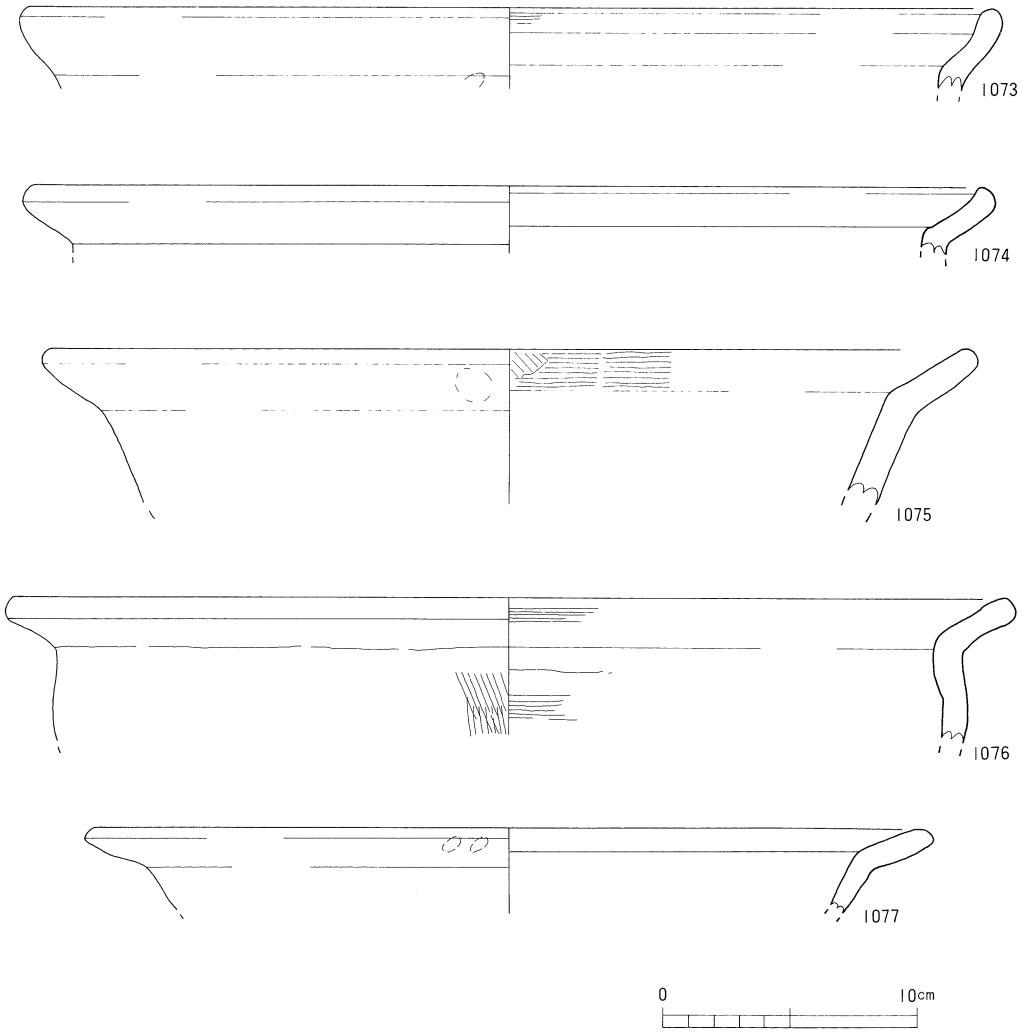


第170図　遺構外出土遺物実測図 (26)

1070は口縁部がやや内弯気味のものである。内面が摩滅しているため調整は不明であるが、外面は、口縁端部下に成形時の指頭痕があり、横撫でされ、胴部も横撫でされている。口縁端部にまで煤けている。

1071は口縁部がやや内弯気味に外傾している。口縁部内面と胴部内面の底部近くに横方向の刷毛目が施されている。口縁部外面は横撫で、頸部付近に縦方向の刷毛目が、底部近くに横方向の刷毛目が施されている。

1072は口縁部が外傾している。摩滅がひどく調整は不明。胴部から口縁外面にかけて煤けている。灰黄色を呈している。



第171図　遺構外出土遺物実測図 (27)

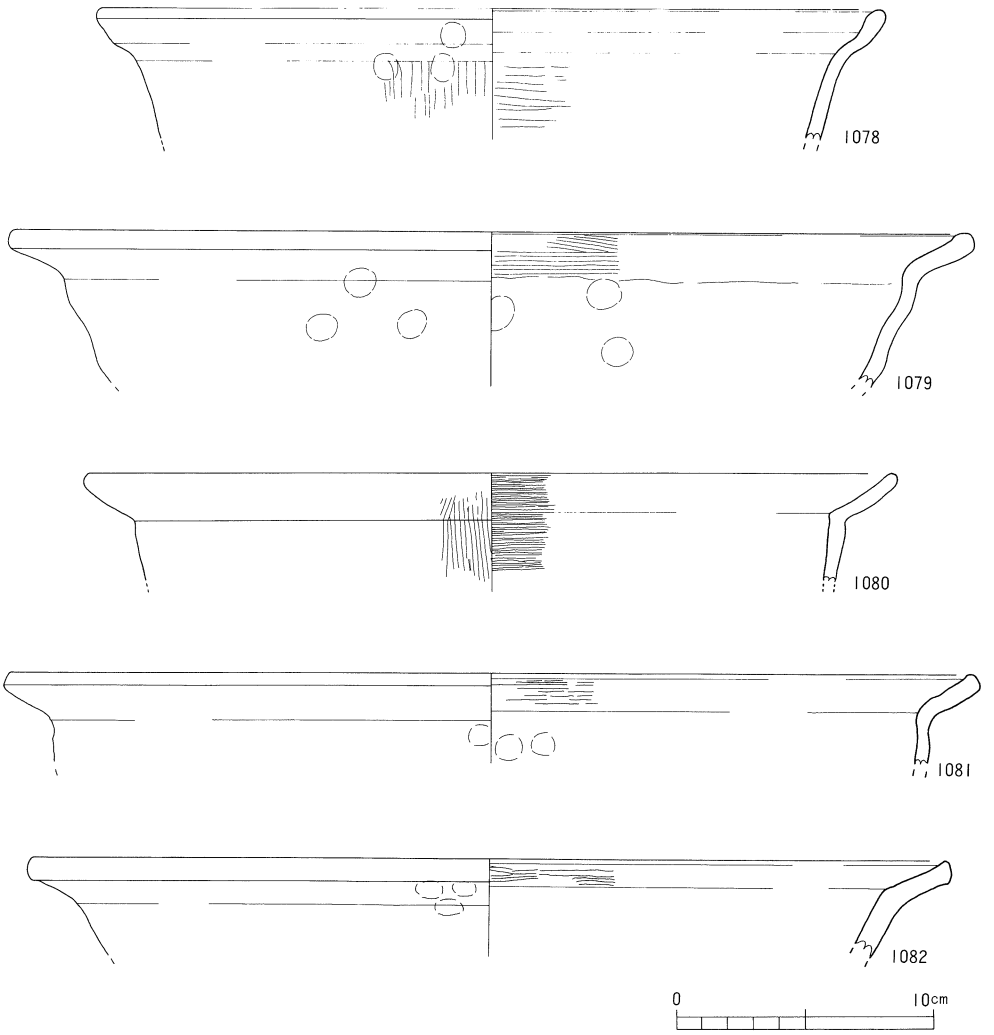
A－2類（1073～1077）

1073は口縁部が屈曲して内弯している。内外面とも撫で調整が施されている。外面は煤けており、内面は赤褐色を呈している。

1074は口縁部が内弯し、端部が内側に肥厚している。

1075は口縁部がやや内弯気味である。口縁部内面には横方向の刷毛目が施され、胴部内面には施されていない。口縁部外面は撫で調整、頸部以下は摩滅のため調整は不明。

1076・1077は口縁部が外傾している。1076は内面に横方向の刷毛目、外面には縦方向の刷毛目が施されている。1077は摩滅がひどく調整は不明。全体に灰色を呈し、胴部から口縁外面にかけて煤けている。



第172図　遺構外出土遺物実測図 (28)

B類（1078～1086）

B類はA類よりも器厚がやや薄いものである。

1078は口縁部が外傾し、更に屈曲により内傾し、口縁端部が内側に肥厚し丸く仕上げられている。胴部内面に横方向の刷毛目が、頸部以下の外面は縦方向の刷毛目が施されている。外面はやや煤けているが、内面は灰白色を呈している。

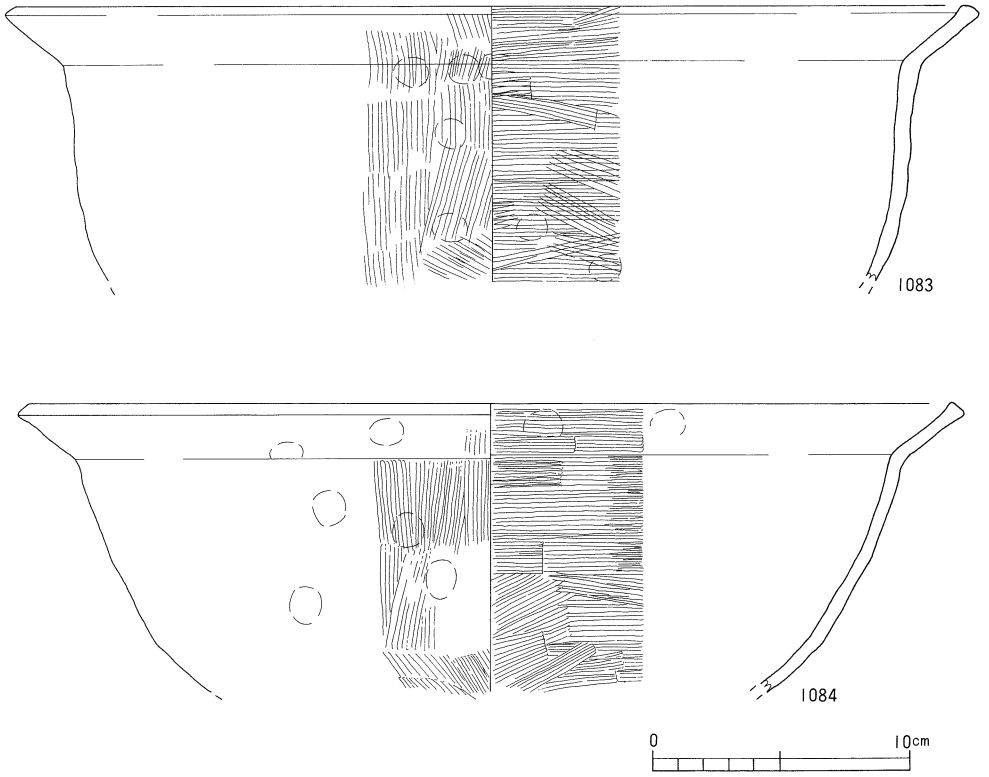
1079は口縁部が外傾し、口縁端部が内側に肥厚している。全体に摩滅しているが、口縁・胴部の内面に横方向の刷毛目がかすかに看取れる。口縁部外面は横撫で、胴部には指頭痕が巡り、おそらく粘土輪積みによる痕跡と考えられる。

1080は口縁部がやや内弯気味である。内面は横方向、外面は縦方向の刷毛目が施されている。

1081は口縁部がやや内弯気味で、口縁端部が内側に肥厚しやや平坦にしている。横刷毛が施されている。

1082は口縁部が外傾し、口縁端部がやや内側に肥厚しやや平坦にしている。口縁内面には横方向の刷毛目が施され、外面に指頭痕が残り、煤けている。

1083・1084・1086・1085は口縁端部が平坦で内側に肥厚している。1083・1084・1086は頸

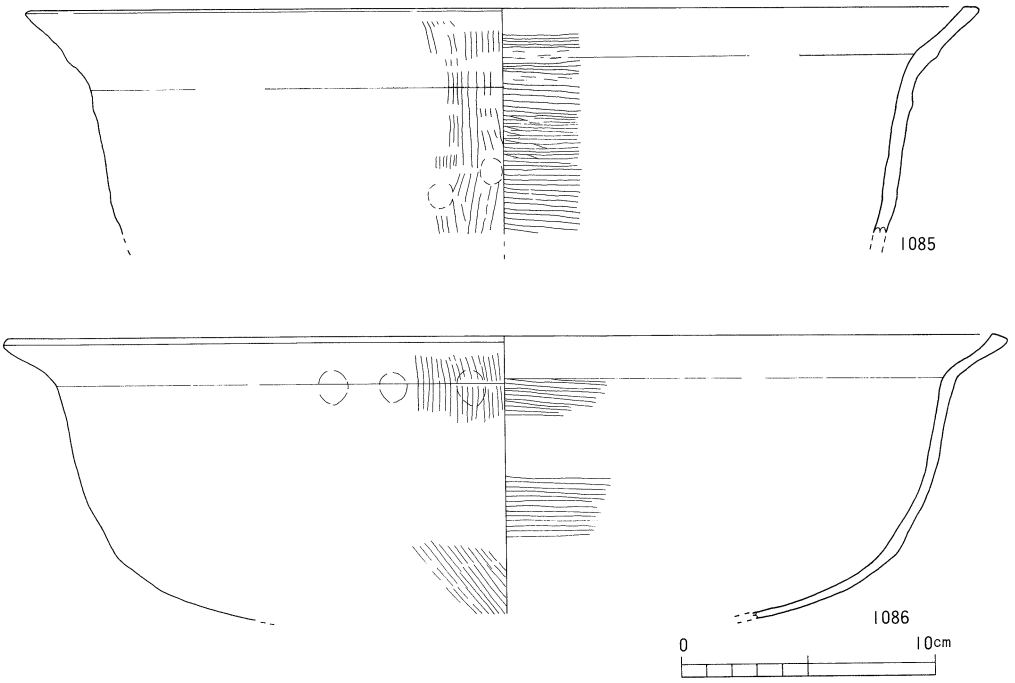


第173図　遺構外出土遺物実測図 (29)

部内側が明確に屈曲しており、1085の頸部は丸味をもって仕上げられている。

1083・1084・1086の内面には横方向の刷毛目が、外面は底部のみ斜め方向の刷毛目、その他は縦方向の刷毛目が施されている。

1085の内面には横方向の刷毛目が、外面は全て縦方向の刷毛目が施され、外面は煤けている。



第174図　遺構外出土遺物実測図 (30)

土師質土釜（第175・176図）

1087は脚部の接合部分、1088は脚先端部、1089～1096は口縁部等である。

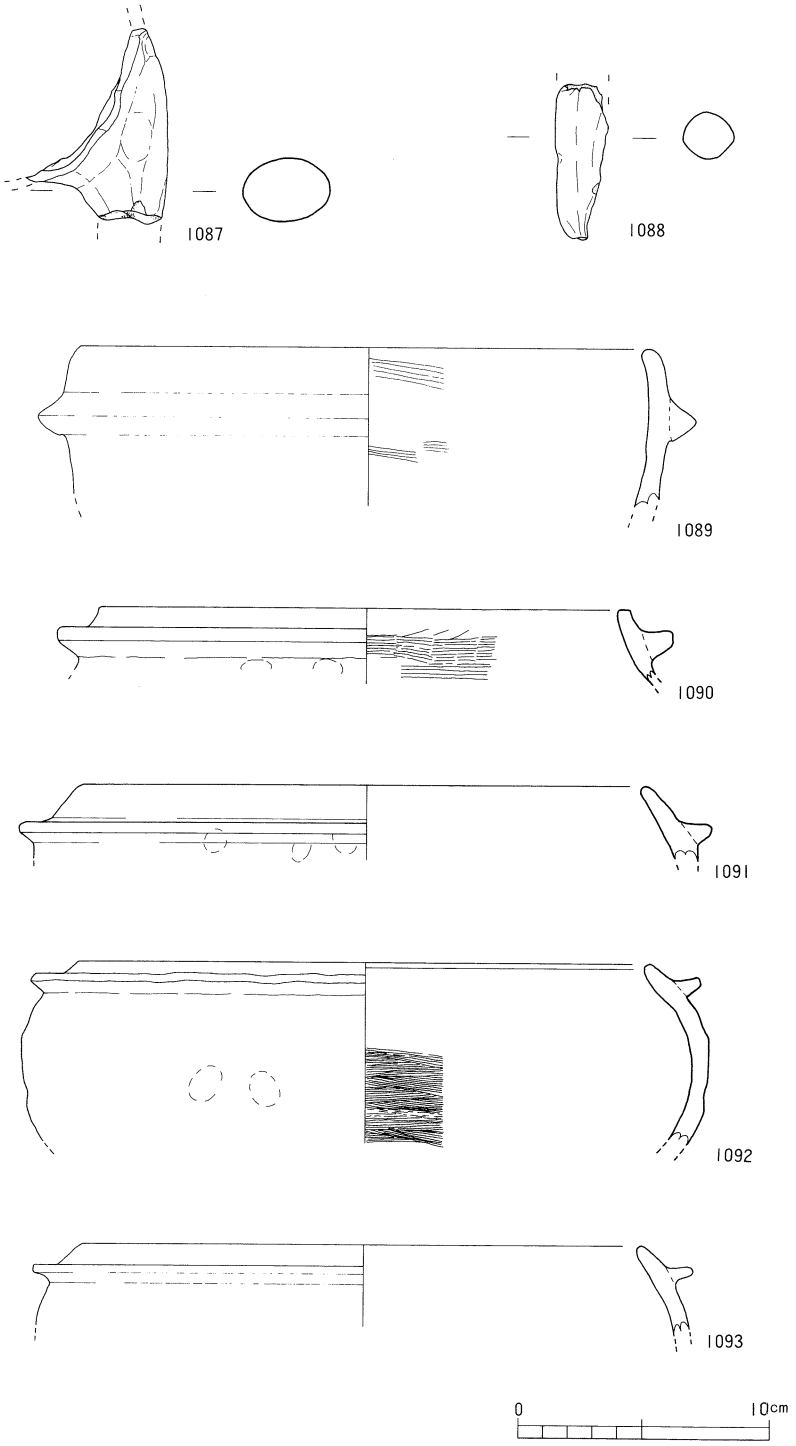
1087は内面に横方向の刷毛目が施され、底部はおそらく丸くなるものと考えられる。

1088は面取りされている脚部である。先端は折り曲げられ接地させるために平坦面を成している。

口縁部等は形態から３種類に分類できる。円筒形のものをＡ類、八の字状のものをＢ類、球形のものをＣ類とする。

Ａ類（1089）

1089は口縁端部から2.2cm下がった位置に断面三角形の鍔が貼り付けられている。口径22.4cmを測る。内面は横方向の刷毛目、外面は撫で調整が施され、鍔より下部に指頭痕がみられる。



第175図　遺構外出土遺物実測図 (31)

B類（1090）

1090は口縁端部から1.1cm下がった位置に断面四角形の鍔が貼り付けられている。口径21cmを測る。内面は横方向の刷毛目、外面は撫で調整が施されている。

C類（1091～1096）

C類はA・B類とは違い、鍔の貼り付け位置から二類に細分できる。口縁端部から下がった位置に鍔を貼り付けているものを1類、口縁端部から貼り付けているものを2類とする。

C－1類（1091～1095）

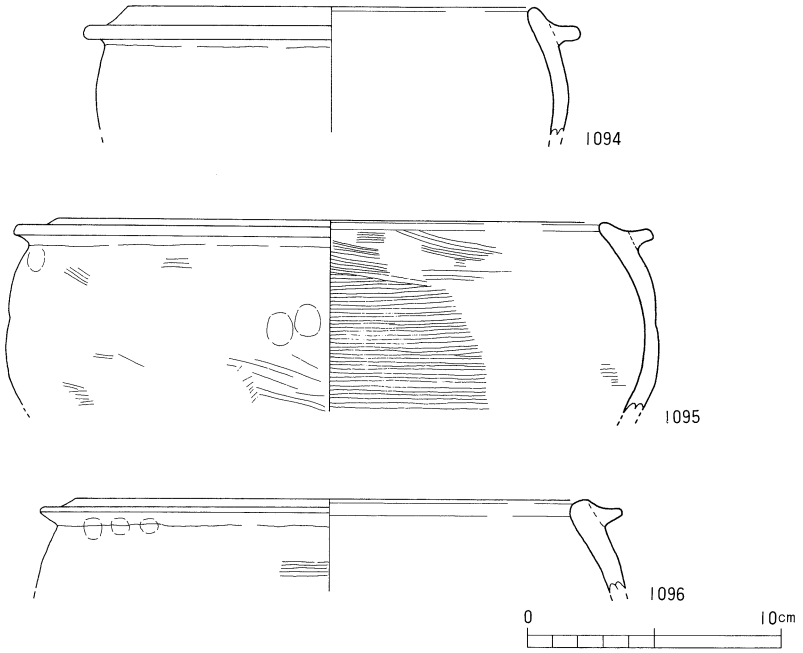
C－1類は、口縁端部と鍔の貼り付け部分との距離から、更に2種類に分類できる。1.5cm以上のものをa類、1.0cm前後のものをb類とする。

a類：1091は口縁端部より1.8cm下がった位置に断面四角形の鍔が貼り付けられ、内外面とも撫で調整が施されている。口径22.4cmを測る。

b類：1092・1095は1.0cm、1094は1.1cm、1093は1.2cmと口縁端部から下がった位置に鍔が貼り付けられている。いずれも断面四角形の鍔である。

C－2類（1096）

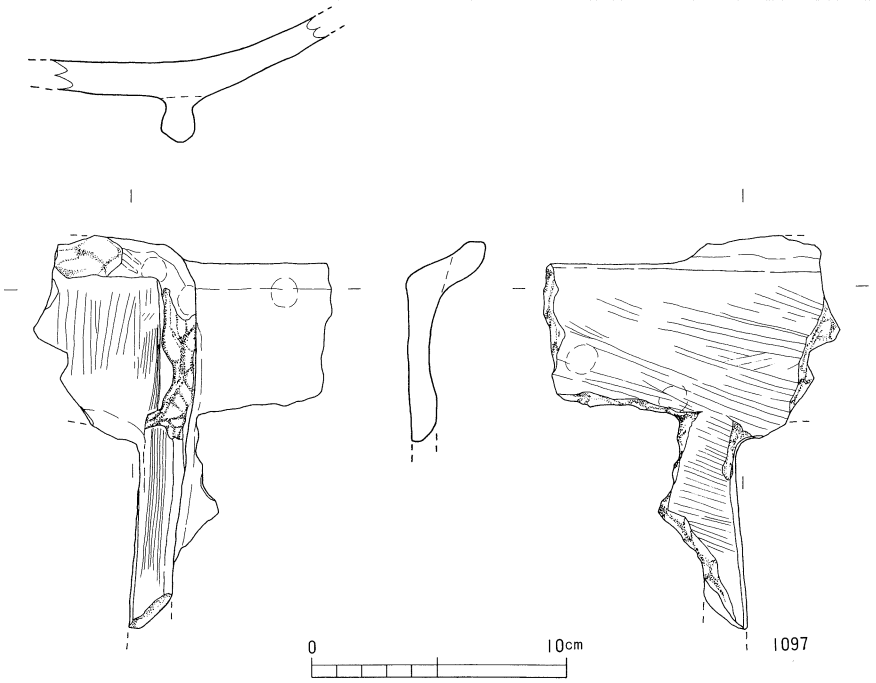
1096は口縁端部から垂れるように断面四角形の鍔が貼り付けられ、口縁端部は平坦に仕上げられている。口径20.4cmを測り、内面は撫で、外面は鍔の下部に横方向の刷毛目が施されている。



第176図　遺構外出土遺物実測図 (32)

置き竈（第177図）

1097は土師質の竈で、焚口の右側周辺部である。焚口上部外面には縦方向の刷毛目、釜穴の内面は横方向の刷毛目が施されている。廂上部先端は上方向に折り曲げられており、この廂部は焚口部に沿って下方向へ伸びている。



第177図　遺構外出土遺物実測図 (33)

瓦質土釜（第178図）

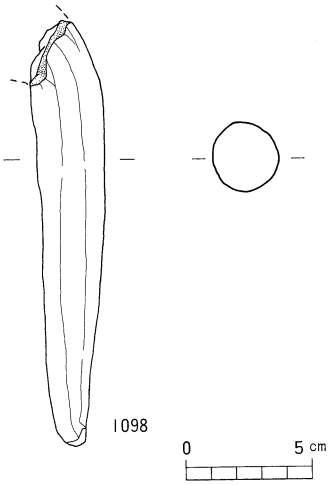
1098は脚部で、先端部は折り曲げられている。全体に摩滅が著しい。本調査区から瓦質土釜の口縁部の出土は、ＳＤ－６のみである。

瓦質甕（第179図、1099・1100）

1099は口頸部である。頸部以下外面は格子叩き、口縁部内外面は横撫でが施されている。口径21cmを測る。

1100は底部である。胴部外面には格子叩きが施されている。

出土した瓦質甕は、亀山焼きと考えられる。

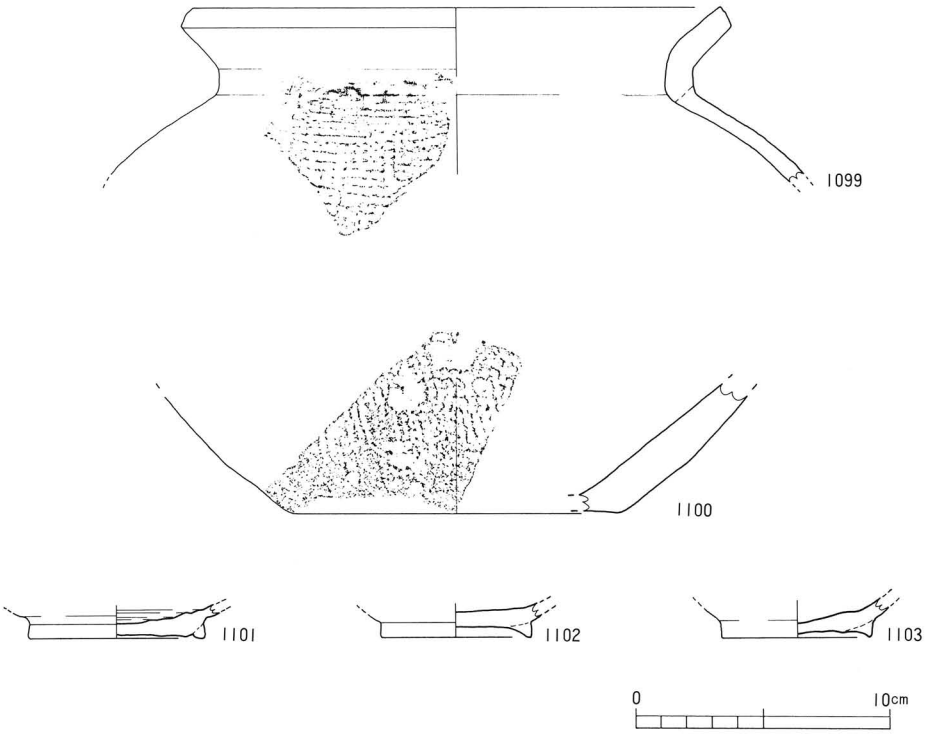


第178図　遺構外出土遺物実測図 (34)

須恵器椀（第179図、1101・1102・1103）

1101は底面を回転糸切りした後、円盤高台となし、その外周に輪高台としての貼り付けがなされている。内外面とも撫で調整が施されている。

1102・1103は輪高台の椀底部である。1102の底面は回転ヘラ切りで、内外面とも撫で調整が施され、胎土は灰白色を呈している。1103の底面は回転糸切りで、内面は撫で調整が施されている。



第179図　遺構外出土遺物実測図 (35)

須恵器甕（第180図）

1104は口頸部である。頸部以下に格子叩き、内外面とも横撫で調整が施されている。灰白色を呈している。

1105は底部である。外面には格子叩き、内面は撫でが施されている。外面にはオリーブ灰色の自然釉がかかっている。

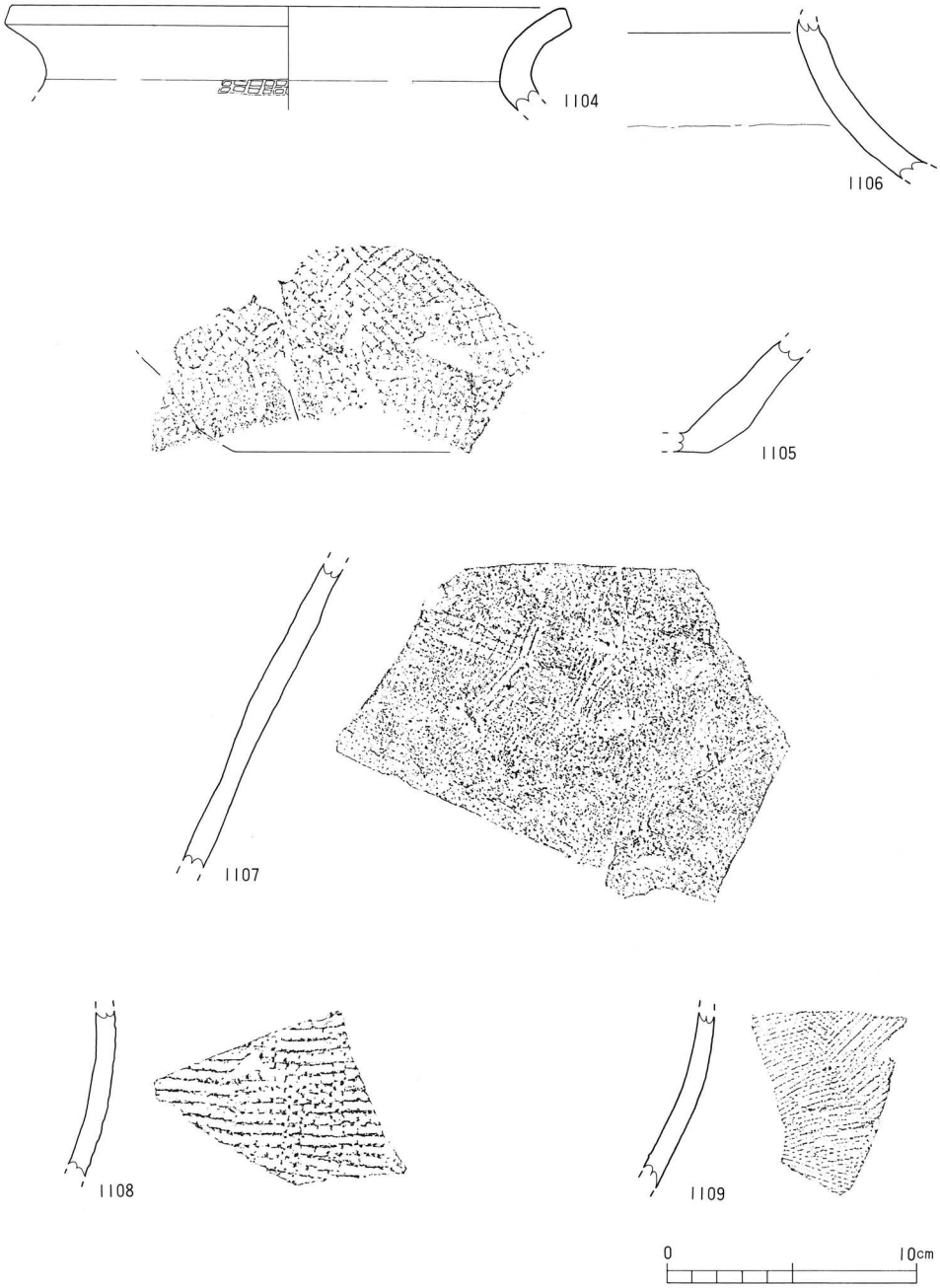
1106は肩部である。内外面とも横撫でが施され、胎土は灰褐色を呈している。

1107は体部である。外面には格子状の押印が施されている。

1108は体部である。外面に格子叩きが施されている。

1109は体部である。外面には平行叩きが細かく施されている。

出土した須恵器甕は、1104・1105・1108は亀山焼き、1106・1107は常滑焼き、1109は東播系のものと考えられる。



第180図　遺構外出土遺物実測図 (36)

須恵器こね鉢（第181・182・183図）

1110・1111・1112は東播系こね鉢の底部である。1111の見込みには小さな凹凸がみられるが、1110・1112にはみられない。

出土したこね鉢口縁部を形態から大きく５類に分類する。

A類（1113）

Ａ類は口縁部が外方向に屈曲し、端部が上方向に立ち上がるものである。

1113はやや軟質に仕上げられており、おそらく十瓶山窯のこね鉢で11世紀後半以後のものと考えられる。

B類（1114）

Ｂ類は口縁部が平坦面に仕上げられているものである。

1114はやや軟質に仕上がっている。

C類（1115～1124）

Ｃ類は口縁部が上方向へ拡張しており、外面を丸く仕上げているものである。

1123は軟質の仕上がりで、口径20.4cmと小振りである。

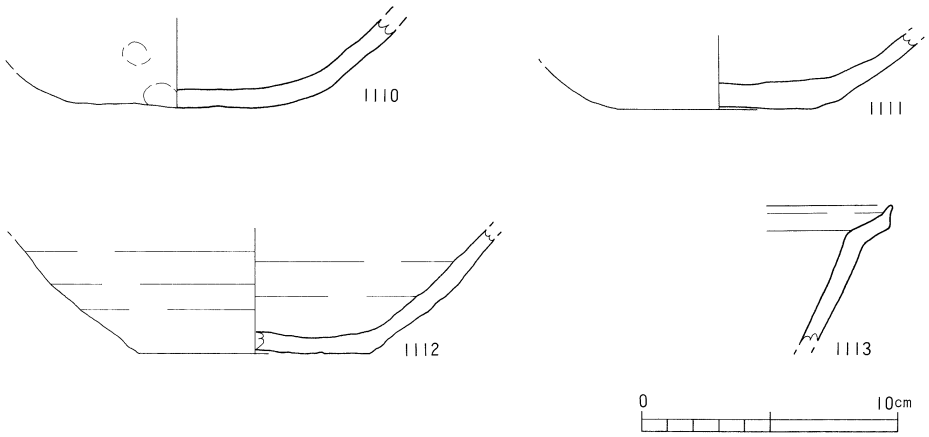
D類（1125～1128）

Ｄ類はＣ類と同様に口縁部が上方向に拡張しており、外面はＣ類より角があるものである。

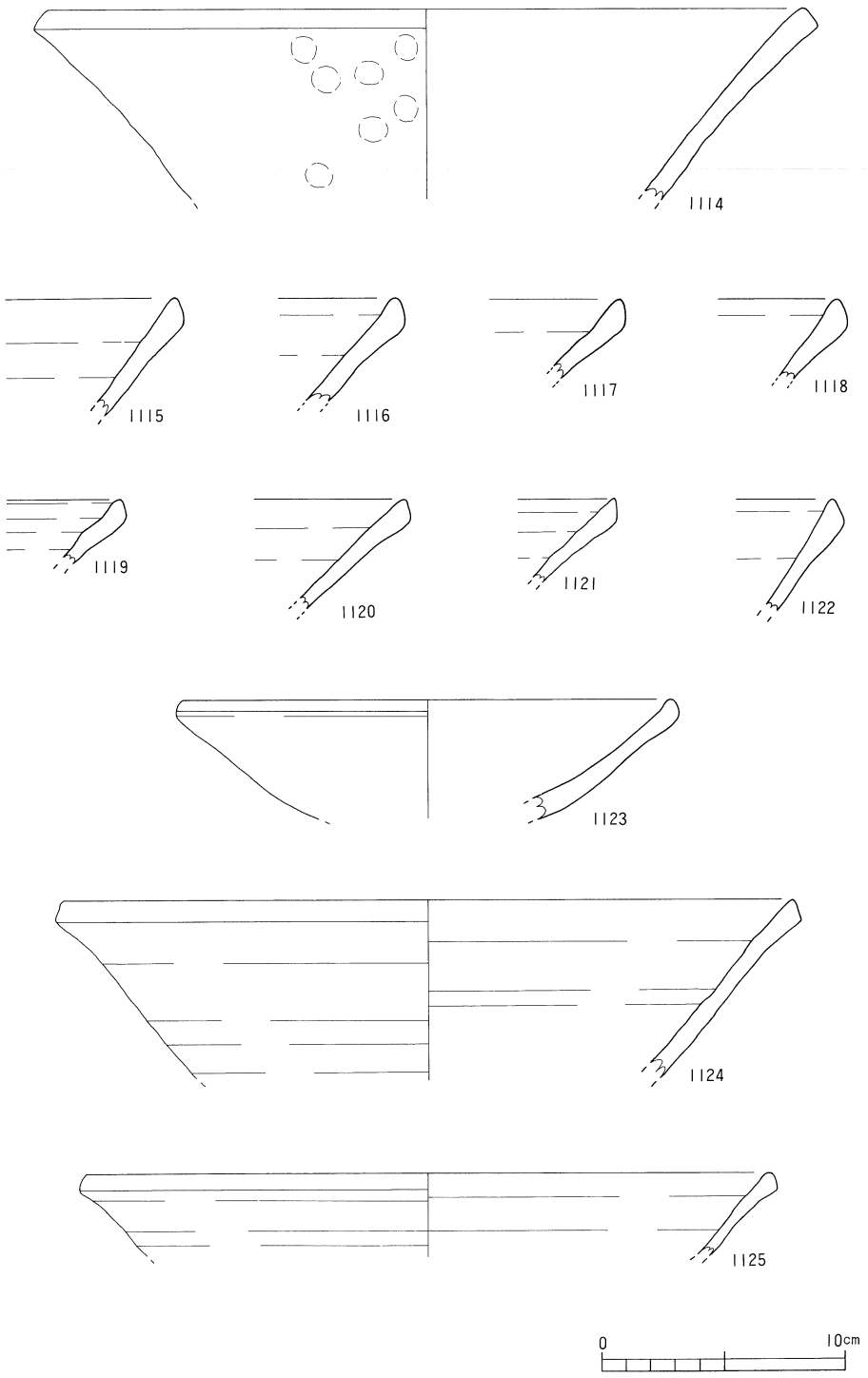
E類（1129～1133）

Ｅ類は口縁部が上下方向に拡張し、外面は明瞭な段として仕上げられているものである。

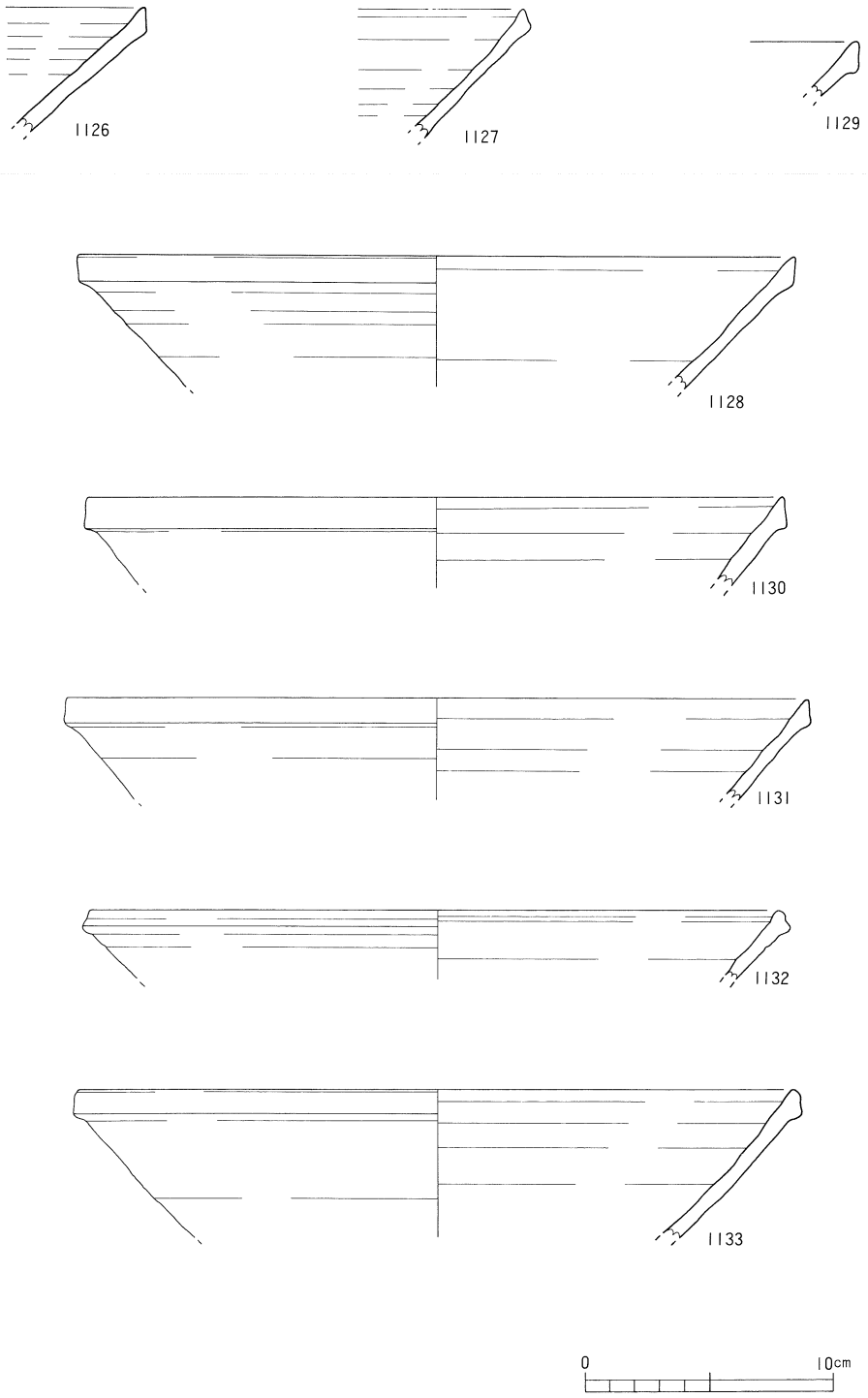
以上のＣ・Ｄ・Ｅ類は東播系こね鉢と考えられる。



第181図　遺構外出土遺物実測図 (37)



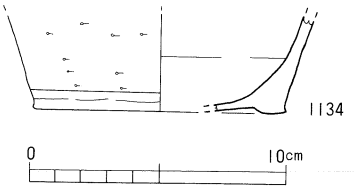
第182図　遺構外出土遺物実測図 (38)



第183図　遺構外出土遺物実測図 (39)

須恵器壺（第184図）

1134は瀬戸・美濃系と思われる壺の底部である。断面四角形の高台を削り出している。外面は削りの後撫でが施されている。内外面は灰白色、底部内面にはにぶい橙色を呈している。



第184図　遺構外出土遺物実測図 (40)

貿易陶磁器（第185・186図）

出土した貿易陶磁器については、青磁碗、青磁皿、白磁碗、合子にわけて説明する。

青磁碗（1135～1142）

1135・1136・1137・1138・1139は口縁部である。

1135は内面の口縁下に横方向の三本ヘラ描きが施され、その下にもヘラ描きの花文様が施されている。オリーブ黄色の釉がかかっている。

1136は口縁部をやや外反させており、内外面とも無文である。灰色の釉がかかっている。

1137は外面に蓮弁文が施され、灰オリーブ色の釉がかかっている。

1138は口縁部がやや肥厚し、外面に鎬蓮弁文が施され、明オリーブ灰色の釉がかかっている。

1139は口縁部が外反し、外面には蓮弁を削り出し縦方向に櫛目がはいっている。内面には蕪葉文様が施されている。

1140は体部である。内面にはヘラおよび櫛状のもので花文様を施している。オリーブ色の釉がかかっている。

1141・1142・1143は底部である。いずれも削り出し高台である。

1141は内面に片彫りの文様が施されている。オリーブ黄色の釉がかかり、高台内側には施釉されていない。

1142は体部と高台外面にしか施釉されていない。緑灰色の釉がかかっている。

1143は体部中位下には施釉されていない。内面見込みに段をもち、体部内面には櫛描き文様が施されている。灰色の釉がかかっている。

出土した青磁碗はいずれも龍泉窯系のものである。

青磁皿（1144・1145）

1144・1145は、ともに体部中位で屈曲し体部と見込みの境に段を有し、内外面とも無文のものである。外面体部下半分と底面には施釉されていない。1144・1145には灰色の釉がかかっている。いずれも同安窯系のものと考えられる。

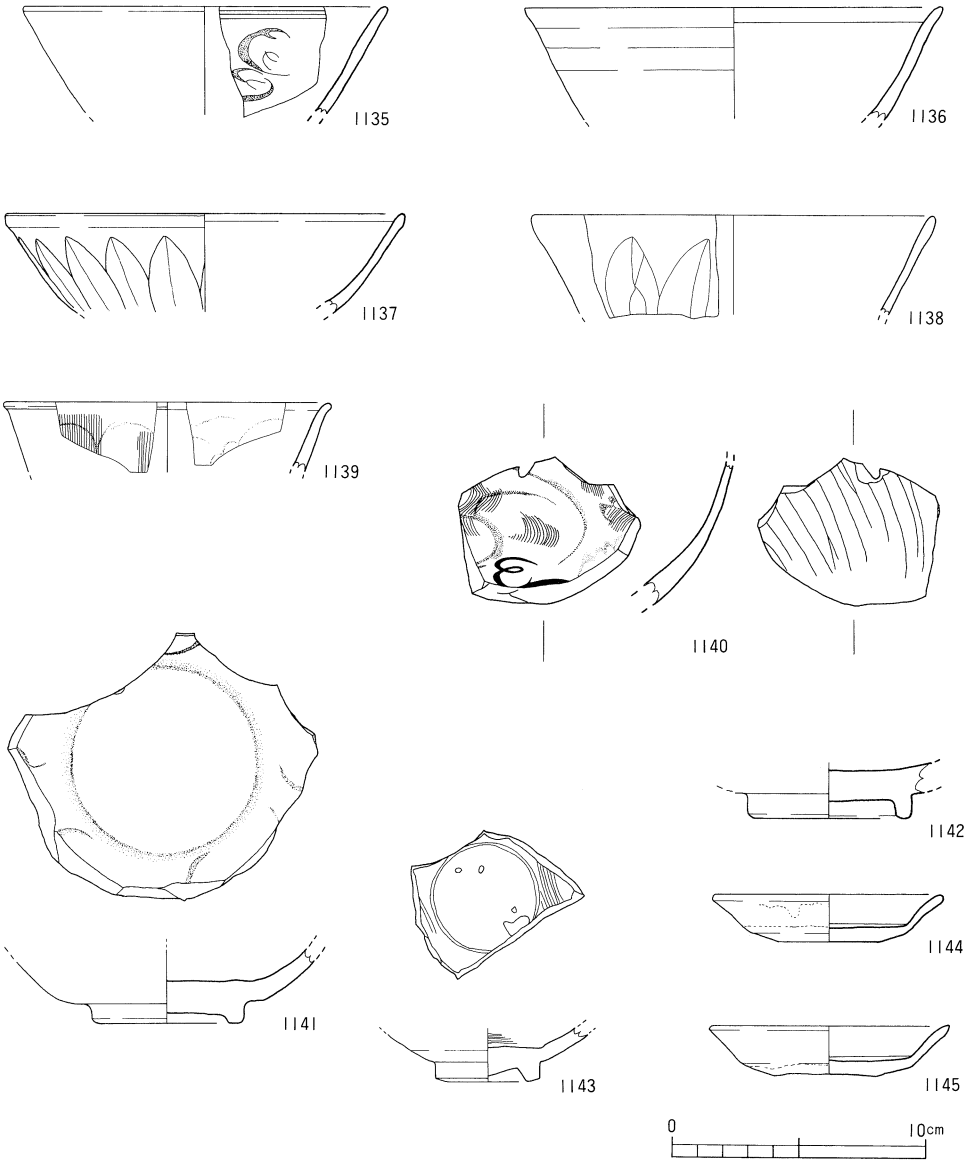
白磁碗（1146・1147）

1146・1147は口縁部を外反させ端部を平坦にさせている。いずれも灰白色の釉がかかっている。

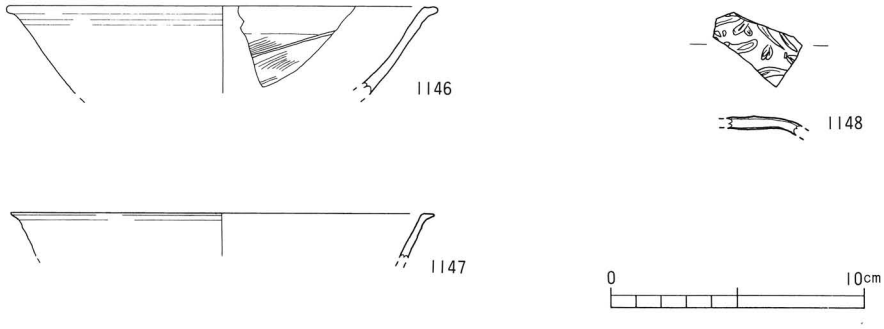
1146は内面に浅い沈線を施し、櫛描き文様がみられる。

合子（1148）

1148は青白磁の合子蓋の一部である。外面には草文がみられ、内外面とも明緑灰色の釉がかかっている。合子はこの１点しか出土していない。



第185図　遺構外出土遺物実測図 (41)



第186図　遺構外出土遺物実測図 (42)

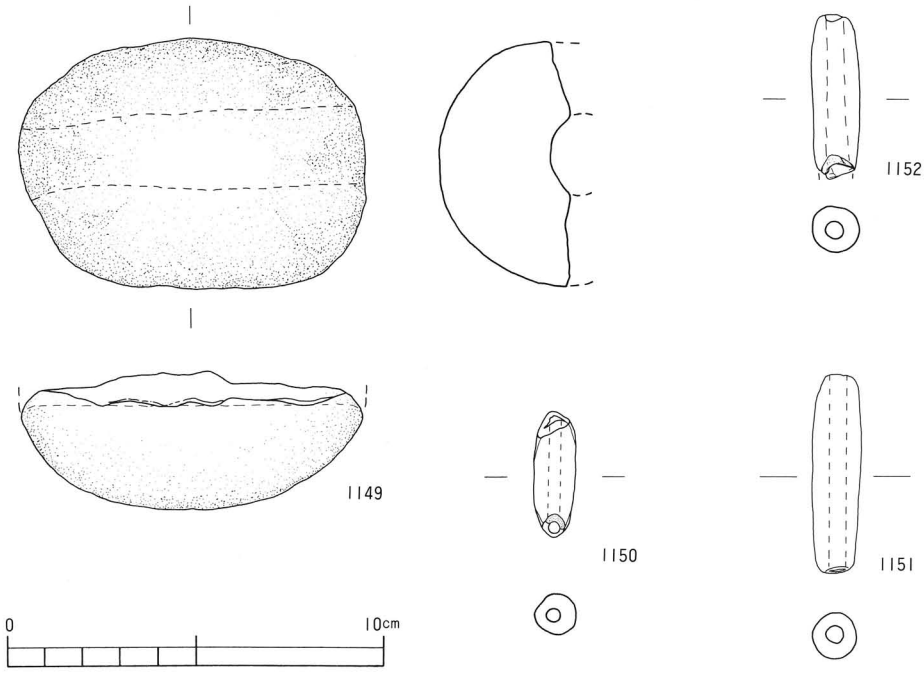
土錘（土製品）（第187図）

1149は約1／2を欠損している大型の管状土錘で、全体に摩滅している。

1150・1151・1152は小型の管状土錘である。1150のみ摩滅が著しい。

箸（木製品）（第188図、1153）

1153は箸の後端部である。欠損部は焼け焦げている。

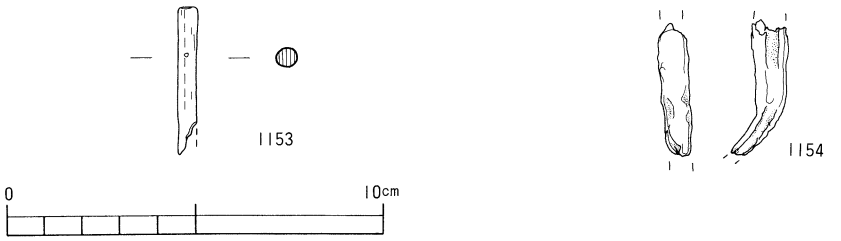


第187図　遺構外出土遺物実測図 (43)

釘（鉄製品）（第188図、1154）

1154はＮ９Ｗ32の土器密集地から出土している釘である。

図示したもののほか、Ｎ10Ｗ33からは鉄スラグ、Ｎ７Ｗ32とＮ10Ｗ33からはガラス質のスラグが出土している（写真図版52）。



第188図　遺構外出土遺物実測図 (44)

【参考文献】

＊橋本久和：『中世土器研究序論』真陽社、1992

＊尾上　実：「南河内の瓦器椀」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』、1983

＊森島康雄：「畿内産瓦器椀の併行関係と暦年代」『大和の中世土器 II －大和型瓦器椀とその周辺－』、1992

＊河野眞知郎：「鎌倉の搬入土器と在地土器」『中近世土器の基礎研究 VIII』、1992

＊赤羽一郎：『常滑焼－中世窯の様相－』（考古学ライブラリー23）、1984

＊山本悦世：「吉備系土師椀の成立と展開」『鹿田遺跡　3　－第５次調査－』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、1993

＊鈴木康之：「草戸千軒遺跡IV期の土師質土器」『中近世土器の基礎研究　V』、1989

＊萩野繁春：「西日本における中世須恵器系陶器の生産資料と編年」『福井考古学会会誌　第３号』、1985

＊岡山県文化財保護協会：「亀山遺跡」『山陽自動車道建設に伴う発掘調査　3』、1988

＊片桐孝治：「讃岐国十瓶山窯製品の流通について」『中近世土器の基礎研究 VIII』、1992

＊森田　稔：「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」『研究紀要 第３号』神戸市立博物館、1986

＊森田　勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集　4』、1978

4　工事立会調査

平成５年８月６・７日、工事掘削において立ち会い調査を行った。工事の掘削予定は標高約9.60ｍまでである。

結果、標高9.60ｍまでは砂礫層が厚く堆積しており、この砂礫層からは摩滅した弥生式土器や古墳時代の土師器を出土した。

工事では排水用の釜場設営のために、標高約9.40ｍまで一部掘削した。標高約9.40ｍで黒褐色粘土を検出した。この黒褐色粘土は、平成２年度の第６次下層調査の最終沈澱池区で検出されている粘土層であり、西方へ広がることが確認できた。

V　小結

ここでは、A・B両地区から検出された遺構や出土遺物などについて、各地区毎に簡単なまとめと若干の考察などを記述する。

1　A地区

〈遺構〉

第Ⅷ層上面から検出された鋤跡状遺構は、第Ⅶ層の出土遺物から平安時代後半の遺構である。この遺構埋土は、第Ⅶ層の黒色粘土であるため、推し量るに調査区の南側においては第Ⅶ層時期から土壌肥沃となり農耕開発行為がなされたであろう。県内における当該期の生産遺構としては初検出である。周辺に生活域が想像される。

11世紀代の周辺の遺跡としては、松環古照遺跡や古照ゴウラ遺跡の溝・土坑などから黒色土器、土師器の出土が挙げられる。

第Ⅵ層上面で検出された畦畔や足跡から中世に水田が営まれている。この水田は洪水により埋没している。水田を埋没させた洪水砂は、古照遺跡の既往調査や松環古照遺跡でも確認されている。最近では、松山城の北東部に位置する道後今市遺跡９次調査地(1)でも13世紀後半から14世紀代の鋤跡遺構や足跡など生産関連遺構が検出され、道後平野における中世の農耕関連遺跡が少しずつではあるが増えてきている。

本調査区の中世段階の洪水は、江戸時代中期の洪水(2)と同様に大規模な水害であったと推測される。この中世段階の洪水について文献史学では解らない。

この検出された埋没水田は、上下層から判断して13世紀代に営まれていたと考えられ、本調査区が生産域であり、当該期の生活域はＢ地区と古照遺跡第１次調査地周辺(3)を挙げることができよう。

洪水を被った後、土坑や土坑墓が掘られている。これら土坑は14世紀から16世紀前半にかけての遺構と考えられ、本調査区が墓原（墓域）であった可能性がある。ただし、ＳＫ－23は出土遺物や埋土から12世紀後半の素掘り井戸と思われる。その他の土坑については、次項で述べる。

現在、本調査区周辺には下水処理施設が建ち並び、この墓域と関連する生活域について明らかにすることはできないが、第６次上層調査Ｄ区で検出された当該期の掘立柱建物跡などから本調査区の北東部を生活域と推測できる。

江戸時代に入っては、本調査区が水田として営まれている。江戸時代の後期にはＳＤ－１が存在している。その後、幕末から明治前期にかけての小河川（北壁ＳＲ）を確認した。このＳＲからは多量の陶磁器、特に砥部焼きの碗や鉢、黒瓦などを出土している。出土瓦の中

には金雲母の付着が見られる瓦もある。

以上のように、古代から近世にいたる本調査区の歴史的変遷についてある程度考察することができた。道後平野の中でも特に古照遺跡は、貴重な資料を提供する重要な遺跡である。

〈土坑について〉

検出された土坑状遺構の中で明確な平面プランを確認した遺構について、長軸方向・規模などから簡単な分類を行ってみる（数字は土坑番号である）。

Aグループ：長軸が南北方向で磁北に沿うもの……1群9・29、2群18、3群3・4、4群7（方形に近い）、5群6・8（楕円に近い）

Bグループ：長軸が南北方向で磁北より東へ振れているもの……1群27、2群10・12・25、3群28・31、4群22・32（長軸長不明）

Cグループ：Bグループより更に東へ振れているもの……24

Dグループ：長軸が東西方向で磁北に対し直角になるもの……1群1・11、2群26、3群13（方形に近い）

Eグループ：Dグループより南へ振れているもの……1群5・15・16・34、2群2、3群11・20

Fグループ：Eグループより更に南へ振れているもの……14

Gグループ：上記グループに入らない……36（菱形）

以上の分類から、各土坑の新旧関係が判明しているものを列記すれば、以下の様になる（古→新を表し、＊印は分類できなかった土坑である）。

31→29（B3群→A1群）、4→3（A3群→A3群）、16→25（E1群→B2群）、11→22（D1群→B4群）、15→6（E1群→A5群）、28→21（B3群→＊）、35→24（＊→C群）、33→32（＊→B4群）

明らかに、磁北に沿うAグループがいずれのグループよりも新しい様相があり、E・D→B→Aグループへと時期的変化が考えられるが、更に各土坑の平面プランから詳細に分析し、また、周辺遺跡の資料も加えて検討すべき課題と考え、本報告書では中間的考察である。

〈分析について〉

ここでは、土坑墓から出土した人骨や脂肪酸分析の結果などから幾つかの考察を挙げて今後の研究課題にしてみたい（Ⅶ－1・3参照）。

まず、第Ⅵ層の水田土壌から人の臓器の数値が出ていることについてであるが、第Ⅴ層の洪水によって運ばれてきた死人に関わるものではないか（第6次上層調査の江戸中期の洪水堆積層からも人の頭骨・腕骨が出土している点が挙げられる）。または、第Ⅵ層が水田であるため堆肥として人糞を使用していたという可能性も指摘できないでもない。また、周辺が後

世の墓原であるため数値が高いことも考えられる。

次に、ＳＫ－８の出土人骨が骨格的に女性的要素のある50歳を超える熟年者と所見を頂き、肥肪酸分析ではヒト男性ではないかと判断され、なんとも言い難い結果であるが、この相違が採取時のミスによるとも考えられるが、前述のように水田に堆肥として人糞を使用していたのであれば、土坑墓埋土の試料が数値的にヒト男性の可能性を指摘されてもおかしくはない。しかし、人骨が骨格的に若く骨細い人である上に、お歯黒をしている点から、文明年間（1469～1487）における男性が元服時にお歯黒を行う事例(4)もあるため、この人骨が若年男性とも考えられるが、歯の咬耗度から年令は高い。いずれにしても相違を明らかにすることは現時点において困難なものである。

〈土坑墓出土の土師器杯について〉

ＳＫ－７・８から出土した土師器杯について検討してみたい。

道後平野における土師器の編年については、中野良一氏(5)は10世紀から14世紀代まで、宮本一夫氏(6)は13世紀後半から15世紀代までを組まれている。

まず、ＳＫ－７の土師器杯（第14図、２）は底面が回転糸切り、ＳＫ－８出土の土師器杯（第16図、３）は底面が静止糸切りである。

２の杯は、中野良一氏編年にあてはめれば14世紀前半に比定される器形である。

３の杯は、両氏の編年中では静止糸切り技法の土師器杯が組み入れられていないため、16世紀以降と考えられるが、中野良一氏は論考の中で、見近島城跡(7)出土遺物の中に回転糸切りと回転ヘラ切りと静止糸切りの土師器皿が出土していることから、15・16世紀には３種類の切り離し技法が共存していると指摘されている。見近島城跡は16世紀後半の遺跡で、出土している土師器と３の杯とは明らかに法量差がみられる。３の杯が先行するものと考えられる。後述するが、静止糸切り技法の出現時期は15世紀後半頃からではないだろうか。

この糸切り技法については、近年、道後公園内にある河野家の湯築城跡の発掘調査成果(8)から、層位的に土師器の切り離し技法の変化について把握されている。これによるとIII層（焼土層）は、包含する遺物から1551～1575年の年代間が与えられ、湯築城の鍵となる推積土層である。このIII層より下層（14世紀前半代）から出土している土師器の切り離しは回転糸切り技法が主流であり、III層では静止糸切りと回転ヘラ切り技法が加わり回転糸切り技法の土師器は少なく、III層より上位層からは静止糸切り技法が多く、次いで回転ヘラ切り技法のもので、回転糸切り技法は少量出土しているとのことである。湯築城から出土している土師器の法量的変化については未報告である。

また、湯築城の西方において松山市立埋蔵文化財センターによる試掘調査が行われた地所では、回転糸切りと静止糸切り技法の杯・皿が一括出土しており(9)、細線蓮弁の青磁碗の破片も出土している。出土した青磁碗から16世紀前半の土師器と考えられる。更に、樽味四反

地遺跡４次調査地(10)の土坑墓からは、回転ヘラ切りと静止糸切り技法の土師器杯がセットで出土している例もある。また、古照遺跡の西方約1.5kmに所在する北斎院地内遺跡(11)の土坑墓等から出土している土師器杯は、口縁部が外反し内面にはロクロ目のような多段撫でが施され、底部の切り離しが回転ヘラ切りである。この北斎院地内遺跡の土師器杯は16世紀前半頃のもので、２・３の土師器杯とは明らかに器形・技法的に差異があり、本調査区出土の杯が先行するものと考えられる。

中世後半における道後平野の土師器杯・皿の切り離し技法の変化と共に器形・法量変化については研究課題であり、資料の増加を待ちたい。

〈第Ⅶ層出土遺物について〉

第Ⅶ層から出土した搬入土器の年代観としては、楠葉型瓦器椀（Ⅰ－２期）は11世紀後半(12)、和泉型瓦器椀（Ⅱ期）は12世紀代、「て」の字状口縁皿は11世紀中葉頃から12世紀前半(13)、吉備系土師器椀（第58図、54）は12世紀代（搬入か在地かは不明）(14)、白磁碗は12世紀代と想定される。これら搬入土器に対して在地の土師器は、椀、杯、皿、土鍋などが出土している。これらについて若干の検討を以下に行う。

土師器椀

出土した土師器椀の高台部形態と切り離し技法については若干の分類を行っている(44p)。底部の切り離しが判明している椀は、回転糸切りと回転ヘラ切り技法のものである。また、輪高台と円盤状高台の椀に分けられる。円盤状高台の椀あるいは杯の初現は、現在、道後平野内では石井幼稚園遺跡(15)の溝（ＳＤ－１）が挙げられる。このＳＤ－１は共伴する搬入遺物から10世紀前半と捉えられている溝である。

底面が回転糸切りの土師器椀は、防長系土師器椀(16)と呼ばれるものである。中野良一氏は、この回転糸切りの土師器椀は11世紀後半段階から出土していると指摘されている(17)。第Ⅶ層から出土した土師器杯は全て回転ヘラ切りであるため、同層から出土している回転ヘラ切り技法の椀は在地的とも考えられるが、包含層資料であるため、この二種類の切り離し技法が時期的変化によるものであるかは不明である。

土師器椀の口縁形態は、口縁部外面の横撫での強弱によって、明瞭な稜を残すものがある。多くのものが外反し、また、まっすぐにやや外方向に伸びるものもある。内外面に磨きが施されているものもある。

伊予の土師器椀について森隆氏(18)は、「回転台成形の土師器椀と非回転台成形の土師器椀の一群を伊予型」土師器椀として提唱されている。第Ⅶ層出土の土師器椀は包含層資料ということもあって型式的な編年は組みづらいが、森氏の提唱されている伊予型土師器椀の一群に広義的に加わるものであろう。

第Ⅶ層出土の土師器椀は、大部分が白色系土師器椀と呼ばれている椀で占められている。

最近、来住廃寺遺跡第15次調査⒆から白色系と橙褐色系の土師器椀が出土している報告がなされている。この遺跡から出土した土師器椀の切り離しは回転糸切りが大半を占め、高台の形骸化がかなり見られるため12世紀代を主とする椀と思われる。

この来住廃寺遺跡第15次調査では、内面に刷毛目の後に磨きが施されている椀が１点出土し、その底面は回転糸切りと報告されている。第Ⅶ層からもこの調整方法の椀が３点出土している（第61図、106～108）。道後平野では、この調整方法の土師器椀の出土点数は少ないため搬入品の可能性もあるが、注目できる資料である。

第Ⅶ層出土の和泉型瓦器椀は量的に少なく、土師器椀が圧倒的に多い。中野良一氏の論考によれば、土師器椀の生産が減少し始めるのは、和泉型瓦器椀が多量に搬入される段階と指摘されている⒇。ただし、13世紀前半においては、在地の土師器椀は微少なれど生産されていたことは、資料編Ⅵ－２に後述する。しかし、この微少生産時期の土師器椀がどの系譜の土師器椀から捉えられるかは不明である。

土師器杯・皿

出土した土師器杯の底部の切り離し技法は、回転ヘラ切りである。

土師器皿は、大部分が底部から斜め方向に立ち上がる口縁をもち、口縁端部を丸く仕上げているものが多い。また、底部の切り離し技法は回転ヘラ切りが多い。しかし、回転糸切りの土師器皿も出土している。この回転糸切りの皿の出土に関しては、第Ⅵ層が13世紀代の水田ということもあり、水田耕作によって後世の土器も混入しているが、163・164（第64図）やＳＫ－23出土の皿は、胎土・器形などからＢ地区出土の皿とは明らかに違い搬入品もしくは回転糸切りの初現的皿とも考えられる。

現段階では、回転糸切り技法の土師器皿･杯が道後平野において出現する時期については、前述の防長系土師器椀の様に従来の回転ヘラ切り技法に加えて新しく回転糸切り技法が加わる時期である11世紀後半の出土例がないので土師器椀と同時期であるとは考えられず、12世紀後半頃からと思われるが明確なものではない。今後の資料増加を待ちたい。

その他

黒色土器Ａ類椀は、口縁や高台の形態から11世紀代と考えられる。この中で、第65図184のように口縁部内側に沈線を１条巡らせている椀も出土している。

須恵器鉢（第68図、227）については、胎土・色調から搬入品の可能性があり、京都の篠窯系の鉢とも考えられたが、不明である。

この第Ⅶ層より下の第Ⅷ層から須恵器の円盤高台椀１点（第69図、236）を出土している。器壁の薄さから、搬入品の可能性がある。

２．Ｂ地区

〈遺構〉

本調査区では、柵列二方向に囲まれた掘立柱建物跡ＳＢ－１を検出し(21)、この建物跡の東側でＳＤ－８を検出、ＳＤ－８はＴ字状になる溝である。このＳＤ－８はＳＢ－１に付随する溝と思われる。この溝から多量の遺物を出土した。出土遺物は、溝廃棄時の一括遺物として捉えられる。

検出された遺構が、調査区周辺にも連続して広がる可能性がある。

本調査区は、南江戸鬮目遺跡(22)と関連する遺跡と考えられる。この南江戸鬮目遺跡は報告書の中で上田真氏が、多量の土師器の出土とそれら土師器に亀裂が生じている点から「土師器の選別出荷が行われたのではないか、また、生産遺跡で恐らくは集積地であったことが考えられる」と指摘されている。それぞれの遺跡から出土した遺物の比較検討を詳細に行えていないが、南江戸鬮目遺跡を集積地とし、本調査区を消費地の一部としての性格が窺い知れる。

本調査区は、出土遺物から13世紀代を盛期とする遺跡と考えられる。

〈遺物〉

出土した遺物量は、天箱（ＤＧＫ・No.32、60×44×深さ15cm）にして43箱余りで、その内訳は回転糸切りの土師器杯・皿18箱（約41％）、瓦器椀・皿10箱（約23％）、手づくね土師器杯・皿５箱（約12％）、土師質の鍋・釜・竈などは５箱（約12％）、次いで須恵器・陶器などは４箱（約９％）、貿易陶磁器0.5箱（約１％）、その他１箱（約２％）である。

回転糸切り土師器が供膳具の主流を占めていることがわかる。椀形態のものは瓦器が主であり、手づくね土師器と煮沸関係の土器とは同数程度である。次いで貯蔵用須恵器類、そして少量の貿易陶磁器が出土している状況である。

以下、幾つかの遺物について検討する。

土師器椀

本調査区から出土した土師器椀は11世紀から12世紀代のものが紛れ込んでいるが、244（第75図、ＳＢ－１）・407（第109図、ＳＤ－８）・1019（第163図、遺構外）の３点は13世紀後半以降の吉備系土師器椀と思われる。この吉備系土師器椀は前述の南江戸鬮目遺跡の２号集積遺構からも出土している(23)。道後平野の中では、古照遺跡周辺のみから出土している。

土師器杯・皿

前述のように、回転糸切り技法の土師器杯・皿が多量に出土している。次いで、手づくね成形の土師器杯・皿である。この手づくね成形は、底部に指頭痕がみられ明らかに指頭押さえによるもので、体部外面に粘土紐巻き上げの痕跡が窺われる土器も出土している。撫で調整

は、内面見込みを撫でた後に口縁部を横撫でしている。口縁部外面に明瞭な稜があるものと稜の看取れないものがある。手づくね成形の土師器は畿内的技法によるものと考えられる。

本調査区から出土した手づくね土師器は、回転糸切り土師器と比較して色調・胎土の点で異にするものでないため在地的土器ではないかと考えられる。百瀬・橋本の両氏は、東日本では畿内系土師器の出土が12世紀後半から13世紀によく見られる点を指摘されている(24)。

本調査区から出土した手づくね土師器と回転糸切り土師器並びに瓦器の胎土分析結果を分析編VII－８に掲載している。分析結果から更に資料を増やして検討すべきものであろう。

Ａ地区の第VII層からも手づくね土師器皿が４点出土している（第64図、165～168）。この皿は、本調査区出土の手づくね土師器と比較してみると明らかに胎土・焼成・色調において異なり、Ａ地区出土は搬入品と考えられる。

本調査区以外に手づくね土師器は、南江戸鬮目遺跡からも回転糸切り土師器に混じって出土しており、古照ゴウラ遺跡４次調査地や古照遺跡第８次上層調査Ａ・Ｂ地区からも出土しているが、いずれの遺跡でも点数が少ない。本調査区は特異性をもつ遺跡であろう。

この様な手づくね土師器は、道後平野全域で出土するものでなく、現段階では古照遺跡周辺からしか出土例がなく地域が限定されている。この点から平野内の中であまり流通に乗らない一時的なものではないだろうか。

手づくね土師器以外に、ＳＸ－13の632（第133図）のように口縁端部を内側に折り曲げる形態の皿が１点出土している。底部の切り離しは不明である。この形態の皿は、伊野近富氏(25)がＣタイプに分類されているものに類似しており、13世紀後半に比定されている。632が搬入品であるかどうかは定かでない。道後平野内では出土例が未だない土器である。

この632の様に口縁部を内側に折り曲げる形態に近い口縁をしているもの、または口縁端部が肥厚する形態の土師器皿の出土は鷹ノ子町遺跡１次調査(26)と鷹子遺跡(27)から報告されている。

また、ＳＤ－８の408（第109図）のように底部を回転糸切りしたあと粘土紐の高台を貼り付けた杯や遺構外出土の675（第145図）のような箱型の杯についても平野内では出土例が少ないものである。

瓦器

ＳＫ－９の瓦器椀（第87図、304）は和泉型III－２期に、遺構外出土（第165図、1026）は和泉型III－３期である(28)。その他の瓦器椀も和泉型のIII期に属するものであろう。

本調査区からは無高台の楠葉型瓦器（第166図、1053）が県内で初めて出土している。この瓦器については、13世紀後半から14世紀代に比定されている(29)。

ＳＢ－１（第76図、257）と遺構外（第167図、1054・1055）は、手づくね土師器杯の形態をもつ瓦器であり、257は丸底、1054・1055は平底を呈している。この杯器形の瓦器（以下、略して瓦器杯という）は、古照遺跡周辺の遺跡からも出土しているため資料編VI－２で紹介

する。このような瓦器杯が道後平野全域に見られるものでなく古照地域からしか出土していない点が挙げられる。

県内では、今治平野の八町遺跡(30) 5調査区の187号柱穴から出土例があり、この瓦器杯は平底を呈している。

その他

本調査区からは常滑焼き甕が出土している（ＳＫ－13第94図342、ＳＰ－７第123図574、第180図1106・1107）。当該期の常滑焼きの出土例はないが、後出時期の出土には松環古照遺跡(31)、樽味遺跡２次調査(32)、湯築城跡がある。

また、十瓶山窯こね鉢（第181図、1113）が出土しており、前述の八町遺跡７調査区の２号土坑からも出土(33)しており、県内では２例目となる。

本調査区の遺構埋土や包含層からスラグ(34)が出土していることは、本調査区周辺で小鍛冶や野鍛冶の存在が考えられ、中世生活を知る上で重要な資料である。

［註］

(1)橋本雄一・相原秀仁：「道後今市遺跡９次調査地」『道後城北遺跡群　II』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1994

(2)古照遺跡第６次上層調査では、調査地全域において江戸時代中期の洪水で埋没した農耕遺構が検出されている。この洪水は東方の松環古照遺跡・古照ゴウラ遺跡でも確認されている。

(3)古照遺跡第１次調査では、上層の中近世遺構などは掘削によって未調査であるが、完形の瓦器椀１点が出土している。この瓦器椀については本報告書の資料編VI－２に資料紹介している。

(4)原　三正：『お歯黒の研究』人間の科学社、1981

(5)中野良一：「愛媛県における古代末から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究　IV』、1988

(6)宮本一夫：「道後平野の中世土器研究－13～15世紀を中心に－」『鷹子・樽味遺跡の調査』、愛媛大学埋蔵文化財調査室、1989

(7)中島博文・野口光比呂：『見近島城跡』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター、1983

(8)『道後公園埋蔵文化財発掘調査－現地説明会資料－』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター（1989・1992・1993）並びに沖野新一：「湯築城跡」『埋文えひめ（第18号）』同センター（1993）

(9)試掘調査によるものであり、未報告資料である。検出された遺構等の詳細は不明である。

(10)加島次郎：『樽味四反地遺跡４次調査地－概報－』（1993）この概報は、当（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター内における遺跡検討会資料であり、未報告である。

(11)①宮崎泰好：「北斎院地内遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報　II』松山市教育委員会、1989

(11)②梅木謙一・武正良浩：「北斎院地内遺跡２次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報　V』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

(12)橋本久和：「高槻における中世土器の編年」『上牧遺跡発掘調査報告書』高槻市教育委員会、1980

(13)（財）京都市埋蔵文化財研究所の小森俊寛・百瀬正恒・吉村正親の各氏からご教示頂く。

(14)岡山県古代吉備文化財センターの福田正継氏よりご指摘頂いた。

⑮栗田茂敏：「石井幼稚園遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅰ』松山市教育委員会（1987）、出土遺物を実見した。

⑯百瀬正恒・橋本久和：「中世平安京の土器様相と各地への展開」『考古学ジャーナル №299』、1988

⑰前掲註(5)

⑱森　隆：「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の系譜について－西日本の土器椀生産を中心とした－」『中近世土器の基礎研究　Ⅷ』、1992

⑲西尾幸則・山本健一他：『来住廃寺遺跡－第15次調査報告書』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

⑳前掲註(5)

㉑『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅴ』（1993）においては、掘立柱建物跡２棟と報告しているが、柱穴の位置関係にミスがあり、本報告書で１棟と訂正した。

㉒上田　真・水本完児：『南江戸鬮目遺跡』松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター、1992

㉓南江戸鬮目遺跡の２号集積遺構出土土師器椀については、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所の鈴木康之氏からご教示頂いた。

㉔前掲註⑯

㉕伊野近富：「かわらけ考」『(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター五周年記念論集』、1987

㉖宮内慎一・梅木謙一：「鷹ノ子遺跡１次調査」『来住・久米地区の遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

㉗宮本一夫：「鷹子遺跡」　前掲註(6)

㉘この瓦器椀２点について、平成５年２月、大阪府教育委員会の尾上実氏・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの森島康雄氏から、304は腰の張る器形である大阪南部の特徴がありⅢ－２期に、1026はⅢ－３期であろうとご教示頂いた。

㉙橋本久和は『中世土器研究序論』（1992）において、上牧遺跡の溝１から出土した遺物を取り上げ、楠葉型のⅢ－３期と検討されている。また、河野眞知郎氏は「鎌倉の搬入土器と在地土器」『中近世土器の基礎研究　Ⅷ』（1992）の中で、主に13世紀後半から14世紀前葉の層から普遍的に出土している様相を指摘されている。

㉚「八町遺跡」『一般国道196号今治道路埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)愛媛県埋蔵文化財センター、1989

㉛『松環古照遺跡』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター（1993）報告書の中では明確に常滑焼きとして言及されていないが、『松環古照遺跡及び大峰ケ台遺跡－現地説明会資料－』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター（1987）並びに、中野良一氏の論考（前掲註(5)）において出土が記載されている。

㉜『樽味遺跡　Ⅱ－樽味遺跡２次調査報告－』愛媛大学埋蔵文化財調査室、1993

㉝中野良一氏より「八町遺跡」７調査区２号土坑の土師質鍋と報告されているものが、十瓶山窯のコネ鉢であるとのご指摘を頂いた。

㉞名古屋大学の村上恭通氏からご教示頂いた。

【参考文献】

＊『常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告書』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1978

＊『宮ケ瀬遺跡群　Ⅲ』神奈川県立埋蔵文化財センター、1993

＊栗田正芳・河野史知他：『古照遺跡－第６次調査－』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
＊栗田正芳・河野史知：「古照遺跡８次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅴ』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
＊松村　淳・山本健一：「古照ゴウラ遺跡４次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅳ』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

Ⅵ　資料編

1　濃縮タンク工事立会調査

濃縮タンクは、第７次調査Ａ地区の東方約110ｍの地点に建設予定されている施設（第３図参照）である。

この濃縮タンク予定地の試掘調査は、平成３年７月25日～同年８月17日にかけて、Ａ地区の試掘調査と同時に実施している。

深さ約2.0ｍ（標高約11.0ｍ）までの間は、中近世の土層が堆積し、それ以下は砂礫層が堆積していた。中近世土層からは遺構・遺物の検出がなかったため、工事掘削において更に下層の立会調査を行った。工事掘削は、標高約9.5ｍまでである。

平成３年９月４日、工事掘削に立会い、標高約10.2ｍにおいて層厚約50cmを測る黒褐色粘土層を確認した。この黒褐色粘土層の上下には厚く砂礫層が堆積していた。

この黒褐色粘土層から古墳時代前期初頭の土師器（第189図）を出土した。この黒褐色粘土の堆積時期は、「井堰」と同時期の古墳時代前期と考えられる。

この黒褐色粘土層は「井堰」よりも約1.2ｍ高い位置で検出されている。この黒褐色粘土層と同時期の黒褐色粘土層については、平成４年度の第８次調査(1)において同じ標高から古墳時代前期の溝遺構が検出されている。

また、平成４年度の第９次調査地(2)でも標高約8.0ｍで古墳時代前期の黒褐色粘土層を確認している。

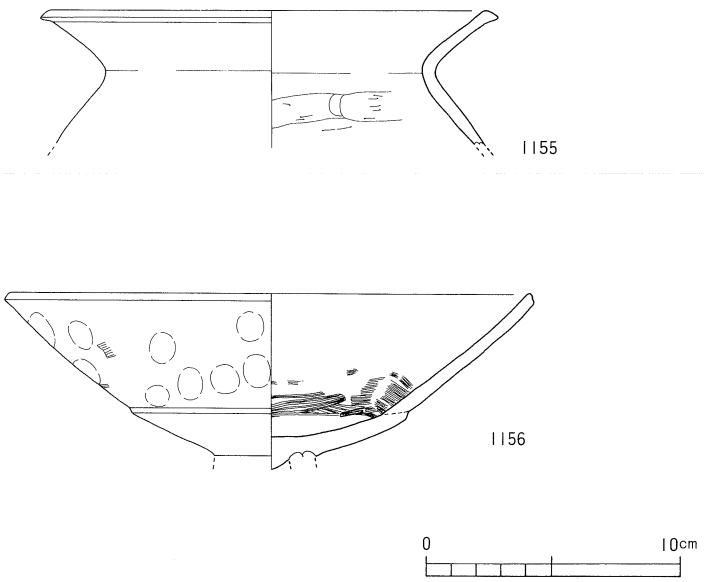
昭和45年撮影の航空写真や中央浄化センター造成前の微地形コンタから、中央浄化センター内のほぼ中央に東西方向の谷地形があることが解っている。この３箇所から検出された黒褐色粘土層が、この谷地形に比定される土層と思われる。

以上のことから、古墳時代前期の地形として東西方向の谷地形が存在し、その谷の西側、特に河川の合流する地点に「井堰」３基が構築されていたと考察される。

工事立会調査出土遺物（第189図）

1155は甕の口頸部である。口縁端部は内側に肥厚している。全体に摩滅しているが、内面には横方向の削りが施され、体部外面には横方向の刷毛目が施されている。口縁部内外面は横方向の撫で調整が施されている。

1156は高杯の杯部である。内外面とも幅広の刷毛目が施された後、磨き調整が施されている。



第189図　濃縮タンク工事立会調査出土遺物実測図

2　古照地域出土遺物について

近年、古照遺跡を含めた古照地域の発掘調査において、古代から中世にいたる遺物が多量に出土している。今後、道後平野における土器様相を研究する上で貴重な資料であるため、各遺跡から出土した遺物について資料紹介を行い、今後の土器研究のために検討を加え、更には古照地域の性格について簡単に述べてみる。

〈各遺跡出土遺物〉

古照遺跡第６次下層調査（第190図）

古照遺跡第６次下層調査（以下、略して６下という）は平成２年度の調査(3)で、洪水による溢流堆積層から出土した遺物を説明する。この溢流堆積は10世紀後半の洪水による堆積層と考えられている。

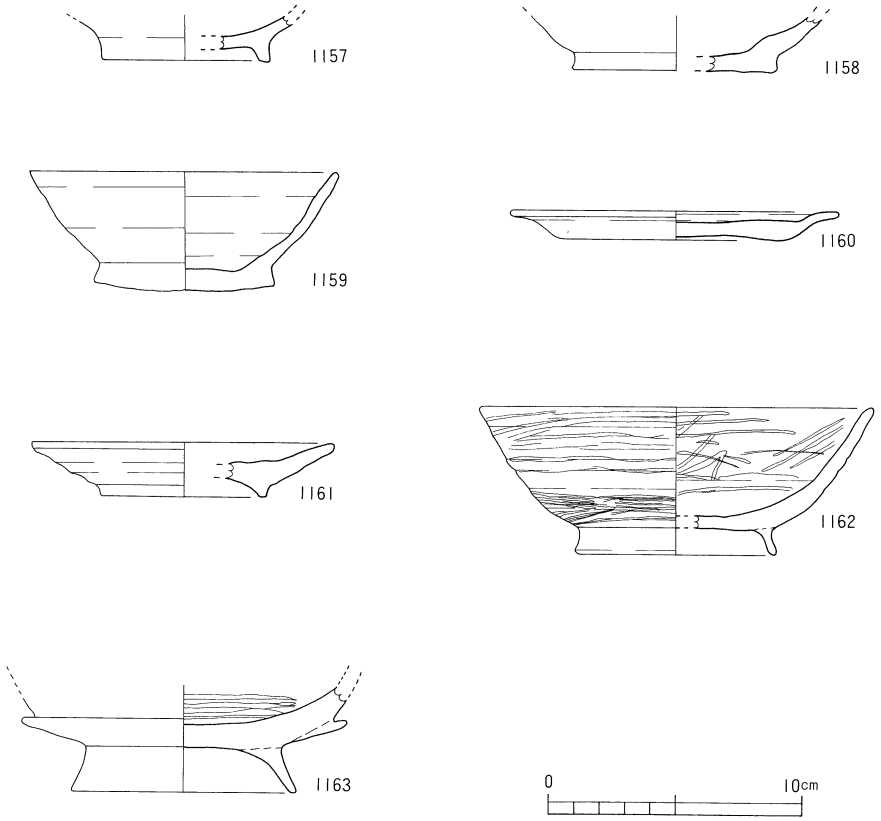
1157は輪高台の土師器椀で、断面四角形の高台が貼り付けられている。1158は円盤高台の土師器で、底面は回転ヘラ切りである。底径の大きさ、底部からの立ち上がりから椀と思われる。

1159は円盤高台の土師器杯で、底面は回転ヘラ切りされている。

1160は口縁部を外側へ折り曲げ、「て」の字状を呈する土師器皿である。底面にはヘラおこしの痕跡がある。1161は高台付の土師器皿である。

1162は黒色土器Ａ類椀で、高台の断面は細長く、外方向に張り出している。内外面とも磨きが施されている。

1163は黒色土器Ａ類の托上椀で、内面には横方向の磨きが施されている。

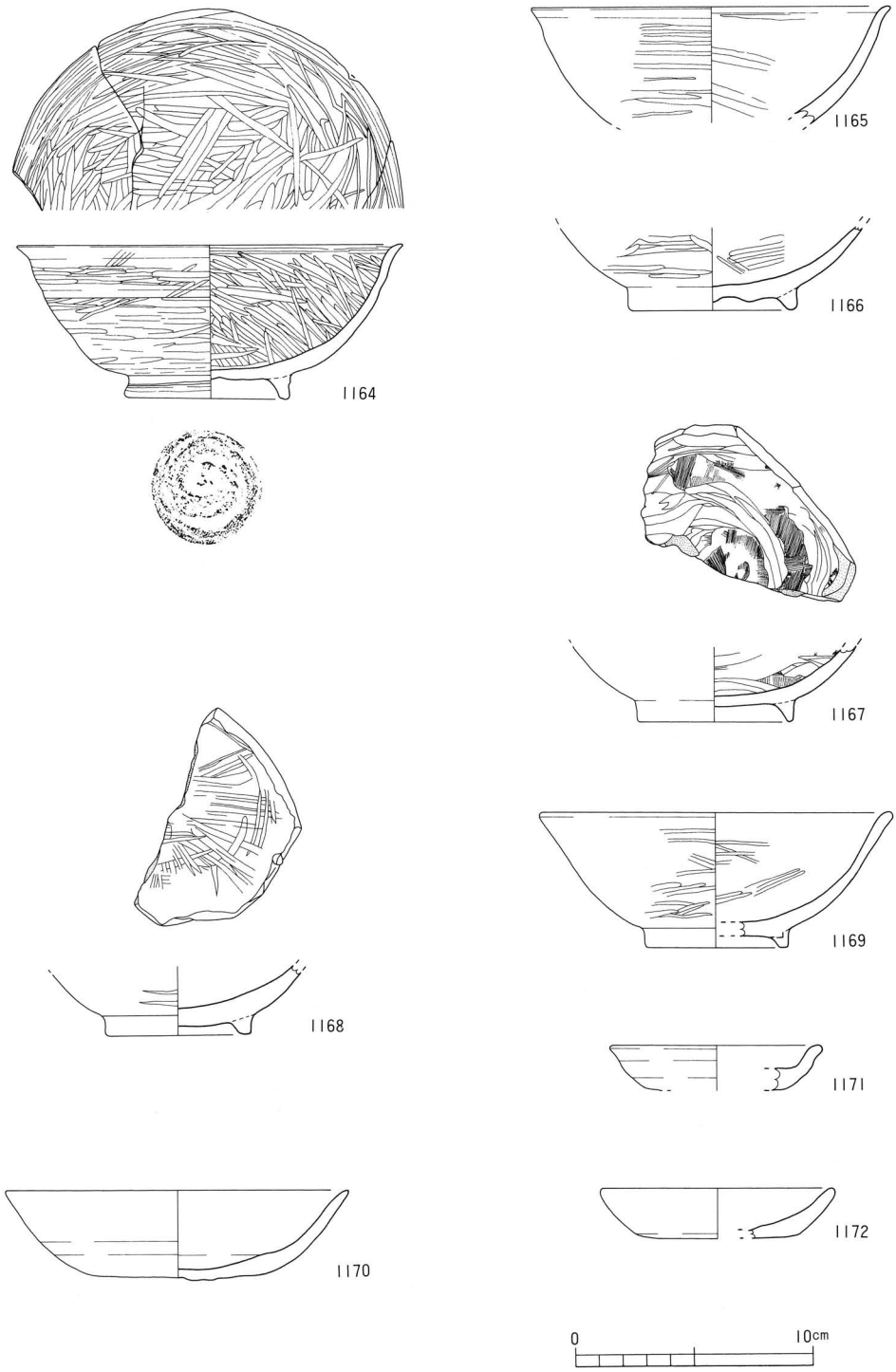


第190図　古照遺跡第６次下層調査出土遺物実測図

古照遺跡第10次調査（第191図）

古照遺跡第10次調査（以下、略して10次という）は、平成５年度において古照遺跡第６次調査地の東側隣接地を調査したものである。未報告であるが、東西方向の溝（ＳＤ－１）を検出し、その溝から出土した遺物を紹介する。

1164～1168は黒色土器Ａ類の椀である。1164はほぼ完形品で、やや腰が張る器形である。体部外面は横方向の磨きが緻密に施され、体部内面は横方向の磨きや見込み部から口縁部にかけて斜め方向の磨きが施されている。底面はヘラ切りされ、断面台形状の高台が貼り付けられている。底面のヘラ切り方向は時計回りである。1165と1166は同一個体と思われる。1165は1164と同様に口縁部が外反する。1166の内面には小さな窪みが多数あり何らかの痕跡であろう。1167は丸底を呈する底部に断面三角形の高台が貼り付けられ、見込み部には刷毛目の後に磨きが施されている。1168は1167よりも器壁は厚く断面台形状の高台が貼り付けられ、



第191図　古照遺跡第10次調査出土遺物実測図

見込み部には放射状の磨きと横方向の磨きが施されている。

1169は黒色土器Ｂ類の椀である。底部と口縁部は接合しないが同一個体であるため１個体として図示した。口縁部は外反している。内外面とも磨きが緻密に施されている。底面の切り離しは不明であるが、円盤状高台の外周に断面台形状の高台が貼り付けられている特徴がある。

1170は土師器杯で底面は回転ヘラ切りされている。体部外面上半分は横撫でが施され下半分は未調整である。

1171・1172は土師器皿である。1171の口縁部は外反している。1172は底部からやや内弯気味に立ち上がり、底面は回転ヘラ切りである。

図示しなかったものに、土師器椀の口縁部片や竹製籠も出土している。このＳＤ－１は、出土した黒色土器から10世紀末から11世紀初頭の溝と考えられる。

古照遺跡第２次調査出土遺物（第192図、1173）

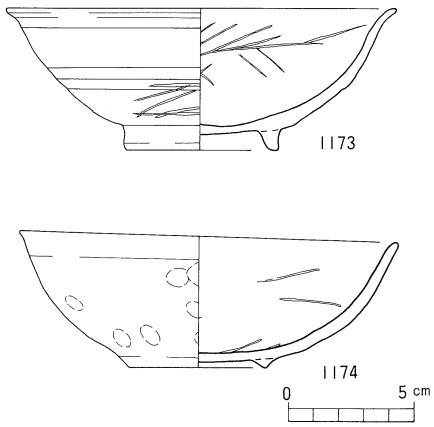
古照遺跡第２次調査（以下、略して２次という）は昭和49・50年（1974・1975）に調査され、古墳時代前期の「井堰」１基が検出されている。調査掘削中に出土した土師器椀について説明する。

1173の口縁部は外反し、口縁部下に明瞭な稜が巡っている。体部内外面には横方向の磨きが施されている。また、体部外面には浅い沈線が３条巡っている。おそらく回転台使用の椀である。口径15.4cm、器高6.7cmを測り、白色を呈している。中野良一氏の編年(4)では、11世紀中葉頃と考えられる。

古照遺跡第１次調査出土遺物（第192図、1174）

古照遺跡第１次調査（以下、略して１次という）は昭和48年（1973）に調査され、古墳時代前期の「井堰」２基が検出されている。調査掘削中に出土した瓦器椀について説明する。

1174は完形である。断面三角形の高台が貼り付けられている。特に、体部外面には焼成前の施された「×」「＼」「八」のヘラ記号が３ケ所でみられる。口径15cm、器高5.2cmを測り、断面三角形の高台が貼り付けられている。全体に摩滅しているが、体部外面上半分にかすかに磨きが施されており、内面にも幅約１mmの磨きが横方向に、見込み部には平行線あるいは格子状の磨きがかすかに看取れる。和泉型Ⅱ－３期またはⅢ－１期と思われる(5)。



第192図　古照遺跡第１・２次調査出土遺物実測図

古照ゴウラ遺跡４次調査地（第193～196図、1175～1215）

古照ゴウラ遺跡４次調査地（以下、略してＧ４という）は、平成元年（1989）に調査された(6)。この遺跡では、松環古照遺跡(7)と関連する遺構が調査されている。

特に、溝遺構、土器溜まり遺構、包含層から出土した遺物について説明を行う。

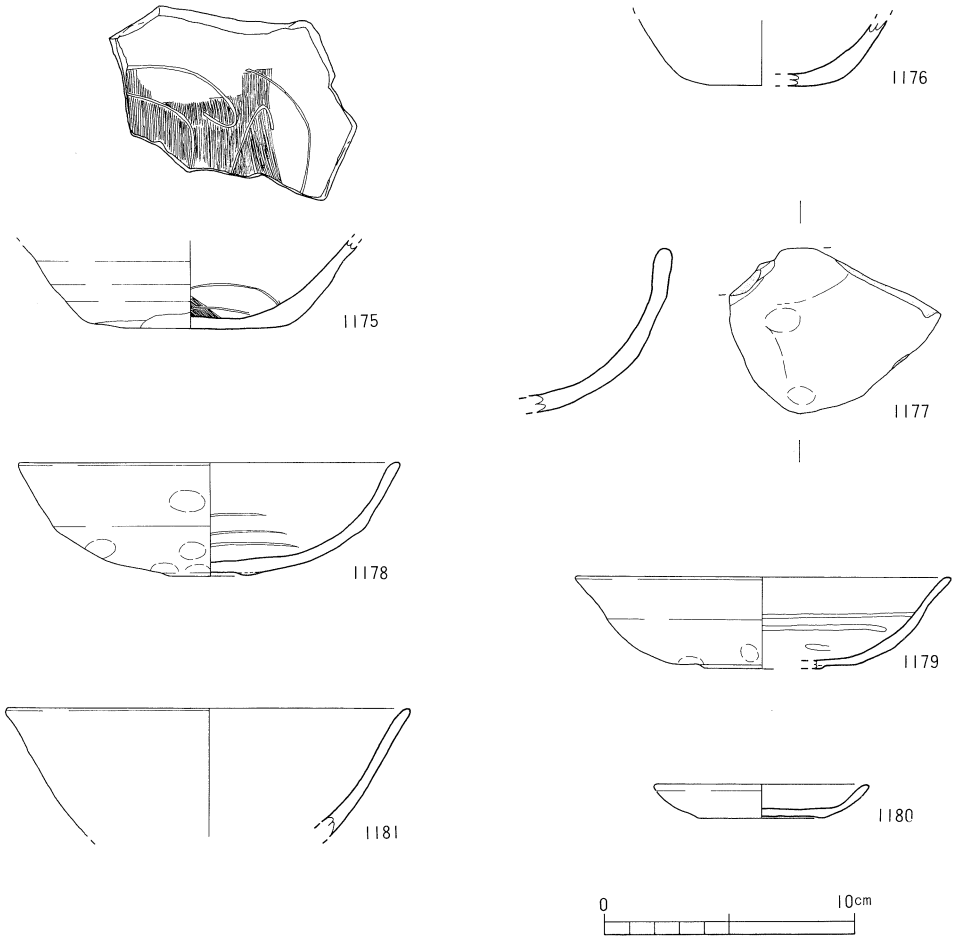
溝遺構出土遺物（第193図）

ＳＤ－２：1175は瓦器杯で平底を呈し、内面に刷毛目と暗文が施されている。

ＳＤ－４：1176は瓦器杯で、底面に回転糸切りの痕跡が残っている。

ＳＤ－７：1177は瓦質の小型鉢で片口部をもつ。道後平野では初めての出土と思われる。

ＳＤ－８：1180は土師器皿で摩滅しているが底面はおそらく回転糸切りであろう。1179･1178は瓦器椀である。1181は越州窯青磁碗で、外面に１条の沈線らしき窪みが巡っている。溝への紛れ込みと考えられる。



第193図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図（1）

土器溜まり遺構（ＳＤ－８の先端部）出土遺物（第194図）

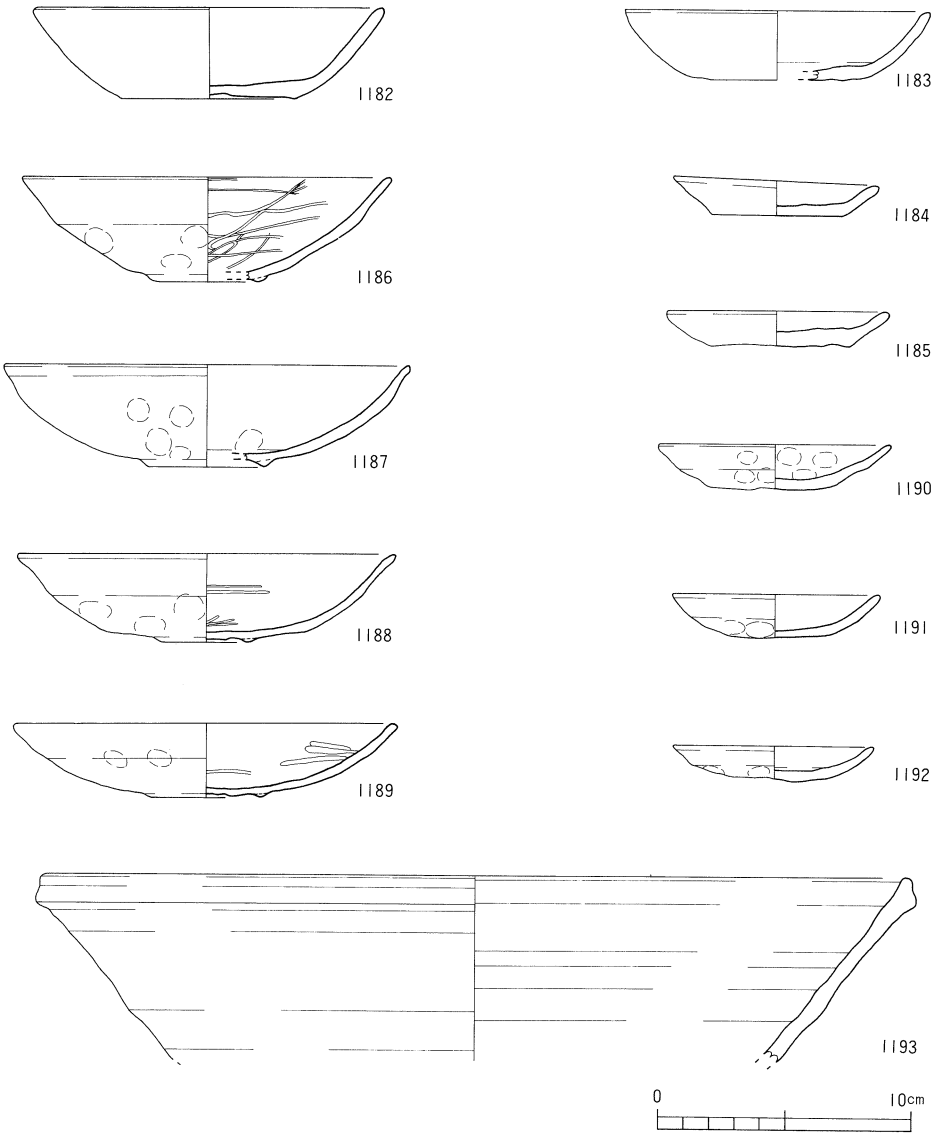
1182・1183は土師器杯で、底面は回転糸切りである。

1184・1185は土師器皿で、底面は回転糸切りである。

1186・1187・1188・1189は瓦器椀である。

1190・1191・1192は瓦器皿である。

1193は須恵器こね鉢で、東播系のものと考えられる。



第194図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図（2）

包含層出土遺物（第195・196図、1194～1215）

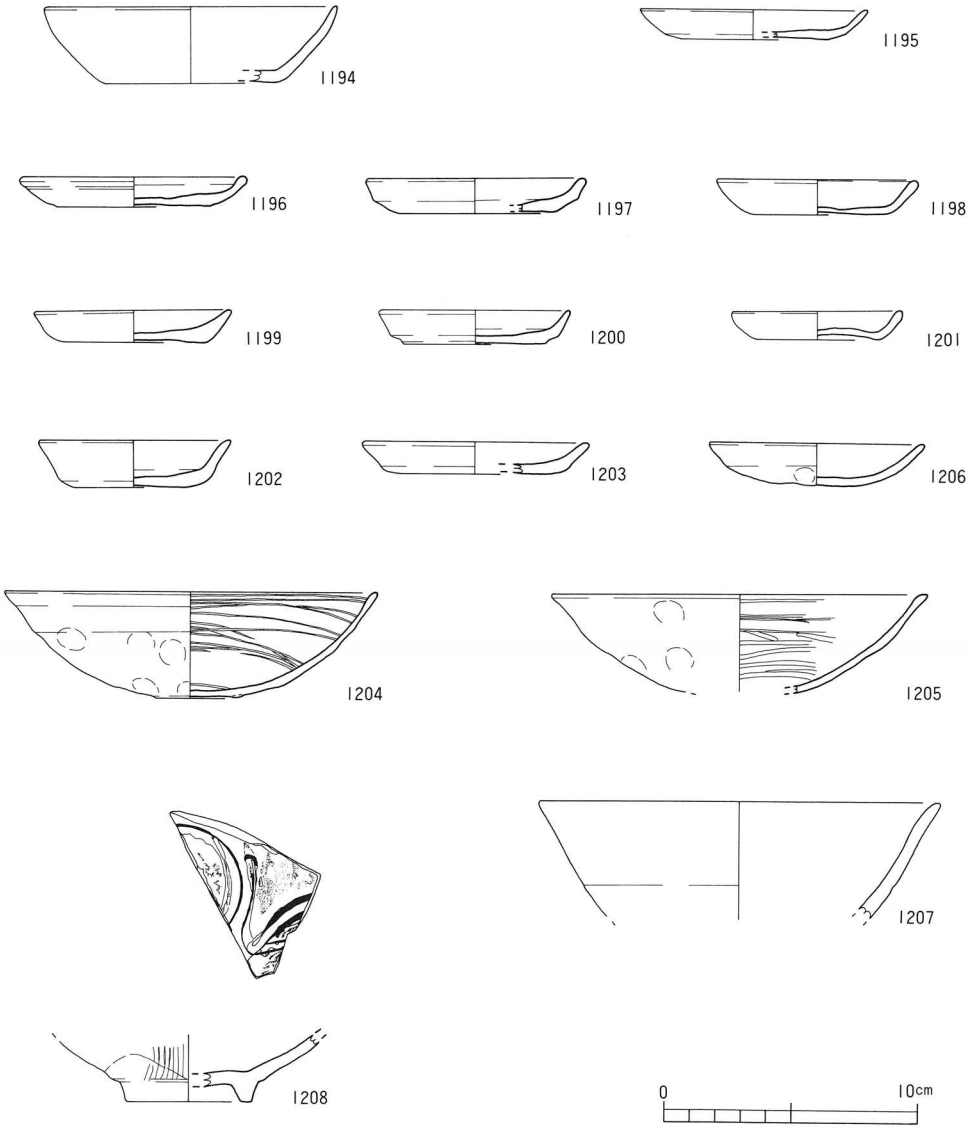
1194は土師器杯で、底面は回転糸切りである。

1195～1203は土師器皿である。1203のみ手づくねで底部に指頭痕が見られる。他は全て底面が回転糸切りである。

1204・1205は瓦器椀である。1204は内面見込みには平行線状の暗文が施されている。

1206は瓦器皿である。これらの瓦器は和泉型III期に入ると考えられる(8)。

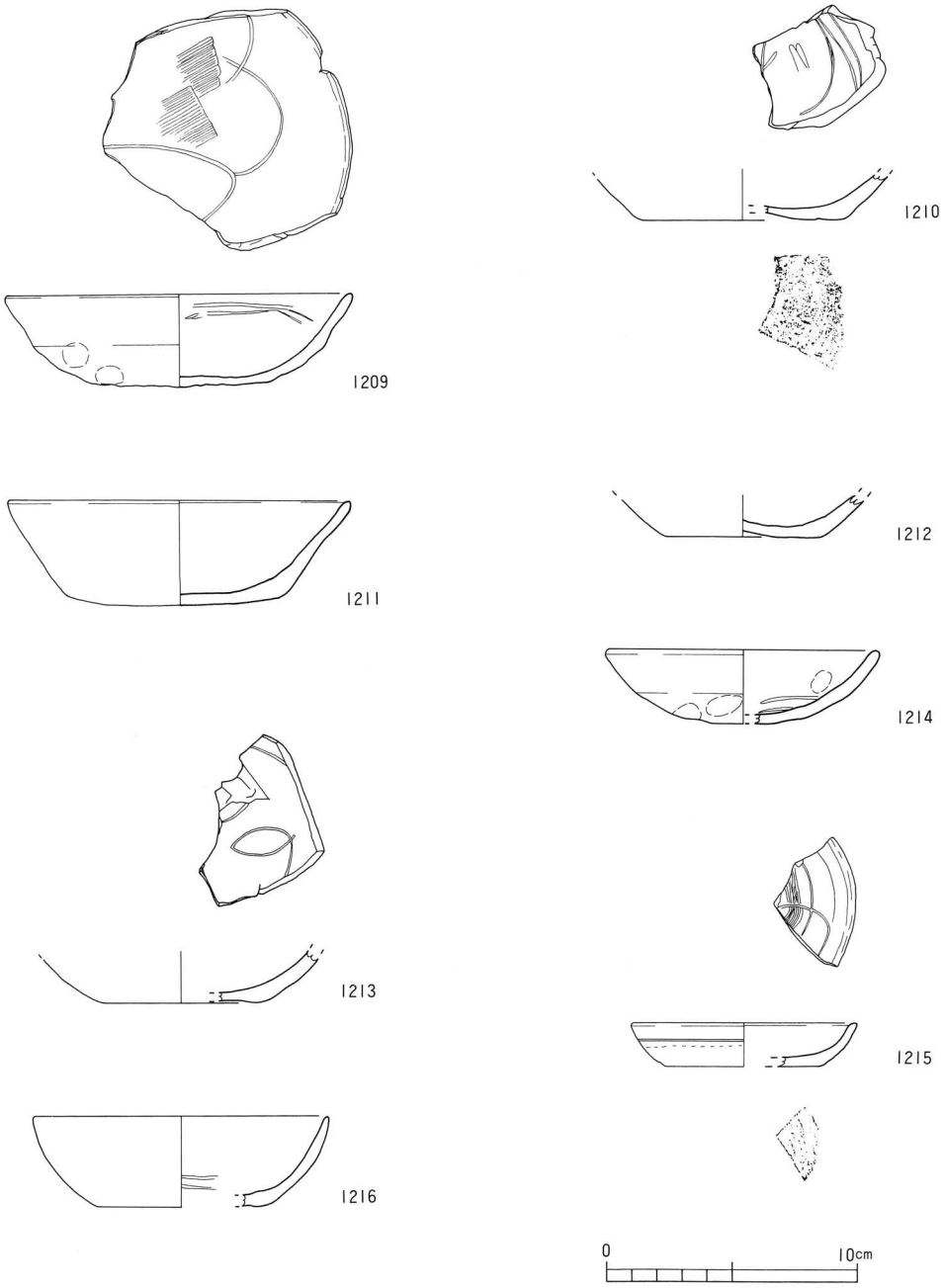
1207は越州窯青磁碗で、1181と同一個体とも考えられる。



第195図　古照ゴウラ遺跡４次調査地出土遺物実測図 (3)

1208は龍泉窯系青磁碗である。

1209・1210・1211・1212・1213・1214は瓦器杯、1215は瓦器皿である。1210・1211・1213



第196図　古照ゴウラ遺跡４次調査地 (4)・辻町遺跡出土遺物実測図

・1215は、底面が回転糸切りによるものである。1212は平底で、切り離し方法は摩滅のため不明。1210・1213・1215は内面に暗文が施されている。1209は手づくね成形によるもので、内面に刷毛目と暗文が施され、口縁外面は横撫で、体部下半分と底部に指頭痕が残る。1214は口径10.8cm、器高3cmを測り、内面に暗文が施され、法量的に和泉型瓦器のIV－4期の椀と思われる(9)。1215は体部外面上半分にのみ炭素が付着しており、重ね焼きの痕跡と考えられる（破線より上位）。

辻町遺跡（第196図、1216）

辻町遺跡（以下、略して辻という）は平成3年（1991）に調査された遺跡である(10)。

特に、第V層出土の瓦器について説明する。

1216は瓦器杯で、平底になると思われる。内面見込み部近くに横方向の磨きが施されている。

古照遺跡第8次上層調査A地区（第197図、1217～1225）

古照遺跡第8次上層調査A地区（以下、略して8Aという）は、平成4年度に調査された(11)。第6次上層調査C地区(12)の北側隣接地にあたる。

特に、土坑墓SK－1と土坑SK－5から出土した遺物について説明する。

SK－1：1217は土師器椀で、口径15cm、器高4.8cmを測る。やや腰の張る器形である。全体に摩滅している。口縁部は外反し、体部外面には浅い3条の沈線が巡っている。形骸化した断面四角形の高台が貼り付けられ、高台径6cmを測る。底面には「×」記号がある。このSK－1からは人骨、歯、湖州六花鏡1面が出土し、埋土からは瓦器椀と土師器の小片の他に白磁碗IV類とV－2・b類の口縁部片が出土している(13)。おそらく12世紀末から13世紀前半の土坑墓と考えられる。

SK－5：1218・1219・1220は瓦器椀である。1219・1220の内面見込みに格子状の暗文が施されている。1218は口径15.4cm、器高4.8cm、1220は口径15cm、器高4.6cm、1219は口径14.8cm、器高4.8cmを測る。いずれも和泉型瓦器椀である。1221・1222は土師器杯で、底面が回転糸切りである。1221は口径12.8cm、器高4cm、1222は口径15.4cm、器高3.5cmを測る。1223・1224・1225は土師器皿で、底面が回転糸切りである。1223は口径9cm、器高1.6cm、1224は口径9cm、器高1.6cm、1225は口径8cm、器高1.2cmを測る。

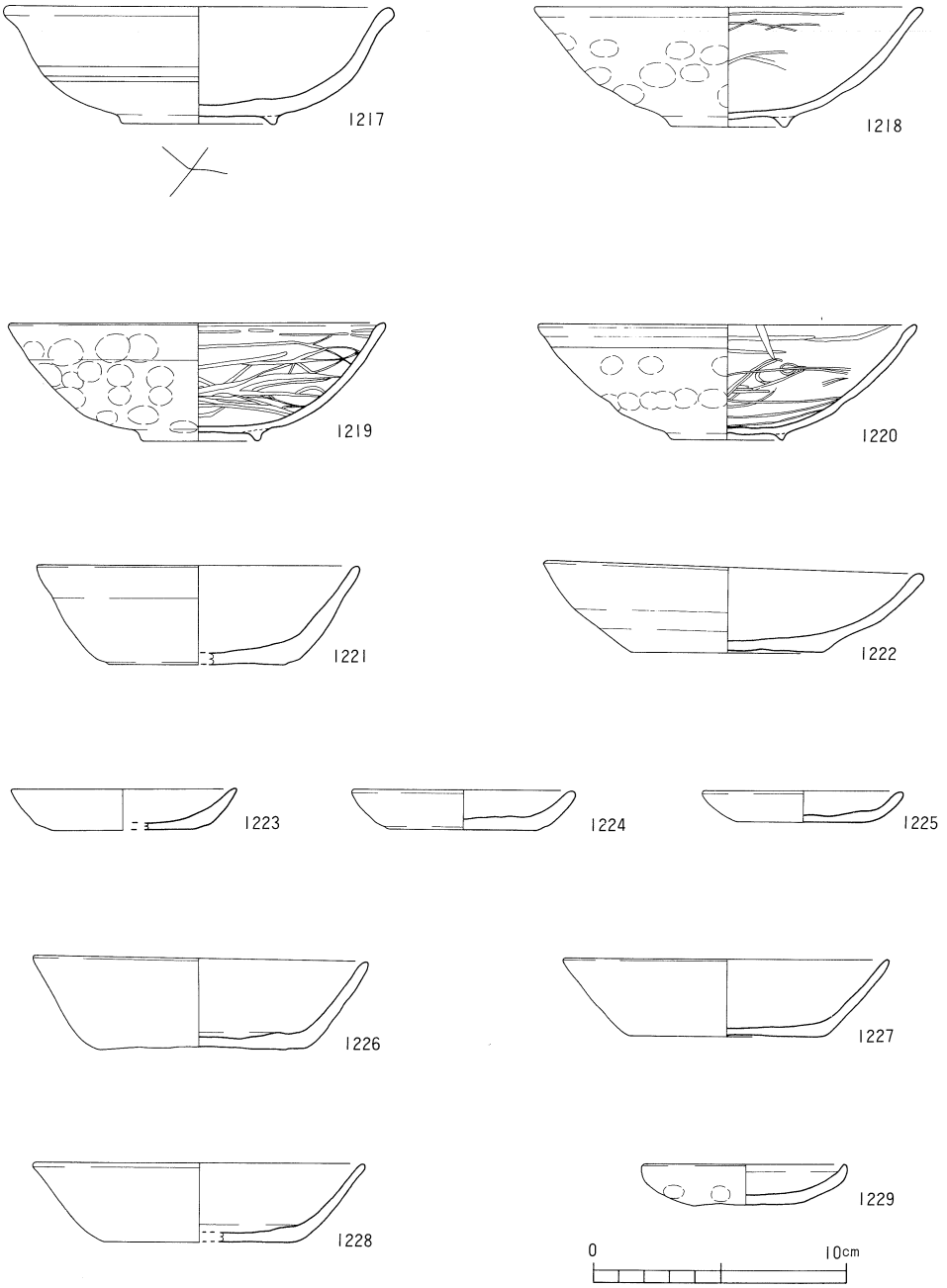
古照遺跡第8次上層調査B地区（第197図、1226～1229）

前述の8Aから西へ約150m離れた地区(14)で、第7次調査B地区（以下、略して7Bという）の西側に位置する。ここでは、土坑（SK－2）出土遺物について説明する。

このSK－2は、床面に灰が敷きつめられていた土坑である。この土坑から瓦器は出土していない。また、灰についての花粉分析結果を分析編VII－5に掲載している。

1226・1227・1228は土師器杯で、底面が回転糸切りである。1226は完形品である。1226は口径13.3cm、器高3.6cm、1227は口径12.8cm、器高3.1cm、1228は口径13cm、器高3.2cmを測る。

1229は完形品の手づくね土師器皿で、平面形がやや六角形状を呈している。口縁部内外面は横撫でが施されている。口径7.8cm、器高1.7cmを測る。



第197図　古照遺跡第８次上層調査Ａ・Ｂ地区出土遺物実測図

以上、周辺の遺跡から出土した遺物について紹介並びに簡単な説明を行った。

以下、７Ａ・Ｂ出土遺物とも併せて検討してみることにする。

〈出土土器について〉

土師器杯・皿

10次ＳＤ－１出土の土師器杯（1170）と７Ａ出土の土師器杯（第63図､139・140・141）を調整・器形などから比較するならば、1170はやや底部近くに丸みをもたせ体部外面上半分のみ横撫でが施され、139・140・141は底部から斜め方向に外傾しながら立ち上がり、体部外面は全面に横撫でが施されている点に違いがみられ、時間差のある大きな技法の違いではないかと考えられるが、この11世紀から12世紀にかけての土師器杯については、中野良一氏が松環古照遺跡から出土した杯から編年⒂を組まれている程度で資料的にはまだ少ないため断定はできない。

土師器杯の底部の切り離し技法は、７Ａの杯は全て回転ヘラ切りであり、皿に関しては回転ヘラ切りが多く、回転糸切りは数点出土している。

７ＡのＳＫ－23出土の回転糸切りの土師器皿（第33図、９・10）の胎土・器形は、本報告書の小結でも述べているように（165ｐ）、７Ａの第Ⅶ層出土土師器皿（第64図、159）と同様であり、9は全体に器壁が厚く底部から外方向へ立ち上がる口縁部をもち159と良く類似している。７Ｂ出土の土師器皿とは明らかに胎土や器形において９・10とは差異がみられるため、９・10は第Ⅶ層と同時期の土師器皿と考えられる。

更に、７Ｂでは手づくね以外の土師器杯・皿は全て回転糸切りである。この切り離し技法変化については前述の中野氏の論文に詳しい。現段階では、来住廃寺18次調査地⒃の出土遺物から、和泉型瓦器Ⅲ－１期の瓦器椀と出土している土師器杯・皿は全て回転糸切り技法によるものであるため、Ⅲ－１期を森島康雄氏の編年⒄に照らせ合わせれば、12世紀末頃に想定できる。９・10は、来住廃寺18次調査地出土土師器皿よりも古い様相があるため、12世紀後半頃ではないかと考えられる。

次に回転糸切りの土師器杯に関してであるが、８ＡＳＫ－５出土杯と７ＢＳＫ－９出土杯とを比較するならば、全体的に明らかな法量差がみられ、共伴する瓦器椀においても器高の低平化がみられる。また、８ＢＳＫ－２と７ＢＳＫ－９出土杯はほぼ同じ法量である。７ＢＳＫ－15は７ＢＳＫ－９よりも器高が低くなっており、皿においても同様である。おそらく、８ＡＳＫ－５→７ＢＳＫ－９・８ＢＳＫ－２→７ＢＳＫ－15へと法量変化があるものと考えられる。

今回掲載できなかった南江戸𪜈目遺跡⒅や松環古照遺跡から出土した土師器と比較して、今後検討する必要がある。

次に手づくね土師器杯・皿については、７Ｂ、７Ａ（第64図、165～168)、Ｇ４（第195図、

1203)、南江戸鬮目遺跡から出土している。松環古照遺跡からは報告されていない。７Ｂでは回転糸切り杯・皿の出土量に対して約１/４を占めている。この手づくね成形の土師器は、道後平野の中では、古照地域という限られた地域からの出土である。この状況は、後述する瓦器についても同様である。これら手づくね土師器杯・皿の年代感は、現段階としては13世紀代と捉えておきたい。

土師器椀

中野良一氏の論文⒆によれば、12世紀代において在地土師器椀は途絶し、補完するように和泉型瓦器椀が多量に搬入されると指摘されている。今回の７Ａ出土土師器椀には高台の形骸化がかなりみられる。また、８ＡＳＫ－１出土1217（第197図）は中野氏の編年の中で使用されている12世紀代の松環古照遺跡出土椀と比較すると明らかに器高が低く高台が形骸している点が挙げられ、７Ａ出土土師器椀とも含めて、12世紀代から13世紀前半を埋める資料である。

次に吉備系土師器椀についてである本報告書の小結にも述べているが（166ｐ）、吉備系土師器椀の出土は県内においては南江戸鬮目遺跡の２号集積遺構の土師器椀１点が実見できる資料であり、あまり報告がなされていない。このため、７Ａの54（第58図）及び７Ｂの244（第75図）・407（第109図）・1019（第163図）が新資料として挙げられる。12世紀代および13世紀後半段階における吉備系土師器椀の存在は、新たに東部瀬戸内の影響を受けていることが明らかになった。この吉備系土師器椀は、道後平野の中では、手づくね土師器及び後述の瓦器と同様に現段階では古照地域からしか出土していない。

森隆氏は伊予における土師器椀を伊予型土師器椀として提唱し、「防長系土師器椀の影響を受けながら讃岐型とは明確に異なるが、まだ不詳な点が多い」と指摘されている⒇。本報告書では伊予型土師器椀について言及することは難しいが、７Ａや８ＡＳＫ－１の土師器椀がその一群に含まれるものであろう。

黒色土器

10次の1164（第191図）、６下の1162（第190図）とを比較するなら、高台の張り出し方、高台高、体部の立ち上がり方などにおいて明らかに器形的差異が見られる。これをある程度の時期差をもつ変化として捉えたい。

次に、底部の切り離し方向（特に回転ヘラ切りによる）についてであるが、７Ａの101・104・105（第61図）の黒化処理していない土師器椀の底部は逆時計回りであるのに対して、1164は時計回りで、回転方向に違いがある。この違いについては、未だ資料不足のため明確にすることはできないが、様々なことが考えられる。時期差による違い、工人の違い、製作者の利き腕による違いで特異なものか。注目すべき痕跡であり、再度、周辺遺跡から出土した椀の切り離し方向を検討する必要がある。

また、７Ａ出土の土師器杯及び10世紀前半と考えられる石井幼稚園遺跡㉑の溝ＳＤ－１

から出土した土師器杯の底面は全て回転ヘラ切りで、逆時計回りであることを付記しておく。

道後平野における黒色土器について述べれば、現時点で９世紀代の資料として座拝坂遺跡(22)の土坑出土の黒色土器Ａ類杯が挙げられる。この杯は体部内面に幅広の横方向の磨きが施され、口径18.1cm、器高４cmを測る。在地的杯と考えられる。

10世紀前半としては、前述の石井幼稚園遺跡のＳＤ－１の黒色土器Ａ類椀が挙げられる。ただし、この椀は畿内からの搬入品である。この時期の在地的な黒色土器椀は未だ出土例がなく、今後の資料の増加を待ちたい。

10世紀後半では、６下の1162（第190図）及び松環古照遺跡から出土している黒色土器Ａ類椀が挙げられる。松環古照遺跡出土椀は中野良一氏(23)によれば、体部外面の底部近くにヘラ削りが施され、虎渓山１号窯のもので搬入品ではないかと指摘されている。

11世紀初頭では、10次の第191図に掲載している黒色土器椀や松環古照遺跡出土の椀が挙げられる。黒色土器椀はＡ類が主流でＢ類は数少ない。中野良一氏によれば、11世紀から12世紀にかけて黒色土器椀は土師器椀に淘汰されていくと指摘されている(24)。

瓦器

資料紹介した、Ｇ４と辻の瓦器杯・皿を含めて、７Ｂの瓦器（第76図257、第167図1054・1055）は、和泉型瓦器にすれば特異な器形である。瓦器杯においては、底部に指頭痕がみられ手づくね成形によって平底と丸底を呈するもの、明確に回転糸切りされたものとがある。瓦器皿については回転糸切りされているものである。

この瓦器杯・皿は、前述のように道後平野の中でも、現段階では古照地域のみに限られて出土しており、ミクロ的存在の瓦器である。

県内での出土例としては、今治平野の八町遺跡(25)から同様の瓦器杯が報告されているだけで、古照地域と同様に限られた地域からしか出土していない。このことは、これら瓦器杯・皿が一時的・一過的なものであり、県内でも地域色をもつ瓦器として捉えられる。この八町遺跡は今治平野の中でも和泉型瓦器椀の出土が多く、また、古照地域も道後平野の中で和泉型瓦器椀の出土が多い点で一致している。

これら瓦器杯・皿は在地的生産である可能性が高く、伊予型の瓦器として捉えたい。

この瓦器杯・皿の初現や生産背景などについては、資料不足のため明らかすることは出来ない。現段階では、道後平野における和泉型瓦器椀の隆盛時期及び衰退時期を考慮して、12世紀後半から14世紀前半と仮定しておきたい。

Ｇ４の1214（第196図）が和泉型瓦器椀のⅣ－４期とするならば、当該期の新資料として注目できる。

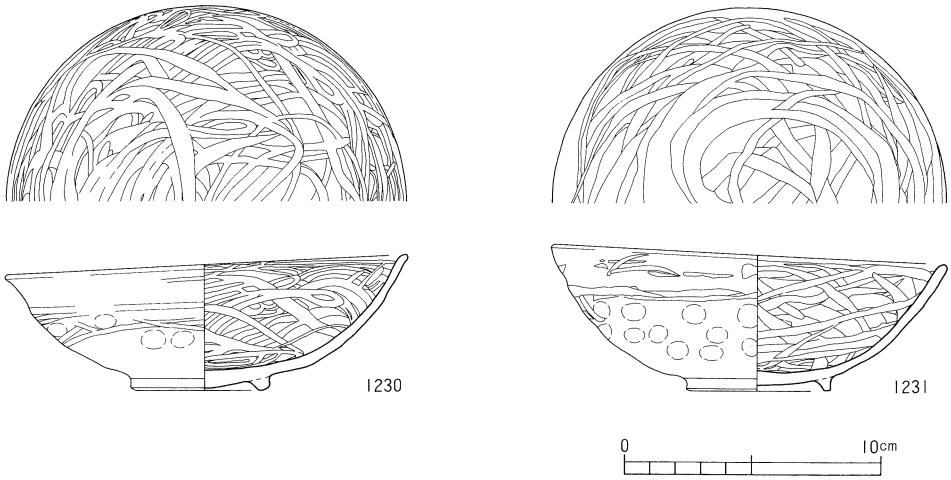
次に、輪高台の瓦器椀について検討してみたい。古照地域の遺跡でなく、古照遺跡の南東方約4.2km、小野川左岸にある東山（独立丘陵）に営まれた東山鳶が森８号墳石室(26)内から、出土している瓦器椀（第198図）である。この瓦器椀は、石室の二次的開口時に置かれたもの

と思われ、以前から和泉型Ⅱ期として指摘されている(27)。

1230には約４～５㎜前後の幅広の磨きが、見込み部には緻密に、体部内面は見込み部から口縁にかけて斜め方向に磨きを施して更に横方向の磨きが見込み部と体部との境界が見られない程加えられている。外面の磨きは上半分に施され、口縁部周辺の突出する部分のみに磨きを施している。口径15.3cm、器高5.4cmを測り、黒灰色を呈している。断面四角形の高台が貼り付けられている。

1231の瓦器椀にも同様の磨きが施されている。口径15.8cm、器高５cmを測り、灰色を呈し、口縁端部に炭素の付着が少し見られる程度である。

これら２点についていずれも内面の磨きが緻密に施されている点では和泉型Ⅰ期と想定されるが、法量的にはⅡ期の範疇に入る(28)。和泉型瓦器椀として編年されている資料とに差異が見られる。内面の緻密な磨き方法は10次の黒色土器椀（第191図、1164）と同様の系統に捉えることができるのではないかと考えられるが断定はできず、資料の増加を待ちたい。



第198図　東山鳶が森８号墳出土遺物実測図

７Ｂ出土瓦器椀の胎土分析を行った（Ⅶ－８参照）。結果、在地土師器の領域に入る瓦器椀が存在していることが解った。又、手づくね土師器についても同様の結果であった。注目すべき結果である。

以上、古照地域を中心にした各遺跡から出土した遺物によって、若干の考察を試みてみた。問題点は多々あるが、古代から中世にかけての土器研究が今後の資料の増加によって明らかになされるものと考える。

〈古照地域について〉

道後平野における古照地域の歴史的位置付け並びに性格について、出土遺物も含めて多少なりとも考えてみたい。

古照地域は、７Ａの「て」の字皿や７Ｂの畿内系技法の手づくね土師器の出土、７Ａと松環古照遺跡から楠葉型瓦器椀の出土、在地産的瓦器の出土、平野内でも和泉型瓦器の出土量が多いことなどから、道後平野の中でも畿内と関係が深い地域であることは確かであろう。ともすれば、道後平野の中でも畿内との玄関口として古照地域を位置付けても可能ではないだろうか。

越州窯青磁の出土について県内では、現在、今治平野の八町遺跡とＧ４の２カ所から報告されているのみである。今後は遺跡数が増える可能性もあるが、八町遺跡は伊予国府と関連する遺跡として注目されている。古照地域も、同様に何がしか特別な地域かも知れない。

以下、いくつかの事例などを列記し、今後の研究課題としたい。

１．古照地域は古代の温泉郡に含まれている。『和名妙』によれば、温泉郡には味酒・井上・桑原・立花・埴生の５郷が記されている（現在、温泉郡衙関連遺構は道後平野の中で確認されていない）。

２．大峰ケ台丘陵東裾部の親和園前遺跡から複弁蓮華軒丸瓦が出土し、古代寺院の澤廃寺の存在が指摘されている(30)。

３．古照地域の西方約１kmの北斎院遺跡(31)からは、８世紀代の須恵器と土師器の出土がみられ、その周辺からも出土している(32)。

４．天平19年（747）、和気郡・温泉郡・浮穴郡などに法隆寺の庄が存在していた記述がある(33)。

５．古照地域の北東部に温泉郡の味酒郷が存在している。この味酒郷には、保元３年(1158)、石清水八幡宮護国寺が荘園領主となる荘園が存在していた記述がある(34)。

６．古照地域の西方には、永暦２年（1161）～応永５年（1398）にかけて、荘園領主に日吉神社・妙法院、在地領主に鶴岡八幡宮からなる斎院勅旨田の存在が記載されている(35)。

７．大峰ケ台丘陵南裾部には、鎌倉時代初期に建てられた大宝寺がある。

８．明治初期は、古照ではなく古寺の字名であった。

今回、各遺跡から出土した遺物の掲載に当たっては、未報告資料もあり、調査担当者から快く了承して頂いたことに深く感謝します。

［註］

(1)栗田正芳・河野史知：「古照遺跡８次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅴ 』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

(2)栗田正芳・河野史知：「古照遺跡９次調査地」前掲註(1)

(3)栗田正芳・河野史知他：『古照遺跡―第６次調査―』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

(4)中野良一：「愛媛県における古代末から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究 Ⅳ 』、1988

(5)尾上　実：「南河内の瓦器椀」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』、1983

(6)松村　淳・山本健一：「古照ゴウラ遺跡４次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅳ 』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

(7)『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ　―松環古照遺跡―』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1993

(8)前掲註(5)

(9)前掲註(5)

(10)梅木謙一・真木　潔：「辻町遺跡」『朝美澤遺跡・辻町遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

(11)前掲註(1)

(12)前掲註(3)

(13)森田　勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―型式分類と編年を中心として―」『九州歴史資料館研究論集　4 』、1978

(14)前掲註(1)

(15)前掲註(4)

(16)西尾幸則・山本健一他：「来住廃寺18次調査地」　前掲註(1)文献

(17)森島康雄：「畿内産瓦器椀の併行関係と暦年代」『大和の中世土器 Ⅱ ―大和型瓦器椀とその周辺』、1992

(18)上田　真・水本完児：『南江戸闘目遺跡』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991

(19)前掲註(4)

(20)森　隆：「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の系譜について―西日本の土器椀生産を中心とした―」『中近世土器の基礎研究 Ⅷ 』、1992

(21)栗田茂敏：「石井幼稚園遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報　Ⅰ 』松山市教育委員会、1987

(22)松村　淳：「座拝坂遺跡」『和気・堀江の遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

(23)前掲註(4)

(24)前掲註(4)

(25)「八町遺跡」『一般国道196号今治道路埋蔵文化財発堀調査報告書』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1989

(26)『東山鳶が森古墳群発堀調査報告書』松山市教育委員会、1981

(27)橋本久和：「瓦器椀の分布」『中世土器研究序論』、1992

(28)前掲註(5)

(29)前掲註(25)

(30)前掲註(7)

(31)北斎院遺跡は、昭和50年（1975）に松山市教育委員会において調査された（未報告）遺跡である。

(32)栗田茂敏・大森一成：「御産所権現山遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報 III 』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991

(33)法隆寺の庄についての記述は『法隆寺縁起并流記資材帳』に記載されており、出典は『松山市史料集第13巻』松山市史料集編集委員会（1988）による。

(34)『愛媛県史―古代II・中世―』愛媛県史編さん委員会、1984

(35)前掲註(34)

【参考文献】

＊『愛媛県史―原始・古代Ⅰ―』愛媛県史編さん委員会、1982

＊『松山市史料集 第13巻 ―年表・近世VII・近現代Ⅴ―』松山市史料集編集委員会、1988

＊『松山市史―第１巻―』松山市史編集委員会、1992

＊『松山の歴史』松山市史編集委員会、1989

＊『古文化談叢 第14集 』九州古文化研究会、1984

＊「畿内産瓦器と共伴した在地の土器の検討」『第４回　四国中近世土器研究会資料』、1992

＊亀井明徳：『日本貿易陶磁史の研究』、1986

＊『福岡城址－ 内堀外壁石積み調査― 福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告 III 』福岡市教育委員会、1983

＊土橋理子：「日本出土の古代中国陶磁」『貿易陶磁―奈良・平安の中国陶磁―』橿原考古学研究所、1993

＊橋本久和：『中世土器研究序論』、1992

＊橋本久和：「畿内産瓦器の分布からみた中世の流通」『中近世土器の基礎研究 II 』、1986

＊尾上　実：「大阪南部の中世土器―和泉型瓦器椀―」『中近世土器の基礎研究』、1985

＊森　隆：「西日本の黒色土器生産」『考古学研究 146・147・148』、1990

＊森　隆：「土器椀の生産と流通」『中近世土器の基礎研究 IX 』、1993

＊百瀬正恒・橋本久和：「中世平安京の土器様相と各地への展開」『考古学ジャーナル No.299』、1988

※　脱稿後、平成６年２月19日、松山城山の西側に所在する若草町遺跡２次調査の現地説明会が(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターによって行なわれた。当日、陳列された出土遺物の中に、12世紀代と思われる吉備系土師器椀が１点あった。吉備系土師器椀の出土が古照周辺のみに限定されるものでない訳であるが、出土数は平野内で未だ数える程度である。今後、平野内の東部域でも出土する可能性がある。

表１．Ａ地区出土遺物観察表(1)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1	白磁 碗	／	(1.3)	〔5.8〕	／	施釉 無釉	施釉 無釉、削出高台	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	ＳＫ－5		11 13	111
2	土師器 杯	10.6	4.0	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	橙色(5YR 7/6) 淡黄色(5YR 8/3)	ＳＫ－7		14 13	2
3	〃	10.3	5.6	6.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 静止糸切り	灰白色(2.5Y 7/1～8/1) 〃	ＳＫ－8		16 13	1
4	擂鉢	／	(3.0)	／	／	7条の櫛目 ヨコナデ	ナデ 未調整	暗赤灰(10R 4/1) 赤灰(10R 5/1)	ＳＫ－10		19 13	387
5	土師器 皿	9.6	1.2	6.3	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	ＳＫ－15	ての字	25 13	383
6	土師器 椀	16.0	(3.4)	／	ミガキ 〃	ミガキ 〃	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	ＳＫ－16		27 13	77
7	瓦器 椀	14.0	(3.7)	／	ミガキ ナデ	ミガキ ミガキ、指頭痕	／	暗灰色(N 3/) 〃	〃		27 13	386
8	土師器 椀		(2.3)	〔6〕	／	ナデ ／	／ 貼付高台、ナデ	にぶい黄橙色(10YR 7/2) 灰白色(10YR 8/2)	ＳＫ－23		33 —	23
9	土師器 皿		1.5	5.6	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	橙色(5YR 7/6) 〃	〃		33 13	9
10	〃	8.0	1.7	5.4	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 7/1) 〃	〃		33 13	149
11	〃	9.0	1.5	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄橙色(10YR 8/3) にぶい橙色(7.5YR 7/4)	〃		33 —	103
12	土師質 土鍋	27.0	(5.3)	／	〃 〃	〃 〃	／	にぶい黄橙色(10YR 6/4) 〃 (10YR 6/3)	〃		33 13	105
13	土師器 杯	／	(1.2)	6.6	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	明褐灰色(7.5YR 7/2) 〃	ＳＫ－24		35 —	224
14	〃	／	(1.2)	〔4.4〕	／	〃 〃	ヨコナデ 回転ヘラ切り？ ,円盤高台	明青灰色(5PB 7/1) 〃	ＳＫ－26		37 13	75
15	土師器 椀	16.8	(2.7)	／	ヨコナデ 〃	〃 〃	／	灰白色(10YR 7/1) 〃	ＳＫ－29		41 13	384
16	〃	13.0	(3)	／	マメツ	マメツ	／	褐灰色(10YR 6/1) 灰黄色(2.5Y 7/2)	〃		41 —	69
17	〃	／	(1.7)	〔7.4〕	／	ナデ 〃	ヨコナデ 回転糸切り、円盤高台	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		41 13	109
18	〃	／	(1.4)	〔5.6〕	／	〃 ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		41 13	68
19	瓦器 椀	14.0	(4.4)	／	ヨコナデ 〃	マメツ 指頭痕	／	暗灰色(N 3/) 〃	〃		41 13	382
20	土師器 皿	7.6	1.1	4.6	〃 〃	ヨコナデ ナデ	ナデ ？	灰白色(7.5YR 8/2) 〃	〃	ての字	41 —	107
21	土師質 擂鉢	／	(3.5)	／	／	6条の櫛目 ナデ	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		41 13	389
22	土師器 椀	／	(1.8)	〔6.4〕	／	〃 ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (2.5Y 8/1)	ＳＫ－34		44 —	385
23	土師質 土釜	25.8	(3.5)	／	ヨコナデ 〃	ナデ 〃 、煤付着	／	灰黄褐灰色(10YR 5/2) 〃	ＳＫ－36		46 13	390
24	磁器 碗	4.5	(4.8)	／	2条線 3条線	施釉 草花文	／	明青灰色(5B 7/1) 〃	ＳＤ－1		49 13	321
25	〃	／	(3.2)	〔3.0〕	／	施釉 菊花格子目文	五花弁、トチン跡 高台内施釉	灰白色(N 8/) 〃	〃		49 14	328
26	〃	／	(4.0)	〔4.6〕	／	施釉 草文	施釉、 高台内施釉	灰白色(5GY 8/1) 〃	〃		49 14	337
27	〃	／	(1.8)	〔4.4〕	／	施釉 1条線	施釉、 高台内施釉、砂目跡	明緑灰色(7.5GY 8/1) 〃	〃		49 —	332
28	〃	／	(5.4)	〔7.0〕	／	ヨコナデ マメツ	高台内施釉、	にぶい黄橙色(10YR 7/3) 明緑灰色(10GY 7/1)	〃		49 —	342
29	〃	／	(3.3)	〔7.0〕	／	ヨコナデ 施釉	ナデ 蛇ノ目凹形高台	灰白色(7.5Y 8/1) 灰色(7.5Y 6/1)	〃		49 14	344
30	磁器 碗蓋	10.0	(1.8)	／	施釉 〃	四方襷文 鱗状文	／	灰白色(5Y 8/1) 〃	〃		49 14	345
31	磁器 皿	10.2	2.4	〔6.2〕	施釉 〃	潰し小文 草花文	潰し小文 高台内施釉、「夾」の字	灰白色(N 8/) 〃	〃	輪花状口縁	49 14	331
32	〃	4.9	2.6	〔3.8〕	施釉 マメツ	施釉 マメツ	無釉 〃 、高台内のみ施釉	明緑灰色(7.5GY 8/1) 〃	〃	〃	49 14	323
33	〃	12.0	(2.7)	／		二重の格子文 施釉	／	灰白色(N 8/) 〃	〃		49 —	341
34	〃	／	(3.3)	〔6.6〕	／	施釉 〃	五弁花文、トチン跡 蛇ノ目凹形高台、凹内施釉	灰白色(2.5GY 8/1) 〃	〃		49 14	327

表２．Ａ地区出土遺物観察表(2)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
35	磁器 皿	／	(2.1)	〔7.0〕	／	施釉 〃	花文、トチン跡 蛇ノ目凹形高台、凹内施釉	灰白色(2.5GY8/1) 〃	SD－1		49 14	322
36	〃	／	(1.5)	〔4.3〕	／	施釉 草花文	五弁文 高台内も施釉	灰白色(N8/) 〃	〃		49 14	334
37	磁器 徳利	／	(1.9)	〔5.0〕	無釉 蛸唐草文	／	／	灰白色(N8/) 〃 (2.5GY8/1)	〃		49 13	339
38	磁器 猪口	6.0	(3.6)	／	(堀部)茶色 施釉	文字 草花文	／	灰白色(N8/) 明緑灰色(10GY8/1)	〃		49 14	333
39	陶器 碗	／	(2.9)	〔4.8〕	／	／	施釉 高台内も施釉	にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃	〃		50 13	338
40	〃	／	(2.8)	〔4.8〕	／	施釉 〃	施釉 高台内も施釉	灰オリーブ色(5Y6/2) 〃	〃		50 —	336
41	〃	／	(1.4)	〔5.0〕	／	／ 一部無釉	施釉 削出高台、無釉	灰白色(5Y7/2) 〃	〃		50 13	343
42	陶器 猪口	4.6	3.2	4.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 〃	にぶい赤褐色(2.5YR5/3) 〃 (5YR5/3)	〃		50 13	335
43	陶器 秉燭	／	(4.7)	4.4	施釉 〃	施釉 〃	回転糸切り、穿孔、無釉	暗オリーブ色(5Y4/4) 〃	〃		50 13	340
44	陶器 擂鉢	／	(4.9)	／	ヨコナデ 〃 、片口部	1単位10条の櫛目 ヨコナデ	／	褐灰色(5YR5/1) 灰赤色(2.5Y4/2)	〃		50 13	347
45	〃	／	(5.3)	／	〃 〃	12条の櫛目 ヨコナデ	／	灰赤色(7.5R5/2) 〃 (7.5R5/1)	〃		50 13	346
46	陶器 鉢	18.8	(4.5)	／	施釉 〃 、取手付	施釉 〃	／	灰白色(10Y7/2) 〃	〃		50 13	330
47	土師器 杯	12.2	3.1	3.1	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃〃	第Ⅴ層		55 14	244
49	〃	／	(1.5)	7.2	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(10YR5/1) 浅黄色(2.5Y8/3)	第Ⅵ層		57 —	35
50	土師器 椀	／	(1.7)	〔6.2〕	／	マメツ 〃	マメツ 円盤高台外に貼付	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		57 —	31
51	土師器 皿	8.6	(1.8)	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ マメツ	灰白色(10Y8/1) 〃 (5Y8/2)	〃		57 —	318
52	須恵器 こね鉢	／	(2.5)	6.2	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	第Ⅵ・Ⅶ層		57 14	30
53	〃	29.6	(4.5)	／	ヨコナデ 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/) 〃	第Ⅵ層		57 14	217
54	土師器 椀	14.6	5.7	〔6.4〕	〃 〃	〃 マメツ	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Y8/2) 〃	第Ⅶ層		58 15	28
55	〃	18.4	(2.8)	／	〃 〃	〃 ヨコナデ	／	灰白色(7.5Y8/1) 〃	〃		58 15	34
56	〃	17.6	3.6	／	〃 マメツ	〃 マメツ	／	灰白色(2.5Y8/2) 〃 (7.5YR8/2)	〃		58 —	177
57	〃	15.8	(2.3)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		58 —	65
58	〃	17.5	(2.1)	／	〃 〃	〃 ミガキ	／	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		58 —	313
59	〃	14.8	(2.2)	／	〃 〃	ヨコナデ 〃	／	灰白色(2.5Y8/2) 淡黄色(2.5Y8/3)	〃		58 —	126
60	〃	15.4	(4.2)	／	〃 〃	マメツ ヨコナデ	／	褐灰色(10YR4/1) 灰白色(10YR8/2)	〃		58 15	29
61	〃	15.0	(2.2)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		58 —	46
62	〃	18.4	(4.4)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		58 15	257
63	〃	17.8	(3.7)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ マメツ	／	灰褐色(7.5YR5/2) 灰白色(7.5YR8/2)	〃		58 —	355
64	〃	13.8	(3.4)	／	〃 〃	ナデ ヨコナデ	／	灰白色(7.5YR8/2) 〃	〃		58 15	360
65	〃	13.6	(3.4)	／	〃 ミガキ	マメツ ミガキ	／	灰白色(2.5Y8/1) 〃 (2.5Y8/2)	〃		58 —	215
66	〃	12.8	(2.5)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰白色(7.5Y8/1) 〃	〃		58 15	377
67	〃	12.8	(2.5)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		58 —	364
68	〃	11.8	(2.2)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	明褐色(7.5YR7/2) 〃	〃		58 —	375
69	〃	12.0	(2.8)	／	〃 〃	〃 〃	／	浅黄橙色(7.5YR8/3) 〃	〃		58 15	367

表３．Ａ地区出土遺物観察表(3)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
70	土師器 椀	14.0	(3.4)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 8/2)	第VII層		58 —	170
71	〃	12.8	(3.2)	／	〃 〃	〃 ミガキ？	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		58 —	365
72	〃	17.0	(2.5)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰黄褐色(10Y R 5/2) 灰白色(10Y R 8/1)	〃		59 —	212
73	〃	15.0	(3.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	にぶい赤褐色(10R 6/3) 〃	〃		59 —	359
74	〃	14.0	(4.7)	／	ヨコナデ 〃	ミガキ 〃	／	褐灰色(5Y R 5/1) 明褐灰色(7.5Y R 7/1)	〃		59 15	363
75	〃	16.0	(2.7)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰白色(10Y R 7/1) 〃 (10Y R 8/1)	〃		59 —	189
76	〃	17.8	(3.2)	／	ミガキ ヨコナデ	ヨコナデ ミガキ	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (10Y R 8/1)	〃		59 —	208
77	〃	16.0	(2.5)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		59 —	304
78	〃	14.0	(3.1)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		59 —	366
79	〃	16.0	(4.5)	／	ヨコナデ 〃	〃 ミガキ	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		59 15	95
80	〃	15.4	(3.2)	／	〃 ヨコナデ	ヨコナデ 〃	／	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		59 —	206
81	〃	／	(2.7)	〔6.4〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		59 15	37
82	〃	／	(2.1)	〔6.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		59 —	15
83	〃	／	(2.5)	〔8.2〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		59 —	232
84	〃	／	(2.3)	〔5.6〕	／	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	〃		59 —	243
85	〃	／	(1.2)	〔6.2〕	／	／ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(2.5Y 8/3)	〃		59 —	193
86	〃	／	(1.6)	〔6.7〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、〃	灰褐色(7.5Y R 4/2) 灰白色(10Y R 7/1)	〃		59 15	348
87	〃	／	(1.4)	〔6.6〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、円盤状、貼付高台	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 7/1)	〃		59 15	17
88	〃	／	(1.4)	〔6.6〕	／	／	マメツ 回転糸切り、貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		60 —	188
89	〃	／	(1.6)	〔6.2〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		60 —	54
90	〃	／	(1.7)	〔6.0〕	／	ナデ 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		60 —	86
91	〃	／	(4.9)	〔7.0〕	／	〃 ミガキ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y 8/2) 〃	〃		60 15	242
92	〃	／	(2.2)	〔5.8〕	／	／ マメツ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10Y R 7/1) にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	〃		60 —	41
93	〃	／	(1.4)	〔6.8〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y 8/1) 〃 (5Y 7/1)	〃		60 —	302
94	〃	／	(1.9)	〔7.8〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 7/1)	〃		60 —	185
95	〃	／	(1.5)	〔6.8〕	／	ナデ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		60 —	233
96	〃	／	(1.3)	〔5.6〕	／	マメツ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		60 —	137
97	〃	／	(3.9)	〔6.1〕	／	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		60 —	230
98	〃	／	(1.7)	〔5.8〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		60 —	159
99	〃	／	(1.4)	〔6.2〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		60 —	82
100	〃	／	(1.1)	〔6.0〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y 8/1) 〃	〃		60 —	58
101	〃	／	(2.5)	〔6.6〕	／	マメツ 〃	マメツ 回転ヘラ切り、〃	灰白色(10Y R 7/1) 〃 (10Y R 5/1)	〃		61 15	180
102	〃	／	(1.1)	〔6.0〕	／	／	マメツ 回転ヘラ切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		61 —	20
103	〃	／	(1.5)	〔7.8〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転ヘラ切り、〃	灰黄色(2.5Y 7/2) 灰白色(2.5Y 7/1)	〃		61 —	47

表４．Ａ地区出土遺物観察表(4)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
104	土師器 椀	／	(1.3)	〔7.0〕	／	マメツ 〃	マメツ 回転ヘラ切り、貼付高台	褐灰色(10Ｙ Ｒ 6／1) 灰白色(7.5Ｙ 8／2)	第Ⅶ層		61	—	56
105	〃	／	(2.1)	〔5.8〕	／	ヨコナデ 〃	ナデ 回転ヘラ切り、 〃	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		61	15	161
106	〃	／	(1.6)	〔6.6〕	／	／ ヨコナデ	ハケ目、ミガキ 貼付高台	明褐灰色(7.5Ｙ Ｒ 7／2) 〃	〃		61	15	234
107	〃	／	(1.1)	〔6.8〕	／	／	ハケ目、ミガキ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		61	15	239
108	〃	／	(1.1)	〔6.6〕	／	／ ヨコナデ	ハケ目、ミガキ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／1) 〃	〃		61	—	52
109	〃	／	(2.2)	〔6.8〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	褐灰色(7.5Ｙ Ｒ 5／2) 灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1)	〃		61	—	207
110	〃	／	(1.0)	〔7.2〕	／	／	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 7／1) 〃 (2.5Ｙ 8／2)	〃		61	—	213
111	〃	／	(3.0)	〔6.4〕	／	マメツ 〃	ナデ 貼付高台	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		61	15	97
112	〃	／	(1.6)	〔6.2〕	／	／ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 7／1) 〃	〃		61	—	96
113	〃	／	(2.4)	〔7.0〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		61	—	249
114	〃	／	(2.8)	〔7.0〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		61	—	19
115	〃	／	(2.0)	〔6.8〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		61	—	245
116	〃	／	(1.9)	〔6.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／2) 〃	〃		61	—	113
117	〃	／	(1.8)	〔6.2〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		62	—	61
118	〃	／	(3.6)	〔7.0〕	／	ナデ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		62	—	349
119	〃	／	(1.4)	〔6.0〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／1) 〃	〃		62	—	57
120	〃	／	(1.3)	〔5.6〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 7／1) 〃 (2.5Ｙ 8／1)	〃		62	—	59
121	〃	／	(1.3)	〔6.2〕	／	／	ナデ 貼付高台	灰色(Ｎ 4／) 黄灰色(2.5Ｙ 6／1)	〃		62	—	43
122	〃	／	(3.2)	〔6.8〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	灰黄褐色(10Ｙ Ｒ 6／2) 褐灰色(10Ｙ Ｒ 6／1)	〃		62	—	98
123	〃	／	(2.1)	〔3.3〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Ｙ 8／1) 〃	〃		62	—	250
124	〃	／	(1.4)	〔6.6〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(５Ｙ 8／2) 〃 (５Ｙ 8／1)	〃		62	—	70
125	〃	／	(1.3)	〔5.8〕	／	／ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	灰白色(５Ｙ 8／2) 〃	〃		62	—	66
126	〃	／	(2.7)	〔6.6〕	／	マメツ ナデ	マメツ 貼付高台	灰黄褐色(10Ｙ Ｒ 6／2) 〃	〃		62	—	48
127	〃	／	(2.5)	〔5.8〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Ｙ Ｒ 8／1) 〃 (５Ｙ Ｒ 8／2)	〃		62	—	192
128	〃	／	(1.7)	〔8.2〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Ｙ 8／1) 〃	〃		62	—	120
129	〃	／	(2.6)	〔6.4〕	／	ナデ ミガキ	ナデ 貼付高台	黒褐色(10Ｙ Ｒ 3／1) 〃	〃		62	15	22
130	〃	／	(1.9)	〔5.6〕	／	マメツ 〃	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		62	—	225
131	〃	／	(3.1)	〔7.2〕	／	ナデ マメツ	ナデ 貼付高台	明褐灰色(7.5Ｙ Ｒ 7／2) にぶい黄橙色(10Ｙ Ｒ 7／2)	〃		62	—	204
132	〃	／	(1.4)	〔5.6〕	／	／	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 淡黄色(2.5Ｙ 8／3)	〃		62	—	55
133	〃	／	(1.5)	〔6.8〕	／	／	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ 8／1) 〃	〃		62	—	316
134	〃	／	(2.1)	〔6.4〕	／	／	ナデ 回転糸切り、円盤高台、ハケ目	灰白色(５Ｙ 7／2) 浅黄色(５Ｙ 7／3)	〃		63	15	4
135	〃	／	(1.9)	〔5.2〕	／	／	マメツ 回転糸切り、円盤高台	灰白色(５Ｙ 8／1) 〃 (2.5Ｙ 8／2)	〃		63	—	12
136	〃	／	(1.5)	〔7.0〕	／	マメツ 〃	マメツ 円盤高台	にぶい黄橙色(10Ｙ Ｒ 7／3) 〃 (10Ｙ Ｒ 7／2)	〃		63	—	167
137	〃	／	(2.5)	〔9.0〕	／	ナデ 〃	ナデ 円盤高台	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 灰黄褐色(10Ｙ Ｒ 6／2)	〃		63	—	209

表５．Ａ地区出土遺物観察表(5)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
138	土師器 椀	／	(1.4)	〔6.0〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、円盤高台	灰白色(2.5Y 7/1) 〃	第Ⅶ層		63 15	353
139	土師器 杯	15.6	3.4	9.6	マメツ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	マメツ 〃	明褐灰色(7.5Y R 7/2) 褐灰色(7.5Y R 6/1)	〃		63 16	16
140	〃	14.4	3.5	9.2	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転ヘラ切り、擦痕	浅黄色(7.5Y R 8/4) 〃	〃		63 16	25
141	〃	14.0	3.4	8.1	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ マメツ	灰白色(10Y R 8/1) 〃	〃		63 16	176
142	〃	15.0	(2.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (2.5Y 8/1)	〃		63 —	122
143	〃	16.8	(3.2)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Y R 8/2) 〃 (10Y R 8/1)	〃		63 —	179
144	〃	12.4	(2.6)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Y R 8/1) にぶい橙色(5Y R 7/4)	〃		63 —	8
145	〃	10.0	(1.4)	4.0	ナデ 〃	ナデ 〃 、指頭痕		灰白色(7.5Y R 8/2) 〃	〃	手づくね	63 16	259
146	〃	／	(2.4)	5.6	／	ヨコナデ 〃	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい黄橙色(10Y R 7/2) 〃	〃		63 16	83
147	〃	／	(1.4)	7.2	／	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい黄橙色(10Y R 7/2) 〃	〃		63 16	84
148	〃	／	(1.3)	6.4	／	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃 (2.5Y 8/2)	〃		63 —	139
149	〃	／	(0.5)	6.4	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転ヘラ切り、板圧痕	灰白色(5Y 8/2) 〃	〃		63 —	80
150	土師器 皿	10.2	2.0	8.0	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り、 〃	浅黄橙色(10Y R 8/3) 〃	〃		64 —	18
151	〃	10.0	1.6	6.6	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転ヘラ切り	浅黄橙色(7.5Y R 8/3) 淡橙色(5Y R 8/3)	〃		64 16	202
152	〃	9.6	1.4	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい橙色(7.5Y R 6/1) にぶい黄橙色(10Y R 8/2)	〃		64 —	44
153	〃	8.2	1.4	6.6	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい黄橙色(10Y R 8/3) 〃	〃		64 16	201
154	〃	9.2	1.5	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	浅黄橙色(7.5Y R 8/3) 〃 (10Y R 8/3)	〃		64 16	174
155	〃	4.6	1.9	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	灰白色(2.5Y 7/1) にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	〃		64 —	210
156	〃	8.6	1.3	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい橙色(7.5Y R 7/4) 〃	〃		64 —	371
157	〃	／	(1.1)	6.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転ヘラ切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃 (10Y R 7/1)	〃		64 —	45
158	〃	9.8	(1.9)	4.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転ヘラ切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		64 —	205
159	〃	7.4	1.4	6.0	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転ヘラ切り	にぶい橙色(7.5Y R 7/4) 〃	〃		64 —	140
160	〃	7.8	1.25	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	にぶい橙色(7.5Y R 7/5) 〃	〃		64 —	319
161	〃	8.4	1.1	5.8	ナデ ナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃	〃		64 16	373
162	〃	9.8	1.4	7.4	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		64 —	372
163	〃	6.8	1.3	4.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5Y R 8/4) 〃	〃		64 16	376
164	〃	8.0	1.4	4.2	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り	橙色(5Y R 7/6) にぶい橙色(2.5Y R 6/3)	〃		64 16	235
165	〃	8.8	1.5	7.2	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃	手づくね	64 16	379
166	〃	8.8	1.25	6.2	〃 〃	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃	〃	64 16	370
167	〃	9.0	1.1	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(5Y R 8/4) 〃	〃	〃	64 —	10
168	〃	7.9	1.3	2.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙色(10Y R 7/3) 浅黄橙色(10Y R 8/3)	〃	〃	64 16	251
169	〃	8.8	1.8	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ マメツ	灰黄色(2.5Y 7/2) 黄灰色(2.5Y 6/1)	〃		64 —	378
170	〃	10.2	1.8	8.4	〃 〃	〃 〃	ナデ マメツ	灰白色(7.5Y R 8/2) 〃 (10Y R 7/1)	〃		64 —	186
171	〃	9.0	1.6	6.4	〃 マメツ	ヨコナデ マメツ	〃 〃	黄灰色(2.5Y 5/1) 褐灰色(10Y R 6/1)	〃		64 —	190

表６．Ａ地区出土遺物観察表(6)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
172	土師器皿	8.0	1.5	5.8	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 〃	にぶい黄橙色(10ＹＲ７/４) 〃	第Ⅶ層		64 —	253
173	〃	7.8	(1.3)	／	〃 〃	〃 〃	〃 〃	灰黄色(2.5Ｙ７/２) 灰黄褐色(10ＹＲ６/２)	〃		64 —	168
174	〃	11.2	1.1	7.0	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	淡橙色(５ＹＲ８/４) 〃	〃	ての字	64 16	11
175	〃	10.0	1.4	4.4	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃	〃	64 —	258
176	〃	9.0	1.2	6.0	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5ＹＲ8/2)、浅黄橙色(7.5ＹＲ8/3) 〃 、 〃	〃	〃	64 16	7
177	〃	9.8	(1.6)	／	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Ｙ８/１) 〃	〃	〃	64 —	358
178	〃	9.4	(1.4)	／	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Ｙ８/３) 〃	〃	〃	64 —	361
179	〃	4.3	(1.4)	／	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Ｙ８/１) 〃	〃	〃	64 16	350
180	〃	9.6	(1.3)	／	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(10ＹＲ８/３) 〃	〃	〃	64 —	357
181	〃	9.0	(1.0)	／	ナデ 〃	ナデ 〃	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(10ＹＲ８/３) 〃	〃	〃	64 —	354
182	黒色土器椀	16.0	(4.3)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	黒色(５Ｙ２/１) 明赤灰色(10ＹＲ７/１)	〃	内黒	65 —	254
183	〃	13.0	(3.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	暗灰色(Ｎ３/　) 灰白色(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 —	121
184	〃	／	(2.5)	／	ヨコナデ、１条沈線 〃	ヨコナデ 〃	／	黒色(7.5Ｙ２/１) 灰白色(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 17	6
185	〃	／	(3.8)	〔6.8〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ７/１) 〃　(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 —	71
186	〃	／	(1.2)	〔6.4〕	／	ミガキ 〃	ミガキ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３/　) 灰黄色(2.5Ｙ６/２)	〃	〃	65 —	311
187	〃	／	(1.8)	〔6.8〕	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	灰色(５Ｙ４/１) 灰白色(10ＹＲ８/１)	〃	〃	65 17	178
188	〃	／	(2.6)	〔6.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	黒褐色(2.5Ｙ３/１) 灰白色(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 —	247
189	〃	／	(2.5)	〔5.8〕	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 貼付高台	灰色(Ｎ４/　) 灰白色(2.5Ｙ８/１)	〃	〃	65 17	181
190	〃	／	(2.3)	〔7.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３/　) 灰白色(10ＹＲ８/２)	〃	〃	65 —	13
191	〃	／	(1.6)	〔6.4〕	／	／	マメツ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３/　) 灰白色(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 —	14
192	〃	／	(1.6)	〔7.4〕	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 貼付高台	オリーブ黒色(５ＧＹ２/１) 灰白色(2.5Ｙ８/２)	〃	〃	65 —	160
193	〃	／	(1.8)	〔6.6〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	黒色(7.5ＹＲ２/１) 明褐灰色(7.5ＹＲ７/２)	〃	〃	65 —	203
194	瓦器椀	14.6	(2.0)	／	ミガキ、１条沈線 〃	／	／	灰白色(Ｎ７/　) 灰色(Ｎ４/　)	〃		65 17	24
195	〃	14.6	(2.7)	／	マメツ、　〃 ミガキ	マメツ ミガキ	／	灰白色(2.5Ｙ８/１) 灰色(Ｎ５/　)	〃		65 17	182
196	〃	8.4	(3.8)	／	ヨコナデ ミガキ	／ ミガキ、指頭痕	／	褐灰色(10ＹＲ４/１) 灰色(５ＹＲ４/１)	〃		65 —	381
197	〃	15.0	(3.8)	／	〃 ヨコナデ	ミガキ 〃 、 〃	／	灰色(Ｎ５/　) 〃 (Ｎ４/　)	〃		65 17	300
198	〃	15.0	(3.8)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ ミガキ、　〃	／	黒色(Ｎ２/　) 〃	〃		65 17	255
199	〃	17.2	(2.9)	／	ミガキ ヨコナデ	〃 〃	／	灰色(Ｎ４/　) 灰白色(10ＹＲ７/１)	〃		65 —	314
200	〃	15.2	(2.6)	／	ミガキ ヨコナデ	〃 〃	／	灰白色(10ＹＲ７/１) 〃　(５Ｙ７/１)	〃		66 —	315
201	〃	13.2	(3.2)	／	マメツ 〃	マメツ 指頭痕	／	灰白色(５Ｙ７/１) 〃　(５Ｙ８/２)	〃		66 —	301
202	〃	15.0	3.7	〔7.2〕	ナデ ヨコナデ、ミガキ	ミガキ 〃 、指頭痕	／	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		66 17	175
203	〃	15.0	(3.5)	／	ミガキ ヨコナデ	〃 〃 、 〃	／	灰白色(7.5Ｙ８/１) 灰色(Ｎ５/　)	〃		66 —	303
204	〃	14.0	(2.7)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 〃	／	黒色(Ｎ２/　) 〃	〃		66 —	26
205	〃	14.0	(4.0)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 〃 、指頭痕	／	灰白色(Ｎ８/　) 〃	〃		66 17	99

表７．Ａ地区出土遺物観察表(7)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
206	瓦器 椀	12.8	(3.6)	／	ヨコナデ 〃、ミガキ	ミガキ 〃、指頭痕	／	灰白色(Ｎ７／) 〃	第Ⅶ層		66 —	33
207	〃	／	(1.4)	〔6.0〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３／) 〃	〃		66 —	42
208	〃	／	(0.9)	〔5.4〕	／	ナデ 〃	ミガキ 貼付高台	灰色(Ｎ４／) 〃	〃		66 17	256
209	〃	／	(1.6)	〔5.6〕	／	ミガキ ナデ、指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ８／１) 〃	〃		66 17	374
210	〃	／	(1.1)	〔5.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	淡赤褐色(2.5ＹＲ７／４) 〃	〃		66 17	356
211	〃	／	(1.2)	〔3.0〕	／	／	ナデ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３／) 〃	〃		66 —	165
212	〃	／	(1.4)	〔4.3〕	／	ナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰色(Ｎ４／) 〃	〃		66 —	40
213	〃	／	(0.9)	〔4.8〕	／	マメツ ナデ	マメツ 貼付高台	暗灰色(Ｎ３／) 灰白色(Ｎ４／)	〃		66 —	173
214	瓦器 皿	5.9	1.3	5.4	ナデ ヨコナデ	〃 ヨコナデ	ナデ 指頭痕	灰色(５Ｙ４／１) 〃	〃		66 17	362
215	〃	4.4	1.8	5.4	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	青灰色(５ＰＢ５／１) 暗青灰色(５ＰＢ３／１)	〃		66 17	246
216	土焔	14.0	(2.4)	／	〃 ナデ	ナデ 〃	／	浅黄橙色(7.5ＹＲ８／３) 〃	〃		67 18	151
217	土師質 土鍋	32.0	(7.7)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰褐色(7.5ＹＲ５／２) 黒色(7.5ＹＲ２／１)	〃		67 —	369
218	〃	38.4	(11.9)	／	ヨコハケ ナデ	ヨコハケ 〃	／	にぶい黄褐色(10ＹＲ５／３) 灰黄褐色(10ＹＲ６／２)	〃		67 18	252
219	〃	32.0	(12.5)	／	ヨコハケ ヨコナデ	〃 〃	／	にぶい黄褐色(10ＹＲ４／３) 黒色(10ＹＲ２／１)	〃		67 18	329
220	〃	30.0	(4.8)	／	〃 〃	〃 ナデ	／	にぶい褐色(7.5ＹＲ６／３) 黒褐色(7.5ＹＲ３／１)	〃		67 —	325
221	〃	21.4	(13.2)	／	〃 〃	ヨコナデ 〃	／	黄灰色(2.5Ｙ４／１) 黒褐色(2.5Ｙ３／１)	〃		68 18	32
222	〃	22.0	(4.5)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ ナデ	／	褐灰色(7.5ＹＲ４／１) 黒色(7.5ＹＲ２／１)	〃		68 —	368
223	瓦質 甕	30.8	(3.5)	／	マメツ ヨコナデ	／	／	灰白色(Ｎ７／) 灰色(Ｎ４／)	〃		68 —	380
224	須恵器 椀	／	(2.1)	〔6.6〕	／	ナデ 〃	ナデ 貼付高台	灰黄褐色(10ＹＲ６／２) 〃	〃		68 —	49
225	〃	／	(1.5)	〔7.8〕	／	ヨコナデ 〃	ナデ	暗赤褐色(10Ｒ３／２) 〃	〃		68 18	351
226	須恵器 皿	／	(0.9)	5.0	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(10ＹＲ６／１) 〃	〃		68 —	352
227	須恵器 鉢	／	(4.2)	15.0	／	〃 ナデ	ナデ 未調整	灰白色(7.5Ｙ８／１) 〃	〃		68 18	124
228	須恵器 壺	13.4	(3.7)	／	ヨコナデ 〃	／	／	暗青灰色(５ＰＢ７／１) 〃	〃		68 —	101
229	白磁 碗	8.6	(3.1)	／	施釉 〃	施釉 〃	／	灰白色(7.5Ｙ７／１) 〃	〃		68 18	136
230	〃	16.2	(2.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(2.5ＧＹ８／１) 〃	〃		68 18	184
231	〃	／	(1.4)	〔6.2〕	／	〃 一部施釉	施釉 削出高台、無釉	灰白色(10Ｙ7／) 〃	〃		68 18	27
232	浅鉢	36.0	(4.2)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	黒色(7.5ＹＲ７／１) 褐色(7.5ＹＲ４／４)	下層	縄文式土器	69 18	324
233	甕	／	(4.4)	6.0	／	〃 〃	ナデ マメツ	浅黄色(2.5Ｙ７／３) 明赤褐色(2.5Ｙ５／６)	〃	弥生式土器	69 —	236
234	土師器 小型壺	3.8	(8.5)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ケズリ ハケ目	／	橙色(５ＹＲ６／６) にぶい橙色(５ＹＲ７／４)	〃	古墳時代	69 18	326
235	須恵器 台付椀	／	(4.4)	〔8.6〕	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 貼付高台	褐色(５ＹＲ５／１) 灰色(Ｎ５／)	〃	〃	69 —	241
236	須恵器 椀	13.0	(4.2)	〔5.6〕	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 円盤高台	灰白色(Ｎ８／) 〃	〃		69 18	237

表８．Ａ地区出土渡来銭観察表

遺物No.	銭名	初鋳年	時代	銭径(mm)	孔径(mm)	上：外縁厚 下：内側厚(mm)	重量(g)	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
48	天禧通宝	1017	北宋	24.3	6.3	1.27 0.68	2.69	第Ⅴ層	順読	56 14	

表９．Ｂ地区出土遺物観察表(1)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
237	土師器 杯	11.8	3.3	7.5	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰黄褐色(10Ｙ Ｒ 6／2) にぶい黄橙色(10Ｙ Ｒ 7／2)	ＳＢ－1 Ｐ1		75 29	77
238	〃	12.1	2.9	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		75 29	78
239	〃	14.6	3.3	9.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰黄色(2.5Ｙ 7／2) 〃	〃		75 —	470
240	土師器 皿	7.6	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Ｙ 8／3) 〃	〃		75 —	82
241	〃	8.0	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃		75 —	412
242	〃	8.8	1.4	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃 (2.5Ｙ 8／1・8／2)	〃		75 29	74
243	〃	8.6	1.3	6.0	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃 (2.5Ｙ 8／1)	〃		75 —	403
244	土師器 椀	10.0	3.4	〔4.4〕	ナデ マメツ	ナデ マメツ	ナデ 貼付高台	灰白色(7.5Ｙ 8／1)、黄灰色(2.5Ｙ 5／1) 〃 、〃	ＳＢ－1 Ｐ2		75 29	106
245	土師器 杯	12.0	(2.2)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(7.5Ｙ Ｒ 8／2) 〃 、褐灰色(7.5Ｙ Ｒ 6／1)	〃		75 —	96
246	〃	9.2	3.3	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Ｙ 8／2) 〃			75 29	102
247	土師質 土釜	16.0	(4.4)	／	マメツ 貼付凸帯、ナデ	マメツ マメツ、媒付着	／	にぶい橙色(7.5Ｙ Ｒ 7／3) 〃 、黒褐色(7.5Ｙ Ｒ 3／1)			75 29	107
248	須恵器 こね鉢	26.2	(6.0)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰色(Ｎ 6／)、暗灰色(Ｎ 3／) 〃 〃	ＳＢ－1 Ｐ3		75 29	226
249	土師器 皿	6.0	1.1		〃 〃	〃 〃	マメツ 指頭痕	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	ＳＢ－1 Ｐ4	手づくね	75 —	83
250	土師器 椀	10.0	3.5	5.4	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	淡橙色(2.5Ｙ Ｒ 7／4)、暗赤灰色(2.5Ｙ Ｒ 3／1) 淡赤橙色(2.5Ｙ Ｒ 7／4)	ＳＢ－1 Ｐ5		75 29	192
251	土師器 杯	12.0	3.6	7.7	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ 8／1) 〃	ＳＢ－1 Ｐ6		76 29	28
252	〃	13.4	3.7	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		76 29	9
253	土師器 皿	7.3	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		76 —	108
254	〃	8.0	1.3		〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	〃	手づくね	76 29	328
255	〃	8.2	1.2	6.3	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Ｙ Ｒ 8／2) 〃	〃		76 —	105
256	〃	8.6	1.3	5.2	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃 、黄灰色(2.5Ｙ 6／1)	〃		76 29	110
257	瓦器 杯	14.0	(4.1)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 指頭痕	灰白色(Ｎ 8／) 〃	〃		76 29	103
258	瓦器 椀	13.0	(3.2)	／	マメツ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰色(Ｎ 4／) 〃	〃		76 —	339
259	土師器 皿	7.6	1.0	5.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Ｙ Ｒ 8／1) 〃 、橙色(7.5Ｙ Ｒ 7／6)	ＳＡ－1 Ｐ7		77 —	401
260	〃	9.0	1.6	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	ＳＡ－1 Ｐ8		77 29	399
261	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／2) 〃	ＳＡ－1 Ｐ12		77 —	405
262	瓦器 椀	14.0	(2.6)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	黒色(10Ｙ Ｒ1.7／1) 〃 、灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1)	〃		77 —	411
263	土師器 杯	10.7	3.5	5.4	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／1) 〃	〃		77 29	68
264	土師器 皿	9.0	(1.2)	／	〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／2) 〃	〃	手づくね	77 —	409
265	土師器 皿	8.0	1.2	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ 8／2) 〃	ＳＡ－1 Ｐ14		77 —	136
266	須恵器 こね鉢	／	(3.3)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(Ｎ 8／) 〃	〃		77 24	924
267	瓦器 椀	14.4	(2.6)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	灰色(Ｎ 4／) 〃	ＳＡ－1 Ｐ15		77 —	394
268	土師器 杯	11.4	3.2	7.2	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Ｙ Ｒ 8／2) 〃 (10Ｙ Ｒ 7／1・8／1)	ＳＫ－1		79 —	319
269	〃	13.4	3.4	8.0	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10Ｙ Ｒ 8／2) 〃 (10Ｙ Ｒ 8／1)	〃		79 31	98
270	〃	15.0	(3.3)	／	〃 ヨコナデ	〃 指頭痕	／	にぶい黄橙色(10Ｙ Ｒ 7／2) 灰白色(10Ｙ Ｒ 7／1)	〃	手づくね	79 —	100

表10．B地区出土遺物観察表(2)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
271	土師器皿	8.0	1.4	4.4	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SK−1		79 —	320
272	〃	8.0	1.7	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃	〃		79 —	336
273	〃	9.0	(1.5)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	灰白色(2.5YR 8/2) 〃	〃	手づくね	79 31	99
274	土師器杯	13.0	3.6	7.7	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	SK−2		81 —	101
275	〃	14.8	3.3	9.2	〃 〃	〃 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		81 31	6
276	瓦器椀	14.7	(2.9)	／	〃 ヨコナデ	〃 指頭痕	／	灰色(N 6/) 〃 (N 4/)	〃		81 31	334
277	土師器杯	12.4	3.7	8.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(5YR 8/1)、明褐色(5YR 7/1) 〃 、褐灰色(5YR 6/1)	SK−4		83 31	195
278	土師器皿	9.0	1.7	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SK−8		85 31	315
279	土師器杯	12.8	3.5	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 7/1)、黒褐色(2.5Y 3/1)	SK−9		86 30	32
280	〃	12.6	4.0	7.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2)、黒褐色(2.5Y 3/1) 〃 (2.5Y 7/1)、 〃	〃		86 30	47
281	〃	12.7	3.6	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	明褐灰色(7.5YR 7/2) 〃	〃		86 —	63
282	〃	13.0	3.5	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		86 —	323
283	〃	13.0	3.7	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2)、(1/4)灰白色(2.5Y 7/1) 〃 、 〃	〃		86 30	22
284	〃	13.4	3.5	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		86 30	24
285	〃	13.4	3.7	8.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		86 30	8
286	〃	13.6	3.4	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 7/1)、灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		86 30	23
287	〃	13.6	3.7	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		86 —	48
288	〃	13.8	3.6	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/1)、黒色(10YR 2/1) 〃 、 〃	〃		87 —	64
289	〃	13.9	3.0	9.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		87 —	70
290	〃	12.6	3.0	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1)、褐灰色(7.5YR 6/1) 〃 、 〃	〃	手づくね	87 30	50
291	土師器皿	7.8	1.4	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)、黄灰色(2.5Y 5/1) 〃 、 〃	〃		87 —	326
292	〃	8.0	1.2	5.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	褐灰色(7.5YR 5/1) 〃	〃		87 —	329
293	〃	8.2	1.3	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR 7/2)、褐灰色(7.5YR 5/1) 灰白色(10YR 7/1)	〃		87 30	55
294	〃	8.3	1.3	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(10YR 5/1)、灰白色(10YR 8/2) 〃 、 〃	〃		87 —	59
295	〃	8.2	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(7.5YR 6/1) にぶい黄橙色(10YR 7/2)、灰白色(10YR 7/1)	〃		87 —	53
296	〃	8.3	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃 、(一部)褐灰色(10YR 6/1)	〃		87 30	49
297	〃	8.4	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		87 —	65
298	〃	8.4	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5YR 8/2) 〃	〃		87 —	54
299	〃	8.6	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 7/1)、褐灰色(10YR 6/1) 〃 、 〃	〃		87 —	57
300	〃	8.6	1.1	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		87 —	58
301	〃	8.4	1.5	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10YR 8/1) 〃 (10YR 8/2)、灰褐色(7.5YR 6/2)	〃		87 —	51
302	〃	9.5	1.7	6.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR 7/1) 〃	〃		87 —	72
303	〃	8.8	1.2	6.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2)、橙色(2.5YR 7/6) 〃	〃	手づくね	87 —	56
304	瓦器椀	14.0	3.9	〔4.0〕	マメツ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(N 8/) 〃	〃		87 30	7

表11．B地区出土遺物観察表(3)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
305	瓦器 椀	15.0	(3.1)	／	マメツ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰色(5Y4/1) 〃	SK−9		87	—	330
306	〃	13.5	(3.7)	／	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	／	灰白色(5Y8/1) 〃	〃		87	—	318
307	〃	12.7	(3.2)	／	〃 〃	ナデ 指頭痕	／	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		87	—	60
308	土師器 杯	12.0	3.6	8.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃 (2.5Y8/1)、黄灰色(2.5Y6/1)	SK−10		90	31	95
309	〃	12.1	3.3	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		90	31	84
310	〃	12.3	3.6	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		90	—	322
311	土師器 皿	6.5	1.3	4.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	黄灰色(2.5Y6/1) 〃	〃		90	—	337
312	〃	7.2	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		90	—	91
313	〃	8.1	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		90	31	88
314	〃	8.6	1.0	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		90	—	93
315	〃	7.6	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		90	—	92
316	瓦器 椀	13.2	(3.2)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	黒色(10YR2/1) 〃	〃		90	31	340
317	土師質 土鍋	30.0	(3.5)	／	ヨコハケ 〃 、煤付着	ヨコハケ 指頭痕、煤付着	／	褐灰色(7.5YR5/1) 黒褐色(10YR3/1)	〃		90	31	97
318	〃	37.0	(11.0)	／	〃 タテハケ、〃	ヨコハケ タテハケ、〃	ヨコハケ 〃	灰白色(10YR8/1)、黒褐色(10YR3/1) 〃 、 〃	〃		90	31	119
319	土師器 皿	8.3	1.1	5.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃	SK−11		92	31	316
320	須恵器 こね鉢	30.0	10.9	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ、凹凸あり 回転糸切り？	灰色(N7/) 〃	〃		92	31	487
321	土師器 杯	11.8	3.2	8.0	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	SK−13		94	32	104
322	〃	13.4	3.2	8.0	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		94	—	321
323	〃	14.0	3.2	8.2	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y8/1) 〃	〃		94	—	335
324	〃	12.4	(3.3)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 指頭痕	／	灰白色(10YR8/1)、黒褐色(10YR4/1) 〃 (10YR8/2)	〃	手づくね	94	32	327
325	〃	10.8	(2.5)	／	マメツ 〃	マメツ 指頭痕	／	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	〃	94	32	324
326	土師器 皿	6.2	1.9	4.1	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		94	—	121
327	〃	7.8	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 灰白色(10YR8/2)	〃		94	—	332
328	〃	7.8	1.1	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1)、褐灰色(10YR5/1) 〃 、 〃	〃		94	32	111
329	〃	7.9	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		94	—	116
330	〃	7.9	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃		94	—	113
331	〃	8.0	1.5	4.6	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/2) 〃	〃		94	—	159
332	〃	8.0	1.4	5.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃		94	—	109
333	〃	8.1	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(10YR6/1) 〃	〃		94	—	120
334	〃	8.0	1.3	5.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		94	—	112
335	〃	8.2	1.1	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)	〃		94	—	118
336	〃	9.0	1.5	6.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		94	32	114
337	〃	9.3	1.5	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/1)、灰黄褐色(10YR4/2) 〃 、 〃	〃		94	32	158
338	〃	10.0	1.5	6.1	〃 マメツ	〃 マメツ	マメツ 回転糸切り	灰褐色(5YR5/2) 明褐灰色(5YR7/2)	〃		94	—	117

表12．B地区出土遺物観察表(4)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
339	土師器 皿	10.4	1.3	7.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい橙色(5YR7/4)、灰白色(7.5YR8/2) 〃 、 〃	SK−13		94 —	325
340	瓦器 椀	13.2	(3.0)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	灰白色(5Y7/1) 〃 、オリーブ黒色(5Y3/1)	〃		94 —	331
341	〃	15.0	(3.9)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	灰色(5Y6/1) 〃	〃		94 32	333
342	甕	43.0	(1.5)	／	〃 〃	／	／	にぶい赤褐色(5YR5/3) にぶい橙色(5YR6/3)	〃	常滑焼	94 32	46
343	青磁器 碗	／	(3.3)	〔5.4〕	／	施釉 〃 、鎬蓮弁文	施釉 削出高台、高台内無釉	明緑灰色(5G7/1) 〃	〃		94 32	30
344	土師器 杯	11.2	3.4	7.2	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃	SK−14		96 32	18
345	土師器 皿	8.2	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		96 —	317
346	土師器 杯	11.4	2.8	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10YR8/1)、にぶい橙色(7.5Y7/4) 〃 、 〃	SK−15		98 —	385
347	〃	12.6	2.9	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		98 —	175
348	〃	12.4	3.1	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		98 32	85
349	〃	12.7	3.0	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR7/1) 〃 (10YR8/1)	〃		98 32	383
350	〃	12.6	3.2	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y8/1) 〃	〃		98 —	115
351	〃	12.8	3.0	8.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 灰黄色(2.5Y7/2)	〃		98 32	15
352	〃	13.0	3.0	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		98 32	31
353	〃	13.0	3.8	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃 (2.5Y7/1)	〃		98 32	86
354	〃	13.2	3.2	9.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄色(2.5Y7/3) 黄灰色(2.5Y6/1)	〃		98 —	384
355	〃	13.9	3.3	8.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	褐灰色(5YR6/1)、明褐灰色(5YR7/1) 灰白色(5Y7/1)	〃		98 32	387
356	〃	14.0	3.4	9.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 灰白色(10YR8/1)、褐灰色(10YR5/1)	〃		98 —	87
357	〃	14.0	3.3	9.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		98 —	386
358	〃	14.6	3.1	10.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)	〃		99 —	94
359	土師器 皿	6.5	0.7	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃 (2.5Y8/2)	〃		99 32	397
360	〃	7.6	0.9	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(5Y8/2) 〃	〃		99 —	395
361	〃	7.6	1.0	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		99 —	89
362	〃	7.8	0.9	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)	〃		99 —	393
363	〃	7.8	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) にぶい黄橙色(10YR7/2)	〃		99 —	400
364	〃	7.8	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1)、褐灰色(10YR4/1) 〃 、 〃	〃		99 —	391
365	〃	8.0	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい橙色(7.5YR7/3)、灰白色(7.5YR8/2) 〃 、 〃	〃		99 —	174
366	〃	8.5	1.2	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y8/3) 灰白色(10YR8/2)	〃		99 —	180
367	〃	8.7	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		99 —	90
368	〃	8.8	1.3	3.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		99 32	392
369	〃	7.5	1.5	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/2) 〃	〃		99 —	398
370	〃	7.8	1.6	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		99 —	388
371	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃	手づくね	99 32	389
372	土師器 杯	12.0	3.7	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃	SD−1		102 33	127

表13．Ｂ地区出土遺物観察表(5)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
373	土師質土鍋	22.0	(4.5)	／	ヨコナデ 〃　、煤付着	ヨコハケ ヨコナデ、煤付着	／	にぶい褐色(7.5ＹＲ6/3)、黒褐色(7.5ＹＲ3/1) 〃　、　〃	ＳＤ－１		102 33	886
374	土師器杯	12.9	3.4	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10ＹＲ８/３) 〃	ＳＤ－５		103 —	355
375	〃	13.0	3.7	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	にぶい橙色(５ＹＲ７/４) 〃	〃		103 33	198
376	〃	13.4	3.4	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ８/２) 〃	〃		103 —	341
377	〃	13.2	3.5	9.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ８/１) 〃	〃		103 —	199
378	土師器皿	7.0	1.5	4.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Ｙ８/１) 〃	〃		103 —	349
379	〃	7.7	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい橙色(7.5ＹＲ７/４) 〃	〃		103 —	350
380	〃	8.0	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		103 —	351
381	〃	7.9	1.5	4.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ８/１) 〃	〃		103 33	197
382	〃	8.0	1.5	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ8/2) 〃　、黄灰色(2.5Ｙ5/1)	〃		103 33	196
383	〃	8.2	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(10YR8/2)、褐灰色(10YR5/)、 〃　、　〃　、にぶい橙色(5YR7/4)	〃		103 33	194
384	土師器杯	13.4	3.3	7.1	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	ＳＤ－６		105 33	128
385	〃	14.0	3.7	9.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(10ＹＲ８/２) 〃	〃		105 —	343
386	〃	12.8	3.4		〃 〃	〃 〃　、指頭痕	ナデ 指頭痕	浅黄色(2.5Ｙ７/３) 〃	〃	手づくね	105 33	129
387	土師器皿	8.0	1.2	5.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ８/２) 〃	〃		105 33	352
388	〃	8.6	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		105 33	135
389	〃	8.0	(2.1)		〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(7.5ＹＲ８/３) 〃	〃	手づくね	105 33	353
390	瓦器椀	／	(0.8)	(4.4)	／	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(Ｎ８/　) 灰色(Ｎ４/　)	〃		105 33	138
391	〃	／	(1.2)	(4.4)	／	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(2.5Ｙ８/１) 〃　(2.5Ｙ７/１)	〃		105 33	132
392	瓦質土釜	14.5	(5.5)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ、指頭痕 鍔貼付、　〃	／	灰白色(Ｎ８/　) 灰色(Ｎ４/　)	〃		105 33	368
393	土師器杯	11.8	3.3	6.8	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ８/２) 〃	ＳＤ－７		107 —	356
394	〃	12.0	3.5	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Ｙ７/１) 〃	〃		107 33	131
395	〃	13.3	3.4	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		107 —	134
396	〃	12.6	3.0	9.0	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		107 —	362
397	〃	12.2	3.0	／	〃 〃	〃 〃　、指頭痕	／	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃	手づくね	107 33	130
398	土師器皿	8.0	1.2	4.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	明褐灰色(7.5ＹＲ７/１) 〃　(7.5ＹＲ６/１)	〃		107 —	365
399	〃	8.0	1.4	5.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃　(10ＹＲ８/１・７/１)	〃		107 —	378
400	〃	7.9	1.2	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ７/１) 〃　(10ＹＲ８/２)	〃		107 33	370
401	〃	8.0	1.0	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８/２) 〃	〃		107 —	371
402	〃	10.0	1.4	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10ＹＲ８/１) 〃	〃		107 33	377
403	〃	8.8	1.3	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Ｙ８/２) 〃	〃	手づくね	107 —	373
404	瓦器椀	13.8	(2.8)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	灰白色(Ｎ８/　)、暗灰色(Ｎ３/　) 〃　、　〃	〃		107 33	380
405	〃	／	(2.3)	〔4.2〕	／	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(Ｎ４/１) 〃	〃		107 33	382
406	須恵器こね鉢	／	(4.0)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	明青灰色(５ＰＢ７/１)、青灰色(５ＰＢ６/１) 〃　、　〃	〃		107 33	927

表14．B地区出土遺物観察表(6)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
407	土師器 椀	／	(1.3)	〔3.6〕	／	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)	SD−8		109 34	463
408	土師器 杯	／	(1.6)	〔3.7〕	／	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、高台付	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		109 34	468
409	〃	11.0	3.1	6.8	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		109 —	272
410	〃	11.1	3.1	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃 (2.5Y8/2)	〃		109 —	274
411	〃	11.2	3.5	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		109 —	276
412	〃	11.7	2.9	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		109 —	262
413	〃	11.7	3.6	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		109 —	271
414	〃	11.8	3.5	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	明褐灰色(7.5YR7/1) 〃 (7.5YR7/2)	〃		109 —	268
415	〃	12.0	3.0	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 淡黄色(2.5Y8/3)	〃		109 —	261
416	〃	12.0	3.2	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 黒褐色(10YR3/1)	〃		109 —	449
417	〃	12.0	3.3	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		109 —	452
418	〃	12.0	3.3	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		109 —	447
419	〃	12.0	3.4	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y8/2) 〃	〃		109 —	263
420	〃	12.4	2.8	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		109 34	448
421	〃	12.2	2.9	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		109 —	273
422	〃	12.2	2.9	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/4) 〃	〃		110 —	269
423	〃	12.6	3.2	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y8/1) 〃	〃		110 —	446
424	〃	12.8	3.1	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰黄色(2.5Y7/2) 〃	〃		110 34	266
425	〃	12.9	3.1	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		110 —	270
426	〃	12.9	3.6	7.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/2) 〃	〃		110 —	284
427	〃	13.0	3.2	7.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		110 —	279
428	〃	13.0	3.2	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y8/1) 〃	〃		110 —	267
429	〃	13.0	3.5	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(5Y8/2) 〃	〃		110 —	255
430	〃	14.0	3.4	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		110 —	275
431	〃	13.0	3.6	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR7/1)、にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃	〃		110 —	260
432	〃	13.0	3.6	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) にぶい黄橙色(10YR7/2)	〃		110 —	265
433	〃	13.0	3.8	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		110 —	456
434	〃	13.2	3.5	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)	〃		111 34	256
435	〃	13.2	3.3	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2)、灰黄褐色(10YR6/2) 〃 、黒色(10YR1.7/1)	〃		111 —	259
436	〃	13.4	3.6	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)	〃		111 —	280
437	〃	13.6	3.8	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		111 —	278
438	〃	13.8	3.4	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		111 —	257
439	〃	14.0	3.4	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		111 —	264
440	〃	12.0	3.5		〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	手づくね	111 —	312

表15. B地区出土遺物観察表(7)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頭部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
441	土師器 杯	12.2	(2.9)		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃	SD－8	手づくね	111 —	304
442	〃	12.2	(3.4)		〃 〃	〃 〃 、 〃	／	明褐灰色(7.5Y R 7/2) 〃	〃	〃	111 —	281
443	〃	12.8	3.8		〃 〃	マメツ ヨコナデ 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R8/2)、にぶい黄橙色(10Y R6/3) 〃	〃	〃	111 34	300
444	〃	12.8	2.8		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃	〃	111 —	277
445	〃	13.0	3.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(10Y R 8/3) 〃	〃	〃	111 34	314
446	〃	13.4	4.1		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃	〃	111 —	306
447	〃	14.0	3.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/1) 〃	〃	〃	111 —	299
448	〃	14.0	3.3		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃	〃	111 —	464
449	土師器 皿	6.8	1.4	4.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(10Y R 6/1・5/1) 〃	〃		112 —	418
450	〃	7.3	1.2	4.6	〃 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、板圧痕	褐灰色(10Y R 6/1・5/1) 〃 (10Y R 4/1・5/1)	〃		112 —	439
451	〃	7.3	1.3	4.8	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(2.5Y 8/3)	〃		112 34	230
452	〃	7.4	1.5	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃 、にぶい橙色(2.5Y R6/3)	〃		112 34	238
453	〃	7.4	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	419
454	〃	7.6	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	442
455	〃	7.6	1.2	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1) 〃	〃		112 —	435
456	〃	7.6	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2)、浅黄橙色(10YR8/3) 〃 、 〃	〃		112 —	417
457	〃	7.6	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃		112 —	444
458	〃	7.6	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、橙色(7.5Y R7/6) 〃	〃		112 —	434
459	〃	7.6	1.6	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5R 8/2) 〃	〃		112 34	228
460	〃	7.7	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	457
461	〃	7.7	1.5	5.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(5 Y 8/3) 〃	〃		112 —	426
462	〃	7.8	1.3	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	〃		112 34	229
463	〃	7.8	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	249
464	〃	7.8	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃		112 —	252
465	〃	7.9	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃 、淡赤橙色(2.5YR7/4)	〃		112 —	430
466	〃	7.9	1.6	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (10Y R 8/2)	〃		112 —	429
467	〃	8.0	1.0	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	425
468	〃	8.0	1.2	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	250
469	〃	8.3	1.1	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃 (2.5Y R 8/2)	〃		112 —	436
470	〃	8.0	1.2	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(5 Y 7/2) 〃	〃		112 —	422
471	〃	8.0	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃		112 —	410
472	〃	8.0	1.2	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2)、灰白色(2.5Y7/1) 〃 、 〃	〃		112 —	248
473	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		112 —	243
474	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰黄色(2.5Y 7/2) 黄灰色(2.5Y 6/1)	〃		112 —	415

表16．B地区出土遺物観察表(8)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
475	土師器皿	8.0	1.3	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SD－8		112 34	244
476	〃	8.0	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR 7/2) 灰白色(10YR 7/1)	〃		112 —	431
477	〃	8.0	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1)、灰白色(10YR8/2) 〃　、　〃	〃		112 —	428
478	〃	8.0	1.6	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 〃	〃		112 —	408
479	〃	8.0	1.8	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		113 —	234
480	〃	8.1	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		113 —	240
481	〃	8.2	0.9	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y7/1)、にぶい橙色(7.5YR7/4) 〃　、	〃		113 —	441
482	〃	8.2	1.1	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (10YR8/2)、明褐灰色(7.5YR7/2)	〃		113 34	239
483	〃	8.2	1.1	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y7/1) 〃　、黄灰色(2.5Y6/1)	〃		113 —	423
484	〃	8.2	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR7/1)、にぶい橙色(5YR6/3)	〃		113 —	416
485	〃	8.2	1.6	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		113 —	443
486	〃	8.2	1.6	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、にぶい黄色(2.5Y6/3) 〃　、　〃	〃		113 —	432
487	〃	8.3	1.1	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 7/1) 〃 (10YR 8/1)	〃		113 —	251
488	〃	8.6	1.2	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(5YR 8/1) 〃 (10YR 8/1)	〃		113 —	242
489	〃	8.6	1.5	5.5	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃 (10YR 8/2)	〃		113 34	247
490	〃	8.4	1.2	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		113 —	427
491	〃	8.4	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1) 〃 (2.5Y 8/1)	〃		113 —	438
492	〃	8.4	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰黄色(2.5Y 7/2) 〃	〃		113 34	241
493	〃	8.4	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃　、淡赤橙色(2.5YR7/4)	〃		113 —	253
494	〃	8.4	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 8/2)	〃		113 —	421
495	〃	8.4	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		113 35	232
496	〃	8.4	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	明褐灰色(7.5YR7/1)、黒色(10YR2/1) 〃	〃		113 —	440
497	〃	8.4	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		113 —	237
498	〃	8.6	1.6	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃 (10YR 8/2)	〃		113 35	227
499	〃	8.9	1.5	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 灰白色(7.5YR 8/2)	〃		113 —	69
500	〃	8.6	1.7	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	〃		113 35	245
501	〃	8.8	1.8	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃　、浅黄色(2.5Y7/3)	〃		113 —	445
502	〃	8.8	1.2	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		113 —	254
503	〃	8.8	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2)、浅黄色(2.5Y7/4) 〃	〃		113 35	231
504	〃	8.8	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		113 —	433
505	〃	8.8	1.6	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5YR8/2)、淡赤橙色(2.5YR7/3) 〃 (7.5YR8/1)、　〃	〃		113 35	225
506	〃	8.4	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5YR8/2)、褐灰色(7.5YR6/1) 〃　、〃 (7.5YR5/1)	〃		113 35	236
507	〃	9.0	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		113 —	424
508	〃	9.0	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/1) 〃	〃		113 —	413

表17. B地区出土遺物観察表(9)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
509	土師器 皿	9.0	1.5	5.5	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)	SD－8		113 35	235
510	〃	9.0	1.7	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃 (2.5Y8/1)	〃		113 —	414
511	〃	9.2	1.4	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃 (2.5Y8/2)	〃		114 —	437
512	〃	9.2	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1)、黄灰色(2.5Y6/1) 〃 、 〃	〃		114 —	450
513	〃	9.2	1.5	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃		114 —	420
514	〃	9.8	1.7	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		114 35	233
515	〃	7.0	1.4		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃	手づくね	114 —	309
516	〃	8.1	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	〃	114 35	302
517	〃	7.6	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(5YR8/1) 〃 (7.5YR8/1)	〃	〃	114 35	303
518	〃	7.7	1.1		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃	〃	114 —	462
519	〃	7.8	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃 、黄橙色(10YR8/6)	〃	〃	114 —	453
520	〃	7.8	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃	〃	114 —	308
521	〃	7.8	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR8/2) 〃 (7.5YR8/1)	〃	〃	114 —	688
522	〃	8.0	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2)、橙色(7.5YR7/6) 〃 (10YR8/1)	〃	〃	114 —	458
523	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR8/1) 〃	〃	〃	114 —	460
524	〃	8.2	1.3		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/1) 〃	〃	〃	114 35	301
525	〃	8.4	1.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)、にぶい黄褐色(10YR5/4)	〃	〃	114 —	307
526	〃	8.4	1.9		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	〃	114 35	298
527	〃	8.8	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)、橙色(5YR6/6)	〃	〃	114 35	675
528	〃	8.6	1.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃(2.5Y8/1)	〃	〃	114 36	16
529	〃	8.7	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2)、浅黄橙色(7.5YR8/4) 〃 (2.5Y8/2)	〃	〃	114 36	671
530	〃	8.8	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃	〃	〃	114 —	454
531	〃	8.5	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃	〃	114 36	224
532	〃	9.0	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(5Y8/2) 〃	〃	〃	114 —	465
533	〃	9.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	〃	114 —	310
534	〃	8.6	2.1		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(7.5YR8/3) 〃	〃	〃	114 —	313
535	瓦器 椀	14.0	3.5	〔3.0〕	〃 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	暗灰色(N3/) 〃	〃		115 36	291
536	〃	11.8	(2.8)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	ナデ ／	灰色(5Y4/1)、灰色(5Y6/1) 〃 、	〃		115 —	282
537	〃	13.0	(3.4)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ ／	灰色(N6/) 〃 (N5/)	〃		115 —	461
538	〃	13.7	(3.6)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	ナデ ／	灰白色(10YR8/1)、褐灰色(10YR5/1) 〃 、 〃	〃		115 —	285
539	〃	13.6	(3.1)	／	〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	／	灰白色(N8/)、灰色(N5/) 〃 、 〃	〃		115 36	455
540	〃	14.0	(3.2)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	青灰色(5PB6/1) 〃 (5PB5/1)	〃		115 —	467
541	〃	14.0	(3.0)	／	〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台痕	暗灰色(N3/) 〃 (N4/)	〃		115 —	290
542	〃	14.0	(3.5)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	オリーブ黒色(5Y3/1) 〃	〃		115 —	288

表18．B地区出土遺物観察表(10)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頭部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
543	瓦器 椀	14.2	(4.0)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 指頭痕	／	灰白色(10YR8/2)、褐灰色(10YR6/3) 〃 (N5/)	SD－8		115 —	459
544	〃	15.0	(3.7)	／	〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	／	暗青灰色(5PB4/1) 〃	〃		115 —	469
545	〃	15.0	(3.7)	／	〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	／	灰色(5Y4/1) 〃	〃		115 —	466
546	〃	16.0	(3.2)	／	〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	ナデ ／	灰白色(N7/) 〃 (N6/)、灰色(N4/)	〃		115 —	286
547	〃	／	(1.6)	4.5	／	ヨコナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰色(5Y4/1) 〃	〃		115 36	287
548	瓦器 皿	8.3	1.7		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/1)、灰色(5Y4/1) 〃 (5Y4/1)、	〃		115 36	289
549	〃	8.4	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰色(5Y4/1) オリーブ黒色(5Y3/1)	〃		115 36	283
550	須恵器 こね鉢	28.0	(6.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/) 〃	〃		116 36	918
551	〃	30.0	(6.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/) 〃	〃		116 —	903
552	〃	30.0	(5.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	青灰色(5PB6/1) 青灰色(5PB6/1)、暗青灰色(5PB4/1)、暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)	〃		116 36	916
553	〃	35.0	(5.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(5Y7/1) 〃 (5Y7/1)、青灰色(5PB6/1)	〃	やや軟質	116 36	899
554	〃	／	(4.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(N6/) 〃	〃		116 36	920
555	〃	／	(4.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	明青灰色(5PB7/1)、青灰色(5PB6/1) 〃 、 〃	〃	やや軟質	116 36	926
556	〃	／	(4.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/) 〃 、灰色(N5/)	〃		116 —	912
557	〃	／	(7.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(N6/)、灰色(N5/) 〃 、 〃	〃		116 36	909
558	須恵器 椀	／	(1.1)	5.0	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(N7/) 〃	〃		116 36	929
559	瓦質 土鍋	30.0	(3.7)	／	ヨコナデ 〃	ナデ 〃 、指頭痕	／	褐灰色(10YR4/1) 灰褐色(5YR5/2)	〃		117 —	45
560	土師質 土鍋	34.0	(3.7)	／	〃 〃 、指頭痕	ヨコハケ 指頭痕	／	橙色(7.5YR7/6) にぶい黄褐色(10YR5/4)	〃		117 37	892
561	〃	39.0	(4.1)	／	〃 〃 、タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃 (10YR6/3)	〃		117 37	258
562	〃	40.0	(4.1)	／	〃 〃	ヨコハケ ナデ	／	橙色(7.5YR6/6) にぶい橙色(7.5YR5/4)	〃		117 —	44
563	置き竈	釜穴径 28	(10.2)	／	〃 〃	ヨコハケ タテハケ	／	にぶい黄橙色(10YR7/2)、黒褐色(10YR2/2) 〃 、 〃	〃		117 37	26
564	青磁 皿	11.4	2.8	4.4	施釉 〃	施釉 〃	施釉、草花文 釉をかきとる	灰白色(2.5GY8/1) 〃	〃		117 37	27
565	土師器 杯	14.0	3.6	9.5	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 黄灰色(2.5Y5/1)	SD－10		120 —	140
566	〃	12.0	2.5	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、淡赤橙色(2.5YR7/4) 〃 、 〃	〃		120 37	133
567	土師器 皿	8.0	(1.3)	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	／	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃	手づくね	120 37	139
568	須恵器 こね鉢	26.0	(5.9)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/) 〃	〃		120 37	907
569	土師器 杯	11.0	(3.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	明褐色(5YR7/2) 灰白色(5YR8/2)	SP－7		123 —	79
570	〃	11.4	2.9	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) にぶい黄橙色(10YR7/2)	〃		123 38	10
571	土師器 皿	7.0	1.5	4.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		123 —	404
572	〃	8.0	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		123 38	76
573	〃	9.0	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(7.5YR5/1) 明褐灰色(7.5YR7/1)	〃		123 —	407
574	甕	／	(8.9)	14.0	／	ナデ ナデアゲ	ナデ 未調整	赤褐色(10R4/3)、オリーブ色(5Y6/6) 青灰色(5PB6/1)	〃	常滑焼	123 38	488
575	土師器 杯	13.0	3.1	8.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	SP－13		123 38	396
576	〃	11.8	3.5	6.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	明褐灰色(7.5YR7/1) 〃	SP－15		123 38	71

表19．B地区出土遺物観察表(11)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
577	土師器皿	9.2	1.7	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y R 8/1) 〃	SP－28		123	38	406
578	土師器杯	／	(1.3)	7.0	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃	3号集積		125	—	223
579	土師器皿	8.0	1.4	5.4	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃		125	38	219
580	〃	8.2	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y R 8/2) 〃	〃		125	—	222
581	土師器杯	13.0	(3.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Y R 8/1)、褐灰色(10YR6/1) 〃 、 〃	1号集積		127	—	215
582	〃	／	(1.3)	7.0	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、淡黄色(2.5Y 8/4)	〃		127	—	207
583	土師器皿	6.3	0.8	4.0	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃 (10Y R 8/2)	〃		127	—	218
584	〃	6.8	1.1	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	—	208
585	〃	7.6	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		127	—	220
586	〃	7.8	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	—	210
587	〃	7.8	1.5	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		127	—	214
588	〃	8.0	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		127	38	200
589	〃	8.0	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	38	213
590	〃	8.0	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1) 〃	〃		127	38	204
591	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、オリーブ黒色(5Y 4/1)	〃		127	—	206
592	〃	8.0	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		127	38	217
593	〃	8.1	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃 (10Y R 8/1)	〃		127	38	201
594	〃	8.0	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	38	36
595	〃	8.2	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	38	205
596	〃	8.4	1.4	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	38	13
597	〃	7.6	(1.5)	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃	手づくね	127	—	216
598	土師器杯	12.0	(2.6)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(2.5Y8/2)、暗灰黄色(2.5Y5/2) 〃 、 〃 、黒褐色(2.5Y3/2)	2号集積		127	—	202
599	〃	12.6	3.2	8.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		127	39	203
600	〃	13.8	3.0	7.8	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り？	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		127	39	212
601	〃	13.2	2.9		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃	手づくね	127	39	209
602	土師器皿	7.8	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5Y R 8/2) 〃	〃		127	—	211
603	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃	SX－3		129	39	162
604	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	にぶい黄橙色(10Y R 7/2) 〃	〃		129	39	359
605	瓦器椀	13.8	(2.5)	／	〃 〃	ナデ 指頭痕	／	灰色(5Y 4/1) 〃	〃		129	39	354
606	土師器杯	12.3	3.2	7.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)	SX－5		129	—	168
607	〃	13.4	3.6	8.0	〃 〃	〃 〃	マメツ 回転糸切り、 〃	灰白色(10Y R 8/1) 〃	〃		129	39	172
608	土師器皿	7.6	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(5Y R 8/2) 〃 、灰白色(5Y R 8/1)	〃		129	—	345
609	〃	7.8	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(10Y R 8/2) 〃	〃		129	39	166
610	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃 (10Y R 8/1)	〃		129	—	338

表20．B地区出土遺物観察表(12)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
611	土師器 皿	7.9	1.6	4.7	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃 、にぶい青色(7.5YR7/4)	SX－5		129 —	170
612	〃	8.7	1.6	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		129 —	169
613	〃	8.8	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (2.5Y8/2)	〃		129 39	342
614	瓦器 椀	15.4	(3.3)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	灰白色(10YR7/1・8/2) 〃 、にぶい黄橙色(10YR7/2)	〃		129 39	348
615	土師器 杯	11.8	3.1	7.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	SX－7		129 39	161
616	瓦器 椀	15.0	(3.2)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	暗灰色(N3/) 〃	〃		129 39	176
617	土師器 杯	14.0	3.5	10.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい青色(7.5YR7/3) 灰白色(7.5YR8/2)	SX－8		131 —	164
618	土師器 皿	8.2	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		131 39	165
619	〃	7.6	1.3	3.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り？	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		131 —	375
620	〃	8.2	1.0	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/3)、黒褐色(2.5Y3/1) 〃 、 〃	〃		131 —	167
621	〃	8.6	1.5	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰黄色(2.5Y7/2)、黒褐色(2.5Y3/1) 〃 、 〃	〃		131 —	366
622	〃	8.0	(1.9)	／	〃 〃	〃 指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)	〃	手づくね	131 39	160
623	土師質 土釜	22.5	(3.0)	／	ヨコナデ 〃 、煤付着	ヨコナデ 〃 、隆帯貼付	／	にぶい青橙色(7.5YR7/4) 〃 、黒褐色(7.5YR3/2)	〃		131 39	363
624	土師器 杯	13.8	3.4		〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (7.5YR8/2)	SX－10	手づくね	131 39	150
625	〃	13.6	3.2	7.7	〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	浅黄色(2.5Y8/3) 〃	〃	〃	131 —	43
626	瓦器 椀	16.0	3.8	〔5.4〕	〃 〃	ナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Y8/1)、黄灰色(2.5Y5/1) 〃 、 〃	〃		131 39	171
627	土師器 杯	／	(1.3)	7.4	／	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り？	灰白色(10YR8/1) 〃	SX－12		133 —	163
628	〃	12.6	3.0	7.4	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	明褐灰色(5YR7/2)、灰褐色(5YR6/2) 灰白色(5YR8/1)、明褐色(5YR7/1)	SX－13		133 —	189
629	〃	13.0	(2.7)	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(10YR8/3)、灰白色(10YR7/1) 〃 、 〃	〃	手づくね	133 —	182
630	〃	13.4	3.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃	〃	133 40	187
631	〃	14.0	(3.2)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃	〃	133 —	185
632	土師器 皿	7.0	1.0		〃 〃	〃 〃	ナデ ／	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		133 40	188
633	〃	8.0	1.1	5.6	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		133 —	376
634	〃	8.2	1.4	5.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 灰白色(10YR8/1)	〃		133 40	178
635	〃	8.6	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃		133 40	179
636	〃	7.9	1.7	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	明褐灰色(7.5YR7/1)、褐灰色(7.5Y4/1) 〃 、 〃	〃	手づくね	133 —	193
637	〃	8.2	1.8	／	〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y8/3)、にぶい黄橙色(10YR6/4) 〃	〃	〃	133 40	184
638	〃	8.3	1.3	／	〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	〃	133 40	379
639	〃	8.4	1.2	／	〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃	〃	133 40	181
640	〃	7.6	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰黄色(2.5Y7/2) 〃	SX－20		135 —	374
641	土師質 土鍋	／	(3.1)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ナデ タテハケ	／	にぶい黄褐色(10YR5/3) 〃	〃		135 —	390
642	土師器 皿	9.0	1.4	(6.0)	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	SX－26		135 —	372
643	〃	8.2	1.3	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃	SX－28		135 —	357
644	瓦質 鉢	／	(6.2)	／	ナデ 〃	ナデ 〃	／	灰色(N4/) 〃 、灰色(N5/)	SX－29		137 41	928

表21．B地区出土遺物観察表(13)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
645	土師器 杯	14.0	3.2	8.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り？	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SX−30		137 —	191
646	〃	11.2	3.2	5.7	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SX−33		139 40	157
647	土師器 皿	8.8	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		139 —	149
648	〃	8.4	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	SX−34		141 40	190
649	土師器 杯	10.4	3.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃	SX−49		141 41	152
650	〃	11.0	3.4	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR 8/3) 〃	〃		141 —	154
651	〃	12.2	3.4	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		141 —	153
652	〃	12.7	3.0	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、煤けている	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、(底部)灰色(5Y 4/1)	〃		141 41	141
653	〃	12.9	3.3	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/1) 〃	〃		141 —	151
654	〃	13.0	3.3	7.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		141 —	364
655	〃	13.0	3.6	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (2.5Y 7/1)	〃		141 —	146
656	土師器 皿	7.4	1.4	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(5Y 7/2) 〃 、灰色(5Y 5/1)	〃		141 —	361
657	〃	7.4	1.6	4.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰黄色(2.5Y 7/2) 〃	〃		141 —	346
658	〃	8.0	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	褐灰色(10YR 5/1) 〃 、にぶい橙色(10YR 6/4)	〃		141 —	344
659	〃	8.0	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/1) 〃	〃		141 —	155
660	〃	8.0	1.5	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR 8/2) 〃	〃		141 —	369
661	〃	7.8	1.2		〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y 8/1) 〃	〃	手づくね	141 —	347
662	〃	7.8	1.5		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃	〃	141 —	367
663	〃	8.4	1.4		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃	〃	141 41	177
664	黒色土器 椀	／	(2.2)	(5.6)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 貼付高台	褐灰色(10YR 5/1) 灰白色(2.5Y 8/1)	〃	内黒	142 —	358
665	土師質 土鍋	／	(2.8)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ ナデ、指頭痕	／	黒褐色(10YR 3/2) にぶい褐色(7.5Y 6/3)	〃		142 —	381
666	須恵器 こね鉢	26.0	11.4	8.8	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ、凹凸がある 回転糸切り	灰色(N 6/) 〃	〃		142 41	17
667	土師器 杯	12.6	3.0	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/1) 〃	SX−52		144 41	142
668	〃	13.7	3.5	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃	〃		144 —	143
669	〃	12.7	3.5	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	SX−53		144 40	19
670	〃	12.8	3.7	／	〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (10YR8/1)、褐灰色(10YR5/1)、にぶい黄橙色(10YR7/4)	〃	手づくね	144 40	145
671	土師器 皿	8.8	1.5	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃	〃		144 —	360
672	〃	9.0	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 浅黄橙色(7.5YR 8/3)	〃		144 —	147
673	〃	9.0	1.6	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 7/1) 〃	〃		144 40	148
674	青磁 碗	／	(3.4)	4.2	／	施釉 〃 、一部無釉	施釉 削出高台、無釉	明緑灰色(5G7/1) 〃 、灰白色(N8/)、浅黄色(2.5Y7/3)	〃		144 40	173
675	土師器 杯	9.6	3.4	6.9	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			145 42	775
676	〃	10.6	3.2	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡橙色(5YR 8/3) 〃			145 42	713
677	〃	12.4	4.2	8.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR 8/1)			145 —	582
678	〃	13.0	4.1	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			145 —	562

表22．B地区出土遺物観察表(14)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
679	土師器杯	12.4	3.9	7.4	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			146 —	841
680	〃	13.0	3.9	7.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			146 42	721
681	〃	13.4	3.8	8.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃 、褐灰色(10YR 6/1)			146 —	592
682	〃	12.8	3.8	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			146 42	4
683	〃	12.4	3.8	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			146 —	593
684	〃	12.2	3.8	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡赤橙色(2.5YR 7/3)、褐灰色(5YR 6/1) 灰白色(10YR 8/2)			146 —	576
685	〃	13.2	3.7	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃			146 42	737
686	〃	13.2	3.7	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃 (2.5Y 8/2)			146 42	832
687	〃	13.2	3.7	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (2.5Y 8/1)			146 —	570
688	〃	12.8	3.7	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、	灰白色(10YR 8/2) 〃			146 —	126
689	〃	12.3	3.7	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	にぶい黄褐色(10YR 5/3) 灰白色(2.5Y 8/1)、黄褐色(2.5Y 5/3)			146 —	840
690	〃	12.0	3.7	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			147 —	865
691	〃	13.6	3.6	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 5/1) 〃 (10YR 8/2)			147 42	852
692	〃	13.7	3.6	7.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(5YR 4/1)、明褐灰色(7.5YR 7/2) 〃 (5YR 6/1)、にぶい橙色(5YR 6/3)			147 —	554
693	〃	13.1	3.6	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR 8/1)			147 42	718
694	〃	13.0	3.6	8.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			147 —	561
695	〃	12.8	3.6	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			147 —	849
696	〃	12.4	3.6	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			147 —	566
697	〃	12.4	3.6	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) にぶい黄橙色(10YR 6/3)			147 —	728
698	〃	14.0	3.6	8.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR 8/1)			147 —	586
699	〃	13.6	3.5	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(2.5Y 8/3)			147 —	591
700	〃	13.6	3.5	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、橙色(5YR 7/6)			147 —	836
701	〃	13.4	3.5	8.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 7/1) 〃 (10YR 8/2)			147 42	573
702	〃	13.0	3.5	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃			147 —	571
703	〃	13.0	3.5	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	838
704	〃	13.0	3.5	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰黄色(2.5Y 7/2) 灰黄褐色(10YR 5/2)			148 —	564
705	〃	12.6	3.5	8.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	605
706	〃	12.0	3.5	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	580
707	〃	13.8	3.4	9.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	575
708	〃	13.6	3.4	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	835
709	〃	13.0	3.4	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5YR 8/2) 〃			148 —	864
710	〃	13.0	3.4	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			148 —	125
711	〃	12.8	3.4	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			148 —	590
712	〃	13.0	3.4	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			148 —	579

表23．B地区出土遺物観察表(15)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
713	土師器杯	12.7	3.4	8.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			148 —	574
714	〃	12.6	3.4	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			148 —	547
715	〃	12.6	3.4	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、黄灰色(2.5Y6/1) 〃 、 〃			148 —	557
716	〃	12.0	3.4	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			148 —	551
717	〃	13.2	3.3	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			149 —	842
718	〃	13.2	3.3	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			149 —	726
719	〃	13.0	3.3	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			149 —	563
720	〃	13.0	3.4	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			149 42	577
721	〃	12.7	3.3	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃 (10YR8/2)			149 42	583
722	〃	12.4	3.3	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2)、淡黄色(2.5Y8/4) 〃 、 〃			149 —	556
723	〃	12.2	3.2	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2)、淡黄色(2.5Y8/4) 〃 、 〃			149 —	613
724	〃	12.0	3.3	7.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			149 —	588
725	〃	12.0	3.3	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			149 —	763
726	〃	12.0	3.3	6.9	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			149 43	124
727	〃	11.4	3.3	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR7/1) 〃			149 —	833
728	〃	11.3	3.3	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	にぶい橙色(5YR7/4・6/3) 〃 (7.5YR7/3)、淡赤橙色(2.5YR7/4)			149 —	808
729	〃	13.2	3.2	8.0	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 回転糸切り	灰白色(10YR7/1) 〃			149 —	581
730	〃	12.8	3.2	9.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	褐灰色(7.5YR6/1・5/1) 〃 (7.5YR5/1・5/2)			150 —	565
731	〃	12.4	3.2	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			150 —	727
732	〃	12.3	3.2	7.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/1) 〃			150 —	572
733	〃	12.2	3.2	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃			150 43	559
734	〃	12.0	3.2	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃			150 —	552
735	〃	11.9	3.2	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			150 —	584
736	〃	11.8	3.2	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			150 —	799
737	〃	11.8	3.2	7.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰褐色(7.5YR6/2・5/2) 〃 (7.5YR8/2)			150 —	837
738	〃	13.8	3.1	9.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			150 —	123
739	〃	13.8	3.1	8.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y8/3) 〃			150 —	712
740	〃	12.5	3.1	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			150 43	553
741	〃	11.9	3.1	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 灰白色(10YR8/2)			150 —	569
742	〃	12.0	3.0	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			150 —	585
743	〃	12.8	3.0	7.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄橙色(10YR8/3) 〃			150 —	723
744	〃	12.4	3.0	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			151 —	587
745	〃	12.0	3.0	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			151 —	122
746	〃	11.4	3.0	7.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰黄色(2.5Y7/2)、黄灰色(2.5Y5/1) 〃 、 〃			151 —	555

表24．B地区出土遺物観察表(16)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
747	土師器 杯	13.0	2.9	8.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃			151 —	872
748	〃	12.0	2.9	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃			151 —	589
749	〃	11.6	2.9	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 6/1) 〃 、〃			151 —	834
750	〃	11.2	2.9	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、明褐黄(2.5Y 4/2)			151 —	567
751	〃	12.8	2.8	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)			151 —	578
752	〃	12.0	2.8	8.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	にぶい黄橙色(10Y R 7/2) 〃			151 —	722
753	〃	12.0	2.8	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃			151 —	550
754	〃	12.6	2.6	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)、黒褐色(10Y R 3/1) 〃 (2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 4/1)			151 —	596
755	〃	12.0	2.6	7.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	にぶい黄橙色(10Y R 7/2) 灰黄褐色(10Y R 6/2)、明褐灰色(5 Y R 7/2)			151 —	730
756	〃	11.8	2.6	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			151 —	568
757	〃	12.0	2.5	7.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃			151 —	558
758	〃	12.0	3.2		〃 〃	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		手づくね	152 —	804
759	〃	12.1	(3.3)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2)、浅黄色(2.5Y 8/3) 〃 、〃		〃	152 —	667
760	〃	12.6	(3.2)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/2) 〃		〃	152 —	657
761	〃	12.8	3.4		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y R 8/2) 〃		〃	152 —	706
762	〃	13.0	(2.8)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃		〃	152 —	693
763	〃	12.8	(2.8)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2)、灰白色(10YR 7/1) 〃 、〃		〃	152 —	694
764	〃	13.0	(3.5)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/1) 〃		〃	152 —	654
765	〃	13.2	(2.7)		〃 〃	〃 〃 、〃	／	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、橙色(2.5Y 6/8)		〃	152 —	802
766	〃	13.2	(3.3)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	明褐灰色(5 Y R 7/1) 〃		〃	152 —	740
767	〃	13.2	3.4		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	黄褐色(2.5Y 5/3)、灰白色(2.5Y 8/2) 暗灰黄色(2.5Y 5/2)、〃 (2.5Y 7/1)		〃	152 43	745
768	〃	13.8	3.3		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	153 43	655
769	〃	13.9	(3.2)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃		〃	153 —	660
770	〃	14.0	(2.9)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	153 —	753
771	〃	14.0	3.5		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y R 8/1)、淡黄色(2.5Y R 8/3) 〃 (10Y R 8/2)		〃	153 43	61
772	〃	14.0	(3.5)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	153 —	711
773	〃	14.6	(3.6)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2)、黒色(10Y R 2/1) 〃 (7.5YR8/2)、褐灰色(7.5YR5/1)		〃	153 —	761
774	〃	16.0	(3.6)		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ ／	灰白色(N 8/) 〃		〃	153 —	860
775	土師器 皿	11.9	2.0	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) 〃			154 —	560
776	〃	9.0	1.4	5.8	マメツ 〃	マメツ 〃	マメツ 〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (7.5Y 8/1)			154 —	815
777	〃	9.4	1.3	5.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			154 —	493
778	〃	9.2	1.4	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 7/1)、褐灰色(10Y R 5/1) 〃 、〃			154 —	541
779	〃	9.2	1.1	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) 〃			154 —	497
780	〃	9.0	1.7	5.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、橙色(2.5Y R 6/6)			154 —	851

表25．B地区出土遺物観察表(17)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
781	土師器皿	9.0	1.6	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			154 —	544
782	〃	9.0	1.5	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	519
783	〃	9.0	1.5	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			154 —	522
784	〃	9.0	1.1	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			154 —	594
785	〃	8.9	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			154 —	782
786	〃	8.8	1.8	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR7/1) 〃			154 —	821
787	〃	8.8	1.5	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			154 —	617
788	〃	8.8	1.5	5.9	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃			154 —	818
789	〃	8.8	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(5Y8/2) 〃			154 —	498
790	〃	8.8	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	789
791	〃	8.8	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃			154 —	823
792	〃	8.8	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR8/3) 褐灰色(7.5YR5/1)			154 —	822
793	〃	8.5	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 43	777
794	〃	8.6	1.7	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃　、灰白色(10YR7/1)			154 —	780
795	〃	8.6	1.5	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			154 43	527
796	〃	8.6	1.5	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	850
797	〃	8.3	1.5	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	538
798	〃	8.6	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2)、黄灰色(2.5Y6/1) 〃　、　〃			154 43	769
799	〃	8.4	1.4	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	853
800	〃	8.6	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 43	615
801	〃	8.6	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Y7/1) 〃			154 —	861
802	〃	8.5	1.5	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			154 —	803
803	〃	8.5	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	明褐灰色(7.5YR7/2) 〃			154 —	768
804	〃	8.8	1.3	6.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(10YR8/2) 〃			155 —	709
805	〃	8.4	1.7	6.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			155 —	733
806	〃	8.4	1.5	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			155 —	490
807	〃	8.4	1.4	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Y8/2)、黄灰色(2.5Y6/1) 〃　、　〃			155 43	518
808	〃	8.4	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃　、橙色(2.5YR7/6)			155 43	485
809	〃	8.4	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			155 —	827
810	〃	8.4	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃　、浅黄橙色(10YR8/3)			155 —	543
811	〃	8.4	1.3	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃			155 —	773
812	〃	8.4	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	赤褐色(10YR5/3)、浅黄橙色(10YR8/3)、にぶい黄橙色(10YR7/4) 灰白色(10YR8/2)			155 43	483
813	〃	8.4	1.0	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/3) 〃			155 43	602
814	〃	8.4	1.1	6.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、　〃	褐灰色(10YR6/1) 〃			155 —	725

表26．B地区出土遺物観察表(18)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	(成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面)) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
815	土師器皿	8.4	1.1	6.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)			155	—	491
816	〃	8.3	1.5	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃			155	43	604
817	〃	8.3	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			155	43	504
818	〃	8.2	1.8	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			155	—	606
819	〃	8.2	1.7	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			155	—	623
820	〃	8.2	1.6	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			155	—	781
821	〃	8.2	1.6	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃			155	—	714
822	〃	8.2	1.5	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			155	—	531
823	〃	8.2	1.5	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(5Y 7/1) 〃			155	—	724
824	〃	8.2	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	にぶい黄橙色(10YR 7/2) 〃 灰白色(10YR 8/2)、灰白色(10YR 6/2)			155	—	492
825	〃	8.2	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 7/1) 〃			155	—	731
826	〃	8.2	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、褐灰色(10YR 5/1)			155	—	501
827	〃	8.2	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄橙色(10YR 8/3) 〃			155	—	510
828	〃	8.2	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/1) 〃			155	44	771
829	〃	8.2	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃			155	—	530
830	〃	8.2	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃			155	44	40
831	〃	8.2	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰黄褐色(10YR 6/1)、灰白色(10YR 8/2) 灰白色(10YR 7/1)			155	—	762
832	〃	8.2	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (2.5Y 8/1)			155	44	603
833	〃	8.2	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/2) 〃			156	—	528
834	〃	8.2	1.1	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR 8/2) 〃			156	—	513
835	〃	8.2	1.1	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	浅黄色(2.5Y 7/3) 灰黄色(2.5Y 6/2)			156	—	509
836	〃	8.7	1.7	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	褐灰色(7.5YR 4/1)、にぶい褐色(7.5Y 6/3) 〃 、 〃			156	—	819
837	〃	8.1	1.6	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	黒褐色(10YR 3/1)、にぶい黄橙色(10YR 7/2) 〃 、 〃			156	—	848
838	〃	8.1	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR 8/1)			156		512
839	〃	8.1	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃			156	—	533
840	〃	8.1	1.2	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			156	44	854
841	〃	8.0	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 〃 (10YR 8/1)			156	—	511
842	〃	8.2	1.2	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/2) 浅黄橙色(10YR 8/3)			156	—	494
843	〃	8.1	1.1	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)、にぶい橙色(5YR 7/4) 〃 (7.5YR 8/1)、淡橙色(5YR 8/4)			156	—	793
844	〃	8.1	1.1	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃			156	—	502
845	〃	8.0	1.7	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			156	—	831
846	〃	8.0	1.7	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡橙色(5YR 8/4) 〃 (5YR 8/3)			156	—	785
847	〃	8.0	1.6	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR 8/1) 〃			156	—	824
848	〃	8.0	1.5	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	橙色(2.5YR 7/6) 〃			156	—	732

表27．B地区出土遺物観察表(19)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
849	土師器皿	8.0	1.5	4.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2)、橙色(5YR7/6) 〃			156	44	772
850	〃	8.2	1.3	5.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5YR8/2) 〃			156	—	523
851	〃	8.0	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/1) 〃 (2.5Y8/2)			156	—	825
852	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	褐灰色(10YR6/1) にぶい黄橙色(10YR7/2)、灰白色(10YR7/1)			156	—	598
853	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	黄灰色(2.5Y6/1) 〃			156	—	500
854	〃	8.0	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃			156	—	735
855	〃	8.0	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			156	—	795
856	〃	8.0	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/1) 橙色(5YR7/6)			156	—	830
857	〃	8.0	1.5	4.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1)、褐灰色(10YR5/1) 〃 、灰白色(5YR8/2)			156	—	790
858	〃	8.0	1.3	6.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			156	—	798
859	〃	8.0	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2)、褐灰色(10YR5/1) 〃 、 〃			156	—	796
860	〃	8.0	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			156	44	791
861	〃	8.0	1.3	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	橙色(2.5YR7/6) 〃 、灰白色(5YR8/2)			156	—	816
862	〃	8.4	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR8/3) 灰白色(7.5YR8/2)			156	—	857
863	〃	8.0	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR'8/4) 〃 (7.5YR8/3)			156	—	810
864	〃	8.0	1.3	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 淡黄色(2.5Y8/3)			156	—	609
865	〃	8.0	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃			156	—	521
866	〃	8.0	1.3	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	776
867	〃	8.0	1.3	5.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			157	—	540
868	〃	8.0	1.3	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄橙色(10YR8/3) 〃 、淡赤橙色(10YR7/4)			157	—	792
869	〃	8.0	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			157	—	621
870	〃	8.0	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/1) 〃			157	—	814
871	〃	7.8	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃			157	44	508
872	〃	8.0	1.2	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄色(2.5Y8/3) 〃			157	—	489
873	〃	8.0	1.2	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y7/1) 〃			157	—	539
874	〃	8.2	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	にぶい黄橙色(10YR7/2)、褐灰色(10YR4/1) 褐灰色(10YR4/1)、灰白色(10YR8/1)			157	44	616
875	〃	8.0	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃 、にぶい橙色(5YR7/4)			157	—	599
876	〃	8.0	1.2	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			157	—	600
877	〃	8.0	1.2	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			157	—	707
878	〃	8.0	1.1	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	783
879	〃	8.0	1.1	5.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)			157	44	505
880	〃	8.0	1.1	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃 、黄灰色(2.5Y5/1)			157	—	545
881	〃	8.1	1.1	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1) 〃			157	44	614
882	〃	8.2	1.1	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	607

表28．B地区出土遺物観察表(20)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
883	土師器 皿	8.0	1.1	5.2	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			157	—	620
884	〃	8.0	1.1	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	496
885	〃	8.0	1.1	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃　、浅黄橙色(10YR8/3)			157	44	515
886	〃	8.0	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄色(2.5Y7/3) 〃			157	—	507
887	〃	8.0	1.0	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(5Y8/2) 〃			157	—	516
888	〃	8.0	1.0	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃			157	—	537
889	〃	8.0	0.9	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	820
890	〃	7.9	1.4	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y8/3) 灰白色(10YR8/2)			157	—	529
891	〃	8.0	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃			157	—	797
892	〃	7.9	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃			157	—	542
893	〃	8.0	1.0	5.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			157	—	809
894	〃	8.8	1.7	6.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、黄灰色(2.5Y6/1) 〃　、〃			157	—	786
895	〃	7.8	1.2	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい橙色(7.5YR7/4)、灰白色(7.5YR8/2) 〃　、〃			157	—	624
896	〃	7.8	1.6	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	812
897	〃	7.8	1.6	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	褐灰色(7.5YR6/1)、明褐灰色(7.5YR7/1) 灰白色(7.5YR8/2)、〃			157	—	788
898	〃	7.9	1.5	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			157	—	520
899	〃	8.0	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい橙色(7.5YR7/3) 〃　、灰白色(7.5YR8/2)			158	44	517
900	〃	8.0	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄色(2.5Y7/3) 〃			158	—	702
901	〃	7.8	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃　(10YR8/1)			158	—	601
902	〃	7.8	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	826
903	〃	7.8	1.5	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/2) 〃			158	—	856
904	〃	7.8	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(10YR8/1) 〃			158	—	829
905	〃	7.9	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2)、灰黄色(2.5Y7/2) 〃　(2.5Y8/1)、黄灰色(2.5Y6/1)			158	—	548
906	〃	7.8	1.4	4.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(7.5YR8/2) 〃　(7.5YR8/1)、橙色(7.5YR7/6)			158	44	608
907	〃	8.2	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	806
908	〃	7.8	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃　(10YR8/1)			158	—	535
909	〃	8.0	1.3	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃　(10YR8/1)			158	—	499
910	〃	7.8	1.3	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	536
911	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	44	729
912	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			158	—	828
913	〃	7.8	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃　(2.5Y8/1)			158	—	817
914	〃	7.8	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			158	—	787
915	〃	7.8	1.3	4.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	525
916	〃	7.8	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄色(2.5Y8/3) 〃			158	—	611

表29．B地区出土遺物観察表(21)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
917	土師器 皿	7.8	1.2	4.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	明褐灰色(7.5YR7/2)、にぶい橙色(5YR7/3) にぶい橙色(10YR7/2)、〃			158	—	503
918	〃	8.0	1.2	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、褐灰色(7.5YR5/1) 淡黄色(2.5Y8/3)、〃			158	44	486
919	〃	7.8	1.2	4.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	618
920	〃	7.8	1.1	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	淡黄色(2.5Y8/3) 〃			158	—	610
921	〃	8.0	1.0	5.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃 (2.5Y8/1)			158	—	595
922	〃	7.7	1.0	3.9	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃			158	—	720
923	〃	7.6	1.4	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			158	44	526
924	〃	7.6	1.2	5.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/2)、にぶい橙色(7.5YR7/4) 〃 、〃			158	44	514
925	〃	7.6	1.4	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 〃			158	—	532
926	〃	7.6	1.3	5.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)			158	—	534
927	〃	8.0	1.3	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰黄褐色(10YR6/2) 〃			158	—	770
928	〃	7.6	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(5Y8/2) 〃 (2.5Y8/2)			158	—	495
929	〃	7.5	1.2	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡橙色(5YR8/3) 〃 、褐灰色(10YR6/1)			158	—	597
930	〃	7.6	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			158	—	719
931	〃	7.5	1.3	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/1) 浅黄橙色(7.5YR8/4)			158	—	779
932	〃	7.3	1.3	4.8	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	褐灰色(7.5YR5/1) にぶい橙色(2.5YR6/3)、灰黄褐色(2.5YR5/2)			159	44	811
933	〃	7.5	1.2	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			159	—	612
934	〃	7.4	1.2	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(10YR8/3) 〃			159	—	524
935	〃	7.4	1.1	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃			159	44	858
936	〃	7.4	1.0	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2)、黄灰色(2.5Y5/1) 〃			159	—	546
937	〃	7.3	1.5	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)			159	—	549
938	〃	7.3	1.3	4.9	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR8/3) 〃			159	—	778
939	〃	7.1	1.4	4.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃			159	—	784
940	〃	7.0	1.7	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			159	—	839
941	〃	6.9	1.2	5.3	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			159	44	619
942	〃	8.2	2.0		〃 〃 、片口	〃 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃 (10YR6/3)		手づくね	160	45	716
943	〃	7.6	1.7		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃		〃	160	—	684
944	〃	7.8	1.5		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃		〃	160	—	766
945	〃	7.8	1.3		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	明褐灰色(5YR7/1) 〃		〃	160	—	700
946	〃	7.8	1.4		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃		〃	160	—	767
947	〃	7.8	1.5		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y8/1)		〃	160	—	742
948	〃	7.8	1.7		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	にぶい黄橙色(10YR7/2)、灰黄褐色(10YR6/2) 〃 、灰白色(10YR8/2)		〃	161	—	862
949	〃	7.8	1.7		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃		〃	161	—	670
950	〃	7.9	1.6		〃 〃	〃 〃 、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR8/2) 〃		〃	161	—	699

表30．B地区出土遺物観察表(22)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
951	土師器皿	7.9	1.7		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		手づくね	161	45	705
952	〃	7.9	1.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)		〃	161	45	695
953	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	—	681
954	〃	8.0	1.3		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	にぶい橙色(7.5YR 7/3) 〃		〃	161	—	451
955	〃	8.0	1.3		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃		〃	161	—	686
956	〃	8.0	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	—	801
957	〃	8.0	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	45	669
958	〃	8.0	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃 、にぶい橙色(7.5YR 7/4)		〃	161	45	682
959	〃	8.0	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y 8/1) 〃		〃	161	—	659
960	〃	8.0	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(5Y 8/2) 〃 、灰白色(5Y 5/1)		〃	161	—	701
961	〃	8.0	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	—	666
962	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)、橙色(7.5YR 7/6)		〃	161	—	794
963	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR 8/2) 〃 (10YR 8/2)		〃	161	—	664
964	〃	8.0	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 (10YR 8/1)		〃	161	—	698
965	〃	8.0	1.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2)、褐灰色(7.5YR 5/1) 〃 、 〃		〃	161	—	805
966	〃	8.0	1.9		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	淡橙色(5YR 8/3)、褐灰色(7.5YR 4/1) 〃 、 〃		〃	161	—	687
967	〃	8.0	1.8		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	45	755
968	〃	8.1	1.9		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR 8/1) 〃		〃	161	45	697
969	〃	8.2	(1.6)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y 8/1) 〃		〃	161	—	704
970	〃	8.2	1.2		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1) 〃		〃	161	—	677
971	〃	8.2	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃 、黄灰色(2.5Y 5/1)		〃	161	45	680
972	〃	8.2	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1) 〃		〃	161	45	661
973	〃	8.2	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10Y 8/1) 〃		〃	161	—	691
974	〃	8.3	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃		〃	161		868
975	〃	8.2	(1.8)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	—	672
976	〃	8.3	0.9		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 〃		〃	161	—	696
977	〃	8.3	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	161	—	679
978	〃	8.3	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162	45	663
979	〃	8.2	1.7		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) にぶい黄橙色(10YR 7/2)		〃	162	—	758
980	〃	8.4	(1.4)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 (2.5Y 8/2)、にぶい橙色(7.5YR 7/4)		〃	162	—	703
981	〃	8.4	(1.6)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃		〃	162	—	807
982	〃	8.4	1.4		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 黒褐色(2.5Y 3/1)		〃	162	—	676
983	〃	8.4	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1) 〃		〃	162	—	741
984	〃	8.4	1.5		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5Y 8/1) 〃		〃	162	—	685

表31．B地区出土遺物観察表(23)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
985	土師器 皿	8.4	1.5		ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃　、指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃　(2.5Y 8/2)		手づくね	162 —	757
986	〃	8.4	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃		〃	162 —	311
987	〃	8.2	1.5		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 7/1) 灰黄褐色(10YR 6/2)		〃	162 —	734
988	〃	8.4	1.8		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	756
989	〃	8.2	1.0		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	674
990	〃	8.4	1.9		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	855
991	〃	8.5	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 45	743
992	〃	8.5	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	689
993	〃	8.5	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)		〃	162 45	665
994	〃	8.6	1.2		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃　(10YR 8/1)		〃	162 45	668
995	〃	8.6	1.3		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	662
996	〃	8.6	(1.6)		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃　、灰白色(2.5Y 7/1)		〃	162 —	692
997	〃	8.6	1.9		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 7/1)、にぶい黄橙色(10YR 7/2) 〃　(10YR 8/1・7/1)		〃	162 45	744
998	〃	8.7	1.8		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR 8/1) 〃		〃	162 —	658
999	〃	8.8	1.4		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/1) 〃		〃	162 —	715
1000	〃	8.8	1.5		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	褐灰色(7.5YR 4/1) 灰白色(10YR 8/1)、褐灰色(10YR 6/1)		〃	162 —	760
1001	〃	8.8	(1.5)		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 7/1) 〃		〃	162 —	765
1002	〃	8.8	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1)、にぶい橙色(5YR 7/4) 〃		〃	162 —	764
1003	〃	8.8	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1) 〃　(10YR 8/2)		〃	162 —	653
1004	〃	8.8	1.7		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/2) 〃		〃	162 45	738
1005	〃	8.8	1.6		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(2.5Y 8/2) 〃		〃	162 —	673
1006	〃	9.0	(1.5)		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(10YR 8/1) 〃		〃	162 —	708
1007	〃	8.9	(1.5)		〃 〃	〃 〃　、〃	ナデ 指頭痕	灰白色(7.5YR 8/1) 褐灰色(7.5YR 6/1)		〃	162 —	747
1008	〃	9.0	(1.5)		〃 〃	〃 〃　、〃	／	灰白色(5YR 8/2) 〃　、橙色(7.5YR 7/8)		〃	162 45	683
1009	黒色土器 椀	／	(1.3)	〔6.4〕	／	／	マメツ 貼付高台	黄灰色(2.5Y 5/1) 灰白色(2.5Y 8/2)		内黒	163 45	656
1010	土師器 椀	／	(2.0)	〔5.4〕	／	ナデ マメツ	ナデ 貼付高台	浅黄橙色(7.5YR 8/3) 〃			163 —	678
1011	〃	／	(1.5)	〔6.5〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			163 —	646
1012	〃	／	(1.4)	〔6.4〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	淡黄色(2.5Y 8/3) 〃			163 —	643
1013	〃	／	(1.9)	〔6.5〕	／	ナデ マメツ	ナデ 貼付高台	灰白色(10YR 8/1) 〃			163 45	649
1014	〃	／	(1.1)	〔5.4〕	／	／	ナデ 貼付高台	灰黄褐色(10YR 6/2)、にぶい黄橙色(10YR 7/2) にぶい黄橙色(10YR 7/2)			163 45	642
1015	〃	／	(1.6)	〔5.0〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	浅黄橙色(10YR 8/3) にぶい黄橙色(10YR 7/2)			163 —	710
1016	〃	／	(1.4)	〔5.7〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Y 8/1) 〃			163 —	647
1017	〃	／	(1.9)	〔6.3〕	／	〃 〃	マメツ 貼付高台	浅黄橙色(7.5YR 8/3) 〃			163 —	746
1018	〃 椀？杯？	／	(2.4)	5.2	／	／	ナデ 〃	灰白色(10YR 8/1) 浅黄橙色(10YR 8/3)			163 45	650

表32．B地区出土遺物観察表(24)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
1019	土師器 椀	13.0	3.6	〔3.0〕	ナデ マメツ	ナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2) 〃			163	45	648
1020	瓦器 椀	13.7	4.0	〔4.4〕	ヨコナデ 〃	ミガキ 指頭痕	マメツ 貼付高台	暗灰色(N 3/) 〃 、灰白色(2.5Y 8/1)			164	46	632
1021	〃	13.9	4.3	〔4.7〕	〃 〃	ミガキ 指頭痕	マメツ 貼付高台	黒色(2.5Y 2/1) 〃			164	—	39
1022	〃	14.0	3.6	〔4.0〕	マメツ 〃	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Y 8/1)、灰色(N 5/) 〃 (N 8/)			164	—	628
1023	〃	14.0	4.0	〔4.0〕	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(7.5Y 8/1) 〃			164	—	631
1024	〃	14.0	4.5	〔4.0〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰色(N 5/) 〃 (N 4/)			164	—	739
1025	〃	14.4	3.4	〔3.4〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰色(N 7/) 〃			164	—	863
1026	〃	14.4	4.4	〔3.3〕	ヨコナデ、ミガキ 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	黒褐色(10YR 3/1) 褐灰色(10YR 6/1)			165	46	62
1027	〃	14.6	4.1	〔4.8〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	黒褐色(10YR 3/1) 〃			165	—	625
1028	〃	14.8	3.9	〔4.2〕	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	オリーブ黒色(5Y 3/1) 灰色(5Y 4/1)			165	—	633
1029	〃	15.0	3.5	〔5.2〕	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(N 8/) 暗灰色(N 3/)			165	—	627
1030	〃	15.0	3.9	〔4.5〕	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	貼付高台	褐灰色(10YR 4/1)、黒褐色(10YR 3/1) 〃 (10YR 4/1・5/1)、 〃			165	46	635
1031	〃	15.1	3.7	〔3.8〕	ヨコナデ、ミガキ 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	暗灰色(N 3/) 〃			165	47	3
1032	〃	15.2	3.4	〔4.6〕	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ナデ 貼付高台	オリーブ黒(5Y 3/1) 〃			165	—	859
1033	〃	15.2	3.8	〔5.0〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	暗灰色(N 3/) 〃			165	46	5
1034	〃	15.3	4.0	〔4.7〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	黒色(N 2/) 灰白色(10Y 8/1)			165	46	11
1035	〃	15.4	4.3	〔4.2〕	ナデ、ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	暗灰色(N 3/) 灰白色(7.5Y 8/1)、暗灰色(N 3/)			165	47	12
1036	〃	17.2	5.0	〔3.6〕	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	マメツ 貼付高台	灰白色(5Y 4/1)、オリーブ黒色(5Y 3/1) 〃 、 〃			165	—	637
1037	〃	13.2	(3.5)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	灰色(5Y 4/1) 〃			165	—	629
1038	〃	13.2	(4.3)	／	ナデ、ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	黒褐色(10YR 3/1) 〃			165	—	750
1039	〃	13.6	(3.8)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	黒褐色(10YR 3/1)、黄灰色(10YR 6/1) 灰白色(2.5Y 8/2)			165	—	652
1040	〃	13.8	(3.3)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(N 8/) 〃 、暗灰色(N 3/)			166	—	846
1041	〃	14.0	(3.2)	／	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰色(N 6/) 灰白色(7.5Y 8/1)、灰色(7.5Y 5/1)			166	46	813
1042	〃	14.0	(3.2)	／	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃			166	46	754
1043	〃	14.0	(3.2)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(N 8/)、灰色(N 4/) 〃			166	—	748
1044	〃	14.0	(3.5)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	暗青灰色(5PB 4/1)、灰白色(10Y 8/1) 灰白色(10Y 8/1)、灰色(N 4/)			166	46	847
1045	〃	14.0	(3.5)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	／	灰色(5Y 4/1) 〃			166	—	800
1046	〃	13.9	(3.7)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(2.5Y 8/1) 〃 、灰色(N 5/)			166	—	759
1047	〃	14.8	(3.6)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ 指頭痕	／	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 5/1)) 灰色(N 4/)			166	—	651
1048	〃	14.8	(3.7)	／	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(5Y 8/2)、灰色(5Y 6/2) 〃			166	—	622
1049	〃	15.0	(3.2)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	灰色(N 6/) 〃			166	—	749
1050	〃	15.0	(3.6)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	オリーブ黒色(5Y 3/1) 〃			166	—	630
1051	〃	15.6	(4.0)	／	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	／	黒色(10YR 2/1) 〃			166	—	626
1052	〃		(1.1)	〔3.4〕	／	マメツ 〃	マメツ 貼付高台	灰白色(N 7/) 〃			166	—	844

表33．B地区出土遺物観察表(25)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1053	瓦器 椀	10.0	3.5	4.5	ヨコナデ 〃	ヨコナデ タテヘラ	ナデ 〃	褐灰色(10YR4/1・5/1) 〃			166 46	73
1054	瓦器 杯	13.9	3.5		〃 〃	ヨコナデ 〃 、指頭痕	〃 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃			167 46	305
1055	〃	14.0	3.2		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	黄灰色(2.5Y4/1)、黒褐色(2.5Y3/1) 〃			167 —	751
1056	瓦器 皿	7.6	(1.7)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	暗灰色(N3/) 〃			168 —	638
1057	〃	7.8	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰色(N5/1) 〃 (N6/1)			168 —	640
1058	〃	8.0	(1.2)		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	灰色(N5/) 〃			168 —	752
1059	〃	8.0	1.6		〃 〃	〃 〃 、 〃	ナデ 指頭痕	暗灰色(N3/) 〃			168 —	843
1060	〃	8.0	1.3		マメツ 〃	マメツ ヨコナデ、指頭痕	マメツ 指頭痕	灰白色(N8/) 灰色(N6/)			168 —	641
1061	〃	8.2	1.3		ヨコナデ 〃	〃 〃 指頭痕	ナデ 指頭痕	灰色(5Y4/1) 〃			168 —	645
1062	〃	8.2	1.4		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	黒色(7.5Y2/1) 〃			168 47	634
1063	〃	8.3	1.2		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	暗灰色(N3/) 〃			168 47	2
1064	〃	8.4	1.3		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	灰色(5Y4/1) 〃 (5Y5/1)			168 —	644
1065	〃	8.6	1.3		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	灰色(N5/) 〃 (N4/)			168 47	639
1066	〃	8.8	1.5		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	青灰色(5PB5/1)、灰白色(N8/) 〃			168 47	869
1067	〃	8.8	1.5		〃 〃	〃 〃 〃	ナデ 指頭痕	灰白色(N8/) 〃 、灰色(N6/)			168 —	636
1068	土師器 小壺	4.3	5.9	4.9	〃 ナデ	ナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃			169 47	1
1069	土師質 土鍋	39.0	(5.7)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ？ ナデ、指頭痕	／	黄灰色(2.5Y4/1) 黒褐色(2.5Y3/1)			170 48	882
1070	〃	39.4	(5.5)	／	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ、〃	／	にぶい褐色(7.5Y5/4) 〃 (7.5Y4/3)			170 —	874
1071	〃	39.2	(9.2)	／	ヨコハケ ヨコナデ、タテハケ	ナデ、ヨコハケ ナデ、タテハケ、ヨコハケ	／	灰黄色(2.5Y7/2) 黒褐色(10YR3/1)、灰黄褐色(10YR4/2)			170 48	867
1072	〃	34.0	(5.5)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	黄灰色(2.5Y5/1)、灰黄色(2.5Y6/2) にぶい黄橙色(10YR6/3) 灰黄褐色(10YR6/2)、黒色(10YR2/1)			170 48	883
1073	〃	38.0	(3.3)	／	ナデ 〃	ナデ 〃	／	橙色(7.5YR6/6) 〃 、黒色(7.5YR2/1)			171 48	890
1074	〃	37.4	(2.7)	／	ヨコナデ 〃	／	／	にぶい橙色(5YR6/3) にぶい赤褐色(5YR5/3)、黒褐色(5YR2/1)			171 —	878
1075	〃	37.0	(6.2)	／	ヨコハケ ナデ	マメツ 〃	／	にぶい橙色(7.5YR7/3) 明褐灰色(7.5YR7/2)			171 —	888
1076	〃	39.0	(5.8)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ タテハケ	／	にぶい橙色(7.5YR6/4) 〃			171 48	877
1077	〃	33.0	(3.4)	／	マメツ 〃	マメツ 〃	／	灰黄褐色(10YR6/2) 〃			171 —	887
1078	〃	30.6	(5.2)	／	ヨコナデ 〃	ヨコハケ タテハケ	／	灰白色(2.5Y8/2) 〃			172 48	884
1079	〃	37.6	(6.2)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ？ マメツ	／	にぶい橙色(5YR7/3) にぶい赤褐色(2.5YR5/4)、褐灰色(10YR6/1)			172 48	875
1080	〃	32.0	(4.3)	／	ヨコハケ ヨコナデ、タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	明黄褐色(10YR6/6) 黒褐色(10YR2/2)			172 48	41
1081	〃	38.0	(3.6)	／	ヨコハケ マメツ	マメツ 〃	／	にぶい黄橙色(10YR6/4) 暗灰黄色(2.5Y5/2)			172 —	870
1082	〃	36.0	(3.9)	／	ヨコハケ ヨコナデ	〃 〃	／	褐色(7.5YR4/4) 〃 、黒褐色(10YR2/2)			172 48	891
1083	〃	39.0	(11.0)	／	ヨコハケ タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	灰黄褐色(10YR6/2)、褐灰色(10YR4/1) 黒褐色(10YR3/1)			173 —	879
1084	〃	37.0	(11.5)	／	ヨコハケ ナデ、タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	にぶい黄橙色(10YR7/2) 明褐灰色(7.5YR7/1)			173 48	881
1085	〃	37.0	(9.0)	／	ヨコハケ タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	灰褐色(7.5YR4/2)、明褐灰色(7.5YR7/2) 〃			174 48	246
1086	〃	39.6	(11.3)	／	ヨコハケ タテハケ	ヨコハケ タテハケ	／	灰白色(2.5Y8/2) 灰褐色(7.5YR4/2)			174 48	42

表34．B地区出土遺物観察表(26)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1087	土師質土釜	／	(7.8)	最大径3.4	／	ヨコハケ ナデ	ヨコハケ ナデ	にぶい橙色(7.5YR7/4) 〃　、黒色(7.5YR12/1)			175 49	896
1088	〃	／	(6.3)	最大径2.0	／	—— ナデ	—— ナデ	にぶい褐色(7.5YR6/3)、にぶい褐色(7.5YR5/3) 〃　、　〃			175 49	895
1089	〃	22.4	(6.4)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ ヨコナデ、鍔貼付	／	にぶい黄橙色(7.5YR5/4) 〃			175 49	37
1090	〃	21.0	(3.0)	／	〃 〃	ヨコハケ ヨコナデ、〃	／	浅黄橙色(10YR8/3) 〃　、黒色(10YR2/1)			175 49	873
1091	〃	22.4	(3.0)	／	〃 〃	〃 〃　、〃	／	にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃　(10YR7/4)、黒褐色(10YR3/1)			175 49	880
1092	〃	22.6	(7.2)	／	ヨコナデ 〃	ヨコハケ マメツ、〃	／	浅黄橙色(7.5YR8/6) 〃			175 49	14
1093	〃	22.0	(3.3)	／	〃 〃	ヨコナデ 〃　、〃	／	橙色(7.5Y6/6) 〃　、黒色(7.5YR1.7/1)			175 49	34
1094	〃	16.0	(5.1)	／	〃 〃	〃 〃　、〃	／	にぶい赤褐色(5YR5/4) 淡橙色(5YR8/4)、黒褐色(5YR3/1)			176 —	866
1095	〃	21.7	(7.6)	／	ヨコハケ ヨコナデ	ヨコハケ ヨコハケ、〃	／	にぶい橙色(2.5YR6/4)、にぶい褐色(7.5YR5/3) 〃　、黒褐色(2.5YR3/1)			176 —	871
1096	〃	20.4	(3.7)	／	〃 〃　、鍔貼付	ヨコナデ ヨコハケ	／	灰黄橙色(10YR6/2) 灰褐色(7.5YR4/2)、黒色(7.5YR2/1)			176 49	876
1097	置き竈	／	／	／	ナデ 〃	タテハケ、ナデ ヨコハケ	／	にぶい橙色(5YR7/4) 〃　、黒色(5YR7/4)、黒褐色(5YR3/1)			177 49	35
1098	瓦質土釜	／	(16.9)	最大径27.5	／	マメツ	—— ナデ	—— 灰白色(N8/　)、灰白色(N4/　)			178 49	889
1099	瓦質甕	21.0	(7.0)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 格子叩き	／	暗灰色(N3/　) 〃			179 49	29
1100	〃	／	(5.2)	13.0	／	ヨコナデ 格子叩き	ナデ 〃	灰色(N5/　) 〃			179 49	935
1101	須恵器椀	／	(1.3)	〔7.0〕	／	ヨコナデ 〃	〃 回転糸切り、貼付高台	灰白色(N8/　) 〃			179 49	292
1102	〃	／	(1.6)	〔5.9〕	／	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り、〃	灰白色(N8/　) 〃			179 49	294
1103	〃	／	(1.4)	〔6.0〕	／	〃 〃	ナデ 回転糸切り、〃	灰白色(N8/　) 〃			179 49	293
1104	須恵器甕	22.4	(4.2)	／	ヨコナデ 〃	〃 格子叩き	／	褐灰色(10YR5/1) 灰白色(10YR7/1)			180 49	481
1105	〃	／	(4.5)	19.0	／	ナデ 格子叩き	ナデ 〃	灰白色(N8/　) オリーブ灰色(2.5GY6/1)			180 49	933
1106	〃	／	(6.6)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃		灰褐色(5YR6/1) 〃		常滑焼	180 —	931
1107	〃	／	(12.8)	／	／	ナデ 〃　、押印	／	灰褐色(5YR6/2) にぶい赤褐色(5YR5/3)		〃	180 49	934
1108	〃	／	(6.9)	／	／	〃 格子叩き	／	灰白色(N7/　) 〃　(N8/　)			180 49	932
1109	〃	／	(6.8)	／	／	ナデ 平行叩き	／	灰色(N6/　) 〃			180 49	937
1110	須恵器こね鉢	／	(3.6)	7.5	／	ヨコナデ 〃	ナデ 〃	青灰色(5PB6/1) 〃			181 —	906
1111	〃	／	(3.0)	7.8	／	〃 〃	〃 〃	灰白色(N7/　) 〃			181 —	908
1112	〃	／	(5.0)	9.2	／	〃 〃	〃 回転糸切り？	灰色(N6/　) 〃			181 50	904
1113	〃	／	(5.5)	／	ヨコナデ 〃	〃 〃	／	灰白色(N8/　) 〃		十瓶山窯	181 50	484
1114	〃	31.0	(8.0)	／	〃 〃	〃 〃　、指頭痕	／	灰白色(N7/　) 〃			182 50	905
1115	〃	／	(4.9)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(N6/　) 〃　(N7/　)、灰色(N5/　)			182 50	930
1116	〃	／	(4.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/　) 〃　、灰色(N6/　)			182 —	914
1117	〃	／	(3.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(5Y7/1) 〃　(5Y8/2)			182 50	911
1118	〃	／	(3.4)	／	〃 〃	〃 〃		灰白色(N8/　) 〃　、灰色(N5/　)			182 —	910
1119	〃	／	(2.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(2.5Y7/1) 〃			182 —	921
1120	〃	／	(4.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(N7/　) 〃			182 —	913

表35．Ｂ地区出土遺物観察表(27)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図	図版	整理No.
1121	須恵器 こね鉢	／	(3.5)	／	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	／	灰色(Ｎ６／　) 〃			182	50	923
1122	〃	／	(4.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(Ｎ７／　) 〃			182	50	922
1123	〃	20.4	(5.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(Ｎ８／　) 〃			182	50	936
1124	〃	30.0	(7.5)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(Ｎ７／　) 〃　、灰色(Ｎ５／　)			182	50	900
1125	〃	28.4	(3.5)	／	〃 〃	〃 〃	／	青灰色(５ＰＢ６／１) 〃			182	50	897
1126	〃	／	(5.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	明青灰色(５ＰＢ７／１) 〃			183	50	917
1127	〃	／	(5.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	明青灰色(５ＰＢ７／１) 青灰色(５ＰＢ６／１)			183	50	915
1128	〃	29.0	(5.4)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(Ｎ６／　) 〃			183	50	898
1129	〃	／	(2.3)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(Ｎ６／　) 〃　、灰色(Ｎ４／　)			183	—	925
1130	〃	28.0	(3.7)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(Ｎ５／　)、灰色(Ｎ４／　) 〃　、〃　、灰色(Ｎ６／　)			183	50	901
1131	〃	30.0	(4.2)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(Ｎ６／　) 〃　、灰色(Ｎ５／　)			183	50	902
1132	〃	28.2	(2.8)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(Ｎ７／　) 〃　、灰色(Ｎ４／　)			183	50	894
1133	〃	29.0	(6.1)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰色(Ｎ６／　) 〃			183	50	893
1134	須恵器 壺	／	(3.9)	10.0	施釉 〃	〃 ケズリ	ナデ 削出高台	灰白色(2.5Ｙ７／１) にぶい橙色(7.5Ｙ７／３)、灰白色(2.5Ｙ７／１)			184	51	471
1135	青磁 碗	14.4	(4.2)	／	〃 〃	施釉 〃	／	オリーブ黄色(7.5Ｙ６／３)、灰オリーブ色(7.5Ｙ4/2) 〃　、〃			185	51	479
1136	〃	16.4	(4.5)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Ｙ７／１) 灰色(10Ｙ６／１)			185	51	297
1137	〃	16.0	(4.9)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰オリーブ色(５Ｙ５／３) 〃			185	51	472
1138	〃	16.0	(4.0)	／	〃 〃	〃 〃	／	明オリーブ灰色(５ＧＹ７／１)、灰白色(５ＧＹ8/1) 〃　、〃			185	51	476
1139	〃	13.0	(2.8)	／	〃 〃	〃 〃	／	オリーブ灰色(５ＧＹ６／１) 〃			185	51	475
1140	〃	／	(5.7)	／	／	〃 〃	／	オリーブ色(５Ｙ５／４) 〃			185	51	506
1141	〃	／	(3.0)	〔5.8〕	／	〃 〃	ナデ 削出高台、高台内無釉	オリーブ黄色(５Ｙ６／３) 〃			185	51	33
1142	〃	／	(2.2)	〔6.2〕	／	〃 〃	ナデ 削出高台、高台畳付と内側無釉	緑灰色(7.5ＧＹ５／１) 〃			185	51	473
1143	〃	／	(2.2)	〔4.2〕	／	〃 一部施釉	ナデ 削出高台、無釉	灰オリーブ色(５Ｙ６／２) 灰白色(7.5Ｙ７／１)			185	51	477
1144	青磁 皿	9.2	1.9	4.0	施釉 〃	施釉 〃　、下半分無釉	施釉 無釉	灰色(10Ｙ６／１) 灰白色(10Ｙ７／１)			185	51	296
1145	〃	9.4	2.0	4.2	〃 〃	〃 〃　、〃	施釉 無釉	灰色(10Ｙ６／１)、灰白色(５Ｙ７／１) 〃　、〃			185	51	295
1146	白磁 碗	17.0	(3.5)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Ｙ７／１) 〃			186	51	474
1147	〃	16.0	(1.8)	／	〃 〃	〃 〃	／	灰白色(10Ｙ８／１) 〃			186	51	478
1148	青白磁 合子	／	(0.6)	／	／	〃 〃	／	灰白色(10Ｙ８／１)、灰白色(7.5Ｙ８／１) 明緑灰色(10ＧＹ８／１)			186	51	482

表36．Ｂ地区出土　土・木・鉄製品観察表

遺物No.	器種	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	挿図	図版	整理No.	遺物No.	器種	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	挿図	図版	整理No.
1149	土錘	9.1	6.5	2.1	176.2	187	52	20	1152	土錘	5.4	1.2	0.45	3.8	187	52	21
1150	〃	3.3	1.1	0.3	8.3	187	52	480	1153	箸	(3.9)	0.6	—	0.6	188	52	736
1151	〃	4.5	1.2	0.5	6.3	187	52	845	1154	釘	(3.0)	0.7	—	3.8	188	52	938

表37．VI　資料編　遺物観察表(1)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1155	甕	17.2	(5.4)	／	ヨコナデ マメツ	ケズリ マメツ	／	にぶい黄橙色(10YR7/2) 〃	濃縮タンク	古墳時代	189 52	391
1156	高杯	20.4	(7.0)	／	ナデ 指頭痕、ハケ、ナデ	ハケ ナデ	／	浅黄橙色(10YR8/3) 灰白色(7.5YR8/2)、浅黄橙色(7.5YR8/4)	〃	〃	189 52	392
1157	土師器 椀	／	(1.8)	〔6.6〕	／	マメツ 〃	マメツ 輪高台	灰白色(2.5Y8/2) にぶい黄橙色(10YR7/2)、にぶい橙色(7.5YR7/4)	古照6次 下層		190 —	373
1158	〃	／	(2.2)	8.0	／	ヨコナデ 〃	ナデ 回転ヘラ切り、円盤高台	灰白色(2.5Y8/1) 〃　、黒褐色(2.5Y3/2)	〃		190 —	372
1159	土師器 杯	12.2	4.8	7.1	ヨコナデ 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り、〃	浅黄橙色(7.5YR8/4) にぶい黄橙色(10YR7/3)、橙色(5YR7/1)	〃		190 —	158
1160	土師器 Ⅲ	12.9	1.1	8.9	〃 マメツ	〃 マメツ	ナデ ヘラおこし	淡黄色(2.5Y8/4) 〃　、黄橙色(7.5YR7/8)	〃	ての字	190 —	407
1161	〃	12.0	2.2	〔6.4〕	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 輪高台	淡黄色(2.5Y8/3) 浅黄橙色(7.5YR8/4)	〃	高台付	190 —	519
1162	黒色土器 椀	15.4	5.9	7.7	〃　、ミガキ 〃　、〃	〃　、ミガキ 〃　、〃	ミガキ 貼付高台	黒色(10YR1.7/1) にぶい黄橙色(10YR7/2)	〃	内黒	190 —	167
1163	〃	／	(4.2)	〔9.0〕	／	ミガキ ナデ、托上部貼付	ミガキ 貼付高台	黒色(10Y1.7/1) 灰白色(5Y8/2)	〃	〃、托上椀	190 —	159
1164	〃	16.2	6.5	〔7.0〕	ヨコナデ、ミガキ 〃　、〃	ミガキ ヨコナデ、ミガキ	ミガキ 回転ヘラ切り、貼付高台	オリーブ黒色(5Y3/1)、灰オリーブ色(5Y4/2) 灰黄褐色(10YR6/2)、黒色(10Y1.7/1)	古照10次 SD－1	〃	191 —	3
1165	〃	15.0	(5.0)	／	〃　、〃 〃　、〃	〃　、〃 〃　、〃	／	黒褐色(2.5Y3/1) 〃　、灰黄褐色(10YR6/2)	〃		191 —	9
1166	〃	／	(3.5)	〔6.8〕	／	ミガキ ヨコナデ、ミガキ	ミガキ 貼付高台	黒色(2.5Y2/1) にぶい黄色(2.5Y6/3)、黄褐色(2.5Y6/3)	〃	内黒	191 —	7
1167	〃	／	(3.2)	〔6.4〕	／	ミガキ ヨコナデ	ハケ目、ミガキ 貼付高台	黒色(10YR1.7/1) にぶい黄橙色(10YR7/2・6/3)	〃	〃	191 —	2
1168	〃	／	(2.9)	〔5.8〕	／	ミガキ ヨコナデ、ミガキ	ミガキ 貼付高台	灰色(5Y4/1)、オリーブ黒色(5Y3/1)、オリーブ色(5Y5/4) 灰白色(5Y8/1・8/2)	〃	〃	191 —	10
1169	〃	14.8	5.7	〔6.0〕	ヨコナデ 〃	ミガキ ミガキ	ミガキ 貼付高台	黒褐色(7.5YR3/1) 〃	〃	両黒	191 —	4
1170	土師器 杯	14.4	3.7	7.6	〃 〃	ヨコナデ 〃　、未調整	ナデ 回転ヘラ切り	暗灰黄色(2.5Y5/2)、黒色(2.5Y2/1) にぶい黄褐色(10YR5/4)、褐灰色(10YR6/1・4/1)	〃		191 —	8
1171	土師器 Ⅲ	8.8	(1.9)	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り？	灰白色(2.5Y8/2) 灰黄色(2.5Y7/2)	〃		191 —	5
1172	〃	9.8	2.1	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転ヘラ切り	灰白色(5Y8/2)、灰色(5Y4/1) 灰黄色(2.5Y7/2)	〃		191 —	6
1173	土師器 椀	15.4	6.7	〔6.0〕	〃 〃	ミガキ 〃	ミガキ 貼付高台	灰白色(10YR8/2) 〃	古照2次		192 —	1
1174	瓦器 椀	15.0	5.2	〔5.5〕	〃 〃	〃 指頭痕	ミガキ 貼付高台	青黒色(5PB2/1) 〃	古照1次		192 —	2
1175	瓦器 杯	／	(3.5)	5.4	／	ミガキ ヨコナデ、削り	ハケ目、ミガキ 回転糸切り	オリーブ黒色(5Y3/1)、灰色(5Y4/1) 〃　、〃	古照G4 SD－2		193 —	44
1176	〃	／	(2.6)	4.0	／	マメツ ナデ	マメツ 回転糸切り？	淡黄色(2.5Y8/3) 灰色(N5/)	古照G4 SD－4		193 —	41
1177	瓦質 小型鉢	／	(6.4)	／	／	ナデ 〃、指頭痕	／	灰色(N4/) 〃　、灰色(N5/)	古照G4 SD－7	小型片口鉢	193 —	47
1178	瓦器 椀	15.0	4.5	〔3.0〕	ヨコナデ 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰色(N4/) 〃　、灰白色(N8/)	古照G4 SD－8		193 —	43
1179	〃	14.9	3.7	〔4.7〕	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／ 貼付高台	灰色(7.5YR8/2) 〃	〃		193 —	39
1180	土師器 Ⅲ	8.4	1.35	5.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り？	淡黄色(2.5Y8/3) 〃	〃		193 —	37
1181	青磁 碗	16.0	(5.1)	／	施釉 〃	施釉 〃	／	オリーブ黄色(5Y6/3) 〃	〃	越州窯	193 —	42
1182	土師器 杯	13.0	3.7	7.0	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/1) 〃	古照G4 土器溜まり		194 —	23
1183	〃	16.0	2.8	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		194 —	31
1184	土師器 Ⅲ	8.2	1.4	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10YR8/2) 〃	〃		194 —	27
1185	〃	8.5	1.4	5.4	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(7.5YR8/2) 〃	〃		194 —	26
1186	瓦器 椀	14.6	4.2	〔3.9〕	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰色(N4/) 〃	〃		194 —	36
1187	〃	16.0	4.1	〔4.6〕	ナデ ヨコナデ	ナデ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰色(N5/) 〃　、灰色(N8/)	〃		194 —	32
1188	〃	15.0	3.5	〔3.8〕	〃 〃	ミガキ 指頭痕	ナデ 貼付高台	灰色(N4/) 〃	〃		194 —	34

表38．VI　資料編　遺物観察表(2)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頸部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1189	瓦器 椀	15.0	3.0	(4.4)	ヨコナデ 〃	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(N8/)、灰色(N4/) 〃 、 〃	古照G4 土器溜まり		194 —	30
1190	瓦器 皿	9.2	1.8		〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(N4/) 〃	〃		194 —	33
1191	〃	8.2	1.75		〃 〃	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	暗灰色(N3/) 〃	〃		194 —	29
1192	〃	8.0	1.3		〃 〃	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	灰色(N4/) 〃	〃		194 —	28
1193	須恵器 こね鉢	3.4	(7.4)	／	〃 〃	ヨコナデ 〃	／	灰色(N7/) 〃	〃		194 —	35
1194	土師器 杯	11.6	3.1	6.8	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ マメツ	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2) 〃 (10YR8/1)	古照G4 包含層		195 —	12
1195	土師器 皿	9.0	1.2	5.8	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		195 —	5
1196	〃	9.0	1.2	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、 〃	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		195 —	4
1197	〃	8.7	1.4	6.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/2)、にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃 、浅黄橙色(10YR8/3)	〃		195 —	11
1198	〃	8.8	1.3	5.1	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10YR8/1) 〃	〃		195 —	6
1199	〃	7.6	1.3	5.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	淡黄色(2.5Y8/3) 灰白色(2.5Y8/1)	〃		195 —	3
1200	〃	7.6	1.4	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/2) 〃	〃		195 —	8
1201	〃	6.8	1.1	5.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	浅黄橙色(7.5YR8/3・8/4) 灰白色(7.5YR8/2)、浅橙色(5YR8/3)	〃		195 —	10
1202	〃	7.6	1.9	4.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り、板圧痕	浅黄色(2.5Y8/3) 灰白色(2.5Y8/2)	〃		195 —	9
1203	〃	8.8	1.3	6.0	マメツ ヨコナデ	マメツ 〃	マメツ 指頭痕	灰白色(10YR8/1) 〃	〃	手づくね	195 —	7
1204	瓦器 椀	14.8	4.3	(3.4)	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰色(N6/) 〃	〃		195 —	24
1205	〃	15.0	(3.9)	／	〃 〃	ミガキ 指頭痕	／	灰白色(N7/) 〃 (N8/)、灰色(N4/)	〃		195 —	38
1206	瓦器 皿	8.4	1.7		〃 〃	ヨコナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	黒色(N2/) 暗灰色(N3/)	〃		195 —	14
1207	青磁 碗	15.8	(4.6)	／	施釉 〃	施釉 〃	／	オリーブ黄色(5Y6/3) 〃	〃	越州窯	195 —	15
1208	青磁 碗	／	(2.7)	(5.0)	／	〃 〃	施釉 削出高台、無釉	暗オリーブ色(7.5Y4/3)、浅黄色(7.5Y7/3) オリーブ黄色(7.5Y6/3)、灰色(7.5Y6/1) 〃 、 〃	〃		195 —	25
1209	瓦器 杯	13.8	3.8		ミガキ ヨコナデ	ミガキ ヨコナデ、指頭痕	ハケ目、ミガキ 指頭痕	褐灰色(10YR5/1) 〃 (10YR5/1・4/1)	〃		196 —	16
1210	〃	／	(1.8)	8.0	／	ナデ ナデ	ミガキ 回転糸切り	暗灰色(N3/) オリーブ灰色(2.5GY5/1)、黄橙色(10YR7/8)	〃		196 —	18
1211	〃	13.6	4.3	8.4	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Y8/1)、黒褐色(10YR3/1) 〃 (7.5Y7/1・8/1)、 〃	〃		196 —	22
1212	〃	／	(1.7)	6.2	／	マメツ ナデ	マメツ マメツ	暗灰色(N3/) 灰色(N4/)、灰白色(N8/)	〃		196 —	20
1213	〃	／	(2.1)	6.0	／	ミガキ ナデ	ミガキ 回転糸切り	灰色(N4/) 〃	〃		196 —	19
1214	〃(椀)	10.8	3.0		ヨコナデ 〃	ミガキ、指頭痕 指頭痕	ミガキ 指頭痕	灰白色(N8/)、灰色(N5/) 灰色(N4/)	〃		196 —	13
1215	瓦器 皿	9.0	1.75	6.0	〃 〃	ミガキ ヨコナデ	ハケ目、ミガキ 回転糸切り	暗灰色(N3/) 〃 、灰白色(N8/)	〃		196 —	17
1216	瓦器 杯	16.0	(3.6)	6.6	〃 〃	ヨコナデ 〃	ミガキ ?	灰色(N4/) 灰白色(N7/)	辻町 第V層		196 —	21
1217	土師器 椀	15.0	4.8	6.0	〃 〃	〃 〃	貼付高台、「×」記号	灰白色(10YR8/1) 〃 、淡赤橙色(2.5YR7/3)	古照8次、A SK－1		197 —	1
1218	瓦器 椀	15.4	4.8	(4.6)	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(2.5G8/)、灰色(N4/) 〃 (N4/)	古照8次、A SK－5		197 —	6
1219	〃	14.8	4.8	(4.5)	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰色(N4/) 〃	〃		197 —	14
1220	〃	15.0	4.6	(4.4)	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指頭痕	ミガキ 貼付高台	灰白色(7.5Y8/1)、灰色(5Y5/1) 〃 (5Y7/1)	〃		197 —	13
1221	土師器 杯	12.8	4.0	7.0	〃 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR7/2) 灰白色(7.5YR8/2)、浅黄橙色(7.5YR8/3)	〃		197 —	7
1222	〃	14.8	3.5	7.5	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10YR7/3) 〃	〃		197 —	8

表39．VI　資料編　遺物観察表(3)

遺物No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上：内面、下：外面) 口頭部	体部	底部	色調 上：内面 下：外面	出土地	備考	挿図 図版	整理No.
1223	土師器 皿	9.0	1.6	5.6	ヨコナデ 〃	ヨコナデ 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(５Ｙ８／２) にぶい橙色(５ＹＲ７／３)	古照８次、A ＳＫ－５		197 —	5
1224	〃	9.0	1.6	5.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(2.5Ｙ８／１) 〃	〃		197 —	3
1225	〃	8.0	1.2	5.2	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10ＹＲ７／３) 灰白色(５ＹＲ８／２・7.5ＹＲ８／２)	〃		197 —	4
1226	土師器 杯	13.3	3.6	8.0	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ８／２) 〃	古照８次、B ＳＫ－２		197 —	9
1227	〃	12.8	3.1	7.7	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	にぶい黄橙色(10ＹＲ７／２) 灰白色(10ＹＲ８／２)、褐灰色(10ＹＲ５／１)	〃		197 —	11
1228	〃	13.0	3.2	7.6	〃 〃	〃 〃	ナデ 回転糸切り	灰白色(10ＹＲ8/1)、黒色(10ＹＲ1.7/1)、にぶい黄橙色(10ＹＲ7/3) 灰白色(2.5Ｙ８／２・７／１)、黒色(2.5Ｙ２／１)	〃		197 —	12
1229	土師器 皿	7.8	1.7	／	〃 〃	〃 指頭痕	ナデ 指頭痕	灰白色(10ＹＲ８／２) にぶい黄橙色(10ＹＲ７／２)	〃	手づくね	197 —	10
1230	瓦器 椀	15.8	5.0	〔5.4〕	ミガキ ヨコナデ、ミガキ	ミガキ 指頭痕、ミガキ	ミガキ 貼付高台	灰白色(7.5Ｙ８／１・４／１) 〃（５Ｙ８／２・7.5Ｙ４／１)	東山鷺森 ８号墳		198 —	68
1231	〃	15.3	5.4	〔5.6〕	ミガキ ヨコナデ、〃	ミガキ 指頭痕、〃	ミガキ 貼付高台	灰色(Ｎ５／　) 〃（Ｎ６／　)	〃		198 —	69

松山市文化財調査報告書　第38集

古照遺跡―第７次調査―（第１分冊）

平成６年３月31日　発行

編　集　松山市教育委員会
〒790 松山市二番町４丁目７－２
TEL（0899）４８－６６０５

発　行　財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791 松山市南斎院町乙67番地６
TEL（0899）２３－６３６３

印　刷　岡田印刷株式会社
〒790 松山市湊町７丁目１－８
TEL（0899）４１－９１１１